

平成30-31年度 東京都現代美術館年報  
研究紀要 第21-22号

20

Annual Report 2018-2019  
Bulletin No.21-22

19

平成30-31年度 東京都現代美術館年報 | 研究紀要 第21-22号 | Annual Report 2018-2019 | Bulletin No.21-22

平成30-31年度 東京都現代美術館年報  
研究紀要 第21-22号

20

Annual Report 2018-2019  
Bulletin No.21-22

19



|              |   |
|--------------|---|
| 東京都現代美術館基本方針 | 4 |
| 沿革           | 5 |
| 改修工事の概要      | 6 |

## 平成30・31年度年報

### I

#### 事業報告

|                     |    |
|---------------------|----|
| リニューアル・オープン記念事業     | 10 |
| 1 企画展 MOTサテライト2017秋 | 30 |
| 2 企画展 MOTサテライト2018秋 | 33 |
| 3 企画展 百年の編み手たち      | 37 |
| 4 コレクション展           | 52 |
| 5 教育普及事業            | 56 |
| 6 美術資料の収集・保存・貸出     | 64 |
| 7 美術図書室の活動          | 74 |

### II

#### 資料

|                                    |    |
|------------------------------------|----|
| 1 統計資料 [1] 平成29・30年度東京都現代美術館月別利用統計 | 78 |
| 2 平成29・30年度東京都現代美術館予算概要            | 79 |
| 3 運営組織 [1] 平成30年度東京都現代美術館職員名簿      | 79 |
| [2] 平成30年度東京都現代美術館外部評価委員会          | 80 |
| 4 施設概要                             | 80 |
| 5 案内図                              | 81 |

## 現代美術館研究紀要

|                                                                                                                    |     |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 編み手たちを編む / 関 直子                                                                                                    | 84  |
| まちを知るといふことの再考―「MOTサテライト2019 ひろがる地図」/ 八巻 香澄                                                                         | 93  |
| パブリックスペースのサイン計画・什器について / パブリックプロジェクトチーム                                                                            | 103 |
| 清澄白河の窓から―「MOTサテライト2017 秋 むすぶ風景」/ 小高 日香理                                                                            | 113 |
| 振る舞いの機微を問う―「MOTサテライト2017 むすぶ風景」におけるカディスト・アート・ファウンデーションとの共同企画展「ないようで、あるような   Almost nothing, yet not nothing」/ 崔 敬華 | 120 |
| 「MOTサテライト2017秋 / 2018秋」における美術館と教育・研究機関の連携プロジェクトについて / 森山 朋絵                                                        | 124 |
| Naoko SEKI                                                                                                         | 134 |
| Kasumi YAMAKI                                                                                                      | 134 |
| Public project team                                                                                                | 135 |
| Hikari ODAKA                                                                                                       | 135 |
| Kyonfa CHE                                                                                                         | 136 |
| Tomoe MORIYAMA                                                                                                     | 136 |

## 1 文化の創造と魅力あるメッセージの発信

---

- ・現代美術の国内外への発信
- ・現代美術の保存と継承
- ・変容する価値観への対応

## 2 現代美術の普及と次世代の担い手を育む

---

- ・優れた作品等の鑑賞機会の提供
- ・現代美術の普及と子供たちの育成
- ・新進・若手芸術家への支援と創造拠点化

## 3 あらゆる鑑賞者に開かれた美術館の実現

---

- ・バリアフリー
- ・ホスピタリティを指向するアートの拠点化
- ・地域の核としての存在

## 沿革

昭和57(1982)年

12月 第一次東京都長期計画(昭和56-65年度)発表  
新美術館区部一館、多摩地域一館を建設

昭和60(1985)年

9月 知事の諮問機関として「東京都新美術館建設構想懇談会(嘉門安雄座長)」を設置

昭和61(1986)年

11月 「東京都新美術館建設構想懇談会」が、知事に新美術館建設の構想について答申  
第二次東京都長期計画(昭和61-70年)発表

昭和62(1987)年

10月 知事の諮問機関として「東京都新美術館建設計画委員会(嘉門安雄委員長)」を設置

昭和63(1988)年

4月 東京都美術資料取得基金条例施行  
12月 東京都新美術館美術資料収集方針決定  
「東京都新美術館美術資料収集委員会」及び「東京都新美術館美術資料評価委員会」を設置

平成元(1989)年

3月 「東京都新美術館建設計画委員会」が知事に新美術館の建設計画について答申  
10月 東京都公園審議会が、知事に木場公園の整備計画(新美術館の設置)について答申  
12月 東京都設計候補者選定委員会において設計候補者を選定  
〔株式会社TAK建築・都市計画研究所代表者柳澤孝彦〕

平成2(1990)年

3月 都新美術館(区部)建設に伴う地質調査及び埋蔵文化財試掘調査を実施  
4月 「東京都新美術館(区部)建設推進委員会」(嘉門安雄委員長)を設置  
10月 東京都新美術館(区部)建設基本計画を発表  
11月 東京都新美術館(区部)建設工事実施設計  
(~平成3年5月)

平成3(1991)年

9月 東京都新美術館(区部)建設工事着工(~平成6年9月)

平成6(1994)年

4月 東京都現代美術館条例設置(東京都現代美術館発足)  
財団法人東京都教育文化財団に東京都現代美術館の管理運営を委託  
9月 建設工事竣工  
10月 東京都現代美術館条例施行

平成7(1995)年

3月 開館(記念式典挙行3月18日、一般公開3月19日)  
開館記念展 I「日本の現代美術1985-1995」常設展「現代美術の流れ」

平成11(1999)年

4月 組織変更に伴い、財団法人東京都教育文化財団から財団法人東京都生涯学習文化財団に名称変更

平成14(2002)年

4月 東京都の文化施設一元化に伴い、所管が東京都教育委員会から生活文化局に移り、管理運営委託先が財団法人東京都生涯学習文化財団から財団法人東京都歴史文化財団に変更

平成18(2006)年

4月 東京都が「財団法人東京都歴史文化財団」を指定管理者に指定(3年間)

平成19(2007)年

10月 平成21年4月から8年間「財団法人東京都歴史文化財団」を指定管理者に指定

平成20(2008)年

8月 開館以来500万人の来館者を達成

平成22(2010)年

4月 公益法人制度改革に伴い「公益財団法人東京都歴史文化財団」へ移行

平成26(2014)年

4月 東京都現代美術館とトーキョーワンダーサイトが組織統合  
同年5月 青山のオフィスを現代美術館へ、レジデンスを墨田区立川へ移転

平成28(2016)年

5月 施設設備の老朽化のため大規模改修工事(平成30年度中開館予定)  
同年11月 リニューアル準備室を江東区東陽町に開設

平成30(2018)年

9月 大規模改修工事が終了し、リニューアル準備室から美術館に移転  
リニューアル・オープン準備を進める

平成31(2019)年

3月 リニューアル・オープン

## 改修工事の概要

東京都現代美術館は、平成7年3月に開館し、竣工後23年を経過して、設備系を中心として劣化が進行していました。また、来館者の増加による動線の変化や収蔵品の増加による収蔵スペースの不足等、新たな問題も生じていました。こうした背景を踏まえ設備及び内外装の更新並びに施設運営の改善を目的として、改修を行いました。

改修工事は平成28年12月から平成30年8月までの20カ月を要し、竣工後、館内サイン、什器等の整備を行い、平成31年3月にリニューアル・オープンしました。

### ◆施設設備の経年劣化や機能改善等への対応

#### ●主な内容

##### 1 展示室をはじめとした館内の全面的な更新

展示室や講堂といった館内の内装(床・壁・天井)を全面的に更新したことにより、ホワイトキューブの展示空間が輝きを取り戻しました。また、ご来館者の安全を確保するため、天井の耐震化を行いました。

##### 2 設備機器の更新

空調機器をはじめとした設備機器の全面的な更新を行い、ご来館者はもちろん作品にもよりよい環境となりました。また、エレベーターとエスカレーターは、安全関連の最新基準に適合するよう更新しました。



展示室



空調機器 (冷却塔)



エスカレーター

##### 3 環境負荷の低減

照明をLED化するとともに、太陽光・太陽熱パネルを新設し、省エネルギー化を図りました。

##### 4 館内誘導サイン、什器の再整備

エントランスホールなどに設置する、館内誘導サインやベンチ等を一新しました。



LED照明



太陽光パネル



エントランスホール

## ◆来館者のニーズに応える利便性の向上

### ●主な内容

#### 1 バリアフリーの向上

企画展示室内のエレベーターを1台から2台に増設し、縦動線を強化しました。また、多目的トイレにオストメイト(簡易型を含む)を設置。この他、出入口へのスロープも増やしました。



企画展示室内エレベーター

#### 2 子育て支援設備の充実

トイレ内におむつ替え用ベビーベッド、ベビーチェアを設置し、子育て支援設備を充実させました。

#### 3 美術図書室のレイアウト改修

子供向けの美術書を集めたコーナーを拡張し「こどもとしよしつ」を新設したほか、映像資料の閲覧ができる「メディアブース」も新設しました。また、出入口を自動扉にしました。

#### 4 回遊動線の再整備

中庭へ出入りできるエントランス扉を新設し、屋外にあるコレクション作品等をご覧いただきながら建物の内外を巡ることができる動線を再整備しました。



ベビーベッド・ベビーチェア(トイレ内)



こどもとしよしつ(美術図書室内)



中庭





20

平成30-31年度年報

19

## リニューアル・オープン記念事業



### (1) リニューアル・オープン記念ロゴ

およそ3年にわたる大規模改修工事を経てリニューアル・オープンとなった美術館の活動にさらなる「+」(プラス)を、そして親しみもっていただける美術館として邁進する思いを込め、開館当時より使用している当館のロゴをデザインしたデザイナーの仲條正義氏に、1年間限定で使用するリニューアル・オープン記念ロゴのデザインを依頼した。東京都現代美術館のロゴはミュージアムという言葉の頭文字であるMを強調し、略称MOT(モット)という言葉からイメージされる積極性や上昇性(「もっともっと…」)を、Tの文字を+(プラス)にすることで表しており、さらにTは「東京」の頭文字にも由来している。当初のコンセプトを改めて伝え直し、かつリニューアル・オープンを記念する思いを込めた1年間限定ロゴである。

### (2) 記念グッズ配布&販売

リニューアル・オープンを記念し、リニューアル・オープン記念ロゴをデザインしたトートバッグ(3色)を内覧会の来館者に配布した。またミュージアムショップのオリジナルグッズとしても販売し、広くリニューアル・オープンを周知することができた。



### (3) 江東区立元加賀小学校 和太鼓クラブ演奏

開催日時: ①2019年3月29日(金)10:00～(演奏時間10分、会場: エントランスホール)

②2019年3月31日(日)11:30～(演奏時間30分、会場: 中庭)

美術館に近接して立地する江東区立元加賀小学校の児童が30年間活動を続けている和太鼓クラブの演奏。初日となる29日は、リニューアル・オープンの開館にあわせて演奏を行い、お客様をお迎えした。



## I. 事業報告 |

### (4) 館内スタンプラリー

実施期間：2019年3月29日(金)～6月16日(日)(2020年3月31日(火)まで継続実施)

参加人数：5,840人(2019年3月29日(金)～6月16日(日))

新しく改修された当館の5つのエリアを回遊していただくスタンプラリーを開催した。

全てのスタンプを集めると、当館オリジナルステッカー(数量限定)が進呈され、好評を博した。



イラスト：多田玲子



### (5) 入場無料デー&開館延長

実施日：2019年3月29日(金)

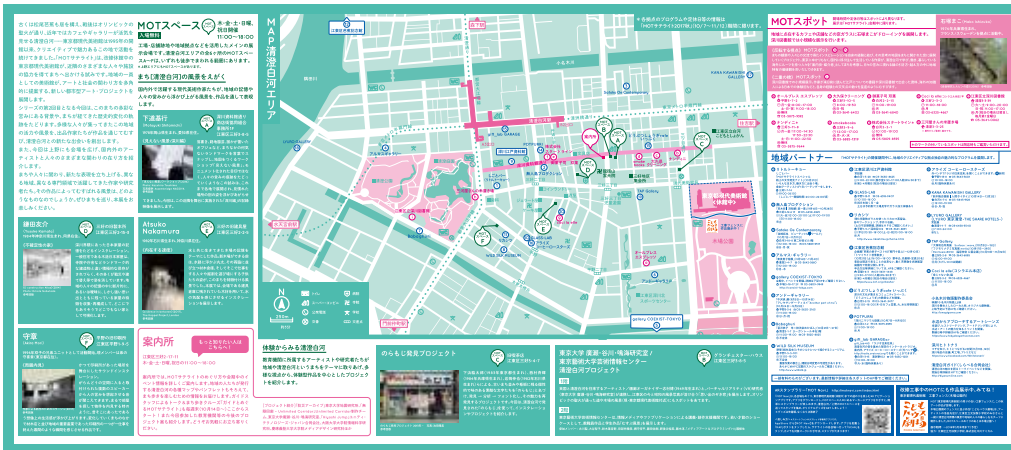
来場者数：14,672人

開館初日に企画展示室およびコレクション展示室を入場無料とし、開館時間を20時まで延長した。当日は延べ1万人以上の来場者があり、東京都現代美術館リニューアル・オープンへの関心と期待が伺えた。



# MOTサテライト 2017秋 むすぶ風景

## MOT Satellite 2017 FALL -Connecting Scapes



MOTサテライト2017秋 ポスター  
 デザイナー：いすたえこ  
 アートワーク：ひがし ちか(Coci la elle)



MOTサテライト案内所



案内所受付



地域の催し情報コーナー (案内所内)



東京大学地震研究所「防災アーカイブ」展示風景(案内所内)



休館中看板／道案内アプリ「MOT NAVI」ゴール(ARマーカー)



下道基行《見えない風景/深川編》  
(深川資料館通り商店街協同組合事務所)



東京大学廣瀬・谷川・鳴海研究室+志村 博《思い出のぞき窓・清澄白河》  
(グランチェスター・ハウス1F)



《東京藝術大学芸術情報センター 清澄白河プロジェクト》展示風景  
(グランチェスター・ハウス2F)



のらもじ発見プロジェクト《フィッティングルーム》展示風景 (旧喫茶店)



鎌田友介《不確定性の家》三好の旧製本所



Atsuko Nakamura《内在する速度》三好の旧建具屋



守章《周囲内見》平野の旧印刷所

撮影：白井晴幸



石塚まこ《反転する視点》(オールプレス エスプレッソ)



石塚まこ《反転する視点》(ナンディニ)



石塚まこ《反転する視点》(大久保クリーニング)



石塚まこ《反転する視点》(smokebooks)



石塚まこ《反転する視点》(御菓子司 双葉)



石塚まこ《反転する視点》(株式会社スタートライン)



石塚まこ《反転する視点》(Coci la elle)



石塚まこ《反転する視点》(三河屋さんの米置き場)





石塚まこ《反転する視点》(江東区立深川図書館)



ユリアス・コラー《PING - PONG (U.F.O)》東京藝術大学アーツ・アンド・サイエンス・ラボ



富井大裕《body work #1 - #22》東京藝術大学アーツ・アンド・サイエンス・ラボ



ミリアム・レフコウィッツ《Walk, Hands, Eyes (Tokyo)》  
東京藝術大学アーツ・アンド・サイエンス・ラボ



ウェンデリン・ファン・オルデンボルフ《Après la reprise, la prise》  
東京藝術大学アーツ・アンド・サイエンス・ラボ



エリック・ボードレール《ドラ・マール校 始まりエピソード1》  
東京藝術大学アーツ・アンド・サイエンス・ラボ

撮影：白井晴幸

# 2 MOTサテライト 2018秋 うごきだす物語 MOT Satellite 2018 FALL -To become a narrative



MOTサテライト2018秋 チラン  
デザイナー：いすたえこ  
アートワーク：ひがしちか (Cosi la elle)



MOTスペースA 深川資料館通り商店街協同組合事務所 1F



案内所  
錯視ブロックワークショップグループのらもじ発見プロジェクト、ワークショップ  
参加者作品展示

撮影：白井晴幸



東京大学 廣瀬・谷川・鳴海 研究室×DNP ARプロジェクト、鈴木義智「高橋からの眺め／東京オリンピック聖火リレー」



東京大学 廣瀬・谷川・鳴海研究室×DNP ARプロジェクト「清澄白河 思い出のぞき窓（写真：鈴木義智）」



東京藝術大学芸術情報センター 清澄白河プロジェクト「メディアアート・プログラミングI・II」履修学生による作品集『うごきだす物語』



MOTスペースB グランチェスター・ハウス、志村博「カメラオブスクラ」



MOTスペースC 白河の倉庫、ジョン・ヨンドゥ「古典と新作」

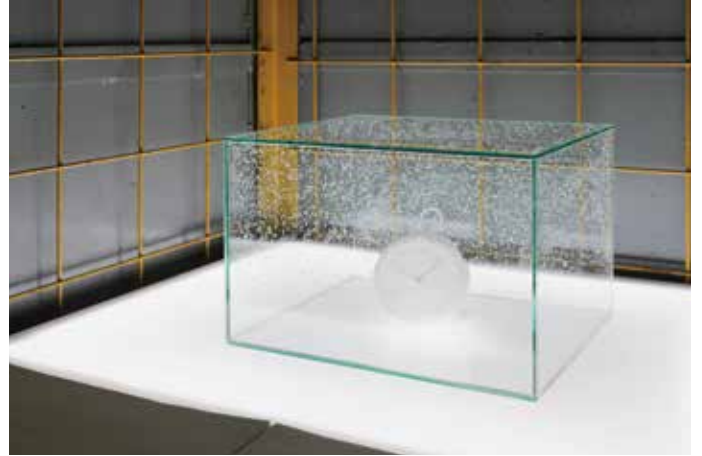


MOTスペースD 大島倉庫、鈴木のぞみ「Monologue of the Light：酒房越路 土鍋の蒸気穴から」他

撮影：白井晴幸



MOTスペースE 旧酒房越路、デニス・オープンハイム「ビデオ作品集 1巻」他



MOTスペースF 三好の旧製本所、宮永愛子「Strata (清澄白河)」



MOTスペースG 白河二丁目町会会館、鈴木のぞみ「The Light of Other Days : 白河二丁目町会会館」



MOTスポットa ささきビル (外壁)、ひがしちか



MOTスポットb 旭写真店、鈴木のぞみ



MOTスポットc アライズ コーヒーエンタングル、鈴木のぞみ

撮影：白井晴幸



MOTスポットd 江東区立深川図書館、のらもじ発見プロジェクト



のらもじスタンプラリー、スタンプ7種



MOTスポットe サッカール、鈴木のぞみ



MOTスポットf 善徳寺(外壁)、ひがしちか



演劇公演『鉄割アルバトロケット』公演風景 (THE FLEMING HOUSE)



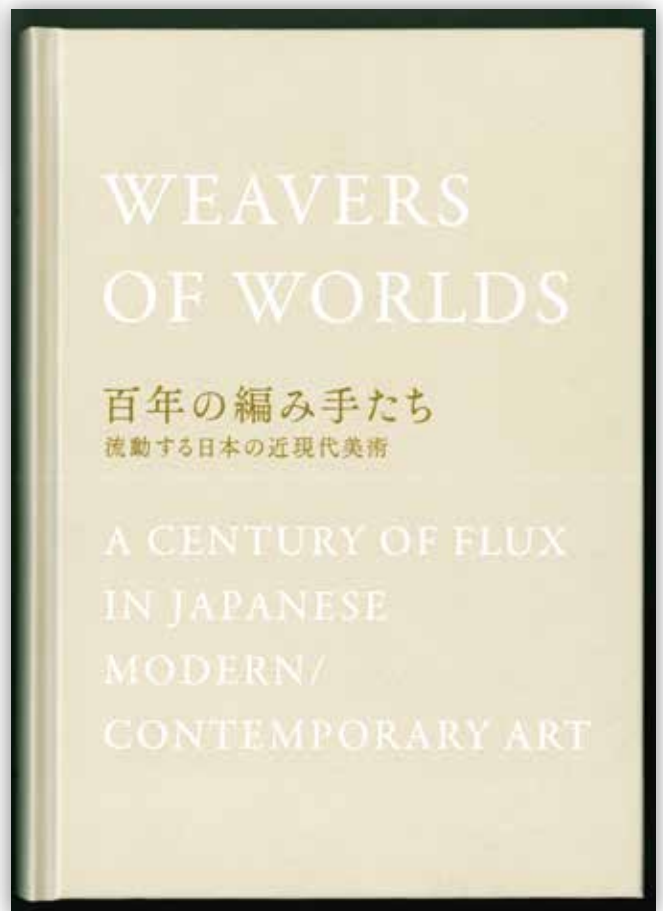
心臓ピクニック・日本的Wellbeing プロジェクト「心臓ピクニック@清澄白河」開催風景 (龍徳山 光厳教寺 雲光院)

撮影：白井晴幸

# 3 リニューアル・オープン記念展 百年の編み手たち —流動する日本の近現代美術— Weavers of Worlds —A Century of Flux in Japanese Modern / Contemporary Art—



B1ポスター  
デザイン：色部義昭



図録『百年の編み手たち  
—流動する日本の近現代美術—』  
デザイン：中西要介、根津小春



1 第2章 「震災の前と後」



2 第2章 「震災の前と後」

会場写真撮影：伊奈英次



3 第4章 「戦中と戦後」



4 第6章 「光を捉える」

会場写真撮影：伊奈英次





5 第7章 「イメージを編む」



6 第10章 「複合空間のあらわれ」

会場写真撮影：伊奈英次



7 第12章 「抵抗のためのいくつかの方法」



8 第13章 「仮置き絵画」

会場写真撮影：伊奈英次

MOT+  
MUSEUM OF CONTEMPORARY ART TOKYO  
東京都現代美術館

03.29  
ReOPEN

東京都現代美術館  
リニューアル・オープン記念展  
二〇一九年三月二十九日(金)から  
六月一六日(日)まで

会場：東京都現代美術館 休館日：月曜日（ただし四月二十九日、五月六日は開館）五月七日  
開館時間：10時から18時（展示室入場は開館の30分前まで）  
※三月二十九日（金）は入場無料・20時まで夜間開館  
観覧料：当館ウェブサイトをご確認ください。www.mot-art-museum.jp  
企画展主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館  
MOTコレクション主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館  
東京都現代美術館 〒115-0033 東京都江東区三好四-1-1  
電話（代表）：03-5514-4111  
電話（ハローダイヤル）：03-5577-8600

Special Exhibition:  
Weavers of Worlds  
— A Century of Flux in Japanese Modern / Contemporary Art —  
企画展

百年の編み手たち  
— 流動する日本の近現代美術 —

MOT Collection:  
Pleased to meet you. New Acquisitions in recent years  
MOTコレクション

ただいま／はじめまして

Museum of Contemporary Art Tokyo  
Grand Reopening Exhibition  
Friday, 29 March — Sunday, 16 June 2019

Venue: Museum of Contemporary Art Tokyo  
Closed: Mondays (except 29 April, 6 May), 7 May  
Opening Hours: 10:00-18:00 (Tickets available until 30 minutes before closing.)  
\*Free Admission on Friday, 29 March 2019. (Open until 20:00)  
Admission: See the museum web site. www.mot-art-museum.jp/eng  
Special Exhibition is Organized by Museum of Contemporary Art Tokyo  
(Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture)  
MOT Collection is Organized by Tokyo Metropolitan Government, Museum of  
Contemporary Art Tokyo (Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture)  
4-1-1 Miyoshi, Koto-ku, Tokyo 135-0022 JAPAN  
TEL: +81-3-5245-4111 (General Information) +81-3-5405-8686 (Hello Dial)

TokyoTokyo  
MUSEUM OF CONTEMPORARY ART TOKYO

B1ポスターデザイン：色部義昭  
図録：STUDIO PT.



1 アルナルド・ポモドーロ



2 さかぎしよしお、棚田康司 (左から)

第1期展示風景[撮影：木奥恵三]



3 萩野僚介、今井俊介、南川史門、五月女哲平、中園孔二 (左から)



4 マーク・マンダース

第1期展示風景[撮影：木奥恵三]



5 関根直子、手塚愛子(左から)



6 鈴木昭男

# 1 MOTサテライト 2017秋 むすぶ風景 MOT Satellite 2017 FALL –Connecting Scapes

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 会期          | 2017年10月7日(土)–11月12日(日)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 会場          | 清澄白河周辺エリア、東京藝術大学上野キャンパス アーツ・アンド・サイエンス・ラボ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 開催日数        | 23日(木・金・土・日、祝)の11:00-18:00に開催)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 観覧料         | 無料 ※関連プログラムもすべて参加無料                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 入場者数        | 10,140人(MOTスペース+案内所の合計数)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 一日平均        | 441人                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| ポスター        | B2 デザイン:いすたえこ アートワーク:ひがしちか(Coci la elle)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| チラシ         | A4変形、2つ折                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 主催          | 東京都、東京都現代美術館・アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 後援          | 江東区<br>第20回文化庁メディア芸術祭協賛事業                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 特別協力        | 深川資料館通り商店街協同組合、グランチェスター・ハウス、カディスト・アート・ファウンデーション、東京藝術大学社会連携センター、東京藝術大学芸術情報センター、東京藝術大学大学院 国際芸術創造研究科、東京藝術大学 古川研究室、東京大学 廣瀬・谷川・鳴海研究室                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 助成          | アンステイチュ・フランセ、モンドリアン財団                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 協賛          | 株式会社 資生堂、公益財団法人 クマ財団、大日本印刷株式会社                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 協力          | 東京大学地震研究所、デル株式会社、ユニティ・テクノロジーズ・ジャパン合同会社、大阪大学大学院情報科学研究科、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科、錯視ブロックワークショップグループ、ケイ・インターナショナルスクール東京、一般社団法人 江東区観光協会、法政大学大学院 地域創造システム研究所、江東区文化観光ガイドの会、株式会社中川ケミカル、株式会社 森木ペーパー、江東区深川江戸資料館、江東区立深川図書館、Coci la elle、smokebooks、オールプレス エスプレッソ、三河屋精米店、大久保クリーニング、ナンディニ、御菓子司 双葉、株式会社スタートライン                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 参加作家・プロジェクト | (清澄白河エリア)下道基行、鎌田友介、Atsuko Nakamura、守章、石塚まこ、東京藝術大学芸術情報センター 清澄白河プロジェクト、東京大学 廣瀬・谷川・鳴海研究室、のらもじ発見プロジェクト、錯視ブロックワークショップグループ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 会場          | (上野会場)エリック・ボードレール、ユリアス・コラー、ミアム・レフコウィッツ、ウェンデルリン・ファン・オルデンボルフ、富井大裕<br>メイン会場 [MOTスペースA ~ G]<br>(A)深川資料館通り商店街協同組合事務所 1F(江東区三好3-8-5) / 下道基行<br>(B)グランチェスター・ハウス(江東区三好3-8-5) / 東京大学 廣瀬・谷川・鳴海研究室、東京藝術大学芸術情報センター 清澄白河プロジェクト<br>(C)旧喫茶店(江東区三好3-4-7) / のらもじ発見プロジェクト<br>(D)三好の旧製本所(江東区三好2-15-3) / 鎌田友介<br>(E)三好の旧建具屋(江東区白河2-2-5) / Atsuko Nakamura<br>(F)平野の旧印刷所(江東区平野1-9-5) / 守章<br>(G)東京藝術大学上野キャンパス アーツ・アンド・サイエンス・ラボ(台東区上野公園12-8) / エリック・ボードレール、ユリアス・コラー、ミアム・レフコウィッツ、ウェンデルリン・ファン・オルデンボルフ、富井大裕<br>清澄白河エリアの店舗・カフェ等 [MOTスポットa ~ i] / 石塚まこ<br>(a)オールプレス エスプレッソ<br>(b)ナンディニ<br>(c)大久保クリーニング<br>(d)smokebooks<br>(e)御菓子司 双葉<br>(f)株式会社スタートライン<br>(g)Coci la elle(コシラエル本店)<br>(h)三河屋さんの米置き場<br>(i)江東区立深川図書館<br>※MOTスポットの開場日時は各スポットの営業日や営業時間に準じる。                  |
| 地域パートナー     | リトルキーヨー [しごとバー MOTサテライトスペシャル 路上の文字発見ナイト] / 無人島プロダクション「荒木悠   双殻綱: 第一幕」 / Satoko Oe Contemporary「池崎拓也 ビューティフル♡ワールド」 / アルマス・ギャラリー「東貴美子個展」 / gallery COEXIST-TOKYO / アンダーギャラリー「中沢研展」 / アレキサンダー・ティネイ「Another part of me」 / Babaghuri「富沢恭子 朱×柿渋染めかばん」 / WILD SILK MUSEUM / 江東区深川江戸資料館 / GLASS-LAB / リカシツ / 江東区芭蕉記念館「企画展 芭蕉の弟子ベスト10『蕉門十哲』」 / トワイライト芭蕉散歩 / どうぶつしょうぎcafeいっぶく / POTPURRI「深川ニマツワル器展」 / gift_lab GARAGEほか「gift_lab+AS ラジオ往來往來」 / アライズ コーヒーコースターズ / KANA KAWANISHI GALLERY「鈴木隆志個展   人間ホイホイ」 / LYURO GALLERY(LYURO 東京清澄-THE SHARE HOTELS) / TAP Gallery「大塚和也写真展 Surface: wave」 / フジモリメグミ写真展 metis」 / Parrhesia #010 福居伸宏 公募企画」 / Coci la elle(コシラエル本店)「傘じゃない傘展」 / 小名木川物語製作委員会「映画『小名木川物語』上映」 / 水辺からアプローチするアートシーンズ / 深川ヒトナリ / 清澄白河ガイド(しらべる合同会社) |
| 同時開催        | こどもハウス劇場                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

## 【開催趣旨】

MOTサテライトは、休館中の東京都現代美術館が、その活動を館の外に拡張し、外部組織とのネットワークを築きつつ、展示、パフォーマンス、トークなど多彩なプログラムを毎年都内各所で実施する事業である。第2回となる今回は第1回目を引き続き、主な展示会場となる7つの「MOTスペース」、小規模な展示をカフェや店

舗等にて行う9の「MOTスポット」で展開した。今回は新たに上野の東京藝術大学内にも拠点を広げ、カディスト・アート・ファウンデーションと連携したプログラムを展開した。また、清澄白河エリアに新たに「案内所」を設け、会場の巡り方やイベント情報の案内、地域の人たちが発行している各種マップやパンフレットの紹介

など、町歩きを楽しむための情報を提供した。さらに、防災やVRの視点からまちをとらえた展示(東京大学地震研究所/東京大学廣瀬・谷川・鳴海研究室)も案内所内に設置した。

清澄白河会場では、近隣を歩きながら言葉の地図をつくる参加型作品、外国人コミュニティとの交流から生まれるドローイング、まちの形と歴史をたどるインスタレーション、自然や防災の視点を取り入れたプロジェクトなど、人々にとっての日常風景の隙間や暮らしの背景に潜むものを見つめ、新旧の文化や住民が織り成すまちの記憶や歴史に流れに着目する展示やワークショップを展開した。また、教育機関との連携を行い、地域のリソースを素材とした研究者やアーティスト(教員・学生)の研究成果や授業の成果作品として、清澄白河の過去と現在の風景を時間旅行する「ARまち歩き」(東京大学)や「AMC清澄白河プロジェクト」(東京藝術大学

芸術情報センター)の展示やワークショップ、体験型プロジェクトを展開し、大日本印刷株式会社「読みアシスト」やAR道案内「MOT Navi」による展示支援や回遊支援を行った。また江東区との連携により、会場を巡ると景品がもらえるスタンプラリーが期間限定で実施された。

東京藝術大学会場で行われた展示「ないようで、あるような」は、カディスト・アート・ファウンデーションとの共同企画として行われた。異なる時代や場所で生きる5人のアーティストたちが、自らが生きる社会の問題を人々に問いかけ、共に考察することの可能性を探求した映像、パフォーマンス、インスタレーション作品を展示。併せて、若手アーティストや学生を対象にしたワークショップやイベントも開催した。

## 【関連事業】

### キックオフ・ミーティング

8月28日(月)18:30-20:00  
会場:清澄庭園大正記念館  
参加人数:75名

### 下道基行「見えない風景/深川編」ワークショップ

9月2日(土)9:00-15:00  
会場:清澄白河エリア  
参加人数:11名

### 石塚まこ公開制作

10月8日(日)13:00-17:00  
会場:MOTスポット  
参加人数:80名

### ミリアム・レフコウィッツによる参加型パフォーマンス

10月14日(土)、15日(日)13:00-15:00  
会場:清澄白河エリア  
参加人数:のべ16名

### 参加作家によるアーティストトーク

10月14日(土)15:30-17:30  
出演:鎌田友介、Atsuko Nakamura、守章、ミリアム・レフコウィッツ、田部井勝彦+藤木淳(東京藝術大学芸術情報センター 清澄白河プロジェクト)  
会場:三好地区集会所  
参加人数:30名

### Atsuko Nakamuraによるワークショップ「水のプリントに挑戦してみよう!」

10月22日(日)14:00-16:00  
会場:前田建具新倉庫  
参加人数:30名

### ウェンデルリン・ファン・オルデンボルフによる上映会&トーク

10月28日(土)15:00-17:00  
会場:東京藝術大学上野キャンパス アーツ・アンド・サイエンス・ラボ4F 球形ホール  
参加人数:25名

## 【主要関連記事】

### (1)新聞・雑誌

- ・「路地裏かわら版 東京都現代美術館がまちへ飛び出す! MOT サテライト2017秋 むすぶ風景」『タウン誌深川』238号 2017年8月31日発行 p. 29
- ・「know this:art Recommendations MOTサテライト2017秋 むすぶ風景 現代アートがまちと観る人を結ぶ」『Numero TOKYO』11巻9号 2017年9月28日発行 p. 286

### ウェンデルリン・ファン・オルデンボルフによるワークショップ

10月31日(火)10:00-16:00  
会場:東京藝術大学上野キャンパス 美術学部中央棟第7講義室  
参加人数:18名

### ARまちあるきツアー「清澄白河/MOTサテライトをめぐる」

11月3日(金・祝)10:00-11:30  
会場:清澄白河エリア  
参加人数:14名

### 錯視ブロックワークショップグループ

「サッカク・ブロック・ワークショップ」  
11月3日(金・祝)、4日(土)14:00-16:30  
会場:江東区立白川こどもとしょかん  
参加人数:のべ70名

### 富井大裕によるイベント「時間の彫刻」

11月4日11:00-17:00  
会場:東京藝術大学上野キャンパス アーツ・アンド・サイエンス・ラボ及びその周辺  
参加人数:40名

### 古川聖・藤井晴行・濱野峻行・小林祐貴によるパフォーマンス

「Architecture dreams Music / 建築が夢見る音楽」  
11月5日(日)15:00-16:00  
会場:龍徳山 光厳教寺 雲光院  
参加人数:43名

### 下道基行「見えない風景/深川編」ワークショップ

11月11日(土)10:00-16:00  
場所:清澄白河エリア  
参加人数:11名

### トーク&まち歩きクルーズ「ガイドとめぐる清澄白河」

10月14日(土)以降の土、日、祝日(全11回)14:30-15:30  
参加人数:のべ193名

### (2)ウェブ媒体

- ・「地域に根ざしたアート・プロジェクト「MOTサテライト」で街の歴史や営みに触れる」『美術手帖(web)』2017年9月17日
- ・「秋元梢と巡る“アートの街”清澄白河、まちぐるみプロジェクト」『MOTサテライト』でお気に入りアート探し『FASHION PRESS』2017年10月25日
- ・NAOKO YOSHIDA「アート散歩にぴったり! 休館中の東京都現代美術館が清澄白河エリアで都市型アート・プロジェクト開催中」『OZ mall』2017年11月4日

## 出品リスト

1  
MOTスペースA  
下道基行  
Motoyuki Shitamichi  
「見えない風景」東京/深川編  
[Walk with your eyes]Tokyo/Fukagawa  
2017  
映像、ちらし、資料  
Video, flyers, archival materials

2  
MOTスペースB  
東京大学 廣瀬・谷川・鳴海研究室+志村博  
Hirose Tanikawa Narumi Lab., The University of  
Tokyo+Hiroshi Shimura  
思い出のぞき窓・清澄白河  
Window to the Past\_Kiyosumi-shirakawa  
1968 / 2017

3  
志村博  
Hiroshi Shimura  
木場・仙台堀川・豊洲運河風景  
Landscape\_Kiba / Sendai hori River Toyosu canal  
1968



- 4  
東京藝術大学芸術情報センター 清澄白河プロジェクト  
Kiyosumi-shirakawa project, Art Media Center, Tokyo  
University of the Arts  
鈴木葉百野  
Hameno Suzuki  
PAPER / FABRIC  
PAPER / FABRIC  
2017  
協力 株式会社森木ペーパー  
In cooperation with Moriki Paper Company, Ltd.
- 5  
田部井勝彦  
Katsuhiko Tabei  
Migration project Case: 『ゲームキョウカイ』 藤木淳  
Migration project Case : Jun Fujiki "game border"  
2017
- 6  
網守将平  
Shohei Amimori  
Untitled  
Untitled  
2017
- 7  
藤田佑樹  
Yuki Fujita  
ガラスの水琴窟プロジェクト\_清澄白河  
Project Glass-Suikinkutsu case kiyosumi-shirakawa  
2017  
協力 GLASS-LAB  
In cooperation with GLASS-LAB
- 8  
肥後沙結美  
Sayumi Higo  
Echinodermata  
Echinodermata  
2017
- 9  
藤木淳  
Jun Fujiki  
P055E5510N(ポゼッション)  
P055E5510N  
2017
- 10  
「メディアアート&プログラミングI・II」履修学生による作品集  
Student works, "Media art & Programming I/II"  
2017
- 13  
MOTスペースC  
のらもじ発見プロジェクト  
Noramoji Project  
フィッティングルーム  
Fitting room  
2017
- 14  
MOTスペースD  
鎌田友介  
Yusuke Kamata  
不確定性の家  
House of Uncertainty  
2017  
木、紙、ガラス、モニター、スピーカー  
Wood, paper, glass, monitors, speakers  
協力 LIU KOBO  
In cooperation with LIU KOBO
- 15  
MOTスペースE  
Atsuko Nakamura  
内在する速度  
Inner Speed  
2017  
木材、インク、紙、水盤、スピーカー、モニター、ヘッドフォン、  
リサーチ書類  
Wood, ink, paper, water basin, speakers, monitor,  
headphones, research documents  
制作協力 浅野氏、株式会社中川船舶、株式会社大進船舶、  
株式会社谷口商会、小池氏、株式会社三幸林産、山口氏  
Supported by Mr. Asano, Nakagawa Senpaku Ltd.,  
Daishin Senpaku Ltd., Taniguchi Shokai Ltd., Mr. Koike,  
Sanko Rinsan Ltd., Mr. Yamaguchi
- 16  
MOTスペースF  
守章  
Akira Mori  
周囲内見  
Environmental Inspection  
2017  
バイブレーションスピーカー、アンプ、ケーブル、mp3 プレイ  
ヤー、蛍光灯  
Vibration speakers, amplifiers, cables, mp3 players,  
fluorescent tubes
- 17  
MOTスポットa  
石塚まこ  
Mako Ishizuka  
反転する視点  
Inverted Perspective  
2017  
マーカーペン  
Marker
- 18  
MOTスポットb  
石塚まこ  
Mako Ishizuka  
反転する視点  
Inverted Perspective  
2017  
マーカーペン  
Marker
- 19  
MOTスポットc  
石塚まこ  
Mako Ishizuka  
反転する視点  
Inverted Perspective  
2017  
マーカーペン  
Marker
- 20  
MOTスポットd  
石塚まこ  
Mako Ishizuka  
反転する視点  
Inverted Perspective  
2017  
マーカーペン  
Marker
- 21  
MOTスポットe  
石塚まこ  
Mako Ishizuka  
反転する視点  
Inverted Perspective  
2017  
マーカーペン  
Marker
- 22  
MOTスポットf  
石塚まこ  
Mako Ishizuka  
反転する視点  
Inverted Perspective  
2017  
マーカーペン  
Marker
- 23  
MOTスポットg  
石塚まこ  
Mako Ishizuka  
反転する視点  
Inverted Perspective  
2017  
マーカーペン、紙バック、レンズ、鏡  
Marker, carton, lens, mirror
- 25  
MOTスポットi  
石塚まこ  
Mako Ishizuka  
二重の橋  
Double Bridge  
2017  
ミクストメディア  
Mixed media
- 26  
案内所  
防災アーカイブ  
デジタル・アーカイブ  
Digital archive  
協力 東京大学地震研究所  
In cooperation with Earthquake Research Institute, The  
University of Tokyo
- 27  
Unlimited Corridor 制作チーム  
Unlimited Corridor Project Team  
無限回廊 — Unlimited Corridor  
Unlimited Corridor  
2016  
ビデオ・ドキュメント  
Video documentation  
協力 東京大学廣瀬・谷川・鳴海研究室  
In cooperation with Hirose Tanikawa Narumi Lab., The  
University of Tokyo
- 28  
伊藤周、築瀬洋平(ユニティ・テクノロジーズ・ジャパン合同  
会社) / 古川正樹(大阪大学大学院情報科学研究科) / ヤー  
メン・サライン(慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究  
科)  
Makoto Ito, Yohei Yanase (Unity Technologies Japan)  
/ Masahiro Furukawa (Graduate School of Information  
Science & Technology, Osaka University) / MHD Yamen  
Sarajii (Keio Media Design)  
Hiyoshi Jump  
Hiyoshi Jump  
2014  
ビデオ・ドキュメント  
Video documentation
- 29  
その他  
AR案内アプリ「MOT Navi」  
スマートフォン向けアプリ  
Mobile application
- 東京藝術大学上野キャンパス
- 30  
MOTスペースG  
ミリアム・レフコウィツ  
Myriam Lefkowitz  
Walk, Hands, Eyes (Tokyo)  
Walk, Hands, Eyes (Tokyo)  
2017  
指示書、音声  
Printed score, sound  
14'18"  
Voice-Takenaka Kyoko
- 31  
ウェンデルリン・ファン・オルデンボルフ  
Wendelien van Oldenborgh  
Après la reprise, la prise  
Après la reprise, la prise  
2009  
スライド・プロジェクション、音声、建築物  
Analogue slide projection, sound, architectural setting, 15'
- 32  
エリック・ボードレー  
Eric Baudelaire  
ドラ・マール校 始まり 2015-2019 (エピソード 1)  
Dora Maar Debut 2015-2019 (Episode 1)  
2015-2019  
映像、ドローイング、家具  
Video, drawing, furniture, 52'
- 33  
冨井大裕  
Motohiro Tomii  
body work #1-#22  
body work #1-#22  
2012  
指示書、木材、体験マット  
Instruction, wood, mattress
- 34  
ユリアス・コラー  
Jülius Koller  
PING-PONG (U.F.O.)  
PING-PONG (U.F.O.)  
2007  
インスタレーション、資料展示(再制作)  
Installation, archive image (reproduction)  
Courtesy: Private Collection and gb agency, Paris
- 34-1  
ユリアス・コラー  
Jülius Koller  
プラハ 卓球文化的状況、(U.F.O.)  
Prague Ping-Pong Cultural Situation, (U.F.O.)  
2007
- 34-2  
ユリアス・コラー  
Jülius Koller  
ストックホルム 卓球文化的状況、(U.F.O.)  
Stockholm Ping-Pong Cultural Situation, (U.F.O.)  
2006
- 34-3  
ユリアス・コラー  
Jülius Koller  
卓球文化的状況、(U.F.O.)  
Ping-Pong Cultural Situation, (U.F.O.)  
2001
- 34-4  
ユリアス・コラー  
Jülius Koller  
普遍的 身体的-文化作戦、攻撃、(U.F.O.)  
Universal Physical-culture Operation, Attack, (U.F.O.)  
1970
- 34-5  
ユリアス・コラー  
Jülius Koller  
反ピンポンゲスタ  
Anti Ping-Pongesta  
1980
- 34-6  
ユリアス・コラー  
Jülius Koller  
反ピンポンゲスタ  
Anti Ping-Pongesta  
1980
- 34-7  
ユリアス・コラー  
Jülius Koller  
理論対実践、(U.F.O.)  
Theory Versus Praxis, (U.F.O.)  
1980
- 34-8  
ユリアス・コラー  
Jülius Koller  
普遍的 フィジカル・カルチュラル作戦、永遠(U.F.O.)  
Universal Physi-cultural Orientation, Permanent, (U.F.O.)  
1970-1974
- 34-9  
ユリアス・コラー  
Jülius Koller  
J.K. 卓球クラブ、(U.F.O.)  
J.K. Ping-Pong Club, (U.F.O.)  
1970
- 34-10  
ユリアス・コラー  
Jülius Koller  
芸術(反芸術)、(U.F.O.)  
Art (Umenie), (U.F.O.)  
1980
- 34-11  
ユリアス・コラー  
Jülius Koller  
U.F.O.-操縦士 J.K. (U.F.O.)  
U.F.O.-naut J.K. (U.F.O.)  
1970
- 34-12  
ユリアス・コラー  
Jülius Koller  
普遍-文化的 未来学的アウトサイダー、U.F.O.-操縦士  
Universal-cultural Futurologic Outsider, U.F.O.-naut  
1970
- 34-13  
ユリアス・コラー  
Jülius Koller  
普遍的 未来学的クエスチョン・マーク(U.F.O.)  
Universal Futurological Question Mark, (U.F.O.)  
1978

## 2 MOTサテライト 2018秋 うごきだす物語 MOT Satellite 2018 FALL -To become a narrative

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 会 期         | 2018年10月20日(土)~11月18日(日)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 会 場         | 清澄白河周辺エリア                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 開催日数        | 14日(金・土・日、祝)の11:00-18:00に開催                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 観覧料         | 無料 ※関連プログラムもすべて参加無料                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 入場者数        | 14,139人(MOTスペースのみの合計数)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 一日平均        | 1,010人                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| ポスター        | B2 デザイン:いすたえこ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| チラシ         | A4変形、2つ折                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 主催          | 東京都、東京都現代美術館・アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 後援          | 江東区、駐日韓国大使館 韓国文化院<br>第21回 文化庁メディア芸術祭協賛事業                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 特別協力        | 深川資料館通り商店街協同組合、東京藝術大学芸術情報センター、東京大学 廣瀬・谷川・鳴海研究室                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 協賛          | 大日本印刷株式会社                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 協力          | デル株式会社、錯視ブロックワークショップグループ、一般社団法人 江東区観光協会、法政大学大学院 地域創造システム研究所、江東区文化観光ガイドの会、江東区立深川図書館、江東区深川江戸資料館、江東区立元加賀小学校、元加賀小学校和太鼓クラブ、旭写真店、白河二丁目町会、江東区芭蕉記念館、グランチェスター・ハウス、龍徳山 光厳教寺 雲光院、株式会社ささき、THE FLEMING HOUSE、アライズ コーヒーエンタングル、サッカー、ティーポンド、株式会社滑川建具、善徳寺、一般社団法人 まちふね みらい塾、株式会社キョーダイ社                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 参加作家・プロジェクト | ジョン・ヨンドウ、宮永愛子、鈴木のぞみ、ひがしちか、志村 博、デニス・オッペンハイム(東京都現代美術館収蔵品展示)、東京大学 廣瀬・谷川・鳴海 研究室×DNP ARプロジェクト、東京藝術大学芸術情報センター 清澄白河プロジェクト、錯視ブロックワークショップグループ、のらもじ発見プロジェクト、心臓ピクニック・日本のWellbeing プロジェクト、鉄割アルパトロスケート                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 会場          | メイン会場 [MOTスペースA ~ G]<br>(A)深川資料館通り商店街協同組合事務所 1F(江東区三好3-8-5) / 東京大学 廣瀬・谷川・鳴海 研究室×DNP ARプロジェクト、東京藝術大学芸術情報センター 清澄白河プロジェクト、錯視ブロックワークショップグループ、のらもじ発見プロジェクトワークショップ参加者作品<br>(B)グランチェスター・ハウス(江東区三好3-8-5) / 志村 博<br>(C)白河の倉庫(江東区白河2-5-9) / ジョン・ヨンドウ<br>(D)大島倉庫(江東区白河2-4-2) / 鈴木のぞみ<br>(E)旧酒房越路(江東区白河2-4-2) / デニス・オッペンハイム<br>(F)三好の旧製本所(江東区三好2-15-3) / 宮永愛子<br>(G)白河二丁目町会会館(江東区白河2-3-8) / 鈴木のぞみ<br><br>清澄白河エリアの店舗・施設等 [MOTスポットa ~ f]<br>(a)ささきビル(外壁) / ひがしちか<br>(b)旭写真店 / 鈴木のぞみ<br>(c)アライズ コーヒーエンタングル / 鈴木のぞみ<br>(d)江東区立深川図書館 / のらもじ発見プロジェクト<br>(e)サッカー / 鈴木のぞみ<br>(f)善徳寺(外壁) / ひがしちか<br>※MOTスポットの開場日時は各スポットの営業日や営業時間に準じます。                                                                                                                       |
| 地域パートナー     | リトルキョー/無人島プロダクション「八木良太展 MUSIC FOR LAZY SUSAN」/ Satoko Oe Contemporary / アルマス・ギャラリー「中村太一 個展 an odd number」/ EARTH+GALLERY / アンドーギャラリー「中沢研展」/ Babaghuri「ヨーガンレールとババゲーリのメンズウェア」/ WILD SILK MUSEUM / 江東区深川江戸資料館「常設展」/ GLASS-LAB / リカシツ / 江東区芭蕉記念館「30年度前期企画展 江戸の名所と俳諧」/「30年度特別展 芭蕉の旅、俳人の旅」/ どうぶつしょうぎcafeいっぶく / POTPURRI「softlight / かたすみの物語」/ gift_lab GARAGEほか「gift_+AS ラジオ往来往来」/「ラジオ往来往来 清澄白河サウンドコラージュ」/ KANA KAWANISHI GALLERY「森ナナ個展 Nucleus」/ LYURO GALLERY(LYURO 東京清澄-THE SHARE HOTELS) / TAP Gallery「中野翔太郎写真展 温泉」/ Parrhesia #013(福居伸宏個展企画) / 鈴木隆朗写真展 / L&HARMONY清澄白河本店 / Coci la elle(コシラエル本店) / 小名木川物語製作委員会「映画『小名木川物語』上映会」/ 水辺からアプローチするアートシーンズ「アート&まち歩きツアー」/「WATERSCAPE 志村博×陣内秀信 その原点にあるもの ナイトクルーズ&アーティスト・トーク」/フカガワヒトナリ/清澄白河ガイド(シラベル) |

### 【開催趣旨】

MOTサテライトは、東京都現代美術館の活動を館の外に拡張し、周辺地域や外部組織とのネットワークを築きながら、展示、パフォーマンス、トークなど多彩なプログラムをまちなかで実施する事業である。第3回となる今回は、深川江戸資料館通りを中心に、主な展示会場となる7ヶ所の「MOTスペース」において各々の会場の特色を活かした本格的な現代美術作品の展示を行い、カフェや店舗の一部、屋外壁面など6ヶ所の「MOTスポット」では、まちと一体化した作品展示を展開した。さらに、周辺地域の文化施設、寺院、オルタナティブ・スペースなど多様な会場に関連プログラム

を開催した。また今回は、館の活動の多角的な紹介のため、まちなかでの収蔵作品展示や演劇公演、図書館・寺院での教育普及プログラムなど、さらなる充実を試みた。

出品作家は、場所や人々との関係性を重視する共通点のもと、海外作家、日本の中堅、若手作家、地域在住作家、研究者など多岐にわたり、作品も映像、立体、インスタレーション、絵画、演劇公演、回遊型ツアー、スタンプリリーなどバラエティに富んだ構成とした。

前回に続き、地域と教育機関(東京大学/東京藝術大学芸術情

報センター)の連携プロジェクトとして、清澄白河の過去と現在の風景がARで溶け合う展示や、「うごきだす物語」をテーマに履修学生がコンピュータ言語プロセッシングを用いて制作した短編映像作品集の発表、清澄白河周辺の地図の上に錯覚ブロックの建物を作る／まちの看板の文字を採集するワークショップを行い、芸術やテクノロジーを通して心の豊かさについて考える講座などを開催した。

前回までに築いた担当する職員たちの地域への理解や地域との関係性が、展示作品やイベントのクオリティの向上に繋がった。

## 【関連事業】

### 演劇公演

『鉄割アルバトロケット』公演

11月3日(土・祝)、4日(日) 各日14:00-15:15、19:00-20:15

出演：鉄割アルバトロケット

会場：THE FLEMING HOUSE

参加人数：354名

### トークイベント&ワークショップ

心臓ピクニック・日本的Wellbeing プロジェクト「心臓ピクニック@清澄白河」

11月17日(土)14:00-17:00

出演：安藤英由樹(大阪大学)、渡邊淳司(NTT コミュニケーション科学基礎研究所)、ドミニク・チェン(早稲田大学)、青山一真(東京大学)、神居文彰(平等院住職)、川口ゆい(ダンサー)

会場：龍徳山 光厳教寺 雲光院

参加人数：48名

※戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)「人と情報のエコシステム」の研究開発領域「日本的 Wellbeingを促進する情報技術のためのガイドラインの策定と普及」アウトリーチ活動として実施

### 参加作家によるアーティスト・トーク

10月21日(日)14:00-16:00 志村 博(ゲスト・中谷日出、遠隔会議ロボットによる出演) 会場：江東区深川図書館3階ホール 参加人数：22名

10月28日(日)16:00-17:30 鈴木のぞみ(ゲスト・丹羽晴美) 会場：白川二丁目町会会館 参加人数：10名

11月10日(土)16:00-17:30 ひがしちか×戌井昭人(鉄割アルバトロケット主宰) 会場：リトルトーキョー 参加人数：25名

11月17日(土)18:00-19:30 宮永愛子(ゲスト・小野正嗣) 会場：THE FLAMING HOUSE 参加人数：41名

### ジョン・ヨンドウ 上映&トーク

10月26日(金)19:00-20:30

ゲスト：分部登志弘(深川資料館通り商店街協同組合理事長)、三遊亭歌司(落語家)

会場：江東区深川江戸資料館

参加人数：41名

### のらもじ発見プロジェクト トーク&ワークショップ

10月27日(土)13:00-16:00

会場：江東区立深川図書館 3階ホール(展示：MOTスペースA /案内所)

参加人数：21名

### 第57回MOT美術館講座

落語&トーク「アート×落語—交わることで生まれたもの」

10月27日(土)15:30-17:00

出演：ジョン・ヨンドウ、三遊亭歌司(落語家)

会場：THE FLAMING HOUSE

参加人数：38名

## 【主要関連記事】

### (1)新聞・雑誌

- ・岡田正弘「下町の新旧、アートに MOTサテライト」『千葉日報』2018年10月24日
- ・高橋昌紀「清澄白河の街 舞台に MOTサテライト 居酒屋、倉庫 使い現代美術展」『毎日新聞』2018年10月26日朝刊 p.22

作品の内容においても、地域の観光資源を表層的に引用するにとどまらず、本質を掘り下げるような地域との対話が生まれた。取り壊しになる町会会館の外観をライトアップした作品や、地元で長年写真を撮り続けてきた作家の50年にわたる足跡の集大成としての展示など、地域の人々のみならず多くの来場者の驚きを生む充実した展示・イベントが数多く実現した。さらに、大日本印刷「YORIP」(経路案内型アプリ)による寄りみち型の道案内や、江東区とMOTサテライトが協同した「のらもじスタンプラリー」を楽しみながら、多くの観客が地域を回遊した。

### 錯視ブロックワークショップグループ

「サッカク・ブロック・ワークショップ」

11月3日(土・祝)13:00-17:00

会場：江東区立深川図書館 3階ホール

参加人数：25名

東京大学 廣瀬・谷川・鳴海 研究室×法政大学大学院 地域創造システム研究所×江東区観光協会

「ARまちあるきツアー@清澄白河」

11月4日(日)10:00-12:00

会場：清澄白河周辺(深川江戸資料館→芭蕉記念館)

参加人数：16名

### 第57回MOT美術館講座

レクチャー「MOTコレクション—保存しながら、見せるということ」

11月10日(土)13:30-15:00

会場：リトルトーキョー

参加人数：30名

### 鈴木のぞみ ワークショップ

「Monologue of the Light / 日常にある穴で写真を撮ってみよう！」

11月11日(日)10:00-16:00

会場：白川二丁目町会会館

参加人数：9名

### クロストーク「清澄白河からまちを考える」

11月16日(金)19:00-20:30

出演：伊藤薫(Treck Treck代表)、後藤寿和、池田史子(株式会社ギフト・ラボ)、林暁甫(inVisible代表)

会場：gift\_lab GARAGE

### トーク&まち歩きクルーズ

「ガイドとめぐるMOTサテライト」

10月27日(土)以降の土、日(全8回)14:30- / 15:30-

会場：MOTサテライト全会場

参加人数：のべ188名

### スタンプラリー

MOTサテライト+江東区「のらもじスタンプラリー」

10月20日(土)～11月18日(日)

会場：MOTサテライト全会場

参加人数：のべ805名

- ・山田貴美子「Entertainment News Art MOTサテライト2018秋 うごきだす物語」『an・an』No.2122 2018年10月10日発行
- ・「現代美術館のプロジェクト 休館中に地域連携 美術館×ビルオーナー×商店街 過去と未来と人をつなぐアートプロジェクト」
- ・『週刊ビル経営』第1077号 2018年11月12日発行 p.20

## (2)ウェブ媒体

- ・「EXHIBITIONS MOTサテライト2018秋 うごきだす物語」『美術手帖(web)』2018年10月9日
- ・Ryoji Sugawara「清澄白河でアート散策! 『MOTサテライト2018秋』開幕」『Numero TOKYO(web)』2018年10月25日

- ・「展覧会 MOTサテライト2018秋 うごきだす物語」『ARTLOGUE』2018年11月8日
- ・Mac Salman, MOT Satellite Fall 2018, TOKYO ART BEAT, November 9, 2018

## 出品リスト

- 1 東京大学 廣瀬・谷川・鳴海 研究室× DNP ARプロジェクト  
Hirose Tanikawa Narumi Lab., The University of Tokyo × DNP AR Project  
清澄白河 思い出のぞき窓 (写真: 鈴木義智)  
Kiyosumi-shirakawa Reminiscent Window (photo: Yoshitomo Suzuki)  
2018
- 2 東京大学 廣瀬・谷川・鳴海 研究室× DNP ARプロジェクト  
Hirose Tanikawa Narumi Lab., The University of Tokyo × DNP AR Project  
清澄白河 思い出のぞき窓 (写真: 鈴木義智)  
Kiyosumi-shirakawa Reminiscent Window (photo: Yoshitomo Suzuki)  
2018
- 3 高橋からの眺め  
東京オリンピック聖火リレー、1964年  
Panoramic view, Takabashi  
Panoramic view, Olympic-torch relay for Tokyo Olympic Games 1964  
写真: 鈴木義智  
photo: Yoshitomo Suzuki  
1964
- 4 「メディアアート・プログラミング」・II」履修学生による作品集  
Student works, "Media Art Programming I / II"  
うごきだす物語  
To become a narrative  
2018
- 5 田所 淳  
Atsushi Tadokoro  
ブラジルの1匹の蝶の羽ばたきはテキサスで竜巻を引き起こすか?  
Can a Butterfly in Brazil Really Cause a Tornado in Texas?  
2018
- 6 錯視ブロックワークショップグループ  
MOTサテライト2018ver.メンバー  
大谷智子(東京藝術大学 芸術情報センター)、丸谷和史(NTTコミュニケーション科学基礎研究所)、ヒガキユウコ(IRON 100°C)、中村美恵子(東京藝術大学芸術情報センター)、磯谷悠子(日本映画大学/東京藝術大学 芸術情報センター)、天内大樹(静岡文化芸術大学)  
The group of optical illusion block workshop  
MOT Satellite 2018 ver. Members  
Tomoko Ohtani (Art Media Center, Tokyo University of the Arts), Kazushi Maruya (NTT Communication Science Laboratories), Yuko Higaki (IRON 100°C), Mieko Nakamura (Art Media Center, Tokyo University of the Arts), Yoko Isogaya (Japan Institute of the Moving Image/ Art Media Center, Tokyo University of the Arts), Daiki Amanai (Shizuoka University of Art and Culture)  
2018
- 7 のらもじ発見プロジェクト  
Noramoji Project  
モットサテライト  
フォント: チューリップ(清澄白河) / サルコヤ(石巻) / 万代スポーツ(大井町) / サン理容室(柴又) / シミスデンキ(蔵前) / フジヤ(向島) / タニヘイ(浅草) / アムール(石巻)  
MOT Satellite  
Font: Tulip, Kiyosumi-shirakawa / Sarukoya, Ishinomaki / Bandai Sports, Oimachi / Beauty salon Sun, Shibamata / Shimizu-Denki, Kuramae / Fujiya, Mukojima / Tanihei, Asakusa / Amour, Ishinomaki
- 8 東京大学 廣瀬・谷川・鳴海研究室+志村 博  
Hirose Tanikawa Narumi Lab., The University of Tokyo + Hiroshi Shimura  
思い出のぞき窓・清澄白河  
Window to the Past\_Kiyosumi-shirakawa  
1968/2017
- 9 志村 博  
Hiroshi Shimura  
木場・仙台堀川・豊洲運河風景  
Landscape\_Kiyosumi-shirakawa / Kiba / Toyosu canal  
1968
- 10 志村 博  
Hiroshi Shimura  
映像時空の旅2018  
Journey through Images, Time Space 2018  
2018
- 11 志村 博  
Hiroshi Shimura  
映像時空の旅2018  
Journey through Images, Time Space 2018  
2018
- 12 志村 博  
Hiroshi Shimura  
1960年代の木場風景、シルクスクリーンによる習作  
Landscape\_Kiba area,1960's, study work of silkscreen prints  
1975
- 13 志村 博  
Hiroshi Shimura  
シルクスクリーン重ね刷りによる習作  
Study works of silkscreen multi-printing  
1975-1977
- 14 志村 博  
Hiroshi Shimura  
シルクスクリーン重ね刷りによる習作  
Study works of silkscreen multi-printing  
1975
- 15 志村 博  
Hiroshi Shimura  
深川風景 / 東京 / 英国ケンブリッジ  
Landscape\_Fukawaga / Tokyo / Cambridge UK  
1968/2007/2009
- 16 志村 博  
Hiroshi Shimura  
深川風景 / 東京 / 英国ケンブリッジ  
Landscape\_Fukawaga / Tokyo / Cambridge UK  
1968/2007/2010
- 17 志村 博  
Hiroshi Shimura  
カメラオブスクラ  
Camera Obscura  
2018
- 18 チョン・ヨンドウ  
Yeondoo Jung  
古典と新作  
Old and New  
2018  
3チャンネル HD ヴィデオ (43分42秒)  
3 channel HD video (43min. 42sec.)
- 19 チョン・ヨンドウ  
Yeondoo Jung  
古典と新作 ドローイング  
Classic and New Drawings  
2018  
15ドローイング、煤  
15 drawings, soot
- 20 鈴木のぞみ  
Nozomi Suzuki  
Monologue of the Light : TEAPOND ドアの鍵穴から  
Monologue of the Light : A view through a keyhole in the door in TEAPOND  
2018  
ゼラチン・シルバー・プリント  
gelatin silver print
- 21 鈴木のぞみ  
Nozomi Suzuki  
Monologue of the Light : 東京都現代美術館 壁の穴から  
Monologue of the Light : A view through a hole in the wall in Museum of Contemporary Art Tokyo  
2018  
ゼラチン・シルバー・プリント  
gelatin silver print
- 22 鈴木のぞみ  
Nozomi Suzuki  
Monologue of the Light : AOKI理容店前 椅子の穴から  
Monologue of the Light : A view through a hole in the chair in front of AOKI Barber Store  
2018  
ゼラチン・シルバー・プリント  
gelatin silver print
- 23 鈴木のぞみ  
Nozomi Suzuki  
Monologue of the Light : 深川江戸資料館 相模屋の鉄鍋の穴から  
Monologue of the Light : A view through a hole in the iron pot in Sagamiya in Koto Fukagawa Edo Museum  
2018  
ゼラチン・シルバー・プリント  
gelatin silver print
- 24 鈴木のぞみ  
Nozomi Suzuki  
Monologue of the Light : 雲光院向かい 葉の虫食い穴から  
Monologue of the Light : A view through a wormhole of the leaf opposite the Unkouin  
2018  
ゼラチン・シルバー・プリント  
gelatin silver print
- 25 鈴木のぞみ  
Nozomi Suzuki  
Monologue of the Light : 喫茶leaf 木製の椅子の穴から  
香川  
Monologue of the Light : A view through a hole in the chair in Cafe leaf, Kagawa  
2016  
ゼラチン・シルバー・プリント  
gelatin silver print
- 26 鈴木のぞみ  
Nozomi Suzuki  
Monologue of the Light : 新宿町公園 ベンチの節穴から  
埼玉  
Monologue of the Light : A view through a wood knot hole in the bench in Shinjukucho Park, Saitama  
2017  
ゼラチン・シルバー・プリント  
gelatin silver print
- 27 鈴木のぞみ  
Nozomi Suzuki  
Monologue of the Light : 酒房越路 土鍋の蒸気穴から  
Monologue of the Light : A view through a steam hole in the pot lid in Shubo-Koshiji  
2018  
使われていた土鍋に写真乳剤を塗布  
a coat of photosensitive emulsion is applied to the pot used
- 28 鈴木のぞみ  
Nozomi Suzuki  
Monologue of the Light : 酒房越路 罎箱の隙間の穴から  
Monologue of the Light : A view through a hole in the bonito box in Shubo-Koshiji  
2018  
使われていた罎箱に写真乳剤を塗布  
a coat of photosensitive emulsion is applied to the bonito box used
- 29 鈴木のぞみ  
Nozomi Suzuki  
Monologue of the Light : アライズコーヒー ドリッパーの穴から  
Monologue of the Light : A view through a drip hole in the coffee dripper in ARISE COFFEE ROASTERS  
2018  
ドーナツドリッパー、紙コップに写真乳剤を塗布  
a coat of photosensitive emulsion is applied to the paper cup
- 30 鈴木のぞみ  
Nozomi Suzuki  
Holes in Kiyosumi-shirakawa  
Holes in Kiyosumi-shirakawa  
2018  
スライドフィルム  
slide films
- 31 デニス・オッペンハイム  
Dennis Oppenheim  
ビデオ作品集 1巻  
Material Interchange / Identity Transfer / Rocked Hand / Compression-Fern (Hand) / Pressure Piece #1 / Classed Hand from / Compression-FerPoison Oak from / Compression-Fern(face) / Leafed Hand / Video Works Vol.1  
Video Works Vol.1  
Material Interchange / Identity Transfer / Rocked Hand / Compression-Fern (Hand) / Pressure Piece #1 / Classed Hand from / Compression-FerPoison Oak from / Compression-Fern(face) / Leafed Hand / Video Works Vol.1  
1970  
3/4in.ビデオ (30分)  
3/4in. Video (30 min.)
- 32 デニス・オッペンハイム  
Dennis Oppenheim  
ビデオ作品集 6巻  
Forming Sounds / 2 Stage Transfer Drawing (Advancing to a Future State) / 2 Stage Transfer Drawing (Returning to a Past State) / A Feedback Situation / 3 Stage Transfer Drawing / Two Stage Transfer Drawing (Returning to a Past State) / Objectified Counter Forces / Shadow Project  
Video Works Vol.6  
Forming Sounds / 2 Stage Transfer Drawing (Advancing to a Future State) / 2 Stage Transfer Drawing (Returning to a Past State) / A Feedback Situation / 3 Stage Transfer Drawing / Two Stage Transfer Drawing (Returning to a Past State) / Objectified Counter Forces / Shadow Project  
1971-1972  
3/4in.ビデオ (27分18秒)  
3/4in.Video (27min. 18sec.)

33  
宮永愛子  
Aiko Miyanaga  
Strata (清澄白河)  
Strata (Kiyosumi-shirakawa)  
2018  
ガラス、製本の道具、大潮日記2009～2018、ミクストメディア  
glass, bookbinding tools, the spring tidal diary 2009-2018,  
mixed media

34  
宮永愛子  
Aiko Miyanaga  
Strata (清澄白河)  
Strata (Kiyosumi-shirakawa)  
2018  
ナフタリン、ミクストメディア  
naphthalene, mixed media

35  
宮永愛子  
Aiko Miyanaga  
Strata そらみみそら(清澄白河)  
Strata soramimisora (Kiyosumi-shirakawa)  
2018  
陶、釉、小名木川の水、ミクストメディア、サウンドインスタ  
レーション  
ceramic, glaze, water (from Onagi river), mixed media,  
sound installation

36  
宮永愛子  
Aiko Miyanaga  
Strata はじまりの景色(清澄白河)  
Strata landscapes of beginning (Kiyosumi-shirakawa)  
2018  
フレスコ紙、ミクストメディア  
fresco paper, mixed media

37  
鈴木のぞみ  
Nozomi Suzuki  
The Light of Other Days : 白河二丁目町会会館  
The Light of Other Days : Shirakawa Nichome Chokai  
Kaikan  
2018  
使われていた窓に写真乳剤を塗布  
a coat of photosensitive emulsion is applied to the  
window used

38  
鈴木のぞみ  
Nozomi Suzuki  
The Light of Other Days : 白河二丁目町会会館  
The Light of Other Days : Shirakawa Nichome Chokai  
Kaikan  
2018  
使われていた窓に写真乳剤を塗布  
a coat of photosensitive emulsion is applied to the  
window used

39  
ひがしちか  
Chika Higashi  
川の色 色の川  
Rivers of Colors, Colors of Rivers  
2018  
布  
cloth

40  
鈴木のぞみ  
Nozomi Suzuki  
Monologue of the Light : 旭写真店前 自転車の籠の穴から  
Monologue of the Light : A view through a hole in the  
bicycle basket in front of Asahi Photo Studio  
2018  
ゼラチン・シルバー・プリント  
gelatin silver print

41  
鈴木のぞみ  
Suzuki Nozomi  
Monologue of the Light : 旧粉所小学校 シャッターの鍵穴  
から 香川  
Monologue of the Light : A view through a keyhole in the  
shutter in the Sogisyo Elementary School, Kagawa  
2016  
ゼラチン・シルバー・プリント  
gelatin silver print

42  
鈴木のぞみ  
Suzuki Nozomi  
Monologue of the Light : 居酒屋まるま 庭のコンテナの穴  
から 香川  
Monologue of the Light : A view through a hole in the  
container in bar MARUMA's garden, Kagawa  
2016  
ゼラチン・シルバー・プリント  
gelatin silver print

43  
鈴木のぞみ  
Suzuki Nozomi  
Monologue of the Light : 坂の上 ガードレールの穴から  
埼玉  
Monologue of the Light : A view through a hole in the  
guardrail on the top of slope, Saitama  
2017  
ゼラチン・シルバー・プリント  
gelatin silver print

44  
鈴木のぞみ  
Suzuki Nozomi  
Monologue of the Light : アプリュス芝園スタジオ 建材の  
穴から 埼玉  
Monologue of the Light : A view through a hole in the  
building material in Aplus Shibazono studio, Saitama  
2017  
ゼラチン・シルバー・プリント  
gelatin silver print

45  
鈴木のぞみ  
Suzuki Nozomi  
Monologue of the Light : アライズコーヒー ドリッパーの穴  
から  
Monologue of the Light : A view through a drip hole in  
the coffee dripper in ARISE COFFEE ROASTERS  
2018  
ドーナツドリッパー、紙コップに写真乳剤を塗布  
a coat of photosensitive emulsion is applied to the paper  
cup

46  
のらもじ発見プロジェクト  
Noramoji Project  
のらもじTシャツ  
Noramoji T-shirt  
2018

47  
鈴木のぞみ  
Suzuki Nozomi  
Monologue of the Light : サッカー先 象の置物の穴から  
Monologue of the Light : A view through a hole in the  
wooden elephant figurine in front of SATKAR  
2018  
ゼラチン・シルバー・プリント  
gelatin silver print

48  
ひがしちか  
Chika Higashi  
川の色 色の川  
Rivers of Colors, Colors of Rivers  
2018  
布  
cloth

49  
ひがしちか  
Chika Higashi  
川の色 色の川  
Rivers of Colors, Colors of Rivers  
2018  
布  
cloth

50  
経路案内用コンテンツ表示モバイルソフトウェア「YORIP」  
スマートフォン向けアプリ  
大日本印刷株式会社  
2018  
AR mobile soft wear "YORIP"  
Dai Nippon Printing Co., Ltd.  
Mobile application  
2018

### 3 リニューアル・オープン記念展 百年の編み手たち —流動する日本の近現代美術— WEAVERS of WORLDS -A Century of Flux in Japanese Modern/Contemporary Art

|      |                                                                                                                                             |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 会 期  | 2019年3月29日(金)～6月16日(日)                                                                                                                      |
| 会 場  | 企画展示室 3階、2階、1階、地下2階                                                                                                                         |
| 開催日数 | 70日間                                                                                                                                        |
| 観覧料  | 一般1,300円 大学生・専門学校生・65歳以上900円 中高生600円                                                                                                        |
| 入場者数 | 55,078人                                                                                                                                     |
| 一日平均 | 787人                                                                                                                                        |
| 出品点数 | 576点(作品 497点、図書資料 92点、参考映像 2点)                                                                                                              |
| カタログ | A5、上製本、351頁、美術出版社より出版<br>エッセイ: 関 直子「キマイラの笑いと憂鬱」pp.8-15、藪前知子「『ポスト』と『ニュー』の裂け目に: 1980年をめぐる断章」pp.16-20、加藤弘子「東京都現代美術館のコレクション」pp.21-23、作品図版、作品リスト |
| ポスター | B1、B3(デザイン: 色部義昭)                                                                                                                           |
| チラシ  | A4(4つ折)                                                                                                                                     |
| 主催   | 主催: 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館                                                                                                                |

#### 【開催趣旨】

東京都現代美術館のリニューアル・オープンを記念する「百年の編み手たち—流動する日本の近現代美術—」展は、日本における創造のありようを主題のひとつとして、多様な要素の選択的な編集をとおして制作する美術家を「編み手」と捉え、当館が収蔵する作品や資料を核として、その活動を辿り直す試みであった。

「編集」をキーワードに、日本の近現代美術のひとつの側面を再考する本展では、社会の現実と対峙しながら、新しい芸術思潮やテクノロジーと、在来の表現方法とを編集することに意識的な美術家たちの活動をとり上げた。情報化の進んだ現在では、様々な要素を選択的に編集する態度や、ハイブリッドな文化のありかたは、世界共通のものとなっているが、近代以降の日本の美術は、そのようなありようを先駆的に経験し、編集自体を、作品の主題として、独自の制作を進めてきた作家の存在によって特徴づけられる。極東という場所において新たに遭遇するものとの関係を模索しながら、自らの表現を探ることは、複数の生物のパーツから成るギリシア神話に登場する「キマイラの笑いと憂鬱」とも言えるような、編集的な創造の現実と向き合うことにほかならない。笑いと憂鬱とは、熟考の末にうみ出された、多様な要素から構成される創造に対し、冷静な距離をもってその意味を問い続ける態度のことなのである。

本展では、第一次世界大戦の開戦により欧州からの印刷物を通じた情報が減少した1914年を、新しいものの学習の段階から、編集へと展開したはじまりの年と位置づけ、現在までの美術家たちの活動を作品と資料によって再考した。

当館のコレクションの特質は、戦後美術だけでなく、1910年代の岸田劉生を中心とする草土社、20年代のマヴォ、30年代の九室会など近代の前衛的な動向とによって、構成される点にある。本展では、他の同時代美術館とは異なる当館独自のこのような資源を活かし、分断して受容される傾向にある、日本の近代と現代をつなぐことで、若い世代だけでなく、幅広い年齢層の来館者を迎えることができた。「編集」をキーワードに、収蔵作品によって、百年にわたる近現代美術についての新しい文脈に基づく美術史を提示することは、単発的な事業展開とは異なる、当館のミッションを示す機会となった。それは、リニューアル・オープンしたパブリックな文化機関の今後の姿勢を内外に示す意味をもつものと言える。また、展示に際しては、作品だけでなく、図書室の特別文庫などの資料を紹介することで、展覧会の時代背景の奥行きと文脈を深めただけでなく、アーカイブを先進的に整備してきた図書室の活動もひろく一般に示す機会となった。それは、当館の活動が、作品と資料の境を揺るがしながら展開してきた現代美術の歴史と、並走する歩みだったことを示すものでもあった。

#### 【関連事業】

(1) 企画担当学芸員によるトーク

2019年3月29日(金)15:00～、講堂、200人

(2) 10人の学芸員によるトーク

2019年4月27日、28日、29日、30日、5月1日、2日、3日、4日、5日、6日、11:00～、ホワイエ、各回30人余

(3) アーティスト・トーク 柏原えつとむ(出品作家)、正木 基(美術評論家)

2019年6月9日(日) 14:00～、講堂、70人

#### 【主要関連記事】

(1) 新聞

- ・窪田直子「『百年の編み手たち』展 布やコルク『編集』視点で見直す」『日本経済新聞』2019年4月3日 朝刊 p.36
- ・木村尚貴「3年かけてリニューアル 所蔵品楽しめる記念展」『朝日新聞』2019年4月3日 夕刊 p.3
- ・永田晶子「東京都現代美術館がリニューアル開館」『毎日新聞』2019年4月10日 夕刊 p.4
- ・Claire Williamson, “Weaving in and out of a century of art”, *The Japan Times*, April 10, 2019, p.12
- ・井出和子「時代への批評精神追う 編集テーマ 中原實、岸田劉生など」『高知新聞』2019年4月13日 p.11他、共同通信配信(愛

- 媛新聞4月15日、大阪日日新聞4月16日、宮崎日日新聞4月16日、山形新聞4月17日、日本海新聞4月18日、山陰中央新報4月24日、東奥日報4月25日、静岡新聞4月26日、茨城新聞4月28日、神戸新聞4月30日、新潟日報5月2日、福井新聞5月2日、河北新報5月9日、信濃毎日新聞5月31日)
- ・渋谷和彦、黒沢綾子「東京都現代美術館リニューアル 「編み手」として」『産経新聞』2019年4月14日 朝刊 p.17
- ・森下泰輔「百年の編み手たち 欧米の美術動向をどう翻案してきたか」『赤旗』2019年5月1日 p.9
- ・村田 真「大正、昭和、平成 読み直す」『北海道新聞』2019年5月20日 p.13

・小林真理「見尽くせない充実の作品集」『公明新聞』2019年5月25日p.5

## (2) 雑誌

- ・保坂健二郎 「百年の編み手たち」『すばる』2019年6月(第94巻 第55号 通巻5318号) pp.100-101
- ・邱馨慧 「策人的編輯術：日本近現代美術100年 東京都現代美術館整備開幕展」『ART COLLECTION+DESIGN 藝術収蔵+設計』2019年5月号 pp.34-43
- ・住吉智恵「100年におよぶ近現代美術コレクションに見る、日本人のリアル。」『FIGARO japon』2019年5月号No.515 p.152
- ・児島やよい「国境を越える、意志を貫く女性たちのアート」『VOUGUE JAPAN』2019年7月号(No.239) p.223
- ・Miki Hisatake「100年にわたる日本の近現代美術史のひとつの側面が、いま明らかに」『大人のおしゃれ手帖』2019年5月号 p.126
- ・長谷川香苗「日本美術の流れを知る」『ミセス』2019年5月号(No.773) p.275
- ・浦島茂世「お待たせしました!都現美が戻ってまいります」『芸術新潮』2018年12月号(No.828 p.62)
- ・エリイ「時代の編み手たちの試みを再考する展覧会」『SPA!』2019年6月4日(No.3620) p.113
- ・松本あかね「最先端、100年分、日本のアバンギャルドが目指し

たオリジナリティ。」『anan』2019年4月3日No.2145 p.105

- ・赤坂英人「日本美術の100年を再考する。」『Pen』2019年4月5日号(No.472) p.96
- ・渋沢和彦「中原實『ヴィナスの誕生』、藤牧義夫らで近現代の日本美術の流れを」『MOSTLY CLASSIC』2019年7月号(No. 266) p.131

## (3) その他

- ・「日曜美術館 アートシーン」、NHK エデュケーションル 2019年4月28日
- ・小金沢 智 「Review 新たな東京都現代美術館のマニフェストとして。」『美術手帖』web版 2019年5月21日
- ・平林理奈 「画家・歯科医・教授 前衛であり続けた中原實の傑作 東京都現代美術館リニューアル記念展の中核」『朝日新聞デジタル&M』web版 2019年4月28日
- ・陶山伊知郎「コレクションの隠し味 東京都現代美術館のリニューアルオープン記念展」『美術展ナビ』web版2016年6月7日
- ・鎌木あずさ 「〈資料〉がひらく新しい世界—資料もまた物質である」『artscape』web版 2019年6月15日
- ・Nick West, “Weavers of Worlds -A Century of Flux in Japanese Modern / Contemporary Art”, *Art Asia Pacific*, web, 2019

## 出品リスト

横尾忠則(1936-)  
TADANORI Yokoo(1936-)  
木花開耶媛の復活  
Princess Konohana-Sakuya's Rebirth  
1998  
油彩、コラージュ/カンヴァス  
Oil and collage on canvas  
寄託 作家  
Deposit of The Artist

横尾忠則  
TADANORI Yokoo  
20年目のピカソ  
Picasso in the 20th year  
2001  
油彩、コラージュ/カンヴァス  
Oil and collage on canvas  
寄贈  
Gift

## 1章 はじまりとしての1914年

石井柏亭(1882-1958)  
ISHII Hakutei(1882-1958)  
木場  
Kiba  
1914  
木版  
Woodcut

有島生馬(1882-1974)  
ARISHIMA Ikuma(1882-1974)  
鬼  
Demon  
1914  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas

横堀角次郎(1897-1978)  
YOKOBORI Kakujiro(1897-1978)  
S君の肖像  
Portrait of Mr. S  
1915  
油彩/板  
Oil on panel

横堀角次郎  
YOKOBORI Kakujiro  
中島君の像  
Portrait of Mr. NAKAJIMA  
1916  
鉛筆/紙  
Pencil on paper  
寄贈 横堀 綾氏  
Gift of Ms. YOKOBORI Aya

椿 貞雄(1896-1957)  
TSUBAKI Sadao(1896-1957)  
八重子像  
Portrait of Yaeko  
1915  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 東 珠樹氏  
Gift of Mr. AZUMA Tamaki

木村莊八(1893-1958)  
KIMURA Shohachi(1893-1958)  
自画像  
Self-Portrait  
c.1918  
油彩/板  
Oil on panel

岸田劉生(1891-1929)  
KISHIDA Ryusei(1891-1929)  
自画像  
Self-Portrait  
1912  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas

岸田劉生  
KISHIDA Ryusei  
慾望  
Earthly Desire  
1914  
エッチング  
Etching  
寄贈 武者小路家  
Gift of MUSHAKOJI Family

岸田劉生  
KISHIDA Ryusei  
石を噛む人  
Gnawing at a Stone  
1914  
エッチング  
Etching  
寄贈 武者小路家  
Gift of MUSHAKOJI Family

岸田劉生  
KISHIDA Ryusei  
怒れるアダム  
Adam Enraged  
1914  
エッチング  
Etching  
寄贈 武者小路家  
Gift of MUSHAKOJI Family

岸田劉生  
KISHIDA Ryusei  
武者小路実篤像  
Portrait of MUSHAKOJI Saneatsu  
1914  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 武者小路家  
Gift of MUSHAKOJI Family

岸田劉生  
KISHIDA Ryusei  
椿君に贈る自画像  
Self-Portrait Sent to Mr. TSUBAKI  
1914  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas

岸田劉生  
KISHIDA Ryusei  
自画像  
Self-Portrait  
1920  
水彩、鉛筆/紙  
Watercolor, pencil on paper  
寄贈 武者小路家  
Gift of MUSHAKOJI Family

河野通勢(1895-1950)  
KONO Michisei(1895-1950)  
自画像  
Self-Portrait  
n.d.  
インク/紙  
Ink on paper  
寄贈 河野通明氏  
Gift of Mr. KONO Tsumeji

河野通勢  
KONO Michisei  
風景(裾花)  
Landscape (Susobana)  
1914  
インク/紙  
Ink on paper  
寄贈 河野通明氏  
Gift of Mr. KONO Tsumeji

河野通勢  
KONO Michisei  
河柳(裾花)  
Pussy Willows (Susobana)  
1914  
インク/紙  
Ink on paper

河野通勢  
KONO Michisei  
叢  
Green Grass  
1916  
鉛筆/紙  
Pencil on paper  
寄贈 河野通明氏  
Gift of Mr. KONO Tsumeji

河野通勢  
KONO Michisei  
柏の葉  
Oak Leaves  
1917  
インク/紙  
Ink on paper  
寄贈 河野通明氏  
Gift of Mr. KONO Tsumeji

河野通勢  
KONO Michisei  
柏の葉  
Oak Leaves  
c.1917  
水彩/紙  
Watercolor on paper  
寄贈 河野通明氏  
Gift of Mr. KONO Tsumeji

河野通勢  
KONO Michisei  
布施太子の入山  
Sudhana Enters a Monastery  
1923  
エッチング  
Etching

河野通勢  
KONO Michisei  
竹林之七妍  
Seven Beauties in the Bamboo Grove  
1923  
油彩／板  
Oil on panel  
寄贈 武者小路家  
Gift of MUSHAKOJI Family  
  
オーギュスト・ロダン(1840-1917)  
RODIN, Auguste(1840-1917)  
小さなスフィンクス  
Little Sphinx  
n.d.  
ブロンズ  
Bronze  
寄贈 武者小路家  
Gift of MUSHAKOJI Family

図書資料(美術図書室の表記に倣い年月日を付している)  
  
『月映』I(1914年9月)、II(1914年11月)、III(1914年12月)、IV(1915年1月)、V(1915年2月)、VI(1915年5月)、VII(1915年10月)  
Tsukubaé  
1914-15年  
美術図書室  
  
ヒュウザン会展覧会目録 第一会場 銀座読売社  
Catalog of the first exhibition of Fusain-kai  
1912年10月15日-11月3日  
美術図書室 渡辺文庫  
  
岸田劉生氏作品個人展覧会(出品目録) 会場 三笠(京橋)  
KISHIDA Ryusei's solo exhibition [Catalog]  
1914年3月19日-28日  
美術図書室 奥瀬文庫

草土社展覧会ポスター  
Poster of the Sodoshia exhibition  
1922年11月4日-13日  
美術図書室  
  
岸田劉生遺作展覧会出品目録 会場 東京朝日新聞社画廊  
Catalog of KISHIDA Ryusei's posthumous work exhibition  
1930年6月11日-17日  
美術図書室 奥瀬文庫  
  
村山知義 コラージュ作品  
"Collage" MURAYAMA Masayoshi  
1922年  
美術図書室  
  
村山知義 トワルディー画廊個展案内状  
Invitation for Solo exhibition at Gallery Twardy  
1922年  
美術図書室

## 2章 震災の前と後

神原 泰(1898-1997)  
KANBARA Tai(1898-1997)  
生命の流動(シンホニー第35番)  
Flowing Life Energy (Symphony No. 35)  
c.1919  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas

神原 泰  
KANBARA Tai  
マリアとキリスト  
Mary and Christ  
1923  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas

ヴィクトル・パリモフ(1888-1929)  
PALIMOV, Victor(1888-1929)  
手術  
Operation  
1920  
油彩／厚紙  
Oil on cardboard  
寄贈 竹添信之氏  
Gift of Mr. TAKEZOE Nobuyuki

ヴィクトル・パリモフ  
PALIMOV, Victor  
踊る女  
Dancing Women  
1920  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 竹添信之氏  
Gift of Mr. TAKEZOE Nobuyuki

矢部友衛(1892-1981)  
YABE Tomoe(1892-1981)  
女  
Woman  
1923  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas

住谷善根(1902-1997)  
SUMIYA Iwane(1902-1997)  
唯物弁証法的イワンフ・スマヤヴキチ  
Materialistic Dialectical Ivanov Smiyavich  
1923  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas

恩地孝四郎(1891-1955)  
ONCHI Koshiro(1891-1955)  
[作品]  
[Work]  
n.d.  
木口木版  
Wood engraving

恩地孝四郎  
ONCHI Koshiro  
人体模型  
Human Body Model  
c.1912  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas

恩地孝四郎  
ONCHI Koshiro  
女性習作(4)  
Study of a Woman's Body (4)  
1917  
インク／紙  
Ink on paper

恩地孝四郎  
ONCHI Koshiro  
女性習作(5)  
Study of a Woman's Body (5)  
1917  
インク／紙  
Ink on paper

恩地孝四郎  
ONCHI Koshiro  
女性習作(6)  
Study of a Woman's Body (6)  
1917  
インク／紙  
Ink on paper

恩地孝四郎  
ONCHI Koshiro  
自画像 f(ブルーズ)  
Self-Portrait f (Blouse)  
c.1919  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas

恩地孝四郎  
ONCHI Koshiro  
静物 I (リンゴ赤)  
Still Life I (Apple Red)  
c.1922  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas

河野通勢(1895-1950)  
KONO Michisei(1895-1950)  
下谷郵便局上野池之端に移転す  
The New Shitaya Post Office at Ikenohata, Ueno  
1923  
エッチング  
Etching

河野通勢  
KONO Michisei  
食料是如到来  
Arrival of Relief Supplies  
1923  
エッチング  
Etching

鹿子木孟郎(1874-1941)  
KANOKOGI Takeshiro(1874-1941)  
大正12年9月1日  
September 1, Taisho 12 (1923)  
n.d.  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 鹿子木立郎氏  
Gift of Mr. KANOKOGI Tatsuro

鹿子木孟郎  
KANOKOGI Takeshiro  
大正12年9月1日(下図)5点  
Study for September 1, Taisho 12 (1923)  
1923  
コンテ／紙  
Conté on paper  
寄贈 鹿子木立郎氏  
Gift of Mr. KANOKOGI Tatsuro

鹿子木孟郎  
KANOKOGI Takeshiro  
震災スケッチ(美土代町の角家)  
After the Great Kanto Earthquake (A Corner House at Mitoshirocho)  
1923  
コンテ／紙  
Conté on paper  
寄贈 鹿子木立郎氏  
Gift of Mr. KANOKOGI Tatsuro

鹿子木孟郎  
KANOKOGI Takeshiro  
震災スケッチ(上野)  
After the Great Kanto Earthquake (Ueno)  
1923  
コンテ／紙  
Conté on paper  
寄贈 鹿子木立郎氏  
Gift of Mr. KANOKOGI Tatsuro

鹿子木孟郎  
KANOKOGI Takeshiro  
震災スケッチ(水上生活者)  
After the Great Kanto Earthquake (Living on the Water)  
1923  
鉛筆、色鉛筆／紙  
Pencil, color pencil on paper  
寄贈 鹿子木立郎氏  
Gift of Mr. KANOKOGI Tatsuro

鹿子木孟郎  
KANOKOGI Takeshiro  
震災スケッチ(市)  
After the Great Kanto Earthquake (Market)  
1923  
鉛筆、色鉛筆／紙  
Pencil, color pencil on paper  
寄贈 鹿子木立郎氏  
Gift of Mr. KANOKOGI Tatsuro

牧野虎雄(1890-1946)  
MAKINO Torao(1890-1946)  
花苑  
Flower Garden  
1920  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas

牧野虎雄  
MAKINO Torao  
47  
園の花  
Flower in the Garden  
1922  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas

牧野虎雄  
MAKINO Torao  
男の裸像  
Male Nude  
c.1922  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas

牧野虎雄  
MAKINO Torao  
向日葵  
Sunflowers  
1923  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas

牧野虎雄  
MAKINO Torao  
葱の花  
Onion Heads  
c.1924  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas

牧野虎雄  
MAKINO Torao  
山百合  
Gold-Banded Lilies  
c.1924  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas

牧野虎雄  
MAKINO Torao  
芥子  
Poppies  
c.1925  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas

中原 實(1893-1990)  
NAKAHARA Minoru(1893-1990)  
モジリアニの美しき家婦  
Modigliani's Beautiful Maid  
1923  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 中原 泉氏  
Gift of Mr. NAKAHARA Sen

中原 實  
NAKAHARA Minoru  
海水浴  
Sea Bathing  
1924  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 中原 泉氏  
Gift of Mr. NAKAHARA Sen

中原 實  
NAKAHARA Minoru  
ノスタルジア  
Nostalgia  
1924  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 中原 泉氏  
Gift of Mr. NAKAHARA Sen

中原 實  
NAKAHARA Minoru  
ヴィナスの誕生  
Birth of Venus  
1924  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 中原 泉氏  
Gift of Mr. NAKAHARA Sen

中原 實  
NAKAHARA Minoru  
乾坤  
Heaven and Earth  
1925  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 中原 泉氏  
Gift of Mr. NAKAHARA Sen

中原 實  
NAKAHARA Minoru  
アトミック No.2  
Atomic No.2  
1925  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 中原 泉氏  
Gift of Mr. NAKAHARA Sen



中原 實  
NAKAHARA Minoru  
銀河の沐浴  
Bathing in the galaxy  
1929  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 中原 泉氏  
Gift of Mr. NAKAHARA Sen

中原 實  
NAKAHARA Minoru  
猫の子  
Kitten  
1929  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 中原 泉氏  
Gift of Mr. NAKAHARA Sen

中原 實  
NAKAHARA Minoru  
月光と肖像(星と女性)  
Moonlight and Portrait (Star and Woman)  
1929  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 中原 泉氏  
Gift of Mr. NAKAHARA Sen

中原 實  
NAKAHARA Minoru  
復活  
Revival  
1930  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 中原 泉氏  
Gift of Mr. NAKAHARA Sen

中原 實  
NAKAHARA Minoru  
遠い方へ(FAR-AWAY)  
Far Away  
1931  
油彩/板  
Oil on panel  
寄贈 中原 泉氏  
Gift of Mr. NAKAHARA Sen

中原 實  
NAKAHARA Minoru  
レモンのラビリンス  
Lemon labyrinth  
1931  
油彩/板  
Oil on panel  
寄贈 中原 泉氏  
Gift of Mr. NAKAHARA Sen

中原 實  
NAKAHARA Minoru  
魚の説  
Theory of Fish  
1931  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 中原 泉氏  
Gift of Mr. NAKAHARA Sen

中原 實  
NAKAHARA Minoru  
昼の星雨  
Daytime Meteor Shower  
1931  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 中原 泉氏  
Gift of Mr. NAKAHARA Sen

中原 實  
NAKAHARA Minoru  
[題不詳(鏡の中の四次元空間)]  
[Title Unknown (4-dimensional space in a mirror)]  
n.d.  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 中原 泉氏  
Gift of Mr. NAKAHARA Sen

中原 實  
NAKAHARA Minoru  
心の噴火口  
The Crater in the Heart  
1933  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 中原 泉氏  
Gift of Mr. NAKAHARA Sen

吉田 博(1876-1950)  
YOSHIDA Hiroshi(1876-1950)  
隅田川 [『東京拾二題』より]  
The Sumidagawa River [from "Twelve Scenes of Tokyo"]  
1926  
木版  
Woodcut

吉田 博  
YOSHIDA Hiroshi  
隅田川 タ [『東京拾二題』より]  
The Sumidagawa River in the Evening [from "Twelve Scenes of Tokyo"]  
1926  
木版  
Woodcut

吉田 博  
YOSHIDA Hiroshi  
帆船 朝  
Sailing Boats, Morning  
1926  
木版  
Woodcut  
寄贈 吉田穂高氏  
Gift of Mr. YOSHIDA Hodaka

吉田 博  
YOSHIDA Hiroshi  
帆船 午前  
Sailing Boats, Forenoon  
1926  
木版  
Woodcut  
寄贈 吉田穂高氏  
Gift of Mr. YOSHIDA Hodaka

吉田 博  
YOSHIDA Hiroshi  
帆船 午後  
Sailing Boats, Afternoon  
1926  
木版  
Woodcut  
寄贈 吉田穂高氏  
Gift of Mr. YOSHIDA Hodaka

吉田 博  
YOSHIDA Hiroshi  
帆船 霧  
Sailing Boats, Mist  
1926  
木版  
Woodcut  
寄贈 吉田穂高氏  
Gift of Mr. YOSHIDA Hodaka

吉田 博  
YOSHIDA Hiroshi  
帆船 タ  
Sailing Boats, Evening  
1926  
木版  
Woodcut  
寄贈 吉田穂高氏  
Gift of Mr. YOSHIDA Hodaka

吉田 博  
YOSHIDA Hiroshi  
帆船 夜  
Sailing Boats, Night  
1926  
木版  
Woodcut  
寄贈 吉田穂高氏  
Gift of Mr. YOSHIDA Hodaka

清水登之(1887-1945)  
SHIMIZU Toshi(1887-1945)  
親子像  
Mother and Son  
1923  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas

清水登之  
SHIMIZU Toshi  
カフェ  
Café  
1925  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas

清水登之  
SHIMIZU Toshi  
水兵のいるカフェ  
Sailor in the Café  
1926  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas

東郷青児(1897-1978)  
TOGO Seiji(1897-1978)  
ルーレットの女  
Woman of Roulette  
1926  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas

国吉康雄(1889-1953)  
KUNİYOSHI Yasuo(1889-1953)  
幸福の島  
Island of Happiness  
c.1924  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas

『新東京百景』 ＊100点のうち73点を展示  
A Hundred Views of New Tokyo  
1929-32  
木版  
Woodcut  
寄贈 公益社団法人 日展  
Gift of Nitten

『マヴォ』2号(マヴォ出版部) 表紙 木版 村山知義  
MAVO No. 2  
1924年  
美術図書館

マヴォ第1回展覧会[ちらし]  
MAVO first exhibition [Flyer]  
1923年7月28日-8月3日  
美術図書館 柳瀬文庫

マヴォ小品展覧会[出品目録] 会場 流逸荘(神田小川町)  
MAVO small work exhibition [Catalog]  
1923年8月6日-15日  
美術図書館 柳瀬文庫

柳瀬正夢 スケッチブック26、27、28  
日記(1923年10月1日-9日、11月1日-18日)  
YANASE Masamu, Sketchbook 26, 27, 28  
Diary (Oct.1-9, Nov. 1-18, 1923)  
1923年  
美術図書館 柳瀬文庫

三科規則  
Rules of SANKA  
1925年  
美術図書館 柳瀬文庫

無選首都展出品目録[第2回]1925春 会場 画廊九段  
Catalog of Musen Shuto Ten (Independent exhibition)  
[2nd] 1925 Spring  
1925年4月1日-17日  
美術図書館 渡辺文庫

三科会員展覧会[案内チラシ] 会場 松坂屋(銀座)  
SANKA member's exhibition [Flyer]  
1925年5月20日-24日  
美術図書館

三科会員作品展覧会出品目録 会場 松坂屋(銀座)  
Catalog of SANKA member's work exhibition  
1925年5月20日-24日  
美術図書館 柳瀬文庫

三科会員作品展形芸術展覧会 劇場の三科[案内チラシ]  
会場 築地小劇場  
SANKA member's art exhibition Gekijo-no-SANKA(SANKA at the theater) [Flyer]  
1925年5月30日  
美術図書館

『マヴォ』4号(マヴォ出版部) 表紙 リノカット 戸田達雄  
MAVO No. 4  
1924年  
美術図書館

『マヴォ』5号(長隆舎書店) 表紙文字 リノカット 岡田龍夫、  
表紙写真 築地小劇場所演ストリントベルヒ作「爛酔」の舞  
台装置 村山知義製作  
MAVO No. 5  
1925年  
美術図書館

『マヴォ』7号(長隆舎書店) 表紙 リノカット 岡田龍夫  
MAVO No. 7  
1925年  
美術図書館

[パリモフ展覧会作品説明書] [国民美術協会第9回展特別  
陳列 竹之台陳列館]  
[Caption of PALIMOV's exhibition] [The 9th special  
exhibition of Kokumin Bijustu Kyokai at Takenodai  
Chinretsukan]  
1921年4月1日-24日  
美術図書館 柳瀬文庫

モスクバ未来派の画家ヴィクトル・パリモフの展覧会の目録  
Catalog of the Exhibition of the Moscow Futurism  
Painter, Victor PALIMOV  
1921年4月1日-24日  
美術図書館 渡辺文庫

マヴォの宣言  
The Declaration of Mavo  
1923年  
美術図書館 柳瀬文庫

マヴォ展覧会(案内状)  
MAVO exhibition [Invitation]  
1923年7月28日-8月3日  
美術図書館 柳瀬文庫

マヴォ第1回展覧会[目録] 表紙 リノカット 村山知義  
MAVO first exhibition [Catalog]  
1923年7月28日-8月3日  
美術図書館 柳瀬文庫

[深沢素一書簡] 渡辺進宛年賀状裏面に「ヨミガヘリの春を  
迎へませう」  
[Letter from FUKAZAWA Sakuichi] New year greeting card  
sent to WATANABE Susumu with the sentence "Let's  
have newly reborn spring" on the back  
1924年1月  
美術図書館 渡辺文庫

「Pensées Sans Langage (又は蒼穹の尺度)」梗概  
演出装置 中原實 会場 朝日新聞大講堂(東京)  
Outline of "Pensées Sans Langage"  
1927年6月4日-5日  
美術図書館 五十殿文庫

単位三科による劇場の三科 プログラム 会場 朝日新聞  
大講堂(東京)  
Program of Gekijo-no-SANKA(SANKA at the theater) by  
Tan'i SANKA  
1927年6月4日-5日  
美術図書館 五十殿文庫

#### 図書資料

『マヴォ』1号(マヴォ出版部) 表紙絵 山里永吉  
MAVO No. 1  
1924年  
美術図書館

【創作版画誌】

『平旦』5号  
Heitan No. 5  
1906  
平旦社  
Heitansha  
美術図書室

『方寸』1巻2号～1巻7号  
Hosun Vol. 1 No. 2-7  
1907  
方寸社  
Hosunsha  
美術図書室

『白刀』1号  
Hakuto No. 1  
1910  
白刀社  
Hakutosha  
美術図書室

『詩と版画』1輯～13輯  
Shi to Hanga No. 1-13  
1922-1925  
詩と版画社  
Shi to Hanga-sha  
美術図書室

『君と僕』2号～4号  
Kimi to Boku No. 2-4  
1923  
君と僕発行所  
Kimi to Boku Hakkosho  
美術図書室

『新版画』1号、4号～9号、11号、13号  
Shin Hanga No. 1, No. 4-9, No. 11, No. 13  
1932-1934  
新版画集団  
Shin Hanga Shudan(Shin Hanga Collective)  
美術図書室

『白と黒』(第一次)2号～3号、10号～11号、13号、15号、  
22号、26号～27号、30号、34号、37号、40号、42号、44号  
～45号、47～48号、50号  
Shiro to Kuro (1st) No. 2-3, No. 10-11, No. 13, No. 15, No. 22,  
No. 26-27, No. 30, No. 34, No. 37, No. 42, No. 44-45,  
No. 47-48, No. 50  
1930-1934  
白と黒社  
Shiro to Kuro sha  
美術図書室

『白と黒』(第二次)1号～4号  
Shiro to Kuro (2nd) No. 1-4  
1935  
白と黒社  
Shiro to Kuro sha  
美術図書室

『白と黒』(第三次)1年1号～1年2号  
Shiro to Kuro (3rd) Vol. 1 No. 1-2  
1937  
白と黒社  
Shiro to Kuro sha  
美術図書室

『版芸術』1年1号～1年5号、1年7号、2年1号、2年6号、2  
年8号、4巻8号、4巻11号  
Hangeijutsu Vol. 1 No. 1-5, 7, Vol. 2 No. 1, 6, 8, Vol. 4 No.  
8, 11  
1932-1935  
白と黒社  
Shiro to Kuro sha  
美術図書室 前田文庫

『きつつき』1輯～3輯  
Kitsutsuki No. 1-3  
1930-1931  
創作版画倶楽部  
Sosakuhanga Club  
美術図書室

『爆竹』6号～7号  
Bakuchiku No. 6-7  
1930  
爆竹社  
Bakchikusha  
美術図書室

『Hanga』1輯～4輯、15輯～16輯  
Hanga No. 1-4, No. 15-16  
1924-1930  
HANGA NO IE(神戸)  
HANGA NO IE (Kobe)  
美術図書室

『さとぼろ』1巻1号～1巻6号、2巻1号、3巻4号、4巻1号～  
3号、29号  
Satoporo Vol. 1 No. 1-6, Vol. 2 No. 1, Vol. 3 No. 4, Vol. 4  
No. 1-3, No. 29  
1925-1929  
さとぼろ社(札幌)  
Satoporo sha (Sapporo)  
美術図書室

『青森版画』1号  
Aomori Hanga No. 1  
1939  
夢人社(青森)  
Mujin sha (Aomori)  
美術図書室

『陸奥駒』創刊号～3号  
Mutsugoma No. 1-3  
1933  
夢人社(青森)  
Mujinsha (Aomori)  
美術図書室

『村の版画』6号、12号～14号  
Mura no Hanga No. 6, No. 12-14  
1925-1932  
村の版画社(宇都宮)  
Mura no Hangasha (Utsunomiya)  
美術図書室 諏訪文庫

『版画座』2年7号  
Hangaza Vol. 2 No. 7  
1933  
静岡画人協会(静岡)  
Shizuoka Gajin Kyokai (Shizuoka Artist Association)  
(Shizuoka)  
美術図書室

『ゆうかり』8輯、21号～23号、25号～26号、30号  
Yukari No. 8, No. 21-23, No. 25-26, No. 30  
1932-1935  
童土社(静岡)  
Doto sha (Shizuoka)  
美術図書室

『彫りと刷り』8号  
Hori to Suri No. 8  
1933  
版画研究会(大分)  
Hanga Kenkyukai (Oita)  
美術図書室

『大野版画』1号～4号  
Ohno Hanga No. 1-4  
1933-1934  
大野版画協会(大分)  
Ohno Hanga Kyokai (Oita)  
美術図書室

『版画長崎』2号～4号  
Hanga Nagasaki No. 2-4  
1934  
版画長崎の会(長崎)  
Hanga Nagasaki no kai (Nagasaki)  
美術図書室

3章 リアルのゆくえ

瑛九(1911-1960)  
Ei-Q(1911-1960)  
[フォト・コラージュ B]  
[Photo-Collage B]  
1937  
グラビア写真/厚紙  
Photogravure on cardboard

前田藤四郎(1904-1990)  
MAEDA Toshiro(1904-1990)  
時計  
Watch  
1932  
木版、亜鉛凸版  
Woodcut, photozincograph

桂 ゆき(1913-1991)  
KATSURA Yuki(1913-1991)  
[題不詳]  
[Title Unknown]  
n.d.  
色鉛筆、水彩/紙  
Colored pencil and watercolor on paper  
寄贈 桂 彰成氏  
Gift of Mr. KATSURA Akinari

桂 ゆき  
KATSURA Yuki  
[地獄絵]  
[Hell Scene]  
n.d.  
鉛筆、水彩/紙  
Pencil and watercolor on paper  
寄贈 桂 彰成氏  
Gift of Mr. KATSURA Akinari

桂 ゆき  
KATSURA Yuki  
[自画像]  
[Self-Portrait]  
n.d.  
鉛筆、水彩、インク/紙  
Pencil, watercolor, ink on paper  
寄贈 桂 彰成氏  
Gift of Mr. KATSURA Akinari

桂 ゆき  
KATSURA Yuki  
[画材]  
[Painting Materials]  
n.d.  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 桂 彰成氏  
Gift of Mr. KATSURA Akinari

桂 ゆき  
KATSURA Yuki  
[鶏]  
[Chicken]  
c.1935  
漆、卵の殻/板  
Urushi, eggshell on board  
寄贈 桂 彰成氏  
Gift of Mr. KATSURA Akinari

桂 ゆき  
KATSURA Yuki  
[切り株]  
[Tree Stump]  
1937  
漆/板  
Urushi on board  
寄贈 桂 彰成氏  
Gift of Mr. KATSURA Akinari

桂 ゆき  
KATSURA Yuki  
[レースと紙のコラージュ]  
[Collage of Lace and Paper]  
1930s  
布、レース、紙、ビニール、植物/絵画用ボード  
Cloth, lace, paper, vinyl, plant on board  
寄贈 桂 彰成氏  
Gift of Mr. KATSURA Akinari

桂 ゆき  
KATSURA Yuki  
作品  
Work  
1940  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas  
東京国立近代美術館蔵  
The National Museum of Modern Art, Tokyo

桂 ゆき  
KATSURA Yuki  
[木と電信柱]  
[Tree and Telegraph Pole]  
c.1940s  
油彩、鉛筆/カンヴァス  
Oil, pencil on board  
寄贈 桂 彰成氏  
Gift of Mr. KATSURA Akinari

桂 ゆき  
KATSURA Yuki  
[かまきり]  
[Mantis]  
c.1950s  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 桂 彰成氏  
Gift of Mr. KATSURA Akinari

桂 ゆき  
KATSURA Yuki  
[りんごと蝶]  
[Apple and Butterfly]  
c.1955  
布/厚紙  
Cloth, cardboard  
寄贈 桂 彰成氏  
Gift of Mr. KATSURA Akinari

桂 ゆき  
KATSURA Yuki  
スケッチブック  
Sketchbook  
1926-  
鉛筆、水彩/紙  
Pencil, watercolor on paper  
寄贈 桂 彰成氏  
Gift of Mr. KATSURA Akinari

桂 ゆき  
KATSURA Yuki  
ドローイング  
Drawing  
1930-40s  
インク、墨  
Ink, Chinese Ink

桂 ゆき  
KATSURA Yuki  
ドローイング  
Drawing  
1940s  
鉛筆/紙  
Pencil on Paper

斎藤義重(1904-2001)  
SAITO Yoshishige(1904-2001)  
トロウッド(赤)  
Toro Wood (Red)  
1938(1986再制作)  
ラッカー/木  
Lacquer on wood

オノサト トシノブ(1912-1986)  
ONOSATO Toshinobu  
長崎浦上天主堂  
Nagasaki Urakami Cathedral  
1934  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 福原義春氏  
Gift of Mr. FUKUHARA Yoshiharu

オノサトトシノブ  
ONOSATO Toshinobu  
長崎の並木道  
The Avenue at Nagasaki  
1934  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 福原義春氏  
Gift of Mr. FUKUHARA Yoshiharu

オノサトトシノブ  
ONOSATO Toshinobu  
階段と幕  
Stairs and Curtain  
1935  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 福原義春氏  
Gift of Mr. FUKUHARA Yoshiharu

オノサトトシノブ  
ONOSATO Toshinobu  
一ツの朱の丸(朱の丸)  
One Red Circle  
c.1939  
油彩/板  
Oil on panel  
寄贈 福原義春氏  
Gift of Mr. FUKUHARA Yoshiharu

オノサトトシノブ  
ONOSATO Toshinobu  
オレンジの球円  
Orange Circle  
1940  
油彩/板  
Oil on panel  
寄贈 福原義春氏  
Gift of Mr. FUKUHARA Yoshiharu

鶴岡政男(1907-1979)  
TSURUOKA Masa(1907-1979)  
リズム  
Rhythm  
1935(1954再制作)  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas

吉原治良(1905-1972)  
YOSHIHARA Jiro(1905-1972)  
麦藁帽子と仕事着(A)  
Straw Hat and Working Clothes (A)  
c.1931-33  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas

吉原治良  
YOSHIHARA Jiro  
作品  
Work  
1935  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas

吉原治良  
YOSHIHARA Jiro  
図説  
Illustration  
c.1936-37  
油彩/カンヴァス、板  
Oil on canvas, board

藤牧義夫(1911-1935)  
FUJIMAKI Yoshio(1911-1935)  
二岳画集  
Paintings of Sangaku  
1927  
スクラップブック  
Scrapbook  
寄贈 岡住 清氏  
Gift of Mr. OKAZUMI Kiyoshi  
＊ケース内とモニター展示

藤牧義夫  
FUJIMAKI Yoshio  
隅田川両岸画巻 No.2  
Scenes from the Sumidagawa River No.2  
1934  
墨/紙  
Chinese ink on paper  
寄贈 亀岡周子氏  
Gift of Ms. KAMEOKA Kaneko

藤牧義夫  
FUJIMAKI Yoshio  
隅田川両岸画巻 No.3  
Scenes from the Sumidagawa River No.3  
1934  
墨/紙  
Chinese ink on paper  
寄贈 亀岡周子氏  
Gift of Ms. KAMEOKA Kaneko

藤田嗣治(1886-1968)  
FUJITA Tsuguharu(1886-1968)  
千人針  
Sennenbari (soldier's good-luck belt with a thousand stitches embroidered by a thousand different women)  
1937  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 福富太郎氏・くみ子氏  
Gift of Mr. FUKUTOMI Taro and Ms. FUKUTOMI Kumiko

清水登之(1887-1945)  
SHIMIZU Toshi(1887-1945)  
戦蹟  
Remains of Battle  
1937  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas

向井潤吉(1901-1995)  
MUKAI Junkichi(1901-1995)  
山西省大同府 西門附近  
Ximen, Shanxi Datong Prefecture  
1937  
油彩/板  
Oil on panel  
寄贈 福富太郎氏・くみ子氏  
Gift of Mr. FUKUTOMI Taro and Ms. FUKUTOMI Kumiko

阿部合成(1910-1972)  
ABE Gousei(1910-1972)  
顔  
Face  
1937  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 福富太郎氏・くみ子氏  
Gift of Mr. FUKUTOMI Taro and Ms. FUKUTOMI Kumiko

#### 図書資料

柳瀬正夢 スケッチブック 32 『日本及日本人』の挿絵  
YANASE Masamu, Sketchbook 32 Illustration of "Japan and Japanese"  
c.1921年  
美術図書館 柳瀬文庫

[柳瀬正夢挿絵原画類] 日活向島撮影所の雑誌『向島』第1巻8月号挿絵の原画  
[Original illustrations of YANASE Masamu] Original illustration for the magazine of Nikkatsu Mukojima Studio, "Mukojima", August Issue, Vol.1  
1923年  
美術図書館 柳瀬文庫

[柳瀬正夢装丁図書原画類][3-1] 汚ない殉教者[表紙]  
[Original design sketches of YANASE Masamu][3-1] Dirty martyr [Cover]  
c.1925年  
美術図書館 柳瀬文庫

[柳瀬正夢装丁雑誌原画類][2] 「新天地」7年4号(1927年4月号)  
[Original design sketches of YANASE Masamu][2] "New world", Issue 4 of 1927  
1927年  
美術図書館 柳瀬文庫

[柳瀬正夢装丁図書原画類][12-1] わが批判者の批判[表紙]  
1929年 義文閣刊の同名書籍(ブレハーフ著、外村史郎訳)の表紙原画  
[Original design sketches of YANASE Masamu][12-1] A Critique of Our Critics [Cover] Original illustration for the cover of the PLEKHANOV, Georgi's book (translated by SOTOMURA Shiro)  
c.1929年  
美術図書館 柳瀬文庫

[柳瀬正夢装丁図書原画類][1] 新しい者と古き者  
1930年 鉄塔書院刊の同名書籍(オリヨウシャ著、村田春海訳)の表紙原画  
[Original design sketches of YANASE Masamu][1] "The Old and The New"(ロシア語原典不明)  
Original illustration for the cover of the Olesha's book (translated by MURATA Harumi)  
c.1930年  
美術図書館 柳瀬文庫  
中央公論年報

柳瀬正夢旧蔵書籍  
YANASE Masamu's book collection

ピョートル・クロポトキン  
Kropotkin, Peter  
*Freedom library Modern science and anarchism*  
(『近代科学とアナキズム』英語版)  
Freedom press  
1912年(原著1901年)

パートランド・ラッセル  
Russell, Bertrand  
*Principles of social reconstruction*  
(『社会改造の原理』)  
GEORGE ALLEN & UNWIN, Ltd.  
1916年11月

*Programm der kommunistischen international*  
1928年

カール・マルクス  
高畠素之訳  
Marx, Karl  
Translated by TAKABATAKE Motoyuki  
『資本論』第1巻第2冊  
*Das Kapital: Kritik der politischen Oekonomie*  
改造社  
Kaizo-sha  
1927年12月(原著第1巻1867年)

ウラジーミル・レーニン  
和田哲二訳  
N. Lenin  
Translated by WADA Tetsuji  
『資本主義の最高段階としての帝国主義』(『帝国主義論』)  
*Der Imperialismus als höchstes Stadium des Kapitalismus*  
希望閣  
Kibokaku  
1930年12月(原著1917年)

ヴィルヘルム・ハウゼンシュタイン  
川口浩訳  
Hausenstein, Wilhelm  
Translated by KAWAGUCHI Hiroshi  
『マルクス主義芸術理論叢書』第6『造型藝術社会学』  
*Entwurf einer Soziologie der Kunst*  
藝文閣  
Sobunkaku  
1929年11月

エム・ヤ・ギンズブルグ  
黒田辰男訳  
Ginzburg, Moisei Yakovlevich  
Translated by KURODA Tatsuo  
『マルクス主義芸術理論叢書』第9『様式と時代：構成主義建築論』  
*Стиль и Эпоха. Проблемы современной архитектуры ("Style and Epoch")*  
藝文閣  
Sobunkaku  
1930年1月

ウラジーミル・フリーचे  
蔵原性人訳  
Friche, Vladimir Maksimovich  
Translated by KURAHARA Korehito  
『マルクス主義芸術理論叢書』第11『藝術社会学の方法論』  
*Социология искусства ("Sociology of Art")*  
1930年10月(原著1926年)

ソヴェート文学研究会編  
Soveto Bungaku Kenkyukai ed.  
『マルクス主義芸術入門』『藝術総論』  
*Introduction to Marxism Art "The General Theory on Art"*  
藝文閣  
Sobunkaku  
1930年11月

茂森唯士  
SHIGEMORI Tadashi  
ソヴェート同盟経済建設叢書  
『ソヴェート藝術の全展望』  
*Series of Soviet Union Economic Construction "All Prospects of Soviet Art"*  
春陽堂  
Shunyodo Publishing Co., Ltd.  
1931年5月

プロレタリア科学研究所編  
Proletaria Kagaku Kenkyukai ed.  
『唯物史観序説』  
*Introduction to Historical Materialism*  
プロレタリア科学研究所、鉄塔書院(発売)  
Proletaria Kagaku Kenkyukai, Tetto Shoin (dealer)  
1930年3月

エ・ドレーゼン  
高木弘訳  
Drezen, Ernest  
Translated by TAKAGI Hiroshi  
『エスぺラント運動史』  
*Analiza Historio de Esperanto-movado*  
鉄塔書院  
Tetto Shoin  
1931年9月

仲宗根源和編  
NAKASONE Genwa ed.  
『インタナショナル・リーフレット 4 『無産婦人の解放：国際婦人デー』』  
*International Leaflet 4 "Liberation of the Proletarian Women: International women's day"*  
インタナショナル社  
International-sha  
1923年3月

山川菊榮  
YAMAKAWA Kikue  
現代叢書 2『婦人の勝利』  
*Gendai Sōsho 2 "Victory of Women"*  
日本評論社  
Nihon Hyōron-sha  
1919年6月

中條百合子  
CHUJŌ Yuriko  
『新しきシベリアを横切る』  
*Crossing New Siberia*  
内外社  
Naigai-sha  
1931年2月

横本楠郎  
MAKIMOTO Kusurō  
『プロレタリア童話講話』  
*Lectures on Proletarian Nursery Rhyme*  
紅玉堂書店  
Kōgyokudō Shoten  
1930年6月

George Grosz: *Ecce Homo*  
Malik  
1923年

徳永直  
 表丁：柳瀬正夢  
 TOKUNAGA Sunao  
 Cover Designed by YANASE Masamu  
 日本プロレタリア作家叢書 4 『太陽のない街』  
*Series of Japanese Proletarian Writers 4 "Town without the Sun"*  
 戦旗社  
 Senki-sha  
 1929年12月

『季刊 理論』1 輯  
*The quarterly magazine RIRON, Vol.1*  
 ナウカ社、上田屋書店(発売)  
 Nauka-sha, Uedaya Shoten (dealer)  
 1934年12月

『ナップ』1巻4号  
*NAP (Nipponia Artista Proleta Feberaeio), Issue 4 of Vol. 1*  
 1930年12月

『戦旗：全日本無産者芸術連盟機関誌』2巻4号  
*SENKI (War Flags): National Proletarian Art Federation Newsletter, Issue 4 of Vol. 2*  
 戦旗社  
 Senki-sha  
 1929年4月

『プロレタリア藝術』1巻6号  
*Proletaria Geijutsu (Proletarian Art), Issue 6 of Vol.1*  
 マルクス書房  
 Marx Shobō  
 1927年12月

[矢部友衛関係資料]新ロシア展会場写真  
 [Document on YABE Tomoe] Document photo of Shin Roshiya Ten (New Russia Exhibition)  
 1927年  
 美術図書館

[矢部友衛関係資料](写真2点)  
 [Document on YABE Tomoe] (2 pieces pf photos)  
 1920年代末-30年代初頭  
 美術図書館

[矢部友衛関係資料]プロレタリア美術大展覧会製作方針書  
 日本プロレタリア美術家同盟中央委員会実行委員会  
 [Document on YABE Tomoe]Policy book of The Great Exhibition of Proletarian Art Executive committee of Japan Proletarian Artist Society Central Committee  
 1929年  
 美術図書館 柳瀬文庫

第4回プロレタリア美術大展覧会作品公募 会場 上野自治会館  
 Application for The 4th Great Exhibition of Proletarian Art  
 1931年11月28日-12月19日  
 美術図書館

[柳瀬正夢撮影写真ファイル][1] 満州風物  
 [Archive of YANASE Masamu's photography][1] Scenery of Manchuria  
 1939年  
 美術図書館 柳瀬文庫

柳瀬正夢 スケッチブック 64  
 YANASE Masamu, Sketchbook 64  
 c.1938年  
 美術図書館 柳瀬文庫

柳瀬正夢北支風物油画展目録 会場 亀屋(銀座)  
 Catalog of YANASE Masamu's exhibition on the North-China-themed oil paintings  
 1940年4月12日-15日  
 美術図書館 柳瀬文庫

[柳瀬正夢画北支油絵展]案内状 会場 亀屋(銀座)  
 [YANASE Masamu's exhibition on the North-China-themed oil paintings][Invitation]  
 1940年4月12日-15日  
 美術図書館 柳瀬文庫

芝蘭深林簿 (「柳瀬正夢北支風物油画展」来場者の芳名帳)  
 Guest book for YANASE Masamu's exhibition on the North-China-themed oil paintings  
 1940年  
 美術図書館 柳瀬文庫

柳瀬正夢 スケッチブック 56  
 YANASE Masamu, Sketchbook 56  
 1942年  
 美術図書館 柳瀬文庫

[柳瀬正夢満州旅行関係文書ファイル]旅行日程表  
 [YANASE Masamu's document file of his trip to Manchuria] Itinerary  
 c.1942年  
 美術図書館 柳瀬文庫

[柳瀬正夢満州旅行関係文書ファイル]大連市内地図  
 [YANASE Masamu's document file of his trip to Manchuria]Guide map of Dalian  
 c.1942年  
 美術図書館 柳瀬文庫

柳瀬正夢 スケッチブック64, 78  
 YANASE Masamu, Sketchbook 64, 78  
 1938年頃、1942年  
 美術図書館 柳瀬文庫  
 ＊モニター 展示

#### 4章 戦中と戦後

中澤弘光(1874-1964)  
 NAKAZAWA Hiromitsu(1874-1964)  
 鷺の森  
 Cormorant's Forest  
 1940  
 油彩/カンヴァス  
 Oil on canvas

織田一麿(1882-1956)  
 ODA Kazuma(1882-1956)  
 警戒管制の街  
 City under Warning Control of Lights  
 1944  
 リトグラフ  
 Lithograph  
 寄贈 福富太郎氏・くみ子氏  
 Gift of Mr. FUKUTOMI Taro and Ms. FUKUTOMI Kumiko

鶴田吾郎(1890-1969)  
 TSURUTA Goro(1890-1969)  
 戦時下の鉄工所  
 Steel Mill during Wartime  
 n.d.  
 コンテ/紙  
 Conté on paper  
 寄贈 福富太郎氏・くみ子氏  
 Gift of Mr. FUKUTOMI Taro and Ms. FUKUTOMI Kumiko

梅原龍三郎(1888-1986)  
 UMEHARA Ryuzaburo(1888-1986)  
 姑娘紅樓  
 Chinese Hostess  
 1941  
 油彩/カンヴァス  
 Oil on canvas  
 寄贈 武者小路家  
 Gift of MUSHAKOJI Family

北川民次(1894-1989)  
 KITAGAWA Tamiji(1894-1989)  
 農漁の図  
 Farming and Fishing  
 1943  
 油彩/紙、板  
 Oil on paper, board

中原 實(1893-1990)  
 NAKAHARA Minoru(1893-1990)  
 自然の中性  
 Hermaphrodite of Nature  
 1947  
 油彩/カンヴァス  
 Oil on canvas  
 寄贈 中原 泉氏  
 Gift of Mr. NAKAHARA Sen

中原 實  
 NAKAHARA Minoru  
 杉の子  
 Baby Cedar  
 1947  
 油彩/カンヴァス  
 Oil on canvas  
 寄贈 中原 泉氏  
 Gift of Mr. NAKAHARA Sen

中原 實  
 NAKAHARA Minoru  
 兜の昇天  
 Ascension of Casque  
 1948  
 油彩/カンヴァス  
 Oil on canvas  
 寄贈 中原 泉氏  
 Gift of Mr. NAKAHARA Sen

中原 實  
 NAKAHARA Minoru  
 多感  
 Sensitivity  
 1949  
 油彩/カンヴァス  
 Oil on canvas  
 寄贈 中原 泉氏  
 Gift of Mr. NAKAHARA Sen

中原 實  
 NAKAHARA Minoru  
 丘  
 Hill  
 1949  
 油彩/カンヴァス  
 Oil on canvas  
 寄贈 中原 泉氏  
 Gift of Mr. NAKAHARA Sen

寺田政明(1912-1989)  
 TERADA Masaaki(1912-1989)  
 夜の花  
 Flowers of the Night  
 1942  
 油彩/カンヴァス  
 Oil on canvas

松本竣介(1912-1948)  
 MATSUMOTO Shunsuke(1912-1948)  
 男の顔  
 Head of a Man  
 1943  
 鉛筆/紙  
 Pencil on Paper

松本竣介  
 MATSUMOTO Shunsuke  
 自画像  
 Self-Portrait  
 1945  
 鉛筆/紙  
 Pencil on Paper  
 寄贈 石井善八郎氏  
 Gift of Mr. ISHII Zenpachiro

松本竣介  
 MATSUMOTO Shunsuke  
 自画像  
 Self-Portrait  
 1945  
 鉛筆/紙  
 Pencil on Paper  
 寄贈 石井善八郎氏  
 Gift of Mr. ISHII Zenpachiro

松本竣介  
 MATSUMOTO Shunsuke  
 自画像  
 Self-Portrait  
 1945  
 鉛筆/紙  
 Pencil on Paper  
 寄贈 石井善八郎氏  
 Gift of Mr. ISHII Zenpachiro

鏡光(1907-1946)  
 Ai-Mitsu(1907-1946)  
 静物(雉)  
 Still Life (Pheasant)  
 1941  
 油彩/カンヴァス  
 Oil on canvas

浜田知明(1917-2018)  
 HAMADA Chimei  
 聖馬  
 Sacred Horse  
 1950  
 エッチング  
 Etching

浜田知明  
 HAMADA Chimei  
 Marikoに  
 To Mariko  
 1950  
 エッチング、アクアチント  
 Etching, aquatint

浜田知明  
 HAMADA Chimei  
 幼きキリスト  
 Infant Christ  
 1951  
 エッチング  
 Etching

浜田知明  
 HAMADA Chimei  
 初年兵装歌(銃架のかげ)  
 Elegy of a New Conscript (Arm Rack Shadows)  
 1951  
 エッチング、アクアチント  
 Etching, aquatint

浜田知明  
 HAMADA Chimei  
 初年兵装歌(くじやくとした太陽がのぼる)  
 Elegy of a New Conscript (A Limp Sun Rises)  
 1952  
 エッチング  
 Etching

加藤太郎(1915-1945)  
 KATO Taro(1915-1945)  
 縄ない機  
 Rope Twister  
 c.1944  
 インク/紙  
 Ink on paper

加藤太郎  
 KATO Taro  
 万物迎春(賀状)  
 Everything Denotes Spring(New Year's Card)  
 1945  
 木版  
 Woodcut

加藤太郎  
 KATO Taro  
 JEU D'OBJET 1 鍵  
 JEU D'OBJET 1 Keys  
 1945  
 木版  
 Woodcut

加藤太郎  
KATO Taro  
JEU D'OBJET 2 欲望  
JEU D'OBJET 2 Desire  
1945  
木版  
Woodcut

杉全 直(1914-1994)  
SUGIMATA Tadashi(1914-1994)  
涸れた泉(老婆・若・老爺)  
Dried Up Spring (Old Woman, Rock, Old Man)  
1946  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas

鶴岡政男(1907-1979)  
TSURUOKA Masa(1907-1979)  
重い手  
Heavy Hand  
1949  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas

阿部展也(1913-1971)  
ABE Nobuy(1913-1971)  
神話 A  
Myth A  
1951  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas

岡本太郎(1911-1996)  
OKAMOTO Taro(1911-1996)  
憂愁  
Gloom  
1947  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas  
寄託 一般財団法人草月会  
Deposit of Sogetsukai

駒井哲郎(1920-1976)  
KOMAI Tetsuro(1920-1976)  
肖像 (Portrait de Gilles de Rais)  
Portrait of Gilles de Rais  
1948  
メソチント、ソフトグラウンド・エッチング  
Mezzotint, soft-ground extching

駒井哲郎  
KOMAI Tetsuro  
孤独な鳥  
Lonely Bird  
1948  
メソチント、ソフトグラウンド・エッチング  
Mezzotint, soft-ground extching

駒井哲郎  
KOMAI Tetsuro  
ラーマヤナ  
Ramayana  
c.1948  
木版/紙  
Woodcut

駒井哲郎  
KOMAI Tetsuro  
夢の始まり  
Beginning of the Dream  
1949  
アquareチント、ドライポイント  
Aquatint, drypoint

駒井哲郎  
KOMAI Tetsuro  
束の間の幻影  
Fugitive Vision  
1951  
アquareチント  
Aquatint

牧野虎雄(1890-1946)  
MAKINO Torao  
枇杷  
Loquats  
c.1942  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas

牧野虎雄  
MAKINO Torao  
朝顔  
Morning Glories  
c.1945  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas

顰囀(1931-)  
Ay-O  
田園  
Pastoral  
1956  
油彩/合板  
Oil on panel

中村 宏(1932-)  
NAKAMURA Hiroshi  
砂川五番  
5th Sunagawa  
1955  
油彩/合板  
Oil on panel

池田満寿夫(1934-1997)  
IKEDA Masuo  
作品  
Vork  
1955  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 作家  
Gift of The Artist

瑛九  
Ei-Q  
カオス  
Chaos  
1957  
油彩/合板  
Oil on panel

池田龍雄(1928-)  
IKEDA Tatsuo(1928-)  
網元(内灘連作の内)  
The Owner of the Fishing Fleet (from the series  
"Uchinada")  
1953  
インク/紙  
Ink on paper

池田龍雄  
IKEDA Tatsuo  
10000 カウント  
Count 10000  
1954  
インク/紙  
Ink on paper

石井茂雄(1933-1962)  
ISHII Shigeo(1933-1962)  
不安な都市(煙突と鉄骨)  
City of Unease (Smoke Stacks and Steel Frames)  
n.d.  
インク、鉛筆、墨/紙  
Ink, pencil, Chinese ink on paper  
寄贈 石井陽一氏  
Gift of Mr. ISHII Yoichi

石井茂雄  
ISHII Shigeo  
戒厳状態シリーズ(L'Etat de Siège)  
L'Etat de Siège, Under Martial Law series  
c.1952  
インク、鉛筆/紙  
Ink, pencil on paper  
寄贈 石井陽一氏  
Gift of Mr. ISHII Yoichi

朝倉 撰(1922-2014)  
ASAKURA Setsu(1922-2014)  
[題不詳]  
[Title Unknown]  
n.d.  
顔料/カンヴァス  
Pigment on canvas  
寄贈 伊藤亜古氏  
Gift of Ms. ITO Ako

朝倉 撰  
ASAKURA Setsu  
働く人  
Labors  
1952  
顔料/紙  
Color on paper  
山口県立美術館蔵  
Yamaguchi Prefectural Art Museum

朝倉 撰  
ASAKURA Setsu  
群れ  
Pack  
1954  
顔料/カンヴァス  
Pigment on canvas  
寄贈 伊藤亜古氏  
Gift of Ms. ITO Ako

朝倉 撰  
ASAKURA Setsu  
日本1958-2  
Japan 1958-2  
1958  
紙本彩色、屏風 六曲一隻  
Color on paper, six-fold screen  
山口県立美術館蔵  
Yamaguchi Prefectural Art Museum

朝倉 撰  
ASAKURA Setsu  
黒人歌手ポール・ロブソン  
Paul Robeson, Black Singer  
1959  
紙本彩色 屏風 四曲一隻  
Color on paper, four-fold screen  
東京国立近代美術館蔵  
National Museum of Modern Art, Tokyo

朝倉 撰  
ASAKURA Setsu  
1963  
1963  
水性絵具、顔料/合板  
Pigment on panel  
寄贈 伊藤亜古氏  
Gift of Ms. ITO Ako

朝倉 撰  
ASAKURA Setsu  
神話の廃墟(1)  
Ruins of Mythology (1)  
1964  
水性絵具、顔料/合板  
Pigment on panel  
寄贈 伊藤亜古氏  
Gift of Ms. ITO Ako

朝倉 撰  
ASAKURA Setsu  
[佐藤忠良]  
SATO Churyo  
c. 1951  
鉛筆/紙  
Pencil on Paper  
寄贈 伊藤亜古氏  
Gift of Ms. ITO Ako

朝倉 撰  
ASAKURA Setsu  
[《日本1958-2》のためのデッサン]  
Drawing for "Japan 1958-2"  
1958  
鉛筆/紙  
Pencil on Paper  
寄贈 伊藤 亜古氏  
Gift of Ms. ITO Ako

朝倉 撰  
ASAKURA Setsu  
[《群れ》制作時の写真]  
Photograph of working on "Pack"  
1954  
写真  
Photograph

朝倉 撰  
ASAKURA Setsu  
[版画下絵]  
Preparatory Drawing for a Print  
c.1963  
インク/紙  
Ink on paper  
寄贈 伊藤 亜古氏  
Gift of Ms. ITO Ako

朝倉 撰  
ASAKURA Setsu  
舞台「シラノ・ド・ベルジュラック」第6幕道具帳  
Stage set for "Cyrano de Bergerac"  
1967  
水彩、インク/紙  
Watercolor and ink on paper  
寄贈 伊藤 亜古氏  
Gift of Ms. ITO Ako

朝倉 撰  
ASAKURA Setsu  
舞台「メテオール」イメージドローイング  
Image Drawing for "Meteor"  
1970  
水彩/紙  
Watercolor on paper  
寄贈 伊藤 亜古氏  
Gift of Ms. ITO Ako

朝倉 撰  
ASAKURA Setsu  
舞台「メテオール」イメージドローイング  
Image Drawing for "Meteor"  
1970  
水彩/紙  
Watercolor on paper  
寄贈 伊藤 亜古氏  
Gift of Ms. ITO Ako

朝倉 撰  
ASAKURA Setsu  
246  
舞台「メテオール」平面図  
Plan for "Meteor"  
1970  
コピー  
Photocopy  
寄贈 伊藤 亜古氏  
Gift of Ms. ITO Ako

朝倉 撰  
ASAKURA Setsu  
[朝倉撰関連資料 スケッチブック]  
[Documents related to Setsu Asakura: Sketch Book]  
1946-50  
鉛筆、水彩等/紙  
Pencil, watercolor on paper  
寄贈 伊藤亜古氏  
Gift of Ms. ITO Ako  
\*モニター展示

桂 ゆき(1913-1991)  
KATSURA Yuki(1913-1991)  
抵抗  
Resistance  
1952  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas

桂 ゆき  
KATSURA Yuki  
《婦人の日》のための習作  
Study for "A Woman's Day"  
1953  
鉛筆、パステル、水彩/紙  
Pencil, pastel, watercolor on paper  
寄贈 桂 彰成氏  
Gift of Mr. KATSURA Akinari

桂 ゆき  
KATSURA Yuki  
[顔面取手]スケッチ  
Sketch of "the face-shaped handle"  
1954  
鉛筆/紙  
Pencil on paper

桂 ゆき  
KATSURA Yuki  
[「しよせん蛙の目玉に水、虎の威をかりた狐」挿画原画  
『美術手帖』1955年8月号  
Illustration for "Like water off a duck's back, Ass in a  
Lion's Skin"  
1958  
墨、インク/紙  
Chinese ink on paper

桂 ゆき  
KATSURA Yuki  
人と魚  
Man and Fish  
1954  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas  
愛知県美術館蔵  
Aichi Prefectural Musum of Art

桂 ゆき  
KATSURA Yuki  
虎の威を借りた狐  
Ass in a Lion's Skin  
1955  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas  
山口県立美術館蔵  
Yamaguchi Prefectural Art Museum

桂 ゆき  
KATSURA Yuki  
[いのしし]  
[Wild Boar]  
c.1964  
油彩、紙／カンヴァス  
Oil, paper on canvas  
寄贈 桂 彰成氏  
Gift of Mr. KATSURA Akinari

桂 ゆき  
KATSURA Yuki  
[無題]  
[Untitled]  
1960s  
コラグラフ／紙  
Collagraph on paper  
寄贈 桂 彰成氏  
Gift of Mr. KATSURA Akinari

桂 ゆき  
KATSURA Yuki  
[無題]  
[Untitled]  
1970-80s  
インク／紙  
Ink on paper  
寄贈 桂 彰成氏  
Gift of Mr. KATSURA Akinari

桂 ゆき  
KATSURA Yuki  
ジューズ・ボールドウィン著『もう一つの国』挿画原画  
『朝日ジャーナル』1963年12月8日号、1964年2月23日号  
Illustration for James Baldwin "Another Country" (Asahi  
Journal, December 8th 1963 and February 23th 1964)  
1963-64  
インク／紙  
Ink on paper  
寄贈 桂 彰成氏  
Gift of Mr. KATSURA Akinari

桂 ゆき  
KATSURA Yuki  
馬  
Horse  
1968  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas

桂 ゆき  
KATSURA Yuki  
赤と白  
Red and White  
c.1978  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 桂 彰成氏  
Gift of Mr. KATSURA Akinari

桂 ゆき  
KATSURA Yuki  
作品  
Work  
1978-79  
コルク、油彩／板  
Cork, oil on board  
寄贈 桂 彰成氏  
Gift of Mr. KATSURA Akinari

桂 ゆき  
KATSURA Yuki  
アダムとイブ  
Adam and Eve  
1983  
油彩、紙／板  
Oil, paper on panel  
寄贈 桂 彰成氏  
Gift of Mr. KATSURA Akinari

桂 ゆき  
KATSURA Yuki  
宇宙  
Universe  
1991  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 桂 彰成氏  
Gift of Mr. KATSURA Akinari

利根山光人(1921-1994)  
TONEYAMA Kojin(1921-1994)  
いけにえ(ダムシリーズ)  
Sacrifice from "Dam" series  
1956  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas

小山田二郎(1915-1991)  
OYAMADA Jiro(1915-1991)  
鳥女  
Bird Woman  
1961  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas

漆原英子(1928-2002)  
URUSHIBARA Hideko(1928-2002)  
Eidolon  
Eidolon  
1956  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas

福沢一郎(1898-1992)  
FUKUZAWA Ichiro(1898-1992)  
メキシコの男  
Man of Mexico  
1954  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas

## 5章 アンフォルメルとの距離

堂本尚郎(1928-2013)  
DOMOTO Hisao  
Turbulence  
Turbulence  
1958  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas

大野徹高(1922-2002)  
ONO Hidetaka  
黒と金のコラージュ  
Collage of Black and Gold  
1958  
顔料、麻布／カンヴァス  
Pigment, linen on canvas

元永定正(1922-2011)  
MOTONAGA Sadamasa(1922-2011)  
作品  
Work  
1962  
エナメル／カンヴァス  
Enamel on canvas

金山明(1924-2006)  
KANAYAMA Akira  
作品  
Work  
1958  
ビニール塗料／ビニール  
Synthetic polymer paint on vinyl  
寄贈 作家  
Gift of The Artist

田中敦子(1932-2005)  
TANAKA Atsuko  
作品(たが)  
Work(Hoops)  
1963  
ビニール塗料／カンヴァス  
Synthetic polymer paint on canvas

吉原治良(1905-1972)  
YOSHIHARA Jiro  
作品  
Work  
1962  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas

白髪一雄(1924-2008)  
SHIRAGA Kazuo  
式(天巧星浪子)  
The Second (Tenkosei-Roshi: a Hero of a Chinese  
Romance)  
1962  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas

今井俊満(1928-2002)  
IMAI Toshimitsu  
鯉のぼり  
The Carp Streamer  
1962  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas

ジョルジュ・マチウ(1921-2012)  
無題  
Untitled  
1957  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas  
寄託 一般財団法人草月会  
Deposit of Sogetsu Foundation

三上 誠(1919-1972)  
MIKAMI Makoto(1919-1972)  
ウルカの星  
The Star of Vulcan  
1959  
顔料、紐、木片／紙  
Pigment, strings, wood on paper

福島秀子(1927-1997)  
FUKUSHIMA Hideko(1927-1997)  
作品  
Work  
1958  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas  
宮脇愛子(1929-2014)  
MIYAWAKI Aiko(1929-2014)  
WORK  
WORK  
1959  
油彩、大理石粉／パネル  
Oil and marble powder on panel  
寄贈 作家  
Gift of The Artist

工藤哲巳(1935-1990)  
KUDO Tetsumi(1935-1990)  
平面循環体における融合反応  
Confluent Reaction in Plane Circulation Substance  
1958-59  
彩色した紐、鉄、ビニールチューブ、木綿手袋、エナメル塗、  
シュロナフ(黒)  
Painted rope, iron, vinyl tube, cotton gloves, enamel paint,  
hemp-palm rope(black)

工藤哲巳  
KUDO Tetsumi  
X型基本体における増殖連鎖反応  
Proliferous Chain Reaction in X-style Basic Substance  
1960  
紐、鉄、ビニールチューブ、タワシ  
Rope, iron, vinyl tube, scrubbing brush

荒川修作(1936-2010)  
ARAKAWA Shusaku  
作品  
Work  
1960  
セメント、布、木箱  
Cement, cloth, wood box

中西夏之(1935-2016)  
NAKANISHI Natsuyuki(1935-2016)  
韻  
Rhythm  
1959  
ラッカー、エナメル、砂／合板  
Lacquer, enamel, sand on panel

中西夏之  
NAKANISHI Natsuyuki  
韻  
Rhythm  
1959  
ラッカー、エナメル、砂／合板  
Lacquer, enamel, sand on panel

中西夏之  
NAKANISHI Natsuyuki  
洗濯バサミは攪拌行動を主張する  
Clothespins Assert Churning Action  
1963  
紐、洗濯バサミ／カンヴァス  
Strings, clothespins on canvas

## 6章 光を捉える

山口勝弘(1928-2018)  
YAMAGUCHI Katsuhiko(1928-2018)  
ヴィトリヌ 空虚な眼  
Vitrine - Vacant Eye  
1952  
水彩／紙、油彩／合板、モールガラス  
Watercolor on paper, oil on wood, corrugated glass

山口勝弘  
YAMAGUCHI Katsuhiko  
ヴィトリヌ 夜の進行  
Vitrine - Deep into the Night  
1954  
水彩／紙、油彩／合板、モールガラス  
Watercolor on paper, oil on wood, corrugated glass

山口勝弘  
YAMAGUCHI Katsuhiko  
Cの關係  
Relation of C  
1965  
アクリル、鉄、蛍光管  
Acrylic, iron, fluorescent light

北代省三(1904-2001)  
KITADAI Shozo  
回転する面による構成  
Composition of Rotary Planes  
1951  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 作家  
Gift of The Artist

北代省三  
KITADAI Shozo  
楽園喪失(回転する面による構成)  
Paradise Lost (Composition of Rotary Planes)  
c.1952-53  
油彩／合板、厚紙  
Oil on panel, cardboard

福島秀子(1927-1997) 福島和夫(1930-)  
FUKUSHIMA Hideko(1927-1997) / FUKUSHIMA  
Kazuo(1930-)  
水泡(みなわ)は創られる  
Foam is Created  
1953/1986  
オートスライド(DVD変換)、66スライド  
寄贈 山口勝弘氏  
Gift of Mr. YAMAGUCHI Katsuhiko

杉浦康平(1932-)  
SUGIURA Kohei  
「蛍光の菊」展ポスター  
Poster for FLUORESCENT CHRYSANTHEMUM  
1969  
シルクスクリーン  
Silkscreen  
寄贈 西山輝夫氏  
Gift of Mr. NISHIYAMA Teruo

山口勝弘(構成) 大辻清司(撮影)  
YAMAGUCHI Katsuhiko (composition) / OTSUJI Kiyoji  
(photo)  
「APN」  
APN (Asahi Photo News)  
1953-54/2002  
ゼラチン・シルバー・プリント  
Gelatin silver print

北代省三(構成) 大辻清司(撮影)  
KITADAI Shozo (composition) / OTSUJI Kiyoji (photo)  
「APN」  
APN (Asahi Photo News)  
1953-54/2003  
ゼラチン・シルバー・プリント  
Gelatin silver print

斎藤義重(1904-2001)(構成) 大辻清司(撮影)  
SAITO Yoshishige (composition) / OTSUJI Kiyoji (photo)  
「APN」のための構成  
Mixed-media photo composition for "APN"  
1953/1996  
ゼラチン・シルバー・プリント  
Gelatin silver print

勅使河原蒼風(1900-1979)(構成) 大辻清司(撮影)  
TESHIGAHARA Sofu (composition) / OTSUJI Kiyoji  
(photo)  
「APN」のための構成  
Mixed-media photo composition for "APN"  
1953/1980s  
ゼラチン・シルバー・プリント  
Gelatin silver print

長谷川三郎(1906-1957)(構成) 大辻清司(撮影)  
HASEGAWA Saburo (composition) / OTSUJI Kiyoji  
(photo)  
「APN」のための構成  
Mixed-media photo composition for "APN"  
1953/1980s  
ゼラチン・シルバー・プリント  
Gelatin silver print

多田美波(1924-2014)  
TADA Minami  
変電所  
Transformer Substation  
1956  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas  
蕪崎大村美術館蔵  
Nirasaki Omura Art Museum

多田美波  
TADA Minami  
周波数 37306505  
Frequency 37306505  
1965  
アクリル樹脂、アルミニウム蒸着メッキ、鋼鉄  
Acrylic, vaporific coating aluminum and steel  
寄贈 作家  
Gift of The Artist

多田美波  
TADA Minami  
周波数 37306776MC  
Frequency 37306776MC  
1966  
アクリル樹脂、アルミニウム蒸着メッキ、鋼鉄  
Acrylic, vaporific coating aluminum and steel  
多田美波研究所蔵  
Minami Tada Associates

多田美波  
TADA Minami  
Phase Space 6943-1  
Phase Space 6943-1  
1969  
アクリル樹脂、アルミニウム蒸着メッキ、鋼鉄、モーター  
Acrylic, vaporific coating aluminum, steel and motor  
多田美波研究所蔵  
Minami Tada Associates

## 7章 イメージを編む

アンディ・ウォーホル(1928-1987)  
WARHOL, Andy(1928-1987)  
マリリン・モンロー  
Marilyn Monroe  
1967  
シルクスクリーン  
Silkscreen

柏原えつとむ(1941-)  
KASHIHARA Etsutomu(1941-)  
方法のモンロー  
My Methods Inspired by Marilyn  
1972-75  
ミクストメディア/紙  
Mixed Media on paper

横尾忠則(1936-)  
YOKOO Tadanori(1936-)  
A LA MAISON DE M.CIVEÇAWA  
A LA MAISON DE M.CIVEÇAWA  
1965  
シルクスクリーン(ポスター)  
Silkscreen (poster)

横尾忠則  
YOKOO Tadanori  
切断された小指に捧げるバラード  
Ballad for the Cut-Off Little Finger  
1966  
シルクスクリーン(ポスター)  
Silkscreen (poster)

横尾忠則  
YOKOO Tadanori  
腰巻お仙  
KOSHIMAKI-OSEN  
1966  
シルクスクリーン(ポスター)  
Silkscreen (poster)

横尾忠則  
YOKOO Tadanori  
新宿泥棒日記 創造社  
Diary of a Shinjuku Burglar, Sozosha  
1968  
シルクスクリーン(ポスター)  
Silkscreen (poster)  
寄託 作家  
Deposit of The Artist

横尾忠則  
YOKOO Tadanori  
由比正雪 劇団状況劇場  
YUHI Shosetsu, Gekidan Jokyo Gekijo  
1968  
シルクスクリーン(ポスター)  
Silkscreen (poster)  
寄託 作家  
Deposit of The Artist

草間彌生(1929-)  
KUSAMA Yayoi(1929-)  
戦争 戦争の津波 無名戦士の墓  
War/Tidal Waves of War/Graves of the Unknown Soldiers  
1977  
水彩、パステル、コラージュ/紙  
Watercolor, pastel, collage on paper

篠原有司男(1932-)  
SHINOHARA Ushio(1932-)  
思考するマルセル・デュシャン  
Marcel Duchamp Thinking  
1963  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas

篠原有司男(1933-)  
SHINOHARA Ushio  
題不詳(花魁シリーズ)  
Title Unknown (Oiran series)  
c. 1966  
蛍光塗料、ラッカー、アクリル板/カンヴァス  
Fluorescent paint, lacquer paint, and acrylic sheet on canvas  
寄贈 株式会社海老忠会館 小園仁氏  
Gift of Mr. OGUNI Hitoshi, Ebichu Kaikan

立石敏一(1941-1998)  
TATEISHI Koichi(1941-1998)  
308  
アラモのスフィンクス  
The Alamo Sphinx  
1966  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas

## 8章 言葉と物による再編

河原 温  
KAWARA On  
APR.8, 1981 シリーズ「今日」(1966-2013)より  
APR.8, 1981, from "Today" series (1966-2013)  
1981  
アクリル/カンヴァス  
Acrylic on canvas

オノ・ヨーコ(1933-)  
ONO Yoko(1933-)  
インストラクション・ペインティング  
Instruction Painting  
アクリル/カンヴァス  
Acrylic on canvas  
317

YES  
YES  
1952/2015

TOUCH  
TOUCH  
1962/2015

IMAGINE  
IMAGINE  
1962/2015

FLY  
FLY  
1963/2015

OPEN  
OPEN  
1964/2015

WATER  
WATER  
1964/2015

BREATHE  
BREATHE  
1966/2015

FORGET  
FORGET  
1999/2015

オノ・ヨーコ  
ONO Yoko  
『近代(屁)美術館』図録  
Catalog of Museum of Modern (Flart)  
1971  
オフセット印刷  
Offset  
美術図書室  
寄贈 西山輝夫氏  
Gift of Mr. NISHIYAMA Teruo

観輻(1931-)  
Ay-O(1931-)  
アニメイテッド・レインボー  
Animated Rainbow  
1965  
シルクスクリーン  
Silkscreen  
寄贈 作家  
Gift of the artist

Guess Who?  
Guess Who?

Where will you be when summer comes?  
Where will you be when summer comes?

Fixed!  
Fixed!

Open 'em up and say . . . A  
Open 'em up and say . . . A

Open 'em up and say . . . B  
Open 'em up and say . . . B

Looking Ahead?  
Looking Ahead?

Help!  
Help!

Today Yesterday  
Today Yesterday

Only 1\$  
Only 1\$

No  
No

Yes  
Yes

秋山祐徳太子(1935-)  
AKIYAMA Yutokutaishi(1935-)  
[東京都知事選立候補ポスター](1975年)  
Poster for Tokyo Gubernatorial Race  
1975  
ポスター  
Poster  
寄贈 作家  
Gift of the artist

秋山祐徳太子  
AKIYAMA Yutokutaishi  
東京都知事選 1979年(撮影:渡辺克己)  
Tokyo Gubernatorial Election 1979 (Photograph:  
WATANABE Katsumi)  
1979  
写真  
Photograph  
寄贈 作家  
Gift of the artist

高松次郎(1936-1998)  
TAKAMATSU Jiro(1936-1998)  
THE STORY  
THE STORY  
1972  
コピー  
Photocopy

中林忠良(1937-)  
NAKABAYASHI Tadayoshi(1937-)  
Transposition—転位—III 腐蝕過程  
Transposition III  
1983  
エッチング、アクアチント、腐蝕液・塩化第二鉄、液温24℃による2時間ごとの腐蝕過程刷  
Etching, aquatint of corroded copperplate, printed every 2 hours (FeCl3, 28Bé, 24°C)

中林忠良  
NAKABAYASHI Tadayoshi  
Transposition - 転位 - III 腐蝕過程  
Nov 12, 1983 17.45h FeCl3 28Bé 24°C 腐蝕36時間目・版  
Transposition III, Process of Corrosion : Copperplate after  
36 hous corrosion (FeCl3, 28Bé, 24°C), 17.45h, Nov 12,  
1983  
1983  
腐蝕液・塩化第二鉄、液温24°Cによる2時間ごとの腐蝕過程  
を刷ったのちの残存した版  
Copperplate after 36 hous corrosion (FeCl3, 28Bé, 24°C)

野田哲也  
NODA Tetsuya  
日記 1972年5月31日 (b)  
Diary: May 31st '72 (b)  
1972  
リト・オフセット、シルクスクリーン／アルミニウム板  
Litho-offset, silkscreen on aluminum plate

菅 木志雄(1944-)  
SUGA Kishio(1944-)  
無為状況  
Inactive Environment  
1970/2012  
発色現象方式印画  
Chromogenic print

菅 木志雄  
SUGA Kishio  
無変律  
Law of Immutability  
1974/2015  
発色現象方式印画  
Chromogenic print

菅 木志雄  
SUGA Kishio  
留地  
Fastened Earth  
1975/2015  
発色現象方式印画  
Chromogenic print

三島喜美代(1932-)  
MISHIMA Kimiyo(1932-)  
Package 82-A  
Package 82-A  
1982  
陶土  
Porcelain clay

田中千鶴子(1946-)  
TANAKA Chizuko(1946-)  
卵(作品A, B)  
Eggs (Work A, B)  
1977  
ブロンズ、ガラス、鉄、アルミニウム  
Bronze, glass, iron, aluminum

## 9章 地域資源の視覚化

中野 淳(1925-2017)  
NAKANO Jun (1925-2017)  
滅びゆく風景(木場)  
Vanishing Scene (Kiba)  
1976  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 中野蓉子氏  
Gift of Ms. NAKANO Yoko

磯辺行久(1935-)  
ISOBE Yukihisa(1935-)  
無題  
Untitled  
1958  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas

磯辺行久  
ISOBE Yukihisa  
全国共済農業協同組合連合会ビル壁画  
Wall Construction of Zenkyoren Building  
1963  
ミクストメディア／布、板  
Mixed media on cloth, board  
寄贈 作家  
Gift of the artist

磯辺行久  
ISOBE Yukihisa  
Work '64-50 風神・雷神  
Work '64-50: Wind and Thunder Gods  
1964  
ミクストメディア  
Mixed media

磯辺行久  
ISOBE Yukihisa  
不確かな風向き一箱  
Wind Direction Undefinable - Box  
1997  
布、箱、風向計  
Cloth, box, weather vane  
寄贈 作家  
Gift of the artist

磯辺行久  
ISOBE Yukihisa  
脆弱な地域 イル・ド・フランス  
Vulnerable Region Île-de-France  
1997-98  
ミクストメディア／フランス国土地理院 1/25000地形図  
Mixed media on map

磯辺行久  
ISOBE Yukihisa  
《天空に浮かぶ信濃川の航跡》のためのドローイング  
Drawing for Shinano River once flowed 25 meters above  
where it presently flows  
c.2001-02  
ペン、鉛筆／紙  
Pen, pencil on paper  
寄託 作家  
Deposit of The Artist

磯辺行久  
ISOBE Yukihisa  
《東京ゼロメートル》のためのドローイング  
Drawing for The Tokyo "Land at Sea Level Zone"  
2005  
色鉛筆、ペン／紙  
Color pencil, pen on paper  
寄託 作家  
Deposit of The Artist

磯辺行久  
ISOBE Yukihisa  
東京ゼロメートル  
The Tokyo "Land at Sea Level Zone"  
2007  
透明シート、太陽光発電防災スピーカー／東京都現代美術館  
西側ガラス壁、サンクン・ガーデン  
Transparent sheet printed characters and photovoltaic  
public address system for disaster prevention on windows  
and sunken garden at MOT  
\*モニター展示

## 10章 複合空間のあらわれ

斎藤義重(1904-2001)  
SAITO Yoshishige(1904-2001)  
反比例 2  
Disproportion 2  
1980  
ラッカー、木  
Lacquer on wood

川俣 正(1953-)  
KAWAMATA Tadashi(1953-)  
トロント・プロジェクト1989 / コロニアル・タヴァーン・パーク  
Tronto Project 1989/Colonial Tavern Park  
1991  
マquette、カラー写真、モノクロ写真4点、素描4点、ビデオ  
Maquette, color photograph, 4 black and white  
photographs, 4 drawings, video

白川昌生(1948-)  
SHIRAKAWA Yoshio(1948-)  
赤-彫刻  
RED-SCULPTURE  
1982  
オイルパステル、鉛筆／紙  
Oil pastel, pencil on paper

白川昌生  
SHIRAKAWA Yoshio  
赤-彫刻  
RED-SCULPTURE  
1983  
オイルパステル、鉛筆／紙  
Oil pastel, pencil on paper

白川昌生  
SHIRAKAWA Yoshio  
赤-彫刻  
RED-SCULPTURE  
1984-87  
オイルパステル、鉛筆／紙  
Oil pastel, pencil on paper

白川昌生  
SHIRAKAWA Yoshio  
赤-彫刻  
RED-SCULPTURE  
1985  
オイルパステル、鉛筆／紙  
Oil pastel, pencil on paper

白川昌生  
SHIRAKAWA Yoshio  
赤-彫刻  
RED-SCULPTURE  
1985  
オイルパステル、鉛筆／紙  
Oil pastel, pencil on paper

岡崎乾二郎(1955-)  
OKAZAKI Kenjiro(1955-)  
3時15分  
Three o'clock fifteen minutes  
1983  
アクリル、顔料、紙、ポリプロピレン、その他  
Acrylic, pigment, paper, polypropylene, others

岡崎乾二郎  
OKAZAKI Kenjiro  
17時27分  
Seventeen o'clock twenty-seven minutes  
1987  
ポリプロピレン、紙  
Polypropylene, paper

## 11章 日本と普遍

杉本博司(1948-)  
SUGIMOTO Hiroshi(1948-)  
Polar Bear  
Polar Bear  
1976  
ゼラチン・シルバー・プリント  
Gelatin silver print

杉本博司  
SUGIMOTO Hiroshi  
Hyena-Jackal-Vulture  
Hyena-Jackal-Vulture  
1976  
ゼラチン・シルバー・プリント  
Gelatin silver print

杉本博司  
SUGIMOTO Hiroshi  
Akron Civic, Ohio  
Akron Civic, Ohio  
1980  
ゼラチン・シルバー・プリント  
Gelatin silver print

杉本博司  
SUGIMOTO Hiroshi  
Goshen, Indiana  
Goshen, Indiana  
1980  
ゼラチン・シルバー・プリント  
Gelatin silver print

杉本博司  
SUGIMOTO Hiroshi  
Metropolitan Orpheum, Los Angeles  
Metropolitan Orpheum, Los Angeles  
1993  
ゼラチン・シルバー・プリント  
Gelatin silver print

舟越 桂(1951-)  
FUNAKOSHI Katsura(1951-)  
遅い振り子  
Slow Pendulum  
1992  
彩色した木、大理石、鉄  
Painted camphor wood, marble, iron

辰野登恵子(1950-2014)  
TATSUNO Toeko(1950-2014)  
WORK 82-P-33  
WORK 82-P-33  
1982  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas  
寄贈 平出利恵子氏、辰野剛氏  
Gift of Mrs. HIRAIDE Rieko and Mr. TATSUNO Tsuyoshi

横尾忠則(1936-)  
YOKOO Tadanori(1936-)  
滝  
Fall  
1982  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas

横尾忠則  
YOKOO Tadanori  
実験報告  
Experimental Report  
1996  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas

福田美蘭(1963-)  
FUKUDA Miran(1963-)  
Landscape  
Landscape  
1997  
アクリル／パネル  
Acrylic on panel  
寄託 国際交流基金  
Deposit of The Japan Foundation

福田美蘭  
FUKUDA Miran  
Portrait  
Portrait  
1997  
アクリル／シェイブド・カンヴァス  
Acrylic on shaped canvas  
寄託 国際交流基金  
Deposit of The Japan Foundation



森村泰昌(1951-)  
MORIYAMA Yasumasa(1951-)  
肖像(少年1、2、3)  
Portrait (Shonen 1, 2, 3)  
1988  
発色現像方式印刷、透明メディウム(3点組)  
Chromogenic print, transparent medium (set of 3)

大竹伸朗(1955-)  
OHTAKE Shinro(1955-)  
ゴミ男  
Rubbish Men  
1987  
パルサ、印刷物、鉄、木、プラスチック、ゴム、フィルム、段ボール、植物、布、厚紙、紙、マスキングテープ、石膏、アクリル、油彩、水彩、缶、砂、梱包材、靴下、おもちゃのピストル、ギターネック、グライNDERの歯、イミテーションの真珠、カンシュー塗料、木炭、消しゴム、家庭用炭酸ガスボンベ、包装紙、紙テープ、木屑、ロウ、竹、はし、オープンリール用録音テープ/木製パネル; テープレコーダー、マスキングテープ、スピーカー  
Balsa, printed matter, iron, wood, plastic, rubber, film, corrugated paper, plant, cloth, cardboard, paper, masking tape, plaster, acrylic, oil, watercolor, can, sand, packing material, socks, toy gun, guitar neck, grinder tooth, false pearl, cashew, charcoal, eraser, household carbonic acid gas cylinder, wrapping paper, paper tape, wood paring, wax, bamboo, brush, open-reel recording tape on wooden panel; tape recorder, masking tape, speaker

中村一美(1956-)  
NAKAMIURA Kazumi(1956-)  
荒撫地に立つ桑  
Mulberry tree growing in the wilderness  
1986  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas  
寄託 長田憲幸氏  
Deposit of Mr. OSADA Noriyuki

会田 誠(1965-)  
AIDA Makoto(1965-)  
デザイン  
Design  
1990-92  
テンペラ、油彩/白亜地、綿  
Tempera and oil on chalk grounded board with cotton  
寄託 国際交流基金  
Deposit of The Japan Foundation

中ハシ克シゲ(1955-)  
NAKAHASHI Katsushige  
OTOMI  
OTOMI  
1990  
鉄、銅線、アルミニウム  
Iron, copper wire, aluminum

村上 隆(1962-)  
MURAKAMI Takashi(1962-)  
視覚の座 メガネの娘  
The King's Seat of Two Dimensional Perspective-Sister Eyeglass  
1997  
アクリル/カンヴァス  
Acrylic on canvas  
寄託 国際交流基金  
Deposit of The Japan Foundation

村上 隆  
MURAKAMI Takashi  
視覚の座 TOKYO炎上  
The King's Seat of Two Dimensional Perspective-Backdraft Tokyo  
1997  
アクリル/カンヴァス  
Acrylic on canvas  
寄託 国際交流基金  
Deposit of The Japan Foundation

村上 隆  
MURAKAMI Takashi  
視覚の座 新日本紀行一光  
The King's Seat of Two Dimensional Perspective-Discovering Japan 'Light'  
1997  
アクリル/カンヴァス  
Acrylic on canvas  
寄託 国際交流基金  
Deposit of The Japan Foundation

## 12章 抵抗のためのいくつかの方法

落合多武(1967-)  
OCHIAI Tam(1967-)  
猫絵画(映画監督)  
Cat Painting (Film Director)  
1995  
アクリル、インク、色鉛筆/カンヴァス  
Acrylic, ink, color pencil on canvas  
寄贈 作家  
Gift of The Artist

落合多武  
OCHIAI Tam  
brown madeleine  
brown madeleine  
1999  
カラー転写、テープ/布  
Color transfer on fabric, tape

奈良美智(1959-)  
NARA Yoshitomo(1959-)  
In the White Room II  
In the White Room II  
1995  
アクリル/コットン  
Acrylic on cotton  
寄託 国際交流基金  
Deposit of The Japan Foundation

村上 隆  
MURAKAMI Takashi  
視覚の座 超人オリンピック  
The King's Seat of Two Dimensional Perspective-Superhuman Olympic  
1997  
アクリル/カンヴァス  
Acrylic on canvas  
寄託 国際交流基金  
Deposit of The Japan Foundation

村上 隆  
MURAKAMI Takashi  
視覚の座 匂  
The King's Seat of Two Dimensional Perspective-Smells like  
1997  
アクリル/カンヴァス  
Acrylic on canvas  
寄託 国際交流基金  
Deposit of The Japan Foundation

村上 隆  
MURAKAMI Takashi  
視覚の座 ウリナラ  
The King's Seat of Two Dimensional Perspective-URINARA  
1997  
アクリル/カンヴァス  
Acrylic on canvas  
寄託 国際交流基金  
Deposit of The Japan Foundation

村上 隆  
MURAKAMI Takashi  
視覚の座 新幹線の腕  
The King's Seat of Two Dimensional Perspective-HIKARI Superexpress Armed Man  
1997  
アクリル/カンヴァス  
Acrylic on canvas  
寄託 国際交流基金  
Deposit of The Japan Foundation

村上 隆  
MURAKAMI Takashi  
視覚の座 仮屋  
The King's Seat of Two Dimensional Perspective-TAWARAYA  
1997  
アクリル/カンヴァス  
Acrylic on canvas  
寄託 国際交流基金  
Deposit of The Japan Foundation

村上 隆  
MURAKAMI Takashi  
視覚の座 バック ヒート  
The King's Seat of Two Dimensional Perspective-Back Beat  
1997  
アクリル/カンヴァス  
Acrylic on canvas  
寄託 国際交流基金  
Deposit of The Japan Foundation

村上 隆  
MURAKAMI Takashi  
視覚の座 稲妻  
The King's Seat of Two Dimensional Perspective-Thunderbolt  
1997  
アクリル/カンヴァス  
Acrylic on canvas  
寄託 国際交流基金  
Deposit of The Japan Foundation

小沢 剛(1965-)  
OZAWA Tsuyoshi(1965-)  
地蔵建立 チベット(砂漠)、1993年8月22日  
Jizōing, Tibet (Desert), August 22, 1993  
1993  
発色現像方式印刷  
Chromogenic print

小沢 剛  
OZAWA Tsuyoshi  
地蔵建立 富士山、1995年8月9日  
Jizōing, Mt. Fuji, August 9, 1995  
1995  
発色現像方式印刷  
Chromogenic print

小沢 剛  
OZAWA Tsuyoshi  
地蔵建立 土九一色村、1995年8月10日  
Jizōing, Kamikuishshiki Village, August 10, 1995  
1995  
発色現像方式印刷  
Chromogenic print

小沢 剛  
OZAWA Tsuyoshi  
地蔵建立 土佐、1995年8月21日  
Jizōing, Tosa, August 21, 1995  
1995  
発色現像方式印刷  
Chromogenic print

小沢 剛  
OZAWA Tsuyoshi  
地蔵建立 板門店、平成四年七月二日  
Jizōing, Panmunjom, July 2, 1992  
1992  
発色現像方式印刷  
Chromogenic print

小沢 剛  
OZAWA Tsuyoshi  
地蔵建立 天安門広場、平成元年八月三日  
Jizōing, Tiananmen Square, August 3, 1989  
1989  
発色現像方式印刷  
Chromogenic print

ヤノベ ケンジ(1965-)  
YANOBE Kenji(1965-)  
M・ザ・ナイト  
M The Knight  
2006  
ガスマスク、鉄、真鍮ほか  
Gas mask, iron, brass, others

ヤノベ ケンジ  
YANOBE Kenji  
ロッキング・マンモス  
Rocking Mammoth  
2005  
鉄、機械部品、他  
Iron, machine parts, others

大岩オスカル(1965-)  
OIWA Oscar(1965-)  
動物園  
Zoo  
1997  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas  
寄託 作家  
Deposit of The Artist

柳 幸典(1959-)  
YANAGI Yukinori  
トーキョー・ダイアグラム H'6  
Tokyo Diagram H'6  
1994  
アクリル/紙(12点組)  
Acrylic on paper (set of 12)

O JUN(1956-)  
O JUN(1956-)  
光景図ー宮城と一輪車  
Scene-Imperial Palace and Unicycle  
1998  
グワッシュ/紙、ガラス、鉄  
Gouache on paper; glass, iron

奈良美智  
NARA Yoshitomo  
Sleepless Night (with paintbrush)  
Sleepless Night (with paintbrush)  
1997  
アクリル/コットン  
Acrylic on cotton  
寄託 国際交流基金  
Deposit of The Japan Foundation

杉戸 洋(1970-)  
SUGITO Hiroshi(1970-)  
the plane  
the plane  
1996-97  
アクリル、顔料/カンヴァス  
Acrylic, pigment on canvas

丸山直文(1964-)  
MARUYAMA Naofumi(1964-)  
15kg  
15kg  
1992  
アクリル/綿  
Acrylic on cotton

岡崎乾二郎(1955-)  
OKAZAKI Kenjiro(1955-)  
山の向こうの中腹のちっぽけな村はすでに見えなくなり、ふたたび春が巡ってきた。葡萄の木はあたかも塀の笠石の下を匍う病める大蛇のように見える。生あたたかい空気のなかを褐色の光が動きまわっていた。似たりよったりの毎日が作りだす空白は伐り残した若木まで切り倒すだろう。日々の暮らしのなかで樹木の茂みは岩のように突き出ている。  
The tiny little village on the far mountainside was already out of sight, and spring was coming around once again. The grape trees look just like large ailing snakes that creep under the coping stones of the wall. A blown light wavered in the tepid air. The void created by the selfsame every day is likely to chop down even the young trees that were left behind. In this everyday life, a thicket of trees protrudes like a boulder.  
2002  
アクリル/カンヴァス  
Acrylic on canvas

岡崎乾二郎  
OKAZAKI Kenjiro  
自分の暮らした村がこんなに小さく思われたことはない。太陽が姿をみせた。背の高いポプラの林は風に吹き動かされる砂浜のような格好をしている。切れ目のないその連続を見ているだけで眠がぐらんてくる。変り映えしない日々を連続に酔うことができたなら象や蛇をしとめた気にもなれる。蝶が舞うようにそんな風に彼はものを識ったのである。  
The village where I used to live has never seemed so small. The sun showed itself. The tall poplar forest is shaped like a beach as it gets blown about by the wind. I grow dizzy just watching that seamless succession. If I can manage to get drunk on this succession of unchanging days, I can also come to feel like I have taken down an elephant or snake. He differentiated things in this way, like a fluttering butterfly.  
2002  
アクリル/カンヴァス  
Acrylic on canvas  
毛利悠子(1980-)  
MOHRI Yuko(1980-)  
I/O  
2011-16  
ロール紙、竹炭、ベルリラ、ハタキ、ブラインド、電球、玩具、スプーン、モーター、木材など  
Roll paper, bamboo charcoal, bell-lyras, dusters, blind, LED lights, toy, spoon, motor, wood, etc.  
高柳恵里(1962-)  
TAKAYANAGI Eri(1962-)  
スワンの午睡  
Nap of Swan  
1997  
雑巾  
Dustcloth  
高柳恵里  
TAKAYANAGI Eri  
ハウス  
House  
1997  
雑巾  
Dustcloth  
高柳恵里  
TAKAYANAGI Eri  
緑園  
Green Garden  
1997  
ハンカチ  
Handkerchief  
高柳恵里  
TAKAYANAGI Eri  
マジック  
Magic  
1998  
雑巾  
Dustcloth  
高柳恵里  
TAKAYANAGI Eri  
置物セット  
Ornament Set  
2002  
文庫本、絵はがき、レゴ、珊瑚  
Paperback, postcard, lego, coral  
高柳恵里  
TAKAYANAGI Eri  
置物セット  
Ornament Set  
2002  
文庫本、折紙、木片  
Paperback, paper folding, wood  
豊嶋康子(1967-)  
TOYOSHIMA Yasuko(1967-)  
定規  
Ruler  
1996-99/2015  
プラスチック定規(21点組)  
Plastic ruler(set of 21)  
豊嶋康子  
TOYOSHIMA Yasuko  
発生法2(通知表)  
Origination 2 (Report Cards)  
1998  
コピー/紙(12点組)  
Copy on paper (set of 12)  
寄贈 M画廊  
Gift of m-gallery  
豊嶋康子  
TOYOSHIMA Yasuko  
鉛筆  
Pencil  
1996-99  
赤青鉛筆(1ダース)  
Red and blue pencil (1 dozen)  
豊嶋康子  
TOYOSHIMA Yasuko  
鉛筆  
Pencil  
1996  
鉛筆(1ダース)  
Pencil (1 dozen)  
照屋勇賢(1973-)  
TERUYA Yuken(1973-)  
Notice - Forest: Madison Avenue  
Notice - Forest: Madison Avenue  
2011  
紙袋、糊  
Paper bag, glue

照屋勇賢  
TERUYA Yuken  
Notice - Forest: Madison Avenue  
Notice - Forest: Madison Avenue  
2011  
紙袋、糊  
Paper bag, glue  
照屋勇賢  
TERUYA Yuken  
Notice - Forest: Madison Avenue  
Notice - Forest: Madison Avenue  
2011  
紙袋、糊  
Paper bag, glue  
照屋勇賢  
TERUYA Yuken  
Notice - Forest: Madison Avenue  
Notice - Forest: Madison Avenue  
2011  
紙袋、糊  
Paper bag, glue  
八木良太(1980-)  
YAGI Lyota(1980-)  
Vinyl C.A. Debussy/Clair de lune  
Vinyl C.A. Debussy/Clair de lune  
2005  
シリコン、精製水、冷凍庫、レコードプレーヤー  
Silicone, purified water, freezer, record player  
八木良太  
YAGI Lyota  
Vinyl F.F. Chopin/Chanson de L'adieu  
Vinyl F.F. Chopin/Chanson de L'adieu  
2005  
シリコン、精製水、冷凍庫、レコードプレーヤー  
Silicone, purified water, freezer, record player  
八木良太  
YAGI Lyota  
Vinyl F.F. Chopin/Nocturne in E Flat Major, Or.9 No.2  
Vinyl F.F. Chopin/Nocturne in E Flat Major, Or.9 No.2  
2005  
シリコン、精製水、冷凍庫、レコードプレーヤー  
Silicone, purified water, freezer, record player  
八木良太  
YAGI Lyota  
Vinyl Moon River  
Vinyl Moon River  
2007  
シリコン、精製水、冷凍庫、レコードプレーヤー  
Silicone, purified water, freezer, record player  
手塚愛子(1976-)  
TEZUKA Aiko(1976-)  
糸会  
Meeting of Threads  
2007  
織物、絵画用木枠  
Readymade fabric, wooden frame  
寄託 長田憲幸氏  
Deposit of Mr. OSADA Noriyuki  
森 千裕(1978-)  
MORI Chihiro(1978-)  
バイト観音(バーテン)  
Part-time KANNON (Bartender)  
2006  
樹脂粘土、ブランデーグラス、水晶、プラスチックほか  
Resin clay, brandy glass, crystal, plastic, etc.  
寄贈 作家  
Gift of The Artist  
森 千裕  
MORI Chihiro  
レモン・ニュース(フレッシュ)  
Lemon News (Fresh)  
2009  
アクリル、フェルトペン、鉛筆/ケント紙、木製パネルにマウント  
Acrylics, felt-tip pen, pencil on paper, mounted on wood panel  
森 千裕  
MORI Chihiro  
MIGI VS HIDARI (フルーツと共に)  
MIGI VS HIDARI (with Fruits)  
2010  
木工用ボンド、アクリル、フェルトペン/木製パネル  
Bond, acrylics, felt-tip pen on wood panel  
加藤 泉(1969-)  
KATO Izumi(1969-)  
Untitled  
Untitled  
2013  
ソフトビニール、発泡ウレタン、台座(木)付き  
Soft vinyl, urethane foam, wood pedestal  
加藤 泉  
KATO Izumi  
Untitled  
Untitled  
2013  
ソフトビニール、発泡ウレタン、台座(木)付き  
Soft vinyl, urethane foam, wood pedestal

加藤 泉  
KATO Izumi  
Untitled  
Untitled  
2013  
ソフトビニール、発泡ウレタン、台座(木)付き  
Soft vinyl, urethane foam, wood pedestal  
加藤 泉  
KATO Izumi  
Untitled  
Untitled  
2014  
ソフトビニール、発泡ウレタン、台座(木)付き  
Soft vinyl, urethane foam, wood pedestal  
千葉正也(1980-)  
CHIBA Masaya(1980-)  
タートルズ・ライフ #3  
Turtle's Life #3  
2013  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas  
金氏徹平(1978-)  
KANEUJI Teppei(1978-)  
White Discharge (建物のように積みあげたもの) #4  
White Discharge (Built-up Objects) #4  
2009  
プラスチック製品、木材、鉄製品、ゴム製品、顔料、樹脂  
Plastic, wood, metal and rubber found objects, pigment, resin  
伊藤 存(1971-)  
ITO Zon(1971-)  
空地(犬)  
VACANT LOT (dog)  
2003  
布に刺繍、タペストリー  
Embroidery on fabric, tapestry  
伊藤 存  
ITO Zon  
ワイルドステッカー  
Wild Sticker  
2005  
布に刺繍、タペストリー  
Embroidery on fabric, tapestry  
富井大裕(1973-)  
TOMII Motohiro(1973-)  
joint (ball)  
joint (ball)  
2005  
ストロー  
Straw  
富井大裕  
TOMII Motohiro  
0.9×19.6×1.2  
0.9×19.6×1.2  
2005  
箸  
Chopsticks  
富井大裕  
TOMII Motohiro  
silver dust  
silver dust  
2005  
アルミホイル  
Aluminum foil  
富井大裕  
TOMII Motohiro  
ball sheet ball  
ball sheet ball  
2006  
スーパーボール、アルミ板  
Bouncy ball, aluminum board  
富井大裕  
TOMII Motohiro  
fold  
fold  
2006  
傘袋  
Umbrella bag  
富井大裕  
TOMII Motohiro  
twist #3  
twist #3  
2007  
針金  
Wire  
富井大裕  
TOMII Motohiro  
knot (red)  
knot (red)  
2008  
ロープ  
Rope  
富井大裕  
TOMII Motohiro  
wrap (blue+yellow)  
wrap (blue+yellow)  
2008  
マスキングテープ、ビニールテープ、針金  
Masking tape, vinyl tape, wire  
富井大裕  
TOMII Motohiro  
carve #1  
carve #1  
2008  
木  
Wood

富井大裕  
TOMII Motohiro  
glue #7  
glue #7  
2008  
枝、エポキシ樹脂接着剤  
Branch, epoxy resin adhesive

富井大裕  
TOMII Motohiro  
turn #1  
turn #1  
2008  
ゴムホース、ホチキス  
Rubber hose, stapler

富井大裕  
TOMII Motohiro  
fragment #8  
fragment #8  
2009  
コンクリート  
Concrete

田中功起(1975-)  
TANAKA Koki(1975-)  
Pick up something from FRAC Champagne-Ardenne and bring it into the city, then make some noise  
Pick up something from FRAC Champagne-Ardenne and bring it into the city, then make some noise  
2006  
映像(7点組)、発色現象方式印画(11点組)  
Video (set of 7), chromogenic print (set of 11)

名和晃平(1975-)  
NAWA Kohhei(1975-)  
PixCell-Deer #17  
PixCell-Deer #17  
2008-09  
ミクストメディア  
Mixed media

Chim ↑ Pom  
Chim ↑ Pom  
BLACK OF DEATH  
BLACK OF DEATH  
2007-08  
映像、写真  
Video, photograph

小泉明郎(1976-)  
KOIZUMI Meiro(1976-)  
お母さん  
Mum  
2003  
シングル・チャンネル・ビデオ  
Single channel video

小泉明郎  
KOIZUMI Meiro  
アメイジング・グレイス  
Amazing Grace  
2001  
シングル・チャンネル・ビデオ  
Single channel video  
寄贈 作家  
Gift of The Artist

風間サチコ(1972-)  
KAZAMA Sachiko(1972-)  
嘘!怒涛の閉塞艦  
Alias! Heisoku-kan (Raging Battle-ship the Dead-End)  
2012  
木版画(パネル、和紙、墨)  
Woodcut print(panel, Japanese paper, Chinese ink)

梅沢和木(1985-)  
UMEZAWA Kazuki(1985-)  
とある現実の超風景 2018ver.  
A Certain Mankind's Super Landscape 2018 ver.  
2011/2018-19  
デジタルデータ  
Digital data

指差し作業員  
Finger Pointing Worker  
ふくいライブカメラを指差す  
Pointing at Fukuichi Live Camera  
2011  
シングル・チャンネル・ビデオ  
Single channel video

## 13章 仮置き絵画

豊嶋康子(1967-)  
TOYOSHIMA Yasuko(1967-)  
隠蔽工作\_20120625  
Cover Up\_20120625  
2012  
木、木工用ボンド、画布(麻カンヴァス)  
Wood, wood glue, canvas

豊嶋康子  
TOYOSHIMA Yasuko  
パネル #19  
Panel #19  
2014  
木、木工用ボンド、オスモカラー(塗料)  
Wood, wood glue, osmo color

豊嶋康子  
TOYOSHIMA Yasuko  
パネル #33  
Panel #33  
2015  
木、木工用ボンド、オスモカラー  
Wood, wood glue, osmo color  
寄贈 作家  
Gift of The Artist

梅津庸一(1982-)  
UMETSU Yoichi(1982-)  
智・感・情・A  
Wisdom, Imoression, Sentiment, A  
2012-14  
油彩/布・パネル(4組)  
Oil on cloth, panel (set of 4)

泉 太郎(1976-)  
IZUMI Taro(1976-)  
ステーキハウス  
Steak House  
2009  
ミクストメディア(DVD、油彩画2点、画材、おもちゃのラッパ、テール、ペンキ2缶、ローラー、ガムテープ)  
Mixed media(video, 2 oil paintings, paninting tools, toy trumpet, table, 2 cans of paint, roller, duct tape)  
寄贈 作家、hiromi yoshii  
Gift of The Artist and hiromi yoshii

泉 太郎  
IZUMI Taro  
Butter  
Butter  
2010  
映像(8点組)、ミクストメディア  
Video (set of 8), mixed media  
寄贈 作家  
Gift of The Artist

末永史尚(1974-)  
SUENAGA Fuminao(1974-)  
Tangram-Painting (Building (昼))  
Tangram-Painting (Building (Daytime))  
2008  
顔料、アクリル/綿布、パネル  
Pigment, acrylic on cotton, panel

末永史尚  
SUENAGA Fuminao  
Tangram-Painting (Flag)  
Tangram-Painting (Flag)  
2009  
顔料、アクリル/綿布、パネル  
Pigment, acrylic on cotton, panel

末永史尚  
SUENAGA Fuminao  
Tangram-Painting (Block)  
Tangram-Painting (Block)  
2010  
顔料、アクリル/綿布、パネル  
Pigment, acrylic on cotton, panel

末永史尚  
SUENAGA Fuminao  
Tangram-Painting (Grid)  
Tangram-Painting (Grid)  
2011  
顔料、アクリル/綿布、パネル  
Pigment, acrylic on cotton, panel

末永史尚  
SUENAGA Fuminao  
Tangram-Painting (Tile-B)  
Tangram-Painting (Tile-B)  
2013  
顔料、アクリル/綿布、パネル  
Pigment, acrylic on cotton, panel

末永史尚  
SUENAGA Fuminao  
Tangram-Painting (Tartan Check)  
Tangram-Painting (Tartan Check)  
2013  
顔料、アクリル/綿布、パネル  
Pigment, acrylic on cotton, panel

末永史尚  
SUENAGA Fuminao  
Tangram-Painting (Tile-A)  
Tangram-Painting (Tile-A)  
2013  
顔料、アクリル/綿布、パネル  
Pigment, acrylic on cotton, panel

末永史尚  
SUENAGA Fuminao  
Tangram-Painting (P-Tile)  
Tangram-Painting (P-Tile)  
2013  
顔料、アクリル/綿布、パネル  
Pigment, acrylic on cotton, panel

石田尚志(1972-)  
ISHIDA Takashi(1972-)  
絵巻  
Emaki  
1995  
映像(8mmフィルムから変換)  
Video (transferred from 8mm film), sound

石田尚志  
ISHIDA Takashi  
絵巻 その2  
Emaki 2  
1996  
映像(8mmフィルムから変換)  
Video (transferred from 9mm film), sound

会田 誠(1965-)  
AIDA Makoto(1965-)  
美しい旗(戦争画 RETURNS)  
Beautiful Flag (War Picture Returns)  
1995  
木炭、大和のりをメディウムにした自家製絵具、アクリル/襖、蝶番  
Charcoal, self-made paint with a medium made from Japanese glue, acrylic on sliding screens and hinges  
寄託 高橋コレクション  
Deposit of Takahashi Collection

会田 誠  
AIDA Makoto  
472  
たまゆら(戦争画 RETURNS)  
Tamayura-Moment(War Picture Returns)  
1999  
アクリル、油彩/麻布、襖、蝶番  
Acrylic, oil on canvas, sliding screens and hinges

小林正人(1957-)  
KOBAYASHI Masato(1957-)  
473  
Unnamed #18  
Unnamed #18  
2000  
油彩/カンヴァス  
Oil on canvas

諏訪直樹(1954-1990)  
SUWA Naoki(1954-1990)  
474  
廃人の眼  
Eyes of the Impaired  
1980  
アクリル/カンヴァス  
Acrylic on canvas  
寄贈 賛美小舎 上田國昭・克子コレクション  
Gift of Sambi-Shosha  
Mr. UEDA Kuniaki and Mrs. UEDA Katsuko

南川史門(1972-)  
MINAMIKAWA Shimon(1972-)  
4つの絵画と自立するための脚  
4 paintings, two legs  
2012  
水性塗料/ボード  
Water-based paint on board

## 14章 流動する現在

ホンマ タカシ(1962-)  
HOMMA Takashi(1962-)  
476  
「TOKYO SUBURBIA 東京郊外」湘南国際村、神奈川県  
TOKYO SUBURBIA, Shonan International Village,  
Kanagawa  
1995-98  
発色現象方式印画  
Chromogenic print  
寄贈 作家  
Gift of The Artist

ホンマ タカシ  
HOMMA Takashi  
477  
「TOKYO SUBURBIA 東京郊外」幕張ベイタウン、千葉県  
TOKYO SUBURBIA: Makuhari Bay Town, Chiba  
1995-98  
発色現象方式印画  
Chromogenic print  
寄贈 作家  
Gift of The Artist

ホンマ タカシ  
HOMMA Takashi  
478  
「TOKYO SUBURBIA 東京郊外」ラブホテルUFO、千葉県  
TOKYO SUBURBIA: Love Hotel UFO, Chiba  
1995-98  
発色現象方式印画  
Chromogenic print  
寄贈 作家  
Gift of The Artist

ホンマ タカシ  
 HOMMA Takashi  
 479  
 「TOKYO SUBURBIA 東京郊外」浦安マリナイースト21、  
 千葉県  
 TOKYO SUBURBIA: Urayasu Marina East 21, Chiba  
 1995-98  
 発色現像方式印画  
 Chromogenic print  
 寄贈 作家  
 Gift of The Artist  
  
 松江泰治 (1963-)  
 MATSUE Taiji(1963-)  
 480  
 JP-13 02  
 JP-13 02  
 2017  
 発色現像方式印画  
 Chromogenic print  
  
 松江泰治  
 MATSUE Taiji  
 JP-13 04  
 JP-13 04  
 2017  
 発色現像方式印画  
 Chromogenic print  
  
 松江泰治  
 MATSUE Taiji  
 JP-13 05  
 JP-13 05  
 2017  
 発色現像方式印画  
 Chromogenic print  
  
 松江泰治  
 MATSUE Taiji  
 JP-13 07  
 JP-13 07  
 2017  
 発色現像方式印画  
 Chromogenic print  
  
 松江泰治  
 MATSUE Taiji  
 JP-13 08  
 JP-13 08  
 2017  
 発色現像方式印画  
 Chromogenic print

松江泰治  
 MATSUE Taiji  
 JP-13 11  
 JP-13 11  
 2017  
 発色現像方式印画  
 Chromogenic print  
  
 松江泰治  
 MATSUE Taiji  
 JP-13 14  
 JP-13 14  
 2017  
 発色現像方式印画  
 Chromogenic print  
  
 松江泰治  
 MATSUE Taiji  
 JP-13 16  
 JP-13 16  
 2017  
 発色現像方式印画  
 Chromogenic print  
  
 松江泰治  
 MATSUE Taiji  
 JP-13 18  
 JP-13 18  
 2017  
 発色現像方式印画  
 Chromogenic print  
  
 松江泰治  
 MATSUE Taiji  
 JP-13 25  
 JP-13 25  
 2017  
 発色現像方式印画  
 Chromogenic print  
  
 松江泰治  
 MATSUE Taiji  
 JP-13 27  
 JP-13 27  
 2017  
 発色現像方式印画  
 Chromogenic print

松江泰治  
 MATSUE Taiji  
 JP-13 29  
 JP-13 29  
 2017  
 発色現像方式印画  
 Chromogenic print  
  
 松江泰治  
 MATSUE Taiji  
 TYO 6212  
 TYO 6212  
 2017  
 発色現像方式印画  
 Chromogenic print  
  
 松江泰治  
 MATSUE Taiji  
 TYO 3525  
 TYO 3525  
 2017  
 発色現像方式印画  
 Chromogenic print  
  
 松江泰治  
 MATSUE Taiji  
 TYO 101271-4v  
 TYO 101271-4v  
 2017  
 映像  
 Movie  
 寄贈  
 Gift  
  
 参考映像  
 世界に向けて 東京都現代美術館建設ドキュメンタリー  
 Reaching out to the world:  
 Documentary the Construction of Museum of  
 Contemporary Art, Tokyo  
 1995  
 映像  
 Video  
  
 参考映像  
 東京都現代美術館(紹介ビデオ)  
 Museum of Contemporary Art, Tokyo (Promotional Video)  
 1995  
 映像  
 Video

## MOTコレクション

|      |        |
|------|--------|
| 開催日数 | 3日     |
| 入場者  | 6,616人 |
| 一日平均 | 2,205人 |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [1]第1期 | 「ただいま／はじめまして」                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 会期     | 2019年3月29日(金)ー6月16日(日)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 出品点数   | 82点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| ポスター   | B1                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| リーフレット | 150×210mm 中綴じ16ページ、『鈴木昭男 一道草のすすめー「 <sup>おと だて</sup> 点音」and “no zo mi” in 東京都現代美術館』<br>210×150mm A3 4つ折り[館内外に設置した鈴木昭男作品の説明とマップ]                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 展示内容   | 「ただいま／はじめまして」という展覧会タイトルは、改修工事を終えた新たな空間で展示を再開するとともに、新収蔵品を紹介するという意味を込めている。このリニューアルを契機として、これまでの「常設展示」という名称から「コレクション展示」に改めた。常に変わらずにある作品を主軸に置くのではなく、年に数回の展示替を通して、より多くの収蔵作品を紹介するとともに、同じ作品でもその都度違った楽しみ方ができるように試みを重ねることを意図している。<br>今期は、リニューアル・オープン記念展として、休館中に収蔵した約400点のなかから、約20人の作家による、主に2010年代に制作された作品を展示し、屋外彫刻をはじめとする既存作品も修復を施して再設置した。さらに、コレクション展示室内から屋外展示場へと動線を拡大し、屋外に新たに加わった作品とともに、回遊性を高めることで、美術館を巡る楽しみを増やした。 |
| 展示構成   | 1Fー01 アルナルド・ポモドーロ、02 ロイ・リキテンスタイン、03 チョン・ヨンドウ、04 棚田康司、05 さかぎしよしお、06 末永史尚、07 中園孔二、08 萩野僚介、09 五月女哲平、10 南川史門、11 今井俊介、12 Nadegata Instant Party (中崎透+山城大督+野田智子)、13 保田春彦<br>3Fー14 マーク・マンダース、15 サレ・フセイン、16 奥村雄樹、17 サイモン・フジワラ、18 高田安規子・政子、19 寺内曜子、20. ソピアップ・ピッチ、21 文谷有佳里、22 関根直子、23 手塚愛子、24 宮島達男、25 鈴木昭男                                                                                                          |
| 入場者数   | 6,616人(3月29日より3月31日まで)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 主要関連記事 | 高橋昌紀「都現代美術館新装オープン 内外の一体感重視オノ・ヨーコさんの作品など常設展示」<br>『毎日新聞』2019年3月30日 25面<br>NHK「おはよう日本」(関東甲信越地域)2019年3月16日午前7時30分～8時(うち4分程度放映)<br>*収蔵作家(鈴木昭男)と学芸員のインタビュー<br>「東京都現代美術館がついにリニューアルオープン。3年間の休館を経て2つの展覧会が開幕」『美術手帖』[WEB版] 2019年3月29日                                                                                                                                                                                |

### 【関連事業】

鈴木昭男《道草のすすめー「<sup>おと だて</sup>点音」and “no zo mi”》公開記念パフォーマンス

2019年3月29日(金)13:00 / 18:00、3月30日(土)15:00

屋外展示場、常設展示室ほか

参加者数 225人

リニューアル・オープン記念展 MOTコレクション ただいま/はじめまして 第1期 出品リスト  
Grand Reopening Exhibition MOT Collection: Pleased to meet you. New Acquisition in recent years List of Works

|                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                    |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1<br>アルナルド・ポモドーロ<br>Araldo POMODORO<br>太陽のジャイロスコープ<br>Gyroscope of the Sun<br>1988<br>鉄、ブロンズ他<br>Iron, bronze, etc.<br>300×450×450 cm<br>イタリア政府寄贈<br>Gift of Italian government<br>2003-00-0012-000 | 2<br>ロイ・リキテンスタイン<br>Roy LICHTENSTEIN<br>ヘア・リボンの少女<br>Girl with Hair Ribbon<br>1965<br>油彩、マグナノカンヴァス<br>Oil, magna on canvas<br>121.9×121.9 cm<br>1994-00-0001-000 | 3<br>チョン・ヨンドウ<br>JUNG Yeondoo<br>古典と新作<br>Classic and New<br>2018<br>3チャンネル HDビデオ<br>3 channel video<br>43'42"<br>2018-00-0028-000 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4<br>ジョン・ヨンドゥ<br>JUNG Yeondoo<br>《古典と新作》ドローイング<br>Classic and New, drawing<br>2018<br>煤／紙<br>Soot on paper<br>2018-00-0029-000                                                                                    | 14<br>さかぎよしお<br>SAKAGISHI Yoshiou<br>16008<br>2016<br>磁土<br>Porcelain<br>2.8×8.2×4.5 cm<br>2016-00-0064-000                                                             | 23<br>末永史尚<br>SUENAGA Fuminao<br>絵画<br>Painting<br>2016<br>アクリル／合板<br>Acrylic on panel<br>130×97.5×2.5 cm<br>2017-00-0094-000                                                                  |
| 5<br>棚田康司<br>TANADA Koji<br>雨の像<br>statue of rain<br>2016<br>樟材の一木造りに彩色<br>Painted single-block sculpture (cinnamomum camphora)<br>207×65×64 cm<br>2016-00-0001-000                                               | 15<br>さかぎよしお<br>SAKAGISHI Yoshiou<br>9358<br>1993<br>石膏、ボンド、アクリル<br>Plaster, glue, acrylic<br>1.5×10×3.5 cm<br>ギャラリエ アンドウ寄贈<br>Gift of GALERIE ANDO<br>2016-00-0066-000 | 24<br>末永史尚<br>SUENAGA Fuminao<br>絵画<br>Painting<br>2016<br>アクリル／合板<br>Acrylic on panel<br>73×61×2 cm<br>2017-00-0095-000                                                                       |
| 6<br>棚田康司<br>TANADA Koji<br>12のトルソ No.2 山からの少女は谷に現れる<br>12 Torso-No.2, girl from the mountain appears in the valley<br>2016<br>マンゴー材に彩色、銀箔<br>Color, silver leaf on mango wood<br>40×25×23 cm<br>2016-00-0002-000 | 16<br>さかぎよしお<br>SAKAGISHI Yoshiou<br>2021<br>2002<br>磁土<br>Porcelain<br>8.2×8.9×8.8 cm<br>ギャラリエ アンドウ寄贈<br>Gift of GALERIE ANDO<br>2016-00-0067-000                      | 25<br>末永史尚<br>SUENAGA Fuminao<br>絵画<br>Painting<br>2016<br>アクリル／合板<br>Acrylic on panel<br>53×45×2 cm<br>2017-00-0096-000                                                                       |
| 7<br>棚田康司<br>TANADA Koji<br>12のトルソ No.3 知識の少年P.A.<br>12 Torso-No.3, boy of knowledge P.A.<br>2016<br>マンゴー材に彩色、銀箔<br>Color, silver leaf on mango wood<br>40×23×21.5 cm<br>2016-00-0003-000                         | 17<br>さかぎよしお<br>SAKAGISHI Yoshiou<br>10007<br>2010<br>磁土<br>Porcelain<br>4.6×7.8×4 cm<br>ギャラリエ アンドウ寄贈<br>Gift of GALERIE ANDO<br>2016-00-0068-000                       | 26<br>末永史尚<br>SUENAGA Fuminao<br>ふせん<br>Sticky note<br>2016<br>アクリル／合板<br>Acrylic on panel<br>7.5×7.5×3 cm<br>2017-00-0099-000                                                                 |
| 8<br>棚田康司<br>TANADA Koji<br>12のトルソ No.9 山からの少女の姉<br>12 Torso-No.9, elder sister of girl from the mountain<br>2016<br>マンゴー材に彩色、銀箔<br>Color, silver leaf on mango wood<br>44.5×31×21 cm<br>2016-00-0004-000         | 18<br>さかぎよしお<br>SAKAGISHI Yoshiou<br>15010<br>2015<br>磁土<br>Porcelain<br>5.3×4×4 cm<br>ギャラリエ アンドウ寄贈<br>Gift of GALERIE ANDO<br>2016-00-0069-000                         | 27<br>末永史尚<br>SUENAGA Fuminao<br>ふせん<br>Sticky note<br>2016<br>アクリル／合板<br>Acrylic on panel<br>10×4×1.5 cm<br>2017-00-0100-000                                                                  |
| 9<br>棚田康司<br>TANADA Koji<br>12のトルソ No.10 体操の少年<br>12 Torso-No.10, gymnastic boy<br>2016<br>マンゴー材に彩色、銀箔<br>Color, silver leaf on mango wood<br>49×39×25.5 cm<br>2016-00-0005-000                                   | 19<br>末永史尚<br>SUENAGA Fuminao<br>折り紙モール<br>Origami Chains<br>2014<br>油彩／合板<br>Oil on panel<br>2017-00-0090-000                                                          | 28<br>中園孔二<br>NAKAZONO Koji<br>無題<br>Untitled<br>2012<br>油彩／カンヴァス<br>Oil on canvas<br>228×182 cm<br>2015-00-0089-000                                                                           |
| 10<br>さかぎよしお<br>SAKAGISHI Yoshiou<br>9185<br>1991<br>石膏、ボンド、アクリル<br>Plaster, glue, acrylic<br>1.8×13.7×5.2 cm<br>2016-00-0060-000                                                                                 | 20<br>末永史尚<br>SUENAGA Fuminao<br>水平器<br>Level<br>2015<br>アクリル／合板<br>Acrylic on panel<br>5×45.5×2 cm<br>2017-00-0091-000                                                 | 29<br>中園孔二<br>NAKAZONO Koji<br>無題<br>Untitled<br>2012<br>油彩／カンヴァス<br>Oil on canvas<br>194×194.5 cm<br>2015-00-0090-000                                                                         |
| 11<br>さかぎよしお<br>SAKAGISHI Yoshiou<br>7005<br>2007<br>磁土<br>Porcelain<br>11.5×11.5×6.4 cm<br>2016-00-0061-000                                                                                                      | 21<br>末永史尚<br>SUENAGA Fuminao<br>絵画<br>Painting<br>2016<br>アクリル／合板<br>Acrylic on panel<br>146×113×3 cm<br>2017-00-0092-000                                              | 30<br>中園孔二<br>NAKAZONO Koji<br>無題<br>Untitled<br>2013<br>油彩／カンヴァス<br>Oil on canvas<br>163×130.5 cm<br>2015-00-0091-000                                                                         |
| 12<br>さかぎよしお<br>SAKAGISHI Yoshiou<br>13012<br>2013<br>磁土<br>Porcelain<br>7.3×9.5×5 cm<br>2016-00-0062-000                                                                                                         | 22<br>末永史尚<br>SUENAGA Fuminao<br>絵画<br>Painting<br>2016<br>アクリル／合板<br>Acrylic on panel<br>146×113×3 cm<br>2017-00-0093-000                                              | 31<br>中園孔二<br>NAKAZONO Koji<br>無題<br>Untitled<br>2010<br>クレヨン／板<br>Crayon on board<br>41×31.5 cm<br>中園雅勝氏、中園信子氏寄贈<br>Gift of Mr.NAKAZONO Masakatsu and Mrs.NAKAZONO Nobuko<br>2015-00-0115-000 |
| 13<br>さかぎよしお<br>SAKAGISHI Yoshiou<br>14009<br>2014<br>磁土<br>Porcelain<br>8.9×14×12.3 cm<br>2016-00-0063-000                                                                                                       |                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                |

- 32  
中国孔二  
NAKAZONO Koji  
無題  
Untitled  
2010  
クレヨン／板  
Crayon on board  
72.5×60.5 cm  
中国雅勝氏、中国信子氏寄贈  
Gift of Mr.NAKAZONO Masakatsu and Mrs.NAKAZONO Nobuko  
2015-00-0116-000
- 33  
中国孔二  
NAKAZONO Koji  
無題  
Untitled  
2014  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas  
73.5×61.5 cm  
中国雅勝氏、中国信子氏寄贈  
Gift of Mr.NAKAZONO Masakatsu and Mrs.NAKAZONO Nobuko  
2015-00-0119-000
- 34  
中国孔二  
NAKAZONO Koji  
無題  
Untitled  
2015  
油彩／カンヴァス  
Oil on canvas  
30×30 cm  
中国雅勝氏、中国信子氏寄贈  
Gift of Mr.NAKAZONO Masakatsu and Mrs.NAKAZONO Nobuko  
2015-00-0120-000
- 35  
荻野僚介  
OGINO Ryosuke  
w2018×h871×d48  
2000  
アクリル／カンヴァス  
Acrylic on canvas  
87.1×201.8 cm  
2017-00-0023-000
- 36  
荻野僚介  
OGINO Ryosuke  
w1341×h1565×d39  
2000  
アクリル／カンヴァス  
Acrylic on canvas  
156.5×134.1 cm  
2017-00-0024-000
- 37  
荻野僚介  
OGINO Ryosuke  
w1571×h771×d25  
2010  
アクリル／カンヴァス  
Acrylic on canvas  
77.1×157.1 cm  
2017-00-0025-000
- 38  
荻野僚介  
OGINO Ryosuke  
w1051×h902×d40  
2013  
アクリル／カンヴァス  
Acrylic on canvas  
90.2×105.1 cm  
2017-00-0026-000
- 39  
荻野僚介  
OGINO Ryosuke  
w1122×h1317×d49  
2016  
アクリル／カンヴァス  
Acrylic on canvas  
131.7×112.2 cm  
2017-00-0027-000
- 40  
五月女哲平  
SOUTOME Teppei  
He, She, You and Me  
2012  
アクリル／カンヴァス  
Acrylic on canvas  
227.3×363.6 cm  
2017-00-0097-000
- 41  
五月女哲平  
SOUTOME Teppei  
White, Black, Colors  
2015  
アクリル／カンヴァス  
Acrylic on canvas  
201×362 cm  
2017-00-0098-000
- 42  
五月女哲平  
SOUTOME Teppei  
Pair  
2014  
アクリル／カンヴァス  
Acrylic on canvas  
116.5×116.5 cm  
2017-00-0101-000
- 43  
南川史門  
MINAMIKAWA Shimon  
Impression 7 (Munich)  
2016  
アクリル／カンヴァス、コラージュ  
Acrylic on canvas, collage  
130×410 cm  
2016-00-0008-000
- 44  
南川史門  
MINAMIKAWA Shimon  
Condition Check 11  
2015  
アクリル／カンヴァス  
Acrylic on canvas  
130×100 cm  
2016-00-0009-000
- 45  
南川史門  
MINAMIKAWA Shimon  
Condition Check 13  
2015  
アクリル／カンヴァス  
Acrylic on canvas  
130×100 cm  
2016-00-0013-000
- 46  
今井俊介  
IMAI Shunsuke  
untitled  
2014  
アクリル／カンヴァス  
Acrylic on canvas  
210×264 cm  
2017-00-0019-000
- 47  
今井俊介  
IMAI Shunsuke  
untitled  
2015  
アクリル／カンヴァス  
Acrylic on canvas  
264×210 cm  
2017-00-0020-000
- 48  
今井俊介  
IMAI Shunsuke  
untitled  
2017  
アクリル／カンヴァス  
Acrylic on canvas  
144×115 cm  
2017-00-0022-000
- 49  
Nadegata Instant Party (中崎透+山城大督+野田智子)  
Nadegata Instant Party (NAKAZAKI Tohru+YAMASHIRO Daisuke+NODA Tomoko)  
カントリー・ロード・ショー /COUNTRY ROAD SHOW  
2012  
ミクストメディア(ビデオ、ドローイング)  
Mixed media (video, drawing)  
37'00"  
2013-00-0204-000
- 50  
Nadegata Instant Party (中崎透+山城大督+野田智子)  
Nadegata Instant Party (NAKAZAKI Tohru+YAMASHIRO Daisuke+NODA Tomoko)  
Yellow Cake Street  
2011  
ミクストメディア(ビデオ、ネオンサイン、ドローイング、写真)  
Mixed media (video, neon sign, drawing, photo)  
15'00"  
制作協力：国際交流基金  
Courtesy of The Japan Foundation  
2013-00-0205-000
- 51  
保田春彦  
YASUDA Haruhiko  
聚落を囲む壁III  
Wall around Hamlet III  
1994-95  
鉄  
Iron  
185×217.6×331 cm  
作家寄贈  
Gift of the Artist  
1999-00-0052-000
- マーク・マンダース  
Mark MANDERS  
音のないスタジオ  
Silent Studio  
2019  
インスタレーション  
Installation
- 52  
マーク・マンダース  
Mark MANDERS  
黄色のコンポジション  
Composition with Yellow  
2017-2018  
彩色されたブロンズ、木、プラスチック  
Painted Bronze, wood, plastic  
162.5×66.5×77 cm  
2018-00-0068-000
- 53  
マーク・マンダース  
Mark MANDERS  
椅子の上の乾いた像  
Dry Figure on Chair  
2011-15  
彩色したブロンズ、木、紙にオフセット印刷、アクリル  
Painted bronze, wood, offset print on paper, acrylic  
69×170×68.6 cm  
2016-00-0057-000
- 54  
マーク・マンダース  
Mark MANDERS  
パースペクティブ・スタディ  
Perspective Study  
2014-16  
オフセット印刷、アクリル／紙、金網、アルミニウム  
Offset print, acrylic on paper, chicken wire, aluminium  
120×80 cm  
2016-00-0058-000
- 55  
マーク・マンダース  
Mark MANDERS  
全ての単語(黄色を含む)  
All Words (Including Yellow)  
2005-2019  
彩色された木、オフセット印刷  
Painted wood, offset print  
5×35×47.5 cm
- 56  
サレ・フセイン  
Saleh HUSEIN  
アラブ党  
Arabian Party  
2013  
アクリル／カンヴァス  
Acrylic on canvas  
2016-00-0059-000
- 57  
奥村雄樹  
OKUMURA Yuki  
くろうかいぼうがく(深川編)  
Anatomy Fiction (Fukagawa ver.)  
2012-13  
ラムダプリント  
Lambda print  
2013-00-0203-000
- 58  
サイモン・フジワラ  
Simon FUJIWARA  
驚くべき獣たち(アザラシの毛皮)  
Fabulous Beasts (Controlled Silver Seal)  
2015  
毛を刈った毛皮のコート、木材  
Shaving fur coats on wooden stretchers  
146×105×2 cm  
2015-00-0093-000
- 59  
サイモン・フジワラ  
Simon FUJIWARA  
再会のためのリハーサル(陶芸の父とともに)  
Rehearsal for a Reunion (With the Father of Pottery)  
2011-13  
ビデオ、ミクストメディア  
Video, mixed media  
14'18"  
2016-00-0011-000

|                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 60<br>サイモン・フジワラ<br>Simon FUJIWARA<br>あるマスクのためのパヴィリオン<br>Pavilion for a Mask<br>2014<br>ミクストメディア(ポリウレタンにペイント、樹脂製マスク)<br>Mixed media<br>2016-00-0012-000                                                                                                    | 70<br>ソビアップ・ピッチ<br>SOPHEAP Pich<br>月長石<br>Moonstone<br>2017<br>木、大理石、竹、籐、金属線<br>Wood, marble, bamboo, rattan, metal wire<br>155×41×17 cm<br>2017-00-0076-000                                                                                                | 79<br>手塚愛子<br>TEZUKA Aiko<br>層の絵 - 縫合<br>Picture of Layers - Sewing Together<br>2008<br>多色織<br>Multicolor weaving<br>270×500 cm<br>協力：川島織物セルコン<br>Production support: KAWASHIMA SELCON<br>2008-00-0003-000                                                                                                                                                                                            |
| 61<br>高田安規子・政子<br>TAKADA Akiko & Masako<br>組札 ハート<br>Suit Heart<br>2014<br>トランプに刺繍、標本箱、木製棚<br>Embroidered Playing card, specimen case, wood shelf<br>2014-00-0003-000                                                                                     | 71<br>文谷有佳里<br>BUNYA Yukari<br>なにもない風景を眺める 2016.12.10<br>looking at the vacant scenery 2016.12.10<br>2016<br>インク/ケント紙・パネル<br>Ink on Kent paper, panel<br>103×291.2 cm<br>2017-00-0017-000                                                                   | 80<br>手塚愛子<br>TEZUKA Aiko<br>縦糸を引き抜く(傷と網目)<br>Pulling Out Warp Threads<br>2007<br>織物、引き抜いた縦糸<br>Fabric, pulled out warp thread<br>寄託(長田憲幸氏蔵)<br>Deposit of Mr. OSADA Noriyuki<br>2008-98-0003-000                                                                                                                                                                                                     |
| 62<br>高田安規子・政子<br>TAKADA Akiko & Masako<br>ジョーカー<br>Joker<br>2011<br>トランプに刺繍、標本箱、木製台座<br>Embroidered Playing card, specimen case, wood pedestal<br>42.5×32.5×5.5 cm<br>2014-00-0030-000                                                                   | 72<br>文谷有佳里<br>BUNYA Yukari<br>なにもない風景を眺める 2010.10.10 aichi<br>looking at the vacant scenery 2010.10.10 aichi<br>2010<br>インク/紙<br>Ink on Paper<br>54.5×78.8 cm<br>作家、Gallery Jin Projects寄贈<br>Gift of the Artist, Gallery Jin Projects<br>2017-00-0034-000 | 81<br>宮島達男<br>MIYAJIMA Tatsuo<br>それは変化し続ける それはあらゆるものと関係を結ぶ<br>それは永遠に続く<br>Keep Changing, Connect with Everything, Continue<br>Forever<br>1998<br>発光ダイオード、集積回路、電気コード、プラスチック、アルミ<br>パネル、鉄(赤色発光ダイオード1728個、Time D-R sets基盤<br>432枚)<br>Light Emitting Diode, IC, electric wire, plastic, aluminum<br>panel, steel (Red L.E.D. 1728 pieces, Time D-R sets 432<br>pieces)<br>384×288 cm<br>1997-00-0009-000 |
| 63<br>高田安規子・政子<br>TAKADA Akiko & Masako<br>修復/東京都現代美術館(入口壁面)<br>Under Reconstruction / MOT "Entrance wall"<br>2014<br>ミクストメディア<br>Mixed media<br>2018-00-0069-000                                                                                         | 73<br>文谷有佳里<br>BUNYA Yukari<br>なにもない風景を眺める 2010.10.28 aichi<br>looking at the vacant scenery 2010.10.28 aichi<br>2010<br>インク/紙<br>Ink on Paper<br>54.5×78.8 cm<br>作家、Gallery Jin Projects寄贈<br>Gift of the Artist, Gallery Jin Projects<br>2017-00-0035-000 | 82<br>鈴木昭男<br>SUZUKI Aiko<br>道草のすずめ - 「点音(おとだて)」 and "no zo mi"<br>An Encouragement of Dawdling; 'o to da te' and<br>"no zo mi"<br>2018-2019<br>コンクリート・プレート<br>Concrete plate<br>2018-00-0032-000                                                                                                                                                                                                     |
| 64<br>高田安規子・政子<br>TAKADA Akiko & Masako<br>修復/東京都現代美術館(スロープ 石畳)<br>Under Reconstruction / MOT "Stone pavement slopel"<br>2014<br>ミクストメディア<br>Mixed media<br>2018-00-0070-000                                                                              | 74<br>文谷有佳里<br>BUNYA Yukari<br>なにもない風景を眺める 2014.4-b AICHI<br>looking at the vacant scenery 2014.4-b AICHI<br>2014<br>インク/紙<br>Ink on Paper<br>54.5×54.5 cm<br>作家、Gallery Jin Projects寄贈<br>Gift of the Artist, Gallery Jin Projects<br>2017-00-0036-000     | 屋外彫刻：<br><br>アンソニー・カロ<br>Anthony CARO<br>発見の塔<br>Tower of Discovery<br>1991<br>彩色した鋼<br>Painted steel<br>671×554×554 cm<br>1995-00-0007-000                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 65<br>寺内曜子<br>TERAUCHI Yoko<br>Untitled<br>1987<br>顔料、紙<br>Pigment, paper<br>85×67×11 cm<br>2017-00-0028-000                                                                                                                                              | 75<br>文谷有佳里<br>BUNYA Yukari<br>なにもない風景を眺める 2014.4-d AICHI<br>looking at the vacant scenery 2014.4-d AICHI<br>2014<br>インク/紙<br>Ink on Paper<br>54.5×54.5 cm<br>作家、Gallery Jin Projects寄贈<br>Gift of the Artist, Gallery Jin Projects<br>2017-00-0037-000     | マルタ・パン<br>Marta PAN<br>裂けた球体<br>Sphère fendue<br>1984<br>ポリエステル<br>Polyester<br>220×220×124 cm<br>1996-00-0004-000                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 66<br>寺内曜子<br>TERAUCHI Yoko<br>A Continuous Plane[ひと続きの面]<br>2002<br>顔料、紙<br>Pigment, paper<br>24.5×30×15 cm<br>2017-00-0029-000                                                                                                                          | 76<br>関根直子<br>SEKINE Naoko<br>差異と連動<br>Difference and Connection<br>2011<br>鉛筆/水彩紙(シリウス)<br>Pencil on watercolor paper (Sirius)<br>130×183 cm<br>2011-00-0253-000                                                                                           | リチャード・ディーコン<br>Richard DEACON<br>カタツムリのように B<br>Like a Snail B<br>1987-96<br>彩色したスチール、アルミニウム<br>Painted steel, aluminum<br>488×516×473 cm<br>1997-00-0023-000                                                                                                                                                                                                                                         |
| 67<br>寺内曜子<br>TERAUCHI Yoko<br>ホット・ライン 113<br>Hot-line 113<br>2017<br>電話ケーブル<br>Telephone cable<br>2017-00-0030-000                                                                                                                                       | 77<br>関根直子<br>SEKINE Naoko<br>とめない話<br>Endless Talk<br>2011<br>鉛筆/水彩紙(シリウス)<br>Pencil on watercolor paper (Sirius)<br>183×130 cm<br>2011-00-0254-000                                                                                                        | オノ・ヨーコ<br>ONO Yoko<br>東京のウィッシュ・ツリー(願かけの木)<br>Wish Tree for Tokyo<br>1996/2004-<br>木、願い札<br>Living tree, wish tag on strings<br>2004-00-0003-000                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 68<br>ソビアップ・ピッチ<br>SOPHEAP Pich<br>樹木園<br>Arboretum<br>2015<br>竹、籐、金属線<br>Bamboo, rattan, metal wire<br>250.5×201.5×10.5 cm<br>2017-00-0074-000                                                                                                           | 78<br>関根直子<br>SEKINE Naoko<br>鏡、穴<br>Mirror Drawing<br>2017<br>鉛筆、色鉛筆、ガッシュ/パネル<br>Pencil; color pencil, gouache / panel<br>180×298 cm<br>2018-00-0001-000                                                                                                   | オノ・ヨーコ<br>ONO Yoko<br>クラウド・ピース<br>Cloud Piece<br>1963/2019<br>鏡、穴<br>Mirror, hole<br>2015-00-0101-000                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 69<br>ソビアップ・ピッチ<br>SOPHEAP Pich<br>苔の筋<br>Lines in the Moss<br>2017<br>プラスチック、ダンマル樹脂、合成樹脂、蜜蝋、油彩、顔料/<br>竹、籐、針金、黄麻布<br>Plastic, dammar resin, synthetic resin, beeswax, oil,<br>pigment on bamboo, rattan, wire, jute<br>200×200×9.5 cm<br>2017-00-0075-000 |                                                                                                                                                                                                                                                             | *63、64、82の一部は屋外彫刻に含まれる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |



## I. 事業報告 | 5 教育普及事業(平成29年度)

当館では、平成7年度の開館以来、教育普及事業を通じて、鑑賞教育の充実を図ってきた。特に、美術館を都民により開かれた施設と位置づけ、ボランティアによる常設展示作品解説を毎日実施するとともに、一般や子ども(親子含む)を対象とした鑑賞プログラムにも力を入れている。特に、学校団体の受け入れに対しては積極的に対応している。

平成29年(2017年)度も、あらゆる来館者が現代美術と対話し理解を深めることができるよう、来館者の知的好奇心や学習ニーズに配慮して、ギャラリートークをはじめ美術館講座、ギャラリークルーズ、ワークショップ等を実施した。なお、改修工事休館中のため、外部施設との連携・活用やアウトリーチ事業を展開するなど館外プログラムを中心に実施した。

### (1) MOT美術館講座

現代美術をより深く鑑賞するために、作家や研究者が現代美術に親しむためのポイントを解説し講義する、現代美術ファン層を広げるための講座。

平成29年(2017年)度は、「食と言葉」「MOTサテライト」「高齢者による映像制作」をテーマに講座を実施した。

| 開催日時                     | 講座名                                        | 講師                                                 | 参加者数       |
|--------------------------|--------------------------------------------|----------------------------------------------------|------------|
| 9月10日(日)                 | 「食と言葉」第1回ワークショップ「Rules and Tools」          | ジェローム・ワグ(アーティスト、料理家)、<br>岩間朝子(アーティスト、料理家)          | 21人        |
| 10月21日(土)                | 無印良品 有楽町トークイベント<br>「くらしに美術館を-MOTサテライトにいこう」 | 郷泰典、森山朋絵、小高日香理(当館学芸員)、<br>鈴木潤子(ATELIER MUJIキュレーター) | 25人        |
| 11月4日(土)                 | 「食と言葉」第2回レクチャー・パフォーマンス「嚼る/綴る」              | 上崎千(芸術学)、岩間朝子(アーティスト、料理家)                          | 41人        |
| 11月23日(木・祝)<br>/12月9日(土) | 「65歳からはじめよう 映像でつくるエンディングノート」               | 松本篤(remo[NPO法人 記録と表現とメディアのための組織])                  | 4人<br>累計8人 |

### (2) ワークショップ

現代美術作家を指導者に招き、共同制作することにより、参加者が現代美術の創作プロセスを体験し、現代美術に対する理解を深めてもらう活動を実施した。

#### ①東京都現代美術館ワークショップ2018

「変身? 改造? 未知の自分? ネオ・パーティー・キッズ」グローバルズの転換期の景色を見つめ、訪れた土地や日本で出会う移民たちの故郷のヴァナキュラーな文化や宗教美術、物理学、SNS上の美学等を参照してインスタレーションや絵画を制作している美術家の磯村暖を講師に招き、「リニューアル」をテーマに、子どもたち自身がリニューアルするとしたら、どう自分が変わりたいか、増やしたい機能は何か、自分が変わると世界はどう変わるかなどを考え、オリジナルの仮装衣装やアイテムを制作し「パーティー」を開催し発表した。

- ・企画・指導：磯村 暖(美術家)
- ・参加人数：5人 累計10人(小学4年生～6年生)(事前申込制)
- ・日時：2018年3月3日(土)、4日(日)10:30～16:00
- ・場所：東京都現代美術館リニューアル準備室
- ・参加費：3,000円(2日間の料金)



磯村 暖氏



仮装衣装作り



パーティーの集合写真

写真：中本那由子

### (3) ギャラリークルーズ

---

地元商店街で展開される「かかしコンクール」や美術館に隣接した木場公園で開催される区民まつりでの交流プログラム、MOTサテライト関連プログラムとしてガイドスタッフによる案内と作品解説ツアーを実施した。

#### ①かかしコンクール・クルーズ

「決定!かかしコンクール“こども賞”」

- ・日 時：2017年9月9日(土)10:30～12:30
- ・場 所：深川資料館通り商店街協同組合事務所及び、かかしコンクール会場
- ・参加対象：小学4年生～6年生(事前申込制)
- ・参加人数：12人 ※授賞式観覧者数：280人 9月18日(月)

#### ③「MOTサテライト2017秋 むすぶ風景」関連プログラム

トーク&まち歩きクルーズ「ガイドとめぐるMOTサテライト」

- ・日 時：2017年10月14日(土)～11月12日(日)  
14:30～/15:30～ 土、日、祝(全11回)
- ・場 所：MOTサテライト会場
- ・参加対象：一般(当日参加)
- ・参加人数：193人

#### ②江東区民まつり・クルーズ「MOTおもしろプログラム」

- ・日 時：2017年10月28日(土)、29日(日)各日10:00～16:00
- ・場 所：都立木場公園(江東区民まつり会場内)
- ・参加対象：一般(当日参加)
- ・参加人数：1日目 200人、2日目 雨天中止



「決定!かかしコンクール“こども賞”」



「MOTおもしろプログラム」



「ガイドとめぐるMOTサテライト」

### (4) 人材育成

---

#### ①ボランティアの育成

常設展示室のギャラリートークを担当するボランティア26人を対象として、作品解説の一層の充実・向上を図るため、研修会を実施した。改修工事による休館中のため他館での展覧会見学および担当学芸員によるレクチャーなど、外部施設を研修会の場として活用した。

- ・研修内容等：他館展覧会見学等(5回)

#### ②博物館実習の受入れ

改修工事による休館のため受入れは休止した。

(5) 学校教育との連携

①ミュージアム・スクール(学校団体による作品鑑賞)

学校団体を対象として、学芸員が子どもたちとのコミュニケーションを交えて主体的な作品鑑賞体験(主に常設展示)を促す通年実施のプログラム。今年度は、休館中のため、学芸員が学校に出向いて授業を行う出張授業(教員研修会等も含む)を実施した。こどもの鑑賞力や想像力・感性を高めることをねらいとし、学校ごとにカリキュラム等に応じたオリジナル・プランを作成した。

※島しょ地域である小笠原村立小笠原小学校では、5年生と学芸員とが文通し、鑑賞授業を実施した。

- ・対 象：小学生・中学生・高校生・その他
- ・申込方法：事前申込
- ・参加費：無料
- ・実施件数：36件
- ・参加人数：1,941人

②アーティストの一日学校訪問

子どもたちが学校の授業で、現在活躍中の美術作家と交流することにより、最新のアートを体験するプログラム。美術館に来館できない遠隔地の学校にも、現代美術の魅力を直に伝えるこ

とをねらいとしている。通常は当館収蔵作家より1名を選出して実施しているが、今年度は休館中ということもあり事業を拡張し2名を選出し、美術作家の秋山さやか、彫刻家の棚田康司とともに各6校、計12回の授業を実施した。

| 講師    | 実施日       | 訪問先          | 学年  | 参加者数 |
|-------|-----------|--------------|-----|------|
| 秋山さやか | 10月23日(月) | 八王子市立高嶺小学校   | 6年生 | 54人  |
|       | 11月2日(木)  | 墨田区立第四吾嬬小学校  | 6年生 | 26人  |
|       | 12月4日(月)  | 東京都立田無高等学校   | 3年生 | 16人  |
|       | 12月11日(月) | 港区立御田小学校     | 3年生 | 64人  |
|       | 12月14日(木) | 東京都立大泉特別支援学校 | 中学部 | 5人   |
|       | 1月12日(金)  | 杉並区立浜田山小学校   | 5年生 | 125人 |
| 計     |           |              |     | 290人 |

| 講師   | 実施日       | 訪問先          | 学年       | 参加者数 |      |
|------|-----------|--------------|----------|------|------|
| 棚田康司 | 10月20日(金) | 新渡戸文化高等学校    | 美術コース1年生 | 8人   |      |
|      | 10月26日(木) | 板橋区立板橋第六小学校  | 6年生      | 64人  |      |
|      | 11月30日(木) | 東京女学館小学校     | 6年生      | 36人  |      |
|      | 12月8日(金)  | 東京都立調布特別支援学校 | 中学部2年生   | 10人  |      |
|      | 1月19日(金)  | 東京都立文京盲学校    | 高等部2、3年生 | 11人  |      |
|      | 1月23日(火)  | 日野市立東光寺小学校   | 5年生      | 59人  |      |
|      | 計         |              |          |      | 188人 |



秋山さやか氏による訪問授業の様子



棚田康司氏による訪問授業の様子

③授業用教材の貸出

学校における鑑賞教育等に活用できるDVD(全3種類)、および作品解説小冊子(全7テーマ)を提供するプログラム。学校団体作品鑑賞利用前の事前学習のほか、遠方で美術館に来館でき

ない学校において鑑賞授業等で利用された。

- ・DVD貸出件数 26件
- ・作品解説小冊子配布冊数 1,471冊

#### ④先生のための特別研修会

学校と美術館の連携を深め、かつ学校教員が気軽に美術館を利用するきっかけをつくるため、公益財団法人 東京都歴史文化財団 連携事業「ティーチャーズプログラム」の一環として「スクールプログラム」についてのレクチャーを行った。休館中のため、他館で実施。

- ・実施日：7月25日(火)
- ・場所：東京都美術館
- ・参加人数：25名

#### ⑤高校生ボランティアの受け入れ

改修工事による休館のため受け入れは休止した。

#### (6) ガイドスタッフによるギャラリートークの実施

---

改修工事による休館のため休止した。

#### (7) 解説印刷物等

---

##### ①「学校向け案内」の配布

学校団体による作品鑑賞利用を促進するため、美術館で実施する学校向け事業を紹介する案内パンフレット。

配布方法：年度末に次年度分を、都内小・中・高・特別支援学校の図工・美術担当教員あてに送付。

## I. 事業報告 | 5 教育普及事業(平成30年度)

当館では、平成7年度の開館以来、教育普及事業を通じて、鑑賞教育の充実を図ってきた。特に、美術館を都民により開かれた施設と位置づけ、ボランティアによる常設展示作品解説を毎日実施するとともに、一般やこども(親子含む)を対象とした鑑賞プログラムにも力を入れている。特に、学校団体の受け入れに対しては積極的に対応している。

平成30年(2018年)度も、あらゆる来館者が現代美術と対話し理解を深めることができるよう、来館者の知的好奇心や学習ニーズに配慮して、ギャラリートークをはじめ美術館講座、ギャラリークルーズ、ワークショップ等を実施した。なお、改修工事休館中のため、外部施設との連携・活用やアウトリーチ事業を展開するなど館外プログラムを中心に実施した。

### (1) MOT美術館講座

現代美術をより深く鑑賞するために、作家や研究者が現代美術に親しむためのポイントを解説し講義する、現代美術ファン層を広げるための講座。

平成30年(2018年)度は、「MOTサテライト」に関連した講座を実施した。なお、11月10日の回には手話通訳を導入した。

| 開催日時      | 講座名                        | 講師                                | 参加者数 |
|-----------|----------------------------|-----------------------------------|------|
| 10月27日(土) | 「アート×落語-交わることで生まれたもの」      | チョン・ヨンドゥ(MOTサテライト参加作家)、三遊亭歌司(落語家) | 38人  |
| 11月10日(土) | 「MOTコレクション-保存しながら見せるということ」 | 牟田行秀(当館学芸員)                       | 30人  |

### (2) ワークショップ

現代美術作家を指導者に招き、共同制作することにより、参加者が現代美術の創作プロセスを体験し、現代美術に対する理解を深めてもらう活動を実施した。

#### ①MOT出張ワークショップ

「65歳からはじめる“映画”づくり」

初心者・経験者を問わず誰もが映像を制作することのできるワークショップを行ってきたremo[NPO法人 記録と表現とメディアのための組織]を講師に招き、彼らのメソッド「ご近所映画クラブ」を用いた映画づくりを実施。65歳以上を対象に、小津安二郎に縁のある地で映画づくりを楽しみ、完成した映画は一般にも公開し発表した。

- ・企画・指導：remo[NPO法人記録と表現とメディアのための組織]
- ・参加人数：7人 3日間の累計21人(65歳以上)(事前申込制)
- ・日時：2018年12月8日(土)、9日(日)、16日(日)  
各日13:30～16:30
- ・場所：江東区古石場文化センター
- ・参加費：3,200円(3日間の料金、保険代込)



シナリオ作りの様子



撮影の様子



上映会の様子

### (3) ギャラリークルーズ

---

美術館に隣接した木場公園で開催される区民まつりでの交流プログラムやMOTサテライト関連プログラムとしてガイドスタッフによる案内と作品解説ツアーを実施した。

#### ①江東区民まつり・クルーズ「MOTおもしろプログラム」

- ・日 時：2018年10月20日(土)、21日(日)各日10:00～16:00
- ・場 所：都立木場公園(江東区民まつり会場内)
- ・参加対象：一般(当日参加)
- ・参加人数：1日目 319人、2日目 382人

#### ②「MOTサテライト2018秋 うごきだす物語」関連プログラム トーク&まち歩きクルーズ「ガイドとめぐるMOTサテライト」

- ・日 時：2018年10月27日(土)～11月18日(日)  
14:30～/15:30～ 土、日(全8回)
- ・場 所：MOTサテライト会場
- ・参加対象：一般(当日参加)
- ・参加人数：188人



「MOTおもしろプログラム」



「ガイドとめぐるMOTサテライト」

### (4) 人材育成

---

#### ①ボランティアの育成

常設展示室のギャラリートークを担当するボランティア25人を対象として、作品解説の一層の充実・向上を図るため、研修会を実施した。改修工事による休館中のため他館での展覧会見学および担当学芸員によるレクチャーなど、外部施設を研修会の場として活用した。また収蔵作品スライドを用いてトーク研修も実施した。

- ・研修内容等：他館展覧会見学等(5回)

#### ②博物館実習の受入れ

改修工事による休館のため受入れは休止した。

(5) 学校教育との連携

①ミュージアム・スクール(学校団体による作品鑑賞)

学校団体を対象として、学芸員が子どもたちとのコミュニケーションを交えて主体的な作品鑑賞体験(主に常設展示)を促す通年実施のプログラム。今年度は、休館中のため、学芸員が学校に出向いて授業を行う出張授業(教員研修会等も含む)を実施した。こどもの鑑賞力や想像力・感性を高めることをねらいとし、学校ごとにカリキュラム等に応じたオリジナル・プランを作成した。

※病院内にある院内学級・訪問学級と連携し授業を実施した。

- ・対象：小学生・中学生・高校生・特別支援学校等
- ・申込方法：事前申込
- ・参加費：無料
- ・実施件数：101件
- ・参加人数：1,560人

②アーティストの一日学校訪問

子どもたちが学校の授業で、現在活躍中の美術作家と交流することにより、最新のアートを体験するプログラム。美術館に来館できない遠隔地の学校にも、現代美術の魅力を直に伝えるこ

とをねらいとしている。今年度は当館収蔵作家である画家・美術作家の末永史尚とともに全6校、計6回の授業を実施した。

| 講師   | 実施日       | 訪問先          | 学年    | 参加者数 |
|------|-----------|--------------|-------|------|
| 末永史尚 | 10月23日(火) | 大塚ろう学校永福分教室  | 1～6年生 | 22人  |
|      | 11月13日(火) | 東京都立葛飾総合高等学校 | 3年生   | 11人  |
|      | 11月29日(木) | 足立区立皿沼小学校    | 6年生   | 33人  |
|      | 12月13日(木) | 台東区立蔵前小学校    | 4年生   | 73人  |
|      | 1月19日(土)  | 国立市立国立第八小学校  | 6年生   | 40人  |
|      | 1月24日(木)  | 東村山市立南台小学校   | 5年生   | 65人  |
| 計    |           |              |       | 244人 |



末永史尚氏



末永史尚氏による訪問授業の様子

③授業用教材の貸出

学校における鑑賞教育等に活用できるDVD(全3種類)、および作品解説小冊子(全7テーマ)を提供するプログラム。学校団体作品鑑賞利用前の事前学習のほか、遠方で美術館に来館で

きない学校において鑑賞授業等で利用された。

- ・DVD貸出件数 25件
- ・作品解説小冊子配布冊数 1,680冊

#### ④先生のための特別研修会

学校と美術館の連携を深め、かつ学校教員が気軽に美術館を利用するきっかけをつくるため、公益財団法人 東京都歴史文化財団 連携事業「ティーチャーズプログラム」の一環として「スクールプログラム」についてのレクチャーを行った。休館中のため、他館で実施。

- ・実施日：8月8日(水)
- ・場所：東京都美術館
- ・参加人数：33名

#### ⑤高校生ボランティアの受け入れ

改修工事による休館のため受け入れは休止した。

#### (6) ガイドスタッフによるギャラリートークの実施

---

改修工事による休館のため休止した。

#### (7) 解説印刷物等

---

##### 「学校向け案内」の配布

学校団体による作品鑑賞利用を促進するため、美術館で実施する学校向け事業を紹介する案内パンフレット。

配布方法：年度末に次年度分を、都内小・中・高・特別支援学校の図工・美術担当教員あてに送付。



I. 事業報告 | 6 美術資料の収集・保存・貸出

[1] 東京都現代美術館美術資料収集実績  
(平成31年3月31日現在)

| 区分                       | 画<br>油<br>彩 | 画<br>日<br>本 | 水<br>彩<br>・<br>素<br>描 | 版<br>画 | 彫<br>刻 | 工<br>芸 | 映<br>写<br>・<br>映<br>像 | 書  | 他<br>の | 資<br>料<br>二<br>次 | 計    |
|--------------------------|-------------|-------------|-----------------------|--------|--------|--------|-----------------------|----|--------|------------------|------|
| 既収集作品<br>(昭和62年度まで)      |             |             |                       |        | *12    |        |                       |    |        |                  | *12  |
|                          | 584         | 139         | 427                   | 1523   | 222    | 70     | 10                    | 36 |        |                  | 3011 |
| 基金で取得(昭和63年～平成8年)        | 124         | 30          | 24                    | 312    | 28     |        | 15                    |    |        | 1                | 534  |
| 都予算による取得(平成9年度以降)        | 124         | 1           | 37                    | 15     | 131    | 2      | 158                   |    | 30     | 4                | 502  |
| 寄贈(昭和63年度以降)             | 378         | 44          | 282                   | 368    | 77     | 10     | 137                   |    | 23     | 75               | 1394 |
| 移管(平成19年度)               |             |             |                       |        |        |        |                       |    |        | 2                | 2    |
| 移管(平成23年度) <sup>1)</sup> |             |             |                       |        | -12    |        |                       |    | -36    |                  | -48  |
| 計                        | 1210        | 214         | 770                   | 2218   | 446    | 82     | 320                   | 0  | 53     | 82               | 5395 |

\*は、東京都美術館野外展示作品内数  
1) 東京都美術館への作品移管に伴う減数分

[2] 東京都現代美術館美術資料収集実績  
(昭和63年度～平成30年度)

| 年度   | 種別 | 油<br>彩<br>画 | 日<br>本<br>画 | 水<br>彩<br>・<br>素<br>描 | 版<br>画 | 彫<br>刻 | 工<br>芸 | 写<br>真<br>・<br>映<br>像 | そ<br>の<br>他 | 二<br>次<br>資<br>料 | 小<br>計<br>(<br>点) | 合<br>計     | 購<br>入<br>金<br>額 |
|------|----|-------------|-------------|-----------------------|--------|--------|--------|-----------------------|-------------|------------------|-------------------|------------|------------------|
| 昭和63 | 購入 | 4           | 2           |                       |        |        |        |                       |             | 1                | 7                 | 7          | 85,000,000       |
|      | 寄贈 |             |             |                       |        |        |        |                       |             |                  | 0                 | 0          |                  |
| 平成元  | 購入 | 20          | 7           | 1                     | 155    | 4      |        |                       |             |                  | 187               | 195        | 639,076,300      |
|      | 寄贈 |             | 1           |                       | 6      |        |        |                       |             | 1                | 8                 | 8          |                  |
| 平成2  | 購入 | 8           | 2           |                       |        | 4      |        |                       |             |                  | 14                | 15         | 384,130,000      |
|      | 寄贈 |             | 1           |                       |        |        |        |                       |             |                  | 1                 | 1          |                  |
| 平成3  | 購入 | 38          | 13          | 2                     | 6      | 7      |        | 2                     |             |                  | 68                | 72         | 2,611,251,270    |
|      | 寄贈 | 2           | 2           |                       |        |        |        |                       |             |                  | 4                 | 4          |                  |
| 平成4  | 購入 | 34          | 6           | 3                     | 1      | 4      |        |                       |             |                  | 48                | 58         | 1,853,152,870    |
|      | 寄贈 | 2           | 3           | 4                     | 1      |        |        |                       |             |                  | 10                | 10         |                  |
| 平成5  | 購入 | 4           |             | 1                     |        | 3      |        |                       |             |                  | 8                 | 10         | 81,390,600       |
|      | 寄贈 | 1           |             | 1                     |        |        |        |                       |             |                  | 2                 | 2          |                  |
| 平成6  | 購入 | 1           |             |                       | 147    |        |        |                       |             |                  | 148               | 148        | 768,390,300      |
|      | 寄贈 |             |             |                       |        |        |        |                       |             |                  | 0                 | 0          |                  |
| 平成7  | 購入 | 2           |             | 2                     | 1      | 3      |        |                       |             |                  | 8                 | 8          | 216,348,000      |
|      | 寄贈 |             |             |                       |        |        |        |                       |             |                  | 0                 | 0          |                  |
| 平成8  | 購入 | 13          |             | 15                    | 2      | 3      |        | 13                    |             |                  | 46                | 48         | 183,282,640      |
|      | 寄贈 | 1           |             |                       |        |        |        | 1                     |             |                  | 2                 | 2          |                  |
| 平成9  | 購入 | 8           |             | 7                     | 1      | 5      |        | 1                     |             |                  | 22                | 42         | 145,534,442      |
|      | 寄贈 | 5           |             | 2                     | 5      |        |        |                       |             | 7                | 20                | 20         |                  |
| 平成10 | 購入 | 8           |             | 1                     | 1      | 7      |        | 18                    |             |                  | 35                | 57         | 134,827,000      |
|      | 寄贈 | 4           |             |                       |        | 1      |        | 15                    |             | 2                | 22                | 22         |                  |
| 平成11 | 購入 | 6           |             |                       | 1      | 4      |        | 20                    |             |                  | 31                | 120        | 51,835,500       |
|      | 寄贈 | 1           |             | 7                     | 40     | 5      |        | 36                    |             |                  | 89                | 89         |                  |
| 平成12 | 購入 |             |             |                       |        |        |        |                       |             |                  | 0                 | 16         | 0                |
|      | 寄贈 | 7           |             |                       |        |        |        | 8                     |             | 1                | 16                | 16         |                  |
| 平成13 | 購入 |             |             |                       |        |        |        |                       |             |                  | 0                 | 15         | 0                |
|      | 寄贈 | 13          |             | 1                     | 1      |        |        |                       |             |                  | 15                | 15         |                  |
| 平成14 | 購入 |             |             |                       |        |        |        |                       |             |                  | 0                 | 17         | 0                |
|      | 寄贈 | 2           |             | 13                    | 1      |        |        | 1                     |             |                  | 17                | 17         |                  |
| 平成15 | 購入 |             |             |                       |        |        |        |                       |             |                  | 0                 | 12         | 0                |
|      | 寄贈 | 9           |             |                       | 1      | 2      |        |                       |             |                  | 12                | 12         |                  |
| 平成16 | 購入 |             |             |                       |        |        |        |                       |             |                  | 0                 | 10         | 0                |
|      | 寄贈 | 2           |             |                       |        | 7      |        |                       |             | 1                | 10                | 10         |                  |
| 平成17 | 購入 |             |             |                       |        |        |        |                       |             |                  | 0                 | 24         | 0                |
|      | 寄贈 | 4           | 2           | 4                     |        | 1      |        | 8                     |             | 5                | 24                | 24         |                  |
| 平成18 | 購入 | 4           |             |                       |        | 2      |        | 2                     |             |                  | 8                 | 22         | 79,935,400       |
|      | 寄贈 |             | 5           |                       |        |        |        | 1                     |             | 8                | 14                | 14         |                  |
| 平成19 | 購入 | 4           |             | 1                     |        | 9      | 1      | 20                    |             | 1                | 36                | 79,699,440 |                  |
|      | 寄贈 | 9           | 13          | 17                    |        | 8      | 10     | 17                    |             |                  | 74                | 112        |                  |
|      | 報告 |             |             |                       |        |        |        |                       |             | 2                | 2                 | 2          |                  |
| 平成20 | 購入 | 17          |             | 3                     |        | 4      | 1      | 4                     |             |                  | 29                | 74         | 79,997,700       |
|      | 寄贈 | 7           | 12          | 3                     | 10     | 7      |        |                       |             | 6                | 45                | 45         |                  |
| 平成21 | 購入 | 6           |             | 2                     | 10     | 6      |        | 12                    | 13          | 1                | 50                | 90         | 79,343,575       |
|      | 寄贈 | 2           |             |                       | 11     |        |        | 7                     | 18          | 2                | 40                | 40         |                  |
| 平成22 | 購入 | 5           |             | 11                    |        | 6      |        | 9                     | 1           | 1                | 33                | 133        | 59,721,797       |
|      | 寄贈 | 23          |             | 72                    |        | 1      |        | 3                     |             | 1                | 100               | 100        |                  |
| 平成23 | 購入 | 3           |             | 8                     |        | 20     |        | 5                     |             | 1                | 37                | 98         | 59,998,250       |
|      | 寄贈 | 14          |             | 21                    | 18     | 4      |        | 1                     |             | 3                | 61                | 61         |                  |
| 平成24 | 購入 | 3           |             | 1                     | 8      |        |        | 6                     |             |                  | 18                | 134        | 59,992,500       |
|      | 寄贈 | 21          |             | 38                    | 45     | 6      |        |                       | 1           | 5                | 116               | 116        |                  |
| 平成25 | 購入 | 2           | 1           |                       |        | 3      |        | 4                     | 1           |                  | 11                | 220        | 59,990,000       |
|      | 寄贈 | 31          |             | 2                     | 165    | 1      |        | 3                     |             | 7                | 209               | 209        |                  |
| 平成26 | 購入 | 2           |             | 2                     |        | 23     |        | 11                    |             |                  | 38                | 88         | 59,990,800       |
|      | 寄贈 | 18          |             | 3                     | 9      | 11     |        | 2                     | 1           | 6                | 50                | 50         |                  |
| 平成27 | 購入 | 9           | 0           | 0                     | 1      | 11     | 0      | 29                    | 1           | 0                | 51                | 180        | 59,993,960       |
|      | 寄贈 | 36          | 1           | 6                     | 45     | 1      | 0      | 31                    | 3           | 6                | 129               | 129        |                  |
| 平成28 | 購入 | 5           | 0           | 0                     | 0      | 14     | 0      | 1                     | 0           | 0                | 20                | 85         | 59,992,200       |
|      | 寄贈 | 39          | 0           | 2                     | 3      | 19     | 0      | 0                     | 0           | 2                | 65                | 65         |                  |
| 平成29 | 購入 | 33          | 0           | 0                     | 0      | 9      | 0      | 14                    | 0           | 0                | 56                | 156        | 59,997,352       |
|      | 寄贈 | 52          | 4           | 34                    | 0      | 0      | 0      | 2                     | 0           | 8                | 100               | 100        |                  |
| 平成30 | 購入 | 9           | 0           | 2                     | 0      | 0      | 0      | 2                     | 14          | 0                | 27                | 166        | 59,996,000       |
|      | 寄贈 | 73          | 0           | 53                    | 6      | 3      | 0      | 0                     | 0           | 4                | 139               | 139        |                  |
| 合計   | 購入 | 248         | 31          | 61                    | 327    | 159    | 2      | 173                   | 30          | 5                | 1036              | 1036       | 8,012,867,896    |
|      | 寄贈 | 376         | 47          | 283                   | 366    | 77     | 10     | 137                   | 23          | 74               | 1394              | 1394       |                  |
|      | 報告 | 0           | 0           | 0                     | 0      | 0      | 0      | 0                     | 0           | 2                | 2                 | 2          |                  |

[3]平成29年度新収蔵作品

購入

|                                                                                 |                                                                                                        |                                                                                                                                 |                                                                                                         |
|---------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1<br>松江泰治<br>JP-13 02<br>2017年<br>発色現像方式印画<br>44.6×56cm<br>2017-00-0001-000     | 14<br>松江泰治<br>TYO 3525<br>2017年<br>発色現像方式印画<br>49.5×294.9cm<br>2017-00-0014-000                        | 27<br>狹野僚介<br>w1122×h1317×d49<br>2016年<br>アクリル／カンヴァス<br>131.7×112.2cm<br>2017-00-0027-000                                       | 39<br>末永史尚<br>Tangram-Painting (Building (昼))<br>2008年<br>顔料、アクリル／綿布、パネル<br>60×60cm<br>2017-00-0081-000 |
| 2<br>松江泰治<br>JP-13 04<br>2017年<br>発色現像方式印画<br>44.6×56cm<br>2017-00-0002-000     | 15<br>クサナギシンペイ<br>盟友2016<br>2016年<br>アクリル／麻カンヴァス<br>181.8×227.3cm<br>2017-00-0015-000                  | 28<br>寺内曜子<br>Untitled<br>1987年<br>顔料、紙<br>85×67×11cm<br>2017-00-0028-000                                                       | 40<br>末永史尚<br>Tangram-Painting (Flag)<br>2009年<br>顔料、アクリル／綿布、パネル<br>60×60cm<br>2017-00-0082-000         |
| 3<br>松江泰治<br>JP-13 05<br>2017年<br>発色現像方式印画<br>44.6×56cm<br>2017-00-0003-000     | 16<br>クサナギシンペイ<br>荒野へ<br>2017年<br>アクリル／カンヴァス<br>194×194cm<br>2017-00-0016-000                          | 29<br>寺内曜子<br>A Continuous Plane[ひと続きの面]<br>2002年<br>顔料、紙<br>24.5×30×15cm<br>2017-00-0029-000                                   | 41<br>末永史尚<br>Tangram-Painting (Block)<br>2010年<br>顔料、アクリル／綿布、パネル<br>60×60cm<br>2017-00-0083-000        |
| 4<br>松江泰治<br>JP-13 07<br>2017年<br>発色現像方式印画<br>44.6×56cm<br>2017-00-0004-000     | 17<br>文谷有佳里<br>なにもない風景を眺める 2016.12.10<br>2016年<br>インク／ケント紙・パネル<br>4点組：各103×291.2cm<br>2017-00-0017-000 | 30<br>寺内曜子<br>ホット・ライン 113<br>2017年<br>電話ケーブル<br>サイズ可変<br>2017-00-0030-000                                                       | 42<br>末永史尚<br>Tangram-Painting (Grid)<br>2011年<br>顔料、アクリル／綿布、パネル<br>60×60cm<br>2017-00-0084-000         |
| 5<br>松江泰治<br>JP-13 08<br>2017年<br>発色現像方式印画<br>44.6×56cm<br>2017-00-0005-000     | 18<br>文谷有佳里<br>なにもない風景を眺める 2017.6.3<br>2017年<br>鉛筆／ケント紙・パネル<br>103×72.8cm<br>2017-00-0018-000          | 31<br>松本陽子<br>宇宙エーテル体再び<br>2016年<br>油彩、木炭、パステル／カンヴァス<br>181.7×227.3cm<br>2017-00-0031-000                                       | 43<br>末永史尚<br>Tangram-Painting (Tile-B)<br>2013年<br>顔料、アクリル／綿布、パネル<br>60×60cm<br>2017-00-0085-000       |
| 6<br>松江泰治<br>JP-13 11<br>2017年<br>発色現像方式印画<br>44.6×56cm<br>2017-00-0006-000     | 19<br>今井俊介<br>untitled<br>2014年<br>アクリル／カンヴァス<br>210×264cm<br>2017-00-0019-000                         | 32<br>ソビアップ・ピッチ<br>樹木園<br>2015年<br>竹、籐、金属線<br>250.5×201.5×10.5cm<br>2017-00-0074-000                                            | 44<br>末永史尚<br>Tangram-Painting (Tartan Check)<br>2013年<br>顔料、アクリル／綿布、パネル<br>60×60cm<br>2017-00-0086-000 |
| 7<br>松江泰治<br>JP-13 14<br>2017年<br>発色現像方式印画<br>44.6×56cm<br>2017-00-0007-000     | 20<br>今井俊介<br>untitled<br>2015年<br>アクリル／カンヴァス<br>264×210cm<br>2017-00-0020-000                         | 33<br>ソビアップ・ピッチ<br>苔の筋<br>2017年<br>プラスチック、ダンマル樹脂、合成樹脂、<br>蜜蝋、油彩、顔料／竹、籐、針金、黄麻<br>布<br>200×200×9.5cm<br>2017-00-0075-000          | 45<br>末永史尚<br>Tangram-Painting (Tile-A)<br>2013年<br>顔料、アクリル／綿布、パネル<br>60×60cm<br>2017-00-0087-000       |
| 8<br>松江泰治<br>JP-13 16<br>2017年<br>発色現像方式印画<br>44.6×56cm<br>2017-00-0008-000     | 21<br>今井俊介<br>untitled<br>2017年<br>アクリル／カンヴァス<br>162×180cm<br>2017-00-0021-000                         | 34<br>ソビアップ・ピッチ<br>月長石<br>2017年<br>木、大理石、竹、籐、金属線<br>155×41×17cm<br>2017-00-0076-000                                             | 46<br>末永史尚<br>Tangram-Painting (P-Tile)<br>2013年<br>顔料、アクリル／綿布、パネル<br>60×60cm<br>2017-00-0088-000       |
| 9<br>松江泰治<br>JP-13 18<br>2017年<br>発色現像方式印画<br>44.6×56cm<br>2017-00-0009-000     | 22<br>今井俊介<br>untitled<br>2017年<br>アクリル／カンヴァス<br>144×115cm<br>2017-00-0022-000                         | 35<br>加藤 泉<br>Untitled<br>2013年<br>ソフトビニール、発泡ウレタン、ステンレス<br>ボルトナット、ソフトビニール用塗料、蠟引<br>きの糸、台座(木)<br>115×70×60cm<br>2017-00-0077-000 | 47<br>末永史尚<br>Search Results<br>2011年<br>顔料、アクリル／綿布、パネル<br>50×50×3cm<br>2017-00-0089-000                |
| 10<br>松江泰治<br>JP-13 25<br>2017年<br>発色現像方式印画<br>44.6×56cm<br>2017-00-0010-000    | 23<br>狹野僚介<br>w2018×h871×d48<br>2000年<br>アクリル／カンヴァス<br>87.1×201.8cm<br>2017-00-0023-000                | 36<br>加藤 泉<br>Untitled<br>2013年<br>ソフトビニール、ステンレスボルトナット、<br>ソフトビニール用塗料、蠟引きの糸、台座<br>(木)<br>57×90×40cm<br>2017-00-0078-000         | 48<br>末永史尚<br>折り紙モール<br>2014年<br>油彩／合板<br>3.8×3.8×91cm<br>2017-00-0090-000                              |
| 11<br>松江泰治<br>JP-13 27<br>2017年<br>発色現像方式印画<br>44.6×56cm<br>2017-00-0011-000    | 24<br>狹野僚介<br>w1341×h1565×d39<br>2000年<br>アクリル／カンヴァス<br>156.5×134.1cm<br>2017-00-0024-000              | 37<br>加藤 泉<br>Untitled<br>2013年<br>ソフトビニール、発泡ウレタン、ステンレス<br>ボルトナット、ソフトビニール用塗料、蠟引<br>きの糸、台座(木)<br>127×37×37cm<br>2017-00-0079-000 | 49<br>末永史尚<br>水平器<br>2015年<br>アクリル／合板<br>45.5×5×2cm<br>2017-00-0091-000                                 |
| 12<br>松江泰治<br>JP-13 29<br>2017年<br>発色現像方式印画<br>44.6×56cm<br>2017-00-0012-000    | 25<br>狹野僚介<br>w1571×h771×d25<br>2010年<br>アクリル／カンヴァス<br>77.1×157.1cm<br>2017-00-0025-000                | 38<br>加藤 泉<br>Untitled<br>2014年<br>ソフトビニール、発泡ウレタン、ステンレス<br>ボルトナット、ソフトビニール用塗料、蠟引<br>きの糸、台座(木)<br>121×30×30cm<br>2017-00-0080-000 | 50<br>末永史尚<br>絵画<br>2016年<br>アクリル／合板<br>146×113×3cm<br>2017-00-0092-000                                 |
| 13<br>松江泰治<br>TYO 6212<br>2017年<br>発色現像方式印画<br>49.5×361.3cm<br>2017-00-0013-000 | 26<br>狹野僚介<br>w1051×h902×d40<br>2013年<br>アクリル／カンヴァス<br>90.2×105.1cm<br>2017-00-0026-000                | 51<br>末永史尚<br>絵画<br>2016年<br>アクリル／合板<br>146×113×3cm<br>2017-00-0093-000                                                         |                                                                                                         |

|                                                                                                                                    |                                                                                           |                                                                                                |                                                                                                      |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 52<br>末永史尚<br>絵画<br>2016年<br>アクリル／合板<br>130×97.5×2.5cm<br>2017-00-0094-000                                                         | 9<br>松本陽子<br>ドローイング<br>2004年<br>木炭、バステル／木炭紙<br>49.5×64cm<br>作家寄贈<br>2017-00-0040-000      | 21<br>朝倉 摂<br>1963<br>1963年<br>水性絵具、顔料／合板<br>260.5×195cm<br>伊藤亜古氏寄贈<br>2017-00-0052-000        | 33<br>朝倉 摂<br>【裸婦】<br>1956年<br>鉛筆／紙<br>47.3×30.6cm<br>伊藤亜古氏寄贈<br>2017-00-0064-000                    |
| 53<br>末永史尚<br>絵画<br>2016年<br>アクリル／合板<br>73×61×2cm<br>2017-00-0095-000                                                              | 10<br>松本陽子<br>生命体について<br>2010年<br>木炭、バステル／木炭紙<br>50×66cm<br>作家寄贈<br>2017-00-0041-000      | 22<br>朝倉 摂<br>神話の廃墟(1)<br>1964年<br>水性絵具、顔料／合板<br>93×134cm<br>伊藤亜古氏寄贈<br>2017-00-0053-000       | 34<br>朝倉 摂<br>【裸婦】<br>n.d.<br>コンテ／紙<br>49.2×35.5cm<br>伊藤亜古氏寄贈<br>2017-00-0065-000                    |
| 54<br>末永史尚<br>絵画<br>2016年<br>アクリル／合板<br>53×45×2cm<br>2017-00-0096-000                                                              | 11<br>松本陽子<br>生命体について<br>2010年<br>木炭、バステル／木炭紙<br>66×100cm<br>作家寄贈<br>2017-00-0042-000     | 23<br>朝倉 摂<br>【版画下絵】<br>1963年頃<br>インク／紙<br>66.1×26.6cm<br>伊藤亜古氏寄贈<br>2017-00-0054-000          | 35<br>朝倉 摂<br>【裸婦】<br>n.d.<br>コンテ／紙<br>49.2×35.5cm<br>伊藤亜古氏寄贈<br>2017-00-0066-000                    |
| 55<br>五月女哲平<br>He, She, You and Me<br>2012年<br>アクリル／カンヴァス<br>227.3×363.6cm<br>2017-00-0097-000                                     | 12<br>松本陽子<br>生命体について<br>2010年<br>木炭、バステル／木炭紙<br>66×100cm<br>作家寄贈<br>2017-00-0043-000     | 24<br>朝倉 摂<br>【版画下絵】<br>1963年頃<br>インク／紙<br>26.7×19.2cm<br>伊藤亜古氏寄贈<br>2017-00-0055-000          | 36<br>朝倉 摂<br>【『日本1958』のためのデッサン】<br>1958年<br>鉛筆／紙<br>12点：各30.7×35.5cm<br>伊藤亜古氏寄贈<br>2017-00-0067-000 |
| 56<br>五月女哲平<br>White, Black, Colors<br>2015年<br>アクリル／カンヴァス<br>201×362cm<br>2017-00-0098-000                                        | 13<br>松本陽子<br>エチュード<br>2009年<br>水彩、バステル、色鉛筆／紙<br>80.5×117.2cm<br>作家寄贈<br>2017-00-0044-000 | 25<br>朝倉 摂<br>【版画下絵】<br>1963年頃<br>インク／紙<br>26.7×19.2cm<br>伊藤亜古氏寄贈<br>2017-00-0056-000          | 37<br>朝倉 摂<br>【朝倉撰関連資料：スケッチブック<br>(9冊)】<br>1946-50年代<br>鉛筆、水彩等／紙<br>伊藤亜古氏寄贈<br>2017-00-0068-000      |
| 寄贈                                                                                                                                 |                                                                                           |                                                                                                |                                                                                                      |
| 1<br>松江泰治<br>TYO 101271-4v<br>2017年<br>映像<br>47分44秒<br>2017-00-0032-000                                                            | 14<br>松本陽子<br>エチュード<br>2011年<br>色鉛筆、バステル／紙<br>45×53.6cm<br>作家寄贈<br>2017-00-0045-000       | 26<br>朝倉 摂<br>【版画下絵】<br>1963年頃<br>インク／紙<br>37×26.7cm<br>伊藤亜古氏寄贈<br>2017-00-0057-000            | 38<br>朝倉 摂<br>【朝倉撰関連資料：舞台「シラノ・ド・ベ<br>ルジュラック」】<br>1967年<br>伊藤亜古氏寄贈<br>2017-00-0069-000                |
| 2<br>松江泰治<br>jp13v1<br>2017年<br>映像<br>32分58秒<br>2017-00-0033-000                                                                   | 15<br>松本陽子<br>エチュード<br>2011年<br>鉛筆／紙<br>44.8×53.8cm<br>作家寄贈<br>2017-00-0046-000           | 27<br>朝倉 摂<br>【バレエ】<br>1947年<br>鉛筆／紙<br>38.7×29.3cm<br>伊藤亜古氏寄贈<br>2017-00-0058-000             | 39<br>朝倉 摂<br>【朝倉撰関連資料：舞台「象」】<br>1970年<br>25.7×37.8cm<br>伊藤亜古氏寄贈<br>2017-00-0070-000                 |
| 3<br>文谷有佳里<br>なにもない風景を眺める 2010.10.10 aichi<br>2010年<br>インク／紙<br>54.5×78.8cm<br>作家、Gallery Jin Projects寄贈<br>2017-00-0034-000       | 16<br>松本陽子<br>エチュード<br>2011年<br>色鉛筆、鉛筆、バステル／紙<br>44.8×53.8cm<br>作家寄贈<br>2017-00-0047-000  | 28<br>朝倉 摂<br>【佐藤忠良】<br>1951年頃<br>鉛筆／紙<br>36.3×25.7cm<br>伊藤亜古氏寄贈<br>2017-00-0059-000           | 40<br>朝倉 摂<br>【朝倉撰関連資料：舞台「メテオール」】<br>1970年<br>伊藤亜古氏寄贈<br>2017-00-0071-000                            |
| 4<br>文谷有佳里<br>なにもない風景を眺める 2010.10.28 aichi<br>2010年<br>インク／紙<br>54.5×78.8cm<br>作家、Gallery Jin Projects寄贈<br>2017-00-0035-000       | 17<br>松本陽子<br>エチュード<br>2014年<br>色鉛筆、鉛筆、バステル／紙<br>42×29.1cm<br>作家寄贈<br>2017-00-0048-000    | 29<br>朝倉 摂<br>【(群れ)のためのデッサン】<br>1954年頃<br>鉛筆／紙<br>4点：各22.7×27cm<br>伊藤亜古氏寄贈<br>2017-00-0060-000 | 41<br>朝倉 摂<br>【朝倉撰関連資料：舞台「メディア」】<br>1978年<br>24.5×49.6cm<br>伊藤亜古氏寄贈<br>2017-00-0072-000              |
| 5<br>文谷有佳里<br>なにもない風景を眺める 2014.4-b AICHI<br>2014年<br>インク／紙<br>54.5×54.5cm<br>作家、Gallery Jin Projects寄贈<br>2017-00-0036-000         | 18<br>松本陽子<br>エチュード<br>2014年<br>色鉛筆、鉛筆、バステル／紙<br>42×29.1cm<br>作家寄贈<br>2017-00-0049-000    | 30<br>朝倉 摂<br>屏風ヶ浦の岬<br>1963年<br>コンテ／紙<br>32.3×50.3cm<br>伊藤亜古氏寄贈<br>2017-00-0061-000           | 42<br>朝倉 摂<br>【朝倉撰関連資料：写真資料】<br>1954年<br>伊藤亜古氏寄贈<br>2017-00-0073-000                                 |
| 6<br>文谷有佳里<br>なにもない風景を眺める 2014.4-d AICHI<br>2014年<br>インク／紙<br>54.5×54.5cm<br>作家、Gallery Jin Projects寄贈<br>2017-00-0037-000         | 19<br>朝倉 摂<br>群れ<br>1954年<br>顔料／カンヴァス<br>92.5×148.5cm<br>伊藤亜古氏寄贈<br>2017-00-0050-000      | 31<br>朝倉 摂<br>【屏風ヶ浦】<br>1963年<br>コンテ／紙<br>32.3×41cm<br>伊藤亜古氏寄贈<br>2017-00-0062-000             | 43<br>末永 史尚<br>ふせん<br>2016年<br>アクリル／合板<br>7.5×7.5×3cm<br>作家寄贈<br>2017-00-0099-000                    |
| 7<br>文谷有佳里<br>なにもない風景を眺める 2015.1.10<br>2015年<br>インク、鉛筆、カーボン／韓紙<br>2点組：各 215×149cm<br>作家、Gallery Jin Projects寄贈<br>2017-00-0038-000 | 20<br>朝倉 摂<br>【不詳】<br>n.d.<br>顔料／カンヴァス<br>93.5×119.5cm<br>伊藤亜古氏寄贈<br>2017-00-0051-000     | 32<br>朝倉 摂<br>【おんなの顔】<br>1956年<br>鉛筆／紙<br>39.1×26.9cm<br>伊藤亜古氏寄贈<br>2017-00-0063-000           | 44<br>末永 史尚<br>ふせん<br>2016年<br>アクリル／合板<br>10×4×1.5cm<br>作家寄贈<br>2017-00-0100-000                     |
| 8<br>荻野僚介<br>1.2kg<br>2010年<br>アクリル／カンヴァス<br>18.5×180cm<br>2017-00-0039-000                                                        |                                                                                           |                                                                                                | 45<br>五月女 哲平<br>Pair<br>2014年<br>アクリル／カンヴァス<br>116.5×116.5cm<br>2017-00-0101-000                     |

|                                                                                                          |                                                                                          |                                                                                           |                                                                                         |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 46<br>中野 淳<br>減びゆく風景(木場)<br>1976年<br>油彩/カンヴァス<br>72.7×91cm<br>中野蓉子氏寄贈<br>2017-00-0102-000                | 58<br>オノサト・トシノブ<br>円65-B<br>1964年<br>水彩/紙<br>29.8×39.9cm<br>福原義春氏寄贈<br>2017-00-0114-000  | 70<br>中原 實<br>昼の星雨<br>1930年<br>油彩/カンヴァス<br>73×53cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0126-000         | 82<br>中原 實<br>自然の中性<br>1947年<br>油彩/カンヴァス<br>72.5×100.5cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0138-000 |
| 47<br>中野 淳<br>青い水門<br>1975年<br>油彩/カンヴァス<br>41×53cm<br>中野蓉子氏寄贈<br>2017-00-0103-000                        | 59<br>中原 實<br>炭坑<br>1926年<br>水彩/紙<br>29.3×21cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0115-000            | 71<br>中原 實<br>遠い方へ(FAR-AWAY)<br>1931年<br>油彩/板<br>21.5×27cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0127-000 | 83<br>中原 實<br>無題(スポーツ)<br>1947年<br>油彩/カンヴァス<br>73×60.5cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0139-000 |
| 48<br>中野 淳<br>[中野淳関連資料：下町スケッチ]<br>1974-78年<br>鉛筆、水彩/ほか/紙<br>55点<br>中野蓉子氏寄贈<br>2017-00-0104-000           | 60<br>中原 實<br>モジリアニの美しき家婦<br>1923年<br>油彩/カンヴァス<br>71×38cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0116-000 | 72<br>中原 實<br>レモンのラビリンス<br>1931年<br>油彩/板<br>21.5×27cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0128-000      | 84<br>中原 實<br>兜の昇天<br>1948年<br>油彩/カンヴァス<br>96.5×162cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0140-000    |
| 49<br>朝倉 撰<br>[朝倉撰関連資料：舞台「メテオール」ポスター]<br>1970年<br>シルクスクリーン<br>75.5×51.0cm<br>伊藤亜古氏寄贈<br>2017-00-0105-000 | 61<br>中原 實<br>ヴィナスの誕生<br>1924年<br>油彩/カンヴァス<br>115×90cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0117-000    | 73<br>中原 實<br>白像<br>1931年<br>油彩/ボール紙<br>26×18cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0129-000            | 85<br>中原 實<br>顔<br>1948年<br>油彩/カンヴァス<br>45×45cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0141-000          |
| 50<br>オノサト・トシノブ<br>二つのかぼちゃ<br>1940年<br>油彩/カンヴァス<br>33.4×45.3cm<br>福原義春氏寄贈<br>2017-00-0106-000            | 62<br>中原 實<br>海水浴<br>1924年<br>油彩/カンヴァス<br>125×249cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0118-000       | 74<br>中原 實<br>西洋少女<br>1931年<br>油彩/カンヴァス<br>26.5×21.5cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0130-000     | 86<br>中原 實<br>多感<br>1949年<br>油彩/カンヴァス<br>112×194cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0142-000       |
| 51<br>オノサト・トシノブ<br>人々<br>1950年<br>油彩/カンヴァス<br>40.5×31.9cm<br>福原義春氏寄贈<br>2017-00-0107-000                 | 63<br>中原 實<br>ノスタルジア<br>1924年<br>油彩/カンヴァス<br>55×45cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0119-000      | 75<br>中原 實<br>ねむれる人形<br>1931年<br>油彩/カンヴァス<br>26.7×21.5cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0131-000   | 87<br>中原 實<br>丘<br>1949年<br>油彩/カンヴァス<br>96.5×193.5cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0143-000     |
| 52<br>オノサト・トシノブ<br>風体[風体 金魚]<br>1954年<br>油彩/カンヴァス<br>60.2×72.7cm<br>福原義春氏寄贈<br>2017-00-0108-000          | 64<br>中原 實<br>乾坤<br>1925年<br>油彩/カンヴァス<br>196×200cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0120-000        | 76<br>中原 實<br>心の噴火口<br>1933年<br>油彩/カンヴァス<br>38×38cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0132-000        | 88<br>中原 實<br>神々の数学<br>1950年<br>油彩/カンヴァス<br>203×278cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0144-000    |
| 53<br>オノサト・トシノブ<br>作品<br>1963年<br>油彩/カンヴァス<br>45.4×53cm<br>福原義春氏寄贈<br>2017-00-0109-000                   | 65<br>中原 實<br>アトミック No.2<br>1925年<br>油彩/カンヴァス<br>53×33cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0121-000  | 77<br>中原 實<br>脚部橋香<br>1934年<br>油彩/カンヴァス<br>22.5×16cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0133-000       | 89<br>中原 實<br>コック<br>1951年<br>油彩/カンヴァス<br>131×162cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0145-000      |
| 54<br>オノサト・トシノブ<br>円の動き<br>1966年<br>油彩/カンヴァス<br>35.5×35.5cm<br>福原義春氏寄贈<br>2017-00-0110-000               | 66<br>中原 實<br>月光と肖像(星と女性)<br>1929年<br>油彩/カンヴァス<br>53×41cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0122-000 | 78<br>中原 實<br>石原博士像<br>1936年<br>油彩/カンヴァス<br>64.5×53cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0134-000      | 90<br>中原 實<br>石<br>1953年<br>油彩/カンヴァス<br>60×72cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0146-000          |
| 55<br>オノサト・トシノブ<br>[不詳]<br>1959年<br>水彩/紙<br>22.5×31.5cm<br>福原義春氏寄贈<br>2017-00-0111-000                   | 67<br>中原 實<br>銀河の沐浴<br>1929年<br>油彩/カンヴァス<br>100×80cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0123-000      | 79<br>中原 實<br>魚の説<br>1938年<br>油彩/カンヴァス<br>90×131cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0135-000         | 91<br>中原 實<br>柳川<br>1953年<br>油彩/カンヴァス<br>59×71cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0147-000         |
| 56<br>オノサト・トシノブ<br>朱の分割円<br>1960年<br>水彩/紙<br>15.2×24.7cm<br>福原義春氏寄贈<br>2017-00-0112-000                  | 68<br>中原 實<br>無題<br>n.d.<br>油彩/カンヴァス<br>22.5×16cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0124-000         | 80<br>中原 實<br>復活<br>1938年<br>油彩/カンヴァス<br>91×34.5cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0136-000         | 92<br>中原 實<br>二村鎮二郎博士像<br>1953年<br>油彩/カンヴァス<br>72.5×53cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0148-000 |
| 57<br>オノサト・トシノブ<br>作品<br>1963年<br>水彩/紙<br>16.5×22cm<br>福原義春氏寄贈<br>2017-00-0113-000                       | 69<br>中原 實<br>猫の子<br>1929年<br>油彩/カンヴァス<br>33.5×53cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0125-000       | 81<br>中原 實<br>杉の子<br>1947年<br>油彩/カンヴァス<br>167×135cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0137-000        | 93<br>中原 實<br>レチ子像<br>1954年<br>油彩/カンヴァス<br>53×45.5cm<br>中原 泉氏寄贈<br>2017-00-0149-000     |

94  
中原 實  
入江  
1956年  
油彩/カンヴァス  
112×162cm  
中原 泉氏寄贈  
2017-00-0150-000

95  
中原 實  
花咲半島  
1956年  
油彩/カンヴァス  
131×162cm  
中原 泉氏寄贈  
2017-00-0151-000

96  
中原 實  
根室近く  
1958年  
油彩/カンヴァス  
131×161cm  
中原 泉氏寄贈  
2017-00-0152-000

97  
中原 實  
リザの人影振り  
1959年  
油彩/カンヴァス  
162.5×112cm  
中原 泉氏寄贈  
2017-00-0153-000

98  
中原 實  
外套  
n.d.  
油彩/カンヴァス  
41×27cm  
中原 泉氏寄贈  
2017-00-0154-000

99  
中原 實  
揖斐川石  
1961年  
油彩/カンヴァス  
116×72.5cm  
中原 泉氏寄贈  
2017-00-0155-000

100  
中原 實  
作品名不詳[鏡の中の四次元空間]  
n.d.  
油彩/カンヴァス  
108×82.5cm  
中原 泉氏寄贈  
2017-00-0156-000

## 平成30年度新収蔵作品

### 購入

1  
関根直子  
Mirror Drawing  
2017年  
鉛筆、色鉛筆、グワッシュ/パネル  
180×298cm  
2018-00-0001-000

2  
梅津庸一  
智・感・情・A  
2012-14年  
油彩/布、パネル  
4点組：各180.6×99.8cm  
2018-00-0002-000

3  
オノ・ヨーコ  
インスタレーション・ペインティング  
YES  
1952/2015年  
アクリル/カンヴァス  
100×100cm  
2018-00-0003-000

4  
オノ・ヨーコ  
インスタレーション・ペインティング  
TOUCH  
1962/2015年  
アクリル/カンヴァス  
100×100cm  
2018-00-0004-000

5  
オノ・ヨーコ  
インスタレーション・ペインティング  
IMAGINE  
1962/2015年  
アクリル/カンヴァス  
100×100cm  
2018-00-0005-000

6  
オノ・ヨーコ  
インスタレーション・ペインティング  
FEEL  
1963/2015年  
アクリル/カンヴァス  
100×100cm  
2018-00-0006-000

7  
オノ・ヨーコ  
インスタレーション・ペインティング  
FLY  
1963/2015年  
アクリル/カンヴァス  
100×100cm  
2018-00-0007-000

8  
オノ・ヨーコ  
インスタレーション・ペインティング  
DREAM  
1964/2015年  
アクリル/カンヴァス  
100×100cm  
2018-00-0008-000

9  
オノ・ヨーコ  
インスタレーション・ペインティング  
OPEN  
1964/2015年  
アクリル/カンヴァス  
100×100cm  
2018-00-0009-000

10  
オノ・ヨーコ  
インスタレーション・ペインティング  
WATER  
1964/2015年  
アクリル/カンヴァス  
100×100cm  
2018-00-0010-000

11  
オノ・ヨーコ  
インスタレーション・ペインティング  
BREATHE  
1966/2015年  
アクリル/カンヴァス  
100×100cm  
2018-00-0011-000

12  
オノ・ヨーコ  
インスタレーション・ペインティング  
REMEMBER  
1999/2015年  
アクリル/カンヴァス  
100×100cm  
2018-00-0012-000

13  
オノ・ヨーコ  
インスタレーション・ペインティング  
REACH  
1999/2015年  
アクリル/カンヴァス  
100×100cm  
2018-00-0013-000

14  
オノ・ヨーコ  
インスタレーション・ペインティング  
FORGET  
1999/2015年  
アクリル/カンヴァス  
100×100cm  
2018-00-0014-000

15  
オノ・ヨーコ  
握手をする絵  
1962/2015年  
切り込みを入れた、白いジェッソのカン  
ヴァス  
180×90cm  
2018-00-0015-000

16  
小林正人  
Unnamed #18  
2000年  
油彩、カンヴァス、木  
250×330cm  
2018-00-0021-000

17  
小林正人  
この星へ #2  
2009年  
油彩、アクリル、カンヴァス、木  
185×262cm  
2018-00-0022-000

18  
白川昌生  
赤一彫刻  
1982年  
オイルパステル、鉛筆/紙  
144.5×231cm  
2018-00-0023-000

19  
白川昌生  
赤一彫刻  
1983年  
オイルパステル、鉛筆/紙  
157×180cm  
2018-00-0024-000

20  
白川昌生  
赤一彫刻  
1985年  
オイルパステル、鉛筆/紙  
150×120cm  
2018-00-0025-000

21  
白川昌生  
赤一彫刻  
1985年  
オイルパステル、鉛筆/紙  
120×150cm  
2018-00-0026-000

22  
白川昌生  
赤一彫刻  
1984-87年  
オイルパステル、鉛筆/紙  
110×267.5cm  
2018-00-0027-000

23  
ジョン・ヨンドウ  
古典と新作  
2018年  
3チャンネルHDビデオ  
43分42秒  
2018-00-0028-000

24  
ジョン・ヨンドウ  
《古典と新作》ドロロイング  
2018年  
煤/紙  
2018-00-0029-000

25  
梅沢和木  
とある現実の超風景2018ver  
2011/2018-2019年  
デジタルデータ  
2018-00-0030-000

26  
末松正樹  
作品(53-6)  
1953年  
油彩/カンヴァス  
90×116cm  
2018-00-0031-000

27  
鈴木昭男  
道草のすすめー「点音(おとだて)」and  
"no zo mi"  
2018-2019年  
コンクリート・プレート  
2018-00-0032-000

寄贈  
1  
藤松 博  
塚  
1967-68年  
油彩/カンヴァス  
46×65cm  
藤松曜氏寄贈  
2018-00-0016-000

2  
藤牧義夫  
[龍図]  
n.d.  
絹本着色(羽裏)  
118.5×133.8cm  
石島裕子氏寄贈  
2018-00-0017-000

3  
塩見允枝子  
「スペシャル・ポエム」(参加者によるオリ  
ジナル・レポート集)の写真資料  
1965-1975/2009年  
DVD(国立国際美術館所蔵の原資料から  
の複製)  
作家寄贈  
2018-00-0018-000

4  
阿部修也  
ナムジュン・バイク関連資料《皆既日蝕》  
2009/2018年  
9インチテレビ、11インチテレビ、資料一  
式  
阿部修也氏寄贈  
2018-00-0019-000

5  
ナム＝ジュン・バイク/久保田成子  
ナムジュン・バイクおよび久保田成子関連  
資料  
書簡、写真等  
阿部修也氏寄贈  
2018-00-0020-000

6  
小林正人  
この星のモデル  
2016年  
油彩、カンヴァス、木  
133×118×13cm  
作家寄贈  
2018-00-0033-000

7  
小林正人  
Flash #13  
2005年  
クレヨン、コンテ/紙  
32×45cm  
作家寄贈  
2018-00-0034-000

8  
小林正人  
Flash #18  
2005年  
クレヨン、コンテ/紙  
30×52cm  
作家寄贈  
2018-00-0035-000

9  
小林正人  
Flash #21  
2005年  
クレヨン、コンテ/紙  
38×52cm  
作家寄贈  
2018-00-0036-000

10  
小林正人  
Flash #31  
2005年  
クレヨン、コンテ/紙  
37.5×45cm  
作家寄贈  
2018-00-0037-000

11  
小林正人  
Flash #34  
2005年  
クレヨン、コンテ/紙  
作家寄贈  
2018-00-0038-000

12  
末松正樹  
[1944.10.30]  
1944年  
鉛筆/紙  
24×31.5  
香山マリエ氏寄贈  
2018-00-0039-000

|                                                                                            |                                                                                            |                                                                                                                |                                                                                                         |
|--------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 13<br>末松正樹<br>[1944.11.13]<br>1944年<br>鉛筆／紙<br>31.4×24cm<br>香山マリエ氏寄贈<br>2018-00-0040-000   | 25<br>末松正樹<br>[1945.1.26-27]<br>1945年<br>鉛筆／紙<br>24×31.8cm<br>香山マリエ氏寄贈<br>2018-00-0052-000 | 37<br>末松正樹<br>[1945.10.29]<br>1945年<br>鉛筆／紙<br>24.2×31.5cm<br>香山マリエ氏寄贈<br>2018-00-0064-000                     | 49<br>飯田清三<br>[砲撃]<br>1902年<br>油彩／カンヴァス<br>65.3×134.7cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0076-000           |
| 14<br>末松正樹<br>[1944.11.20]<br>1944年<br>鉛筆／紙<br>31.5×24cm<br>香山マリエ氏寄贈<br>2018-00-0041-000   | 26<br>末松正樹<br>[1945.2.9]<br>1945年<br>鉛筆／紙<br>24×32cm<br>香山マリエ氏寄贈<br>2018-00-0053-000       | 38<br>末松正樹<br>[1945.12.29]<br>1945年<br>鉛筆／紙<br>24×31.3cm<br>香山マリエ氏寄贈<br>2018-00-0065-000                       | 50<br>石井柏亭<br>[西部蘇滿国境(警備)]<br>1942年<br>水彩／紙<br>118×36.5cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0077-000         |
| 15<br>末松正樹<br>[1944.12.29]<br>1944年<br>鉛筆／紙<br>24×31.8cm<br>香山マリエ氏寄贈<br>2018-00-0042-000   | 27<br>末松正樹<br>[1945.2.22]<br>1945年<br>鉛筆／紙<br>24×31.3cm<br>香山マリエ氏寄贈<br>2018-00-0054-000    | 39<br>末松正樹<br>[1950年代初頭]<br>1950年代初頭<br>鉛筆／紙<br>25.5×22cm<br>香山マリエ氏寄贈<br>2018-00-0066-000                      | 51<br>石井柏亭<br>[楊樹(北京郊外風景)]<br>1943年<br>油彩／カンヴァス<br>44×59.1cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0078-000      |
| 16<br>末松正樹<br>[1944.12.10]<br>1944年<br>鉛筆／紙<br>24×31.5cm<br>香山マリエ氏寄贈<br>2018-00-0043-000   | 28<br>末松正樹<br>[1945.2.24]<br>1945年<br>鉛筆／紙<br>24×31.3cm<br>香山マリエ氏寄贈<br>2018-00-0055-000    | 40<br>鶴岡政男<br>白樺之図<br>1946年<br>油彩／板<br>33×23.6cm<br>よしだひろこ氏寄贈<br>2018-00-0067-000                              | 52<br>石井柏亭<br>[爆撃機]<br>1943年<br>油彩／カンヴァス<br>52×71.6cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0079-000             |
| 17<br>末松正樹<br>[1944.12.13]<br>1944年<br>鉛筆／紙<br>24.3×31.8cm<br>香山マリエ氏寄贈<br>2018-00-0044-000 | 29<br>末松正樹<br>[1945.4.4]<br>1945年<br>色鉛筆／紙<br>24.7×32cm<br>香山マリエ氏寄贈<br>2018-00-0056-000    | 41<br>マーク・マンダース<br>黄色のコンポジション<br>2017-2018年<br>ブロンズに彩色、木、プラスチック<br>162.5×66.5×77cm<br>作家寄贈<br>2018-00-0068-000 | 53<br>石川寅治<br>[零戦の前(加藤舜孝海軍中尉)]<br>n.d.<br>墨、木炭？／紙<br>23.5×14.3cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0080-000  |
| 18<br>末松正樹<br>[1944.12.15]<br>1944年<br>鉛筆／紙<br>24.2×31.7cm<br>香山マリエ氏寄贈<br>2018-00-0045-000 | 30<br>末松正樹<br>[1945.5.23]<br>1945年<br>鉛筆／紙<br>24×31.3cm<br>香山マリエ氏寄贈<br>2018-00-0057-000    | 42<br>高田安規子・政子<br>修復／東京都現代美術館(入口壁面)<br>2014年<br>ミクストメディア<br>作家寄贈<br>2018-00-0069-000                           | 54<br>伊原宇三郎<br>[帝国憲法発布50周年記念式典]<br>1938年<br>油彩／カンヴァス<br>26×33.5cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0081-000 |
| 19<br>末松正樹<br>[1944.12.31]<br>1944年<br>鉛筆／紙<br>31.5×24cm<br>香山マリエ氏寄贈<br>2018-00-0046-000   | 31<br>末松正樹<br>[1945.5.28]<br>1945年<br>鉛筆／紙<br>24×31.1cm<br>香山マリエ氏寄贈<br>2018-00-0058-000    | 43<br>高田安規子・政子<br>修復／東京都現代美術館(スロープ 石畳)<br>2014年<br>ミクストメディア<br>作家寄贈<br>2018-00-0070-000                        | 55<br>伊原宇三郎<br>[陸軍上等兵]<br>n.d.<br>油彩／カンヴァス<br>64.3×52cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0082-000           |
| 20<br>末松正樹<br>[1945.1.6]<br>1945年<br>鉛筆／紙<br>32×24.5cm<br>香山マリエ氏寄贈<br>2018-00-0047-000     | 32<br>末松正樹<br>[1945.6.2]<br>1945年<br>鉛筆／紙<br>31.3×24.1cm<br>香山マリエ氏寄贈<br>2018-00-0059-000   | 44<br>浅井 忠<br>[軍楽隊]<br>n.d.<br>水彩／紙<br>35.5×23.4cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0071-000                       | 56<br>太田三郎<br>[靖国神社]<br>n.d.<br>油彩／カンヴァス<br>39.5×30.4cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0083-000           |
| 21<br>末松正樹<br>[1945.1.13]<br>1945年<br>鉛筆／紙<br>23.8×31.6cm<br>香山マリエ氏寄贈<br>2018-00-0048-000  | 33<br>末松正樹<br>[1945.6.27]<br>1945年<br>鉛筆／紙<br>24×31.6cm<br>香山マリエ氏寄贈<br>2018-00-0060-000    | 45<br>麻生 豊<br>戦後焼跡賑わい風景1<br>1946年<br>紙本彩色<br>27.4×114cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0072-000                  | 57<br>織田一磨<br>警戒管制の街<br>1944年<br>リトグラフ<br>37×51cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0084-000                 |
| 22<br>末松正樹<br>[1945.1.16]<br>1945年<br>鉛筆／紙<br>24.1×31.8cm<br>香山マリエ氏寄贈<br>2018-00-0049-000  | 34<br>末松正樹<br>[1945.9.26]<br>1945年<br>鉛筆／紙<br>24×31.4cm<br>香山マリエ氏寄贈<br>2018-00-0061-000    | 46<br>麻生 豊<br>戦後焼跡賑わい風景2<br>1946年<br>紙本彩色<br>27.4×114cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0073-000                  | 58<br>片岡銀蔵<br>廬山山麓 野砲隊陣地<br>n.d.<br>油彩／カンヴァス<br>48.4×59.7cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0085-000       |
| 23<br>末松正樹<br>[1945.1.23]<br>1945年<br>鉛筆／紙<br>23.8×31.7cm<br>香山マリエ氏寄贈<br>2018-00-0050-000  | 35<br>末松正樹<br>[1945.10.6]<br>1945年<br>鉛筆／紙<br>24×32cm<br>香山マリエ氏寄贈<br>2018-00-0062-000      | 47<br>[中国戦線演芸大会]<br>1938年頃<br>油彩／カンヴァス<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0074-000                                   | 59<br>鹿子木孟郎<br>南京入城<br>n.d.<br>鉛筆、水彩／紙<br>27.9×73cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0086-000               |
| 24<br>末松正樹<br>[1945.1.25]<br>1945年<br>鉛筆／紙<br>24×32cm<br>香山マリエ氏寄贈<br>2018-00-0051-000      | 36<br>末松正樹<br>[1945.10.14]<br>1945年<br>鉛筆／紙<br>32×24cm<br>香山マリエ氏寄贈<br>2018-00-0063-000     | 48<br>阿部合成<br>顔<br>1937(1935?)年<br>油彩／カンヴァス<br>63.5×48.5cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0075-000               | 60<br>川上冬崖<br>[幕兵訓練図]<br>n.d.<br>鉛筆、水彩／紙<br>58×50.4cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0087-000             |

|                                                                                                            |                                                                                                         |                                                                                                         |                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 61<br>川島理一郎<br>薄暮の突撃<br>n.d.<br>顔料／紙<br>12.3×22.7cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0088-000                  | 73<br>佐藤照雄<br>地下道の眠り<br>1947-1956年<br>鉛筆、コンテ、水彩、コラージュ等／紙<br>27点<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0100-000   | 85<br>田中佐一郎<br>[戦場]<br>1945年<br>油彩／カンヴァス<br>129×161.2cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0112-000           | 97<br>中村研一<br>[コダバル]<br>n.d.<br>墨、インク／紙<br>22×32cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0124-000           |
| 62<br>川村清雄<br>黄海大海戦<br>1896年以前<br>油彩／カンヴァス<br>33×63cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0089-000                | 74<br>清水登之<br>[小磯国昭陸軍大将]<br>1924年<br>油彩／カンヴァス<br>51.8×44.2cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0101-000      | 86<br>田中佐一郎<br>[突撃兵(戦闘)]<br>n.d.<br>油彩／カンヴァス<br>33×63cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0113-000           | 98<br>中村研一<br>軍港(ペナン)<br>n.d.<br>油彩／板<br>14.5×21.5cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0125-000         |
| 63<br>北 蓮蔵<br>[行軍]<br>1938-39年頃<br>油彩／カンヴァス<br>25×32.5cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0090-000             | 75<br>清水登之<br>[中国の子供と遊ぶ宣撫班]<br>n.d.<br>グワッシュ／紙<br>31×39cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0102-000         | 87<br>田村孝之介<br>[二人の兵士]<br>n.d.<br>油彩／カンヴァス<br>44×36.5cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0114-000           | 99<br>中村研一<br>[色紙]<br>n.d.<br>墨、水彩、インク／紙<br>26×23cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0126-000          |
| 64<br>北川民次<br>[軍事産業(下絵)]<br>n.d.<br>鉛筆、水彩／紙<br>30.7×61.2cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0091-000           | 76<br>清水登之<br>[赤十字上海街頭病院バス]<br>1938年頃<br>水彩／紙<br>23.3×32.4cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0103-000      | 88<br>鶴田吾郎<br>黄河第一線に立つ歩哨<br>1939年<br>油彩／カンヴァス<br>51.8×71.7cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0115-000      | 100<br>奈良岡正夫<br>[従軍記者]<br>1944年<br>油彩／カンヴァス<br>81.7×107.8cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0127-000  |
| 65<br>北川民次<br>[出征兵士]<br>1944年<br>コンテ?、水彩／紙<br>78.5×63cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0092-000              | 77<br>清水登之<br>[汪主席と中国参戦のための習作]<br>1943年<br>ペン、水彩／紙<br>23.5×26.2cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0104-000 | 89<br>鶴田吾郎<br>戦時下の鉄工所<br>n.d.<br>コンテ／紙<br>26.7×42.5cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0116-000             | 101<br>橋本八百二<br>[戦闘図]<br>n.d.<br>油彩／カンヴァス<br>52.7×145.6cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0128-000    |
| 66<br>熊岡美彦<br>[虎門砲台攻撃]<br>1939-41年頃<br>油彩／カンヴァス<br>44.2×51.6cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0093-000       | 78<br>新海覚雄<br>独立はしたが?<br>1952年<br>油彩／カンヴァス<br>145.4×97cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0105-000          | 90<br>寺内萬治郎<br>[海軍青年士官]<br>1942年頃?<br>油彩／カンヴァス<br>51.6×44.5cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0117-000     | 102<br>長谷川路可<br>[古賀峯一海軍大将]<br>1934年<br>鉛筆／紙<br>37×14.7cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0129-000     |
| 67<br>粟原 信<br>シンガポール最後の日(ブキテマ高地)<br>1942年<br>油彩／カンヴァス<br>35.5×24.6cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0094-000 | 79<br>鈴木 満<br>[青年士官]<br>1942年<br>油彩／カンヴァス<br>160×128.5cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0106-000          | 91<br>東城鉦太郎<br>[南山激戦図]<br>1906年<br>油彩／カンヴァス<br>30.2×83.4cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0118-000        | 103<br>深沢史朗<br>[河南省修式にて]<br>n.d.<br>墨、水彩／紙<br>30×14.3cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0130-000      |
| 68<br>粟原 信<br>[山下泰文像]<br>1942年?<br>鉛筆／紙<br>36.5×25cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0095-000                 | 80<br>須田国太郎<br>[戦争戯画]<br>n.d.<br>油彩／ボール紙<br>48×91.3cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0107-000             | 92<br>東城鉦太郎<br>[大正天皇御像]<br>1916年<br>油彩／カンヴァス<br>48×36cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0119-000           | 104<br>福沢一郎<br>[魚雷攻撃]<br>n.d.<br>油彩／カンヴァス<br>58.8×89.2cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0131-000     |
| 69<br>粟原 信<br>[クッキー 28点]<br>1942年頃<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0096-000                                   | 81<br>関谷 陽<br>[夜襲]<br>1940年<br>油彩／カンヴァス<br>71.3×90cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0108-000              | 93<br>東城鉦太郎<br>海戦<br>n.d.<br>油彩／紙<br>13.5×29.5cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0120-000                  | 105<br>藤田嗣治<br>千人針<br>1937年<br>油彩／カンヴァス<br>15.3×21cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0132-000         |
| 70<br>初代 五姓田芳柳<br>明治天皇御像<br>1883年<br>絹本彩色<br>48.3×33.8cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0097-000             | 82<br>田中佐一郎<br>[赤田張の歩哨]<br>1937年<br>油彩／カンヴァス<br>28.5×41cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0109-000         | 94<br>中村研一<br>[上海(北站)]<br>1937年<br>油彩／カンヴァス<br>30.6×40cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0121-000          | 106<br>藤田嗣治<br>[パレンバン落下傘部隊]<br>n.d.<br>油彩／カンヴァス<br>59.2×44cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0133-000 |
| 71<br>小早川篤四郎<br>[南方據点]<br>1940年<br>油彩／板<br>23.1×32.2cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0098-000               | 83<br>田中佐一郎<br>赤田張夜営<br>1940年<br>油彩／カンヴァス<br>192.1×257.3cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0110-000        | 95<br>中村研一<br>麗水飛行場爆撃<br>1942年<br>バステル、水彩／紙<br>21.6×59.2cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0122-000        | 107<br>藤田嗣治<br>神域の春<br>1944年以前<br>油彩／カンヴァス<br>30×40cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0134-000        |
| 72<br>小早川篤四郎<br>[マニラ湾の落日(昭南泊地)]<br>1942年<br>油彩／板<br>31×43.1cm<br>2018-00-0099-000<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈        | 84<br>田中佐一郎<br>ビルマ戦線<br>1941年<br>油彩／カンヴァス<br>128.8×161.8cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0111-000        | 96<br>中村研一<br>[青年航空士官(レイテ突撃前夜)]<br>1945年<br>油彩／カンヴァス<br>51.6×44cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0123-000 | 108<br>藤田嗣治<br>[兵士]<br>1943年<br>コンテ?／紙<br>33×25.5cm<br>福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈<br>2018-00-0135-000          |

109  
藤田嗣治  
[戦車(砲身にしがみつく)]  
n.d.  
水彩/紙  
16.5×27.3cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0136-000

110  
藤田嗣治  
[海洋爆撃(空中戦)]  
n.d.  
油彩/板  
23×31.4cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0137-000

111  
藤田嗣治  
[ジャングルを進む戦車]  
n.d.  
鉛筆、水彩?/紙  
25.5×17cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0138-000

112  
藤田嗣治  
[戦車隊(進撃する戦車隊)]  
n.d.  
油彩/カンヴァス  
31.5×43.8cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0139-000

113  
三迫星洲  
樺太国境  
1934年  
油彩/カンヴァス  
59×79cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0140-000

114  
宮本三郎  
出征  
1944年  
鉛筆/紙  
29.5×23cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0141-000

115  
宮本三郎  
[香港ニコルソン山下の激戦]  
1944年  
油彩/カンヴァス  
48.3×63.4cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0142-000

116  
宮本三郎  
[海軍落下傘部隊メナド空襲]  
1945年  
油彩/カンヴァス  
63.7×89.2cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0143-000

117  
宮本三郎  
[鉄条網を切る兵士]  
n.d.  
鉛筆、水彩/紙  
29.3×22.9cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0144-000

118  
宮本三郎  
[兵士]  
n.d.  
油彩/カンヴァス  
43.1×34.6cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0145-000

119  
宮本三郎  
[少年航空兵]  
n.d.  
油彩/カンヴァス  
90.6×58.7cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0146-000

120  
向井潤吉  
八達嶺敬台  
1937年  
油彩/板  
34×23cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0147-000

121  
向井潤吉  
山西省大同府 西門附近  
1937年  
油彩/板  
12.8×17cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0148-000

122  
向井潤吉  
通州の南門  
1937年  
油彩/板  
31.1×40cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0149-000

123  
向井潤吉  
好日 山西大同府  
1938年  
油彩/カンヴァス  
37.9×45cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0150-000

124  
向井潤吉  
影(蘇州上空)  
1938年  
油彩/カンヴァス  
86.5×92.5cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0151-000

125  
向井潤吉  
西貢所見  
1943年頃  
水彩/絹  
27×24cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0152-000

126  
向井潤吉  
[兵士]  
n.d.  
油彩/カンヴァス  
28×37cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0153-000

127  
吉田遠志  
相生造船所  
n.d.  
油彩/カンヴァス  
128×78.5cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0154-000

128  
吉田 博  
黄河砲戦  
n.d.  
油彩/カンヴァス  
44×59.3cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0155-000

129  
和田香苗  
余栄  
1944年  
油彩/カンヴァス  
89.5×115.4cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0156-000

130  
和田三造  
昭和職業絵巻 旗屋  
1939-1941年  
木版  
26.2×35.8cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0157-000

131  
[不詳(軍事演習)]  
1909年?  
油彩/カンヴァス  
31×64.3cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0158-000

132  
[不詳(ヒンデンブルクとルーデンドルフ)]  
n.d.  
油彩/カンヴァス  
513×710cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0159-000

133  
[不詳(読書)]  
n.d.  
油彩/カンヴァス  
37.5×26.5cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0160-000

134  
[不詳(歩哨)]  
1942年  
油彩/ボード  
30.9×40cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0161-000

135  
[不詳(兵士たち)]  
1940年  
水彩/紙  
33.1×46.1cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0162-000

136  
[陸軍少年飛行兵]  
1944年  
(ポスター)  
73.5×51cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0163-000

137  
[支那事変国債]  
n.d.  
(ポスター)  
77×51cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0164-000

138  
[支那事変国債]  
n.d.  
(ポスター)  
77×51cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0165-000

139  
[昂る戦力落ち行く敵機]  
n.d.  
(ポスター)  
52×36.5cm  
福富太郎氏・中村くみ子氏寄贈  
2018-00-0166-000



#### [4] 作品貸出状況

##### 平成28年度作品貸出状況

| 年度   | 平成29年度 | 平成30年度 | 年度    | 平成29年度 | 平成30年度 |
|------|--------|--------|-------|--------|--------|
| 貸出件数 | 24     | 20     | 貸出作品数 | 117    | 58     |

| 貸出内訳    | 平成29年度 | 平成30年度 | 貸出作品内訳 | 平成29年度 | 平成30年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 公立美術館   | 20     | 15     | 油彩画    | 63     | 18     |
| 私立美術館   | 1      | 1      | 日本画    | 9      | 2      |
| その他新聞社等 | 1      | 1      | 彫刻・工芸  | 8      | 3      |
| 海外      | 2      | 3      | 素描・水彩  | 10     | 6      |
|         |        |        | 版画     | 14     | 17     |
|         |        |        | 写真・映像  | 5      | 12     |
|         |        |        | その他    | 7      | 0      |
|         |        |        | 二次資料   | 1      | 0      |

#### [5] 美術資料の修復

##### 平成29年度

- 横堀角次郎《自画像》1915年、油彩／板、33×23.7cm  
処置内容：絵具の浮き上がり接着、画面洗浄、絵具欠損部の充填整形、補彩、ワニス塗布
- 横堀角次郎《鶴沼小景》1922年、油彩／板、32×41cm  
処置内容：絵具の浮き上がり接着、画面洗浄、耳補強、ルースライニング、絵具欠損部の充填整形、補彩、ワニス塗布、額縁の修理、木枠新調
- オノサト・トシノブ《長崎の並木道》1934年、油彩／カンヴァス、73×91cm  
処置内容：絵具の浮き上がり接着、画面洗浄、耳補強と変形修正、木枠新調と張り込み、ルースライニング、補彩、ワニス塗布
- オノサト・トシノブ《長崎のオレンジ屋敷》1934年、油彩／カンヴァス、60.7×72.8cm  
処置内容：絵具の浮き上がり接着、画面洗浄、耳補強と変形修正、補彩、ワニス塗布
- 棚田康司《12のトルソ No.2 山からの少女は谷に現れる》2016年、マンゴー材に彩色、銀箔、40×25×23cm  
処置内容：変色箇所には箔を再接着
- 高松次郎《遠近法のテーブル》1967年、ラッカー／木 110×145×210cm  
処置内容：擦傷部分の汚れ除去及び亀裂部分の接着、剥落箇所の充填補彩、テーブルと椅子のぐらつき改善及び隙間の充填、テーブルと椅子の脚先端部と台部タボ穴の調整作業
- 高松次郎《扉の影》1968年、ラッカー／木 180×380×10cm  
処置内容：全体のクリーニング、剥落部分及び青色塗料の亀裂剥落箇所の接着強化、剥落箇所の充填成型及び補彩
- 朝倉撰《1963》1963年、顔料／合板、260.5×195cm  
処置内容：絵具の浮き上がり接着、画面洗浄、破損部接着、裏面清掃、釘部さび止め、補彩
- 朝倉撰《神話の廃墟(1)》1964年、顔料／合板、93×134cm  
処置内容：絵具の浮き上がり接着、画面洗浄、裏面清掃、釘部さび止め、補彩、額縁修理
- 朝倉撰《群れ》1954年、顔料／カンヴァス、92.5×148.5cm  
処置内容：絵具の浮き上がり接着、画面洗浄、裏面清掃、裏板取り付け、額縁修理
- 朝倉撰《不詳》制作年不詳、顔料／カンヴァス、93.5×119.5cm  
処置内容：絵具の浮き上がり接着、画面洗浄、裏面清掃、補彩、裏板取り付け、額縁修理
- オノサト・トシノブ《六丸》1956年、油彩／カンヴァス、16×23cm  
処置内容：絵具層の浮き上がり接着、殺菌、画面洗浄
- オノサト・トシノブ《作品-77》1977年、油彩／カンヴァス、33.4×45.3cm  
処置内容：黴の除去
- オノサト・トシノブ《牡丹》1940年、油彩／板、30×30cm  
処置内容：絵具層の浮き上がり接着、付着物の処置
- オノサト・トシノブ《旅》1950年、油彩／カンヴァス、65.2×91cm  
処置内容：絵具層の浮き上がり接着、裏面清掃、画面の張り調整
- オノサト・トシノブ《赤の線の鳥》1953年、油彩／カンヴァス、50.3×65.4cm  
処置内容：絵具層の浮き上がり接着、画面洗浄
- オノサト・トシノブ《白い半月》1950年、油彩／カンヴァス、53×45.6cm  
処置内容：亀裂抑え
- オノサト・トシノブ《三つのシルエット》1951年、油彩／カンヴァス、41.3×31.8cm  
処置内容：絵具層の浮き上がり接着、画面洗浄
- オノサト・トシノブ《黒い雪だるま》1954年、油彩／カンヴァス、38×45.8cm  
処置内容：絵具層の浮き上がり接着、画面洗浄
- オノサト・トシノブ《構成》1954年、油彩／カンヴァス、33.3×45.8cm  
処置内容：絵具層の浮き上がり接着、タッカー交換
- 榎倉康二《一つのしみ No.1》1975年 シルクスクリーン 75.5×106.8cm  
処置内容：経年による額縁の擦れ部分の補彩
- 中山嶽《風景》1954年、油彩／カンヴァス、60.6×50cm  
処置内容：ガラスのクリーニング、裏板の固定方法の変更、吊金具の取付
- 柚木久太《八甲田大岳より》油彩／カンヴァス、45.5×53cm  
処置内容：ガラスのクリーニング、吊金具の取付
- 松本弘二《芍薬》1962年、油彩／カンヴァス、53×45.5cm  
処置内容：ガラスのクリーニング、裏板の固定方法の変更
- 牧野虎雄《庭》1923年、油彩／カンヴァス、40.9×53cm  
処置内容：ガラスのクリーニング、裏板の固定方法の変更
- 牧野虎雄《朝顔》1943年、油彩／カンヴァス、60.6×45.5cm  
処置内容：額縁の剥離箇所の接着
- 池部鈞《おもちゃの娘》1956年、油彩／カンヴァス、91×60.5cm  
処置内容：絵画層の亀裂と浮き上がり接着、カンヴァスの額への固定方法変更

- 池部鈞《病後の人》1910年、油彩／カンヴァス、80.5×61cm  
処置内容：絵画層の亀裂と浮き上がり接着、裏面のクリーニング
- 池部鈞《母と子》1938年、油彩／カンヴァス、117×80.5cm  
処置内容：絵画層の亀裂と浮き上がり接着、裏面のクリーニング
- 池部鈞《杉並区永福町》1948年、油彩／カンヴァス、91.5×60.5cm  
処置内容：絵画層の亀裂と浮き上がり接着、裏面のクリーニング
- 福岡道雄《何もすることがない 僕達がピンク色の女王のアドバルーンとなるとき》1963年 木、廃品、石膏、ポリエチレン、サイズ可変  
処置内容：絵画層の剥離や亀裂の接着
- リチャード・ディーコン《かたつむりのように B》1987-96年、スチールに彩色、アルミニウム、488×516×473cm  
処置内容：クリーニング、ブラステイング、下地調整、防錆プライマー塗布、指定色塗装、ワックスコート、ボルト等取替

##### 平成30年度

- 中原實《自然の中性》1947年、油彩／カンヴァス、72.5×100.6cm  
処置内容：画面洗浄、浮き上がった裏打ち布の接着、補彩、ワニス塗布
- 中原實《コック》1951年、油彩／カンヴァス、131×162cm  
処置内容：絵具の浮き上がり接着、画面洗浄、耳補強、変形修正、補彩、ワニス塗布
- 中原實《レモンのラビリンス》1931年、油彩／板、21.5×27cm  
処置内容：絵具の浮き上がり接着、画面洗浄、充填整形、補彩、ワニス塗布
- オノサト・トシノブ《人々》1950年、油彩／カンヴァス、40.5×31.9cm  
処置内容：絵具層の浮き上がり接着、画面洗浄
- オノサト・トシノブ《赤の線の鳥》1953年、油彩／カンヴァス、50.3×65.4cm  
処置内容：絵具層の浮き上がり接着
- オノサト・トシノブ《旅》1950年、油彩／カンヴァス、65.2×91cm  
処置内容：絵具層の浮き上がり接着
- 白川昌生《赤一彫刻》1982年 オイルパステル、鉛筆/紙、144.5×231mm  
処置内容：旧処置の除去、裏面補強、破れや欠損部の補修
- 白川昌生《赤一彫刻》1983年 オイルパステル、鉛筆/紙、157×180mm  
処置内容：旧処置の除去、裏面補強、破れや欠損部の補修
- 白川昌生《赤一彫刻》1984-87年 オイルパステル、鉛筆/紙、144.5×231mm  
処置内容：旧処置の除去、裏面補強、破れや欠損部の補修
- 杉浦康平《FLUORESCENT CHRYSANTHEMUM》1969年、ポスター、109.5×78.5cm  
処置内容：破れや欠損部の補修等
- 映像作品の記録媒体の状態調査、長期保存に適した光学ディスクへのバックアップ
- マルタ・パン《裂けた球体》1984年、ポリエステル、220×220×124cm  
処置内容：内部調整、クリーニング、傷等の充填、全面脱脂、調色塗装、ワックスコート
- アンソニー・カロ《発見の塔》1991年、彩色した銅、671×554×554cm  
処置内容：クリーニング、全体研磨、防錆塗装、調色塗装、クリア塗装

## [6]規模改修工事の実施に伴う収蔵作品の館外保管と美術館への戻し入れ作業

平成29・30年度

- ・平成28年度末より開始された当館大規模改修工事のため、収蔵作品を種別や状態に応じて外部の美術品専用倉庫に移送・保管した。

平成30年度

- ・リニューアル・オープン記念展の開催にともない、展示予定作品を館内に戻し入れた。
- ・屋外各所に展示していた大型彫刻作品についても、外部美術倉庫から戻し入れ、再設置した。

## [7]その他

---

平成29年度

- ・外部美術倉庫等における昆虫生息調査を行った。
- ・東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻保存修復油画研究室(木島隆康教授)と歌田真介氏による収蔵作品状態調査を行った。

平成30年度

- ・展示室、収蔵庫、一時保管庫、図書室書庫内の環境調査および除塵防黴施工を行った。
- ・外部美術倉庫及び収蔵庫等における昆虫生息調査を行った。
- ・新収蔵作品等を中心に燻蒸を行った。
- ・東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻保存修復油画研究室(木島隆康教授)と歌田真介氏による収蔵作品状態調査を行った。

## I. 事業報告 | 7 美術図書室の活動

美術図書室は、館の美術情報センターの機能を担い、その機能のうち美術に関する図書資料情報を収集、整理、保存、提供することを活動の目的とする。

一般に公開された美術に関する専門図書館として、都民および一般の来館者に対し、図書資料情報の提供、閲覧、レファレンス、複写等のサービスを行うとともに、当館の美術館事業活動を支援する調査研究機関としての活動を行う。

### [1] 図書資料の収集

「東京都現代美術館図書資料収集方針」に基づき、1)日本および海外の現代美術に関するもの、2)それらを理解するために必要なものを購入および寄贈により収集した。

#### (1) 図書

29年度は、図書819冊(和図書665冊・洋図書154冊)、展覧会カタログ1,092冊(和カタログ881冊・洋カタログ211冊)の計1,911冊を新たに収集した。

30年度は、図書905冊(和図書777冊・洋図書128冊)、展覧会カタログ691冊(和カタログ556冊・洋カタログ135冊)の計1,596冊を新たに収集した。

都内公立図書館や個人等からの寄贈の申入れについては、その後の処理を当方に任せてもらうことを条件に受け入れている。

### [2] 図書資料の整理

#### (1) 整理業務

図書室所蔵資料は、平成28年6月から30年2月まで外部倉庫に移転・保管していたが、新規受入資料についてはリニューアル準備室および美術館で整理を実施した。

図書、展覧会カタログ、年鑑類の自館整理による新規整理冊数は、29年度1,930冊、30年度1,613冊である。新着雑誌および欠号、バックナンバー補充をした雑誌の受入(整理)冊数は、29年度2,236冊、30年度1,648冊である。

平成28年6月からの大規模改修工事に伴い、同年10月から30年9月まで図書室の機能はリニューアル準備室に移転し、工事終了後の30年10月より美術館での業務を再開した。平成31年3月29日の美術館リニューアル・オープンと同時に、美術館での利用者サービスを再開した。

#### (2) 雑誌

継続購入による閲覧用雑誌は、和61タイトル、洋29タイトルである。寄贈雑誌は、29年度35タイトル、30年度8タイトルを新たに受け入れた。また、所蔵雑誌の充実を図るため、和雑誌のバックナンバーおよび欠号の補充等に努めた。

#### (3) その他の図書資料

年鑑類は、29年度19冊、30年度17冊を新たに収集した。マイクロフィルムは29年度に20リールを新たに収集した。またリニューアル・オープン後にメディアブースで閲覧に供するために、視聴覚資料31点を新たに受け入れた。

#### (2) 図書資料保存対策

新規受入した図書資料については、必要に応じて中性紙の保護ケース(カイルラッパー)や保存用封筒等に収納した。

### [3]サービス業務

図書室機能がリニューアル準備室に移転している期間には、1日4人に限定してインターネット予約制による閲覧業務をおこなった。平成29年4月から予約受付を開始し、同年5月から30年6月まで合計53人が予約閲覧を利用した。リニューアル・オープン後、平成31年3月29日から31日までの入室者数は2,628人であった。

#### (1) 蔵書検索

平成15年9月より、インターネットによる蔵書検索システム(OPAC)を稼動した。アクセス件数は、毎月1万件を超えている。大規模改修工事期間以外は、来館者向けの図書資料の検索に、美術図書室内にOPAC端末を3台提供している。

#### (2) 閲 覧

平成29年5月から30年6月まで予約閲覧に対応し、外部保管している資料をトラックにより出納した。予約閲覧のための出納冊数は、197冊であった。またリニューアル・オープン後、平成31年3月29日から31日までの出納冊数は、62冊であった。

#### (3) レファレンス・サービス

美術に関する図書資料についての質問および所蔵状況の問合せ等(レファレンス)については、休館期間中も可能な限り対応した。リニューアル・オープン前は11件(電話等によるもの)、リニューアル・オープン後の平成31年3月29

日から31日までは、17件(電話および来館によるもの)のレファレンスがあった。FAXによる問合せ、文書による問い合わせは、平成13年以降中止している。

質問内容としては、特定作家の関連資料を求めるもの、過去に開催された展覧会カタログの所蔵確認が多い。これら質問等に当室所蔵図書資料で回答、提供できなかったものおよび今後のサービスに役立つ回答、調査経過等については、記録して活用している。

#### (4) 複写サービス

「東京都現代美術館美術図書室複写サービス実施要綱」に基づき、当室所蔵の図書資料について著作権の範囲内で複写サービスを実施している。複写サービスの利用は、29年度は1,349枚、30年度は142枚であった。

カメラ機材持ち込みによる図書資料撮影は、美術関係誌・展覧会カタログへの掲載やテレビ放映等を目的とするもの等について、著作権のある図書資料は著作権者の許諾書添付を条件として申込みを受け付けている。事前申込制であり、29・30年度の申込みは5件であった。

#### (5) 利用案内

美術館ホームページ上で、新着図書・カタログ・雑誌の紹介を継続的に掲載した。

またリニューアル・オープンにあわせて、図書室利用案内パンフレットを新たに制作・印刷して館内各所に設置したほか、関係機関に送付した。

### [4]美術館事業への支援・事業との連携

#### (1) 学芸活動及び調査研究への支援

企画展準備等に必要な図書資料の職員貸出を実施した。休館期間中、外部倉庫に保管中の資料についても、希望があれば出納して対応した。企画展関連図書資料の購入希望については、可能な限り対応するとともに、速やかに提供できるよう努めた。

#### (2) 企画展、MOTコレクション関連資料コーナー

企画展およびMOTコレクション関連資料コーナーを設け、当室の蔵書の中からこれらに関連する資料を随時展示・紹介した。

### [5]他の美術館・関係団体等との連携

#### (1) 団体貸出

当室所蔵図書資料を美術館等が展覧会展示に利用する場合に限り、「東京都現代美術館美術作品貸付要綱」に準拠し、団体貸出を実施している。29・30年度は、3件21点の貸出があった。

#### (2) 新着資料コーナーの設置

工事休館前に引き続き、リニューアル・オープン後も「新着資料コーナー」を設け、新しく受入れた図書、展覧会カタログを、継続的に紹介した。

#### (3) 美術図書館横断検索の実施

平成16年3月より、東京国立近代美術館、国立西洋美術館、横浜美術館、当館美術図書室の所蔵図書資料を、各館のホームページから横断的に検索できるサービスを開始した。平成18年3月には国立新美術館が加入、平成19年1月に東京都写真美術館、同年6月に東京国立博物館、同年7月に江戸東京博物館が加入、平成23年7月に神奈川県立近代美術館が加入、平成30年4月に国立映画アーカイブが加盟し、10館での実施となった。

## [6] 収蔵資料保全・保存に関する取り組み

### 補修作業

工事休館前は、特別整理および日常の業務において見出された破損資料の補修を実施していたが、29・30年度は外部倉庫に資料を保管していたため、主に新規受入や出納の際に見出さ

れた資料について補修作業をおこなった。また29年度に実施した「創作版画誌」の高精細デジタル撮影に伴い、創作版画誌全点についてカバーや袋を再作成、間紙の挿入、中性紙タトウ（ポケットフォルダー）への収納などの保護処理をおこなった。

## [7] その他の活動等

### (1) 視察、調査等への対応

美術図書室への視察、調査、アンケート等への受入・対応を行った。主な内容は、国内外美術館開設に伴う専門図書室設置のための調査や、図書資料の収集・整理等に関するものであった。

### (2) 貴重資料のデジタル化

劣化が進んでいるなどの理由で実物閲覧が困難な貴重資料については、高精細デジタル画像の撮影と公開を進め、保存と閲覧両面への便宜をはかっている。29年度には「創作版画誌」全点の撮影を実施し、リニューアル・オープン後にメディアブースで閲覧できるよう準備した。

## [8] リニューアル・オープン

### (1) 書架の増設

28年度からの当館大規模改修工事によって、地下1階の閲覧室のレイアウトおよび書架配置が大幅に変更された。また地下2階書庫は、改修前は大部分が固定式書架であったが、改修によって全面が移動式集密書架になり、資料の収納率が増加した。

### (2) 収蔵資料の再配架

外部倉庫に移転・保管していた収蔵資料については、リニューアル・オープンまでに新しい書架に再配架を実施した。作業にあたっては、新規に受入した資料の増加分も考慮に入れて、新しく配置された書架の容量から算出して各資料の分量に適した配架場所の検討を実施した。

### (3) 新設備の設置

#### こどもとしよしつ

「こどもとしよしつ」を新設し、美術作家が手がけた絵本などの子供向けの美術書を、独立した空間で閲覧できるようにした。小学校低学年以下の子供については、保護者による同伴を必要としている。

#### メディアブース

オンラインデータベースや視聴覚資料を閲覧できるメディアブースを新たに2基設置した。

[9]美術図書室の統計

(1) 図書資料の受入統計

① 図書・展覧会カタログ

|        |        | 都美より移管 | 3-20年度  | 21年度    | 22年度    | 23年度    | 24年度    | 25年度    | 26年度    | 27年度    | 28年度    | 29年度    | 30年度    | 計      |        |
|--------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|--------|
| 和書     | 図書     | 購入     | 20,634  | 20,183  | 564     | 333     | 424     | 450     | 462     | 631     | 544     | 418     | 414     | 319    | 45,376 |
|        |        | 寄贈     |         | 5,387   | 418     | 319     | 448     | 462     | 607     | 690     | 463     | 462     | 251     | 458    | 9,965  |
|        |        | 小計     | 20,634  | 25,570  | 982     | 652     | 872     | 912     | 1,069   | 1,321   | 1,007   | 880     | 665     | 777    | 55,341 |
|        | カタログ   | 購入     | 33,343  | 781     | 96      | 27      | 53      | 40      | 44      | 49      | 34      | 34      | 45      | 37     | 34,583 |
|        |        | 寄贈     |         | 17,683  | 1,718   | 1,017   | 1,731   | 1,075   | 1,520   | 1,510   | 1,321   | 1,107   | 836     | 519    | 30,037 |
|        |        | 小計     | 33,343  | 18,464  | 1,814   | 1,044   | 1,784   | 1,115   | 1,564   | 1,559   | 1,355   | 1,141   | 881     | 556    | 64,620 |
| 計      | 53,977 | 44,034 | 2,796   | 1,696   | 2,656   | 2,027   | 2,633   | 2,880   | 2,362   | 2,021   | 1,546   | 1,333   | 119,961 |        |        |
| 洋書     | 図書     | 購入     | 2,998   | 4,735   | 71      | 66      | 106     | 88      | 97      | 108     | 74      | 84      | 123     | 112    | 8,662  |
|        |        | 寄贈     |         | 749     | 51      | 35      | 66      | 19      | 57      | 169     | 62      | 130     | 31      | 16     | 1,385  |
|        |        | 小計     | 2,998   | 5,484   | 122     | 101     | 172     | 107     | 154     | 277     | 136     | 214     | 154     | 128    | 10,047 |
|        | カタログ   | 購入     | 1,076   | 3,279   | 126     | 139     | 118     | 148     | 132     | 116     | 101     | 47      | 113     | 85     | 5,480  |
|        |        | 寄贈     |         | 3,609   | 249     | 145     | 202     | 120     | 189     | 228     | 184     | 272     | 98      | 50     | 5,346  |
|        |        | 小計     | 1,076   | 6,888   | 375     | 284     | 320     | 268     | 321     | 344     | 285     | 319     | 211     | 135    | 10,826 |
| 計      | 4,074  | 12,372 | 497     | 385     | 492     | 375     | 475     | 621     | 421     | 533     | 365     | 263     | 20,873  |        |        |
| 合計     | 図書     | 購入     | 23,632  | 24,918  | 635     | 399     | 530     | 538     | 559     | 739     | 618     | 502     | 537     | 431    | 54,038 |
|        |        | 寄贈     |         | 6,136   | 469     | 354     | 514     | 481     | 664     | 859     | 525     | 592     | 282     | 474    | 11,360 |
|        |        | 小計     | 23,632  | 31,054  | 1,104   | 753     | 1,044   | 1,019   | 1,223   | 1,598   | 1,143   | 1,094   | 819     | 905    | 65,398 |
|        | カタログ   | 購入     | 34,419  | 4,060   | 222     | 166     | 171     | 188     | 176     | 165     | 135     | 81      | 158     | 122    | 40,063 |
|        |        | 寄贈     |         | 21,292  | 1,967   | 1,162   | 1,933   | 1,195   | 1,709   | 1,738   | 1,505   | 1,379   | 934     | 569    | 35,383 |
|        |        | 小計     | 34,419  | 25,352  | 2,189   | 1,328   | 2,104   | 1,383   | 1,885   | 1,903   | 1,640   | 1,460   | 1,092   | 691    | 75,446 |
| 年間増加冊数 | 購入     | 58,051 | 28,978  | 857     | 565     | 701     | 726     | 735     | 904     | 753     | 583     | 695     | 553     | 94,101 |        |
| 寄贈     | 27,428 | 2,436  | 1,516   | 2,447   | 1,676   | 2,373   | 2,597   | 2,030   | 1,971   | 1,216   | 1,043   | 46,733  |         |        |        |
| 小計     | 58,051 | 56,406 | 3,293   | 2,081   | 3,148   | 2,402   | 3,108   | 3,501   | 2,783   | 2,554   | 1,911   | 1,596   | 140,834 |        |        |
| 蔵書総数   |        | 58,051 | 114,457 | 117,750 | 119,831 | 122,979 | 125,381 | 128,489 | 131,990 | 134,773 | 137,327 | 139,238 | 140,834 | -      |        |

② マイクロ資料 ※14年度以降17年度まで、及び19-28年度受入実績なし

| 種別                 |      | 4年度  | 5年度 | 6年度   | 7年度   | 8年度 | 9年度 | 10年度 | 11年度 | 12年度 | 13年度 | 18年度 | 29年度 | 30年度 | 小計    | 計   |     |
|--------------------|------|------|-----|-------|-------|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|-------|-----|-----|
| マイクロフィルム<br>(35mm) | 自館制作 | マスター | -   | -     | -     | -   | 73  | 27   | 14   | -    | -    | -    | -    | -    | -     | 114 | 743 |
|                    |      | デュープ | -   | 3     | -     | -   | 73  | 27   | 14   | -    | 43   | -    | -    | -    | -     | 160 |     |
|                    | 購入   | デュープ | 157 | -     | -     | 50  | -   | 48   | -    | 38   | -    | 100  | 8    | 20   | -     | 421 |     |
|                    |      | 寄贈   | -   | -     | -     | -   | -   | -    | -    | 33   | 15   | -    | -    | -    | -     | 48  |     |
| マイクロフィルム<br>(16mm) | 自館制作 | マスター | 6   | 47    | -     | -   | -   | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -     | 53  | 108 |
|                    |      | デュープ | 7   | 48    | -     | -   | -   | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -     | 55  |     |
| 合計(リール)            | マスター | 6    | 47  | -     | -     | 73  | 27  | 14   | -    | 0    | -    | -    | -    | -    | 167   | 851 |     |
|                    | デュープ | 164  | 51  | -     | 50    | 73  | 75  | 14   | 71   | 58   | 100  | 8    | 20   | -    | 684   |     |     |
|                    | 計    | 170  | 98  | -     | 50    | 146 | 102 | 28   | 71   | 58   | 100  | 8    | 20   | -    | 851   |     |     |
| マイクロフィッシュ(枚)       | 購入   | デュープ | -   | 6,232 | 2,226 | -   | -   | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | 8,458 |     |     |

(2) 図書資料の整理統計

(29年度)

|   | 図書  | カタログ  | 年鑑 | 計       |
|---|-----|-------|----|---------|
| 和 | 665 | 881   | 19 | 1,565 冊 |
| 洋 | 154 | 211   | 0  | 365 冊   |
|   | 819 | 1,092 | 19 | 1,930 冊 |

(30年度)

|   | 図書  | カタログ | 年鑑 | 計       |
|---|-----|------|----|---------|
| 和 | 777 | 556  | 17 | 1,350 冊 |
| 洋 | 128 | 135  | 0  | 263 冊   |
|   | 905 | 691  | 17 | 1,613 冊 |

(3) 美術図書室利用統計

① 平成30年度(月別) ※平成29年度は開室なし

| 月                  | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計             |
|--------------------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|---------------|
| 開室日数               | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0  | 0  | 3  | 3日            |
| 入室者数<br>(日平均)      | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -   | -   | -   | -  | -  | -  | 2,628<br>876人 |
| レファレンス<br>(日平均)    | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -   | -   | -   | -  | -  | -  | 17<br>6件      |
| インフォメーション<br>(日平均) | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -   | -   | -   | -  | -  | -  | 132<br>44件    |
| 出納<br>(日平均)        | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -   | -   | -   | -  | -  | -  | 62<br>21冊     |
| 複写サービス<br>(日平均)    | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -   | -   | -   | -  | -  | -  | 142<br>47枚    |

## Ⅱ. 資料 | 1 統計資料

### [1]平成29年度東京都現代美術館月別利用統計

| 区分  | 展覧会入場者 |     |       | 講堂   |      |      | 第一研修室 |      |      | 第二研修室 |      |      |
|-----|--------|-----|-------|------|------|------|-------|------|------|-------|------|------|
|     | 企画展    | 常設展 | 計     | 開館日数 | 貸出日数 | 稼働率  | 開館日数  | 貸出日数 | 稼働率  | 開館日数  | 貸出日数 | 稼働率  |
| 月   | 人      | 人   | 人     | 日    | 日    | %    | 日     | 日    | %    | 日     | 日    | %    |
| 4月  | —      | —   | —     | —    | —    | —    | —     | —    | —    | —     | —    | —    |
| 5月  | —      | —   | —     | —    | —    | —    | —     | —    | —    | —     | —    | —    |
| 6月  | —      | —   | —     | —    | —    | —    | —     | —    | —    | —     | —    | —    |
| 7月  | —      | —   | —     | —    | —    | —    | —     | —    | —    | —     | —    | —    |
| 8月  | —      | —   | —     | —    | —    | —    | —     | —    | —    | —     | —    | —    |
| 9月  | —      | —   | —     | —    | —    | —    | —     | —    | —    | —     | —    | —    |
| 10月 | 3,797  | —   | 3,797 | —    | —    | —    | —     | —    | —    | —     | —    | —    |
| 11月 | 4,890  | —   | 4,890 | —    | —    | —    | —     | —    | —    | —     | —    | —    |
| 12月 | —      | —   | —     | —    | —    | —    | —     | —    | —    | —     | —    | —    |
| 1月  | —      | —   | —     | —    | —    | —    | —     | —    | —    | —     | —    | —    |
| 2月  | —      | —   | —     | —    | —    | —    | —     | —    | —    | —     | —    | —    |
| 3月  | —      | —   | —     | —    | —    | —    | —     | —    | —    | —     | —    | —    |
| 計   | 8,687  | 0   | 8,687 | 0    | 0    | 0.0% | 0     | 0    | 0.0% | 0     | 0    | 0.0% |

注：現代美術館は平成29年度は改修工事のため閉館していた。  
10月、11月の企画展入場者数は、清澄白河地区で開催したMOTサテライトの数である。

### [2]平成30年度東京都現代美術館月別利用統計

| 区分  | 展覧会入場者 |       |        | 講堂   |      |      | 第一研修室 |      |      | 第二研修室 |      |      |
|-----|--------|-------|--------|------|------|------|-------|------|------|-------|------|------|
|     | 企画展    | 常設展   | 計      | 開館日数 | 貸出日数 | 稼働率  | 開館日数  | 貸出日数 | 稼働率  | 開館日数  | 貸出日数 | 稼働率  |
| 月   | 人      | 人     | 人      | 日    | 日    | %    | 日     | 日    | %    | 日     | 日    | %    |
| 4月  | —      | —     | —      | —    | —    | —    | —     | —    | —    | —     | —    | —    |
| 5月  | —      | —     | —      | —    | —    | —    | —     | —    | —    | —     | —    | —    |
| 6月  | —      | —     | —      | —    | —    | —    | —     | —    | —    | —     | —    | —    |
| 7月  | —      | —     | —      | —    | —    | —    | —     | —    | —    | —     | —    | —    |
| 8月  | —      | —     | —      | —    | —    | —    | —     | —    | —    | —     | —    | —    |
| 9月  | —      | —     | —      | —    | —    | —    | —     | —    | —    | —     | —    | —    |
| 10月 | 5,069  | —     | 5,069  | —    | —    | —    | —     | —    | —    | —     | —    | —    |
| 11月 | 9,070  | —     | 9,070  | —    | —    | —    | —     | —    | —    | —     | —    | —    |
| 12月 | —      | —     | —      | —    | —    | —    | —     | —    | —    | —     | —    | —    |
| 1月  | —      | —     | —      | —    | —    | —    | —     | —    | —    | —     | —    | —    |
| 2月  | —      | —     | —      | —    | —    | —    | —     | —    | —    | —     | —    | —    |
| 3月  | 13,245 | 7,788 | 21,033 | —    | —    | —    | —     | —    | —    | —     | —    | —    |
| 計   | 27,384 | 7,788 | 35,172 | 0    | 0    | 0.0% | 0     | 0    | 0.0% | 0     | 0    | 0.0% |

注：現代美術館は平成30年度は改修工事のため閉館していたが、平成31年3月29日にリニューアルオープンした。  
10月、11月の企画展入場者数は、清澄白河地区で開催したMOTサテライトの数である。

II. 資料 | 2 平成29・30年度東京都現代美術館予算概要

II. 資料 | 3 運営組織

[1]公益目的事業(旧受託会計事業)

(千円)

| 事業名        | 予算額     |           |
|------------|---------|-----------|
|            | 29年度    | 30年度      |
| 美術館維持管理    | 17,384  | 336,536   |
| 常設展の開催     | 0       | 5,708     |
| 美術館教育      | 2,153   | 2,153     |
| 美術図書室の運営   | 17,721  | 18,865    |
| 美術資料の収集管理  | 32,882  | 28,102    |
| 収蔵作品の購入    | 60,000  | 60,000    |
| 美術館管理運営    | 60,661  | 68,384    |
| 移転経費(収蔵品)  |         | 75,622    |
| 移転中経費(収蔵品) | 186,503 | 234,280   |
| 移転経費(図書室)  |         | 27,103    |
| 移転中経費(図書室) | 19,172  | 17,757    |
| 移転経費(事務室)  |         | 102,676   |
| 移転中経費(事務室) | 38,270  | 14,569    |
| 初度調弁       |         | 1,475,955 |
| バリアフリー対策   |         | 3,938     |

[2]公益目的事業(旧一般会計事業)

(千円)

| 事業名           | 予算額    |        |
|---------------|--------|--------|
|               | 29年度   | 30年度   |
| 展覧会事業         | 27,000 | 62,354 |
| ワークショップ       | 1,029  | 1,031  |
| MOT美術館講座      | 358    | 1,053  |
| 年間パスポート       |        | 1,619  |
| 事業管理          |        | 35     |
| 新たなサービス向上事業   | 2,000  | 2,000  |
| 調査出張          | 1,300  | 800    |
| 現代美術館記念誌事業    | 1,397  | 7,947  |
| フェンス de アート事業 | 1,429  | 600    |
| リニューアル関連事業    |        | 15,186 |

[3]収益事業

(千円)

| 事業名        | 予算額  |       |
|------------|------|-------|
|            | 29年度 | 30年度  |
| アートショップの運営 |      | 2,815 |
| レストラン等の運営  |      | 329   |
| 駐車場の運営     |      | 268   |
| 出版物等販売     |      |       |
| 施設貸出       |      |       |
| その他事業      |      | 16    |
| 事業管理       |      | 193   |

[1]平成30年度東京都現代美術館職員名簿

31.3.31現在

| 課     | 係      | 職名         | 氏名     |       |
|-------|--------|------------|--------|-------|
|       |        | 館長         | 岡 素之   |       |
|       |        | 副館長        | 松下 裕子  |       |
|       |        | 参事         | 長谷川祐子  |       |
|       |        | 管理課長       | 北條 光昭  |       |
| 管理課   | 管理係    | 管理係長       | 船越 綾子  |       |
|       |        | 主任(事務)     | 松崎 昌義  |       |
|       |        | 主任(事務)     | 林 誠一郎  |       |
|       |        | 主任(事務)     | 中野 有規  |       |
|       |        | 主任(事務)     | 加藤 惟   |       |
|       | 経理係    | 経理係長       | 三好 武司  |       |
|       |        | 経理担当係長     | 青木恵実子  |       |
|       |        | 主事(事務)     | 小峰 範子  |       |
|       |        |            | 主事(事務) | 金 紅蓮  |
|       |        |            | 事業企画課長 | 加藤 弘子 |
| 事業推進課 | 企画係    | 企画係長       | 森 千花   |       |
|       |        | 主任(学芸)     | 森山 朋絵  |       |
|       |        | 主任(学芸)     | 関 直子   |       |
|       |        | 主事(学芸)     | 八巻 香澄  |       |
|       |        | 主事(学芸)     | 崔 敬華   |       |
|       |        | 主事(学芸)     | 小高日香理  |       |
|       |        | 主事(学芸)     | 藪前 知子  |       |
|       |        | 主事(学芸)     | 北澤ひろみ  |       |
|       |        | 主事(学芸)     | 楠本 愛   |       |
|       |        | 主事(学芸)     | 井波吉太郎  |       |
|       | (広報班)  | 主事(事務)     | 中島三保子  |       |
|       |        | 主事(事務)     | 工藤千愛子  |       |
|       |        | 事業係長       | 牟田 行秀  |       |
|       |        | 主任(学芸)     | 西川美穂子  |       |
|       |        | 主任(学芸)     | 藤井 亜紀  |       |
| 事業係   | 主事(学芸) | 鎮西 芳美      |        |       |
|       | 図書館司書  | 岩田 郁子      |        |       |
|       | 図書館司書  | 早川 智子      |        |       |
|       | 図書館司書  | 森口 さや      |        |       |
|       | 図書館司書  | 小幡 朋子      |        |       |
|       | 図書館司書  | 三澤 庸子      |        |       |
|       | 教育普及係  | 教育普及係長(学芸) | 郷 泰典   |       |
|       |        | 主事(学芸)     | 鳥居 茜   |       |
|       | 主事(学芸) | 成田美和子      |        |       |



[2]平成29・30年度東京都現代美術館外部評価委員会

東京都現代美術館外部評価委員会委員

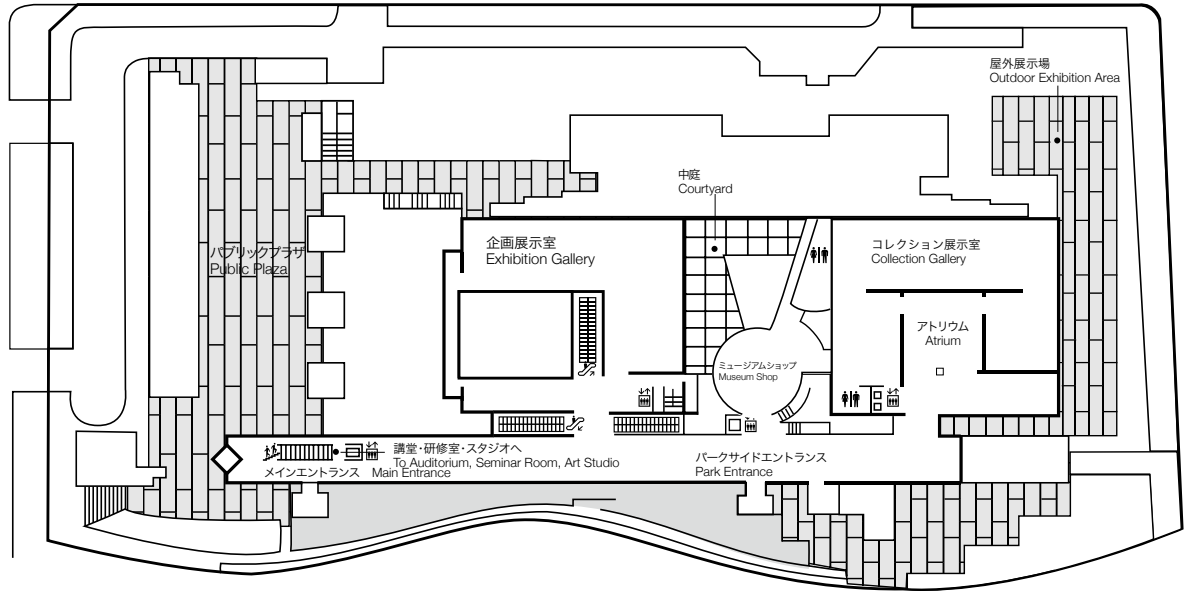
|                            | 氏名                 | 現職                              |
|----------------------------|--------------------|---------------------------------|
| 学<br>識<br>経<br>験<br>者<br>等 | かしわぎ ひろし<br>柏木 博   | 武蔵野美術大学名誉教授                     |
|                            | ごとう しげお<br>後藤 繁雄   | 編集者、クリエイティブディレクター<br>京都造形芸術大学教授 |
|                            | むらい よしこ<br>村井 良子   | 有限会社プランニング・ラボ代表取締役              |
|                            | わたなべ やすひこ<br>渡邊 泰彦 | 丸文株式会社取締役                       |
|                            | はっとり ひろみ<br>服部 浩美  | 御茶の水美術専門学校理事長・学校長               |
|                            | わけべ としひろ<br>分部 登志弘 | 深川資料館通商店街協同組合理事長                |
|                            | おおはし ちづる<br>大橋 千鶴  | 東京都現代美術館ボランティア                  |

(任期 平成28年4月1日から平成31年3月31日まで)

II. 資料 | 4 施設概要

施設概要

|                          |         |
|--------------------------|---------|
| 敷地面積                     | 23,780㎡ |
| 建物面積                     | 33,515㎡ |
| 企画展示室                    | 4,300㎡  |
| 地下2階企画展示室                | 1,860㎡  |
| アトリウム天井高 19m             |         |
| 1階企画展示室                  | 1,200㎡  |
| 3階企画展示室                  | 1,240㎡  |
| 常設展示室                    | 3,100㎡  |
| 1階常設展示室                  | 1,670㎡  |
| アトリウム天井高13m              |         |
| 3階常設展示室                  | 1,430㎡  |
| エントランスホール                | 1,582㎡  |
| 幅10m×高さ8m×奥行き140m        |         |
| 収蔵庫                      |         |
| 第一収蔵庫                    | 534㎡    |
| 第二収蔵庫                    | 423㎡    |
| 第三収蔵庫                    | 330㎡    |
| 第四収蔵庫                    | 307㎡    |
| 美術図書室                    | 780㎡    |
| 講堂                       | 366㎡    |
| 座席200席(ロールバックチェア)        |         |
| 200インチスクリーン、ビデオプロジェクター完備 |         |
| 第一研修室                    | 72㎡     |
| 第二研修室                    | 83㎡     |
| スタジオ                     | 83㎡     |
| ミュージアムショップ               | 128㎡    |
| レストラン                    | 415㎡    |
| カフェテリア                   | 200㎡    |
| サンクンガーデン(屋外)             | 1,050㎡  |
| 水と石のプロムナード(屋外)           | 690㎡    |
| 地下駐車場(B1F-B3F)           | 5,330㎡  |



II. 資料 | 5 案内図



所在地 〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 (都立木場公園内) ☎03-5245-4111 (代)

- 交通
- ・東京メトロ半蔵門線「清澄白河駅」B2出口より、徒歩9分
  - ・都営地下鉄大江戸線「清澄白河駅」A3出口より、深川資料館通り経由徒歩13分
  - ・東京メトロ東西線「木場駅」3番出口より、徒歩15分又は都バス(業10系統・東20系統)で「東京都現代美術館前」下車
  - ・都営地下鉄新宿線「菊川駅」A4出口より、徒歩15分又は都バス(業10系統・東20系統)で「東京都現代美術館前」下車
  - ・JR総武線「錦糸町駅」より、都バス(錦13系統)で「石島」下車、徒歩約5分
  - ・JR「東京駅」丸の内北口より、都バス(東20系統)で「東京都現代美術館前」下車



20

東京都現代美術館研究紀要

19

関 直子

## 序

およそ3年に及ぶ工事休館を経て、2019年春に再開した東京都現代美術館では初夏まで、全てのフロアでコレクションの展示が行われた。建物東側のコレクション展示室では、近年収蔵された作品と休館中に修復した作品を中心とした「ただいま／はじめまして」展、西側の企画展示室では「百年の編み手たち—流動する日本の近現代美術—」展を実施した。

後者の企画展は、日本における創造のありようを主題のひとつとして、多様な要素の選択的な編集を通して制作する美術家を「編み手」と捉え、当館の作品や資料を通して、その活動を辿り直し、日本の近現代美術の或る側面を再考するものであった。現在では世界共通のものとなっている、イメージや情報の編集という制作態度を、近代以降の日本の作家たちが、先駆的に示してきたことに注目したのである。

展示会の開幕に際し、開催趣旨を記した同名の図録も刊行されたが、総点数を鑑み、その図版は出品作品の全てを網羅するものではなく、また美術図書室の特別文庫の資料の掲載は僅かばかりにとどまった<sup>註1</sup>。本稿では、筆者が担当した第1章から9章までの、展示の実際について、図録からは測り難い、いくつかの点を記しておきたいと思う<sup>註2</sup>。



図1 第1章 「はじめりとしての1914年」

### 1 展示のはじまり

改修工事直後に開催すること、そして3年近い館内での展示の空白といった状況を考慮し、リニューアルにあたってはコレクションを活用することが館内で提案された。課題の一つは、3フロア、4300㎡の空間構成をコレクションで構想するにあたり、展示のはじまりをどこにおくか、という点にあった。当館の名称は1995年の開館の際に、日本語では現代(英語では同時代)という言葉が付されたが、コレクションは、1926年開館の上野の府美

術館に端を発する都美術館から移管された背景をもつため、19世紀末からの、元号で言えば明治後半の作品も含まれている<sup>註3</sup>。しかしそれは数点であり、当館の現在に至るコレクションの構成を眺めると、文部省が主催する展覧会(1907年-)に対抗する姿勢を打ち出した二科展が開設された1914年を重視することが有効性をもつと考えられた。何より、1938年に二科会の内部で結成された九室会の吉原治良、斎藤義重、山口長男等は、戦後美術を牽引する作家として、新館時代の都美術館での企画展や当館での展示の中心的な作家と位置付けられてきた経緯がある。当館のDNAは、反官展に発するとと言えるだろう。同年には、洋画部門を開設した再興院展のほか、版画家の恩地孝四郎らが同人誌『月映』を発刊するなど、いくつかの芸術家集団が新しい表現を発表するメディアを手探りで生み出し始めてもいる。

更に、1914年はヨーロッパで第一次世界大戦が始まった年であり、半世紀にわたり主に印刷物を通じた西洋近代美術の学習を続けてきた美術家たちは、流通する情報の減少という状況の中で、新しいものを学習する段階から、古今東西の多様な表現や考え方を編集することへと転じていく、そのような契機としても捉えることができる。複数の内的また外的な要因を踏まえた上で、岸田劉生とその周辺、ポスト印象主義から次第に距離をとり、北方ルネサンス、そして宋元の人物表現への展開を、上記の文脈で考えてみたのである。

以上のようなわけで、このはじまりの部屋は、二科会の第1回展の出品作<sup>註4</sup>、美術図書室で収蔵する『月映』<sup>註5</sup>、そして現代美術館の建つ木場を、木版であらわした、二科結成メンバーの石井柏亭の作品など、1914年に関わるもので構成した。

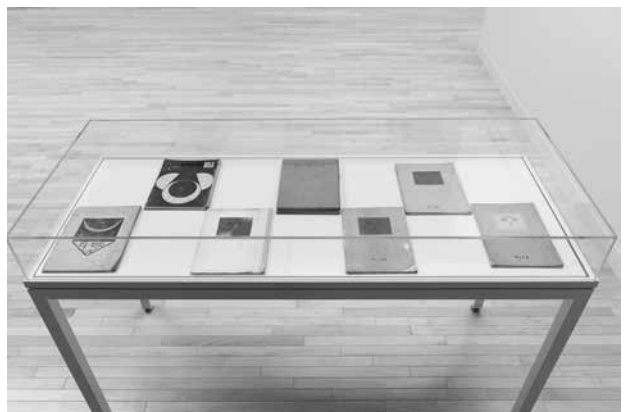


図2 第1章展示ケース 『月映』



図3 第1章 第2室目 武者小路実篤旧蔵の岸田劉生の作品

次の第1章の第2室目には、武者小路実篤旧蔵の、白樺派周辺の美術家たちの作品と資料を展示した。岸田劉生の1912年、1914年、1920年の自画像という、この画家の最も重要な変化の時期を包含する作品群は、1970年代後半に武者小路家から都美術館に寄贈されたものであり<sup>図3</sup>、また関連資料や蔵書は、特別文庫として美術図書室に収蔵されている<sup>図4</sup>。ロダンの《スフィンクス》像<sup>図5</sup>もこの彫刻家から武者小路に贈られた旧蔵作品であり、この時代の郵便的ネットワークの、実体的な手触りを証するものとなっている。



図5 第2章 「震光の前と後」 第1室



図6 MAVO チラシ等



図4 美術図書室蔵の岸田劉生個展、遺作展、草土社展資料

## 2 時代を跨ぐ活動の展開と資料——柳瀬正夢、中原実、桂ゆき

第2章「震災の前と後」の第1室では、1920年代における、ロシア革命後のソヴィエトからの未来派の画家たちの来日や、日本からベルリンへの留学生など、第一次大戦後の新しい表現の作品や作家を通じたより直接的な交流の様子を、パリモフのコラージュを用いた油彩画や、ベルリンの個展に際しての村山のコラージュ作品を通して紹介した<sup>図5</sup>。

本展は、関東大震災や二つの世界大戦など、社会の動きと緩やかに連動する章構成をとりつつも、その主眼は、各章を、即ち時代を跨いで活動した柳瀬正夢や中原実、桂ゆきのように、現実世界の変化に対し、作家たちがどのように表現やその発表の場を展開したかを辿ることにあつた。例えば前衛的なサークル内に閉ざされた美術の実験からスタートして、より広い観衆を求めて、映画や装丁の仕事、労働者に向けた風刺漫画やルポルタージュなどへの柳瀬の仕事の広がりが、1920年代から30年代の各部屋のケースの中の資料で辿れるようにした。震災の直前に結成されたグループMAVOのパンフレットやチラシ<sup>図6</sup>、震災後に発行された機関誌『MAVO』<sup>図7</sup>は、2章の第1室に、震災直後の東京をスケッチして歩いたノート3冊<sup>図8</sup>は、第2室目との間に展示した。

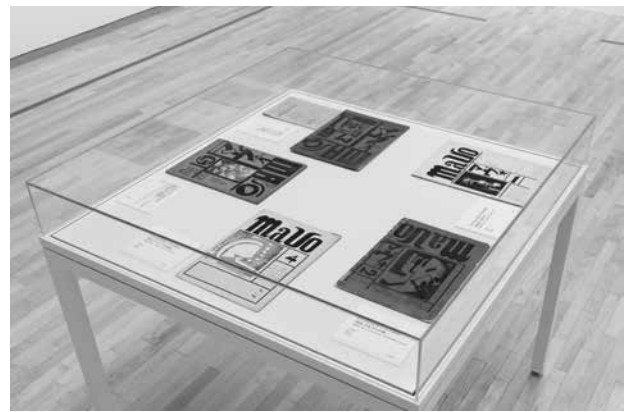


図7 『MAVO』



図8 柳瀬正夢 震災後の東京を記録したスケッチブック

さらに、日活向島撮影所の月刊誌『向島』や、『日本及日本人』に連載した風刺漫画の原画、本の装丁の仕事を紹介<sup>9)</sup>した。

1930年代の動向を紹介する第3章「リアルのゆくえ」の部屋では、労働運動のための仕事が増えていった様子を示す、柳瀬の旧蔵書の一部を展示した<sup>13)</sup>。それらは、柳瀬の生前に壁の中に封印されたが、近年およそ70年を経て発見されたもので、30年代のマルクス主義関係の原書や、翻訳書、柳瀬が関心を寄せていたジョージ・グロスの画集などが含まれている。

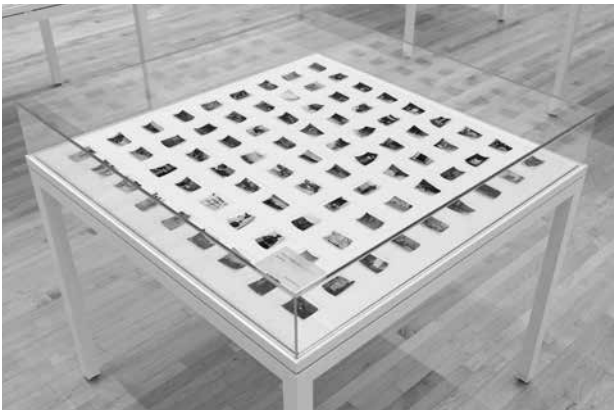


図10 柳瀬正夢 中国大陸での取材写真



図9 第3章 「リアルのゆくえ」柳瀬正夢 『向島』、『日本及び日本人』挿絵原画

また、1930年代末から40年代初頭にかけて、柳瀬は新聞連載記事の取材などで、中国大陸に赴いており、その旅程や、考現学的なスケッチ・ブック、スナップ写真を残している<sup>10,11)</sup>。

更に帰国後、中国での滞在に基づく絵画作品の個展を東京や九州で開催しており、1940年の「北支風物油絵展」の芳名帳には、久保貞次郎の弟で西洋史学者の小此木眞三郎や、戦中にヴィンケルマンの翻訳を手がけた美術史学者の澤柳大五郎をはじめ、幅広い分野の来場者があったことが記されている<sup>11)</sup>。



図11 柳瀬正夢 中国大陸の取材旅程、スケッチ、個展芳名帳



図12 柳瀬正夢の資料と清水登之や向井潤吉による1937年の中国大陸での作品



図13 柳瀬旧蔵の書籍

柳瀬は関東大震災の直前にMAVOでのグループ活動を開始し、その後、現実の都市空間や社会の中で、より広範な受容者に向けた幅広いジャンルやメディアでの表現活動を展開していった。同じ時期に、欧米留学から帰国後、医学者、教育者としての仕事と並行して、持続的に絵画制作と画論を執筆することになる中原実は、震災後の東京で、内外の新しい表現の発表の場を運営したり、演劇的なパフォーマンスを自ら行うなど多分野での仕事を行ったことが知られる。震災後の東京では、都市空間の実相に対し、様々なアプローチでの制作が行われたわけだが(鹿子木孟郎<sup>14</sup>、牧野虎雄<sup>15</sup>)、その中で、中原の前衛芸術のオーガナイザーとしての活動や、劇場の三科での上演プログラムである「Pensées Sans Langage 又は(蒼穹の尺度)」等から窺えることは<sup>16</sup>、表現メディアの多面性と、形而上学的な内容の点で突出したものであったことである。



図14 第2章 左壁面は震災を記録した鹿子木孟郎のスケッチと油彩画、右の壁面は中原実の欧米から帰国後、1923年から1930年代の作品

戦後の中原は、留学から帰国直後に発表の場とした二科会で再び発表活動を続けた。《杉の子》や《兜の昇天》<sup>17</sup>は、戦前に試みた、世界を科学の理論で分析し、それを絵画で表現する「理論絵画」とは別の、現実の家庭生活から出発し、近接過去の時間との継続性の中で、現在の広い世界での立ち位置を探る、そのような絵画となっている。

それらは1940年代、50年代の動向の中で、異質な絵画空間を示すものなのだが、それは20年代からすでに同時代のアプローチとは距離をおく、独自の体験と思考から生まれたものとして、捉えられるものなのだ。



図15 中原の作品の対面の壁には、同時期の東京で、アトリエから眺める庭を描き続けた牧野虎雄の作品



図16 中原実が参加した、三科の展覧会や舞台のパンフレット



図17 第4章 戦後の中原実の、二科展への出品作





図18 第3章 桂ゆきの戦前の作品



図19 桂ゆきの戦前のスケッチブック等

戦前と戦後を跨ぐ活動、別の言い方をすれば、1930年代(第3章「リアルなゆくえ」)から1950年代(第4章「戦中と戦後」)を繋ぐ作家として、桂ゆきは、戦前と戦後の美術界において同じように重要な仕事をしている。1935年にコラージュによる個展で発表活動を開始した桂は、コルクや布などのコラージュだけでなく、油彩による細密な描写や、戯画的な表現を併用し、絵画表現そのものに対する批評的な制作を展開した。九室会の結成の際に、関西の吉原治良から参加を要請された存在だったが、戦前の作品は僅かばかりしか現存しておらず<sup>図18</sup>30年代から

40年代という不寛容な時代の社会を冷静に見つめていたことが判るドローイング類は貴重である<sup>図19</sup>。

また、戦後、1950年代には、占領を経た日本社会の抱える政治的な問題を主題として、寓話的な手法を用いて表現していく過程が<sup>図22</sup>、スケッチ・ブックを通して了解される<sup>図21</sup>。50年代後半からの5年に及ぶ海外滞在からの帰国後、現代社会に対する批評性は鋭く、しかしよりユーモアの度合いを増していく<sup>図20</sup>。それは、ジェームズ・ボールドウィンの小説や花田清輝の本の挿絵などでも示されている<sup>図23</sup>。



図20 第4章 桂ゆきの1970年代の作品



図21 桂ゆきの1950年代のスケッチブック等



図22 桂ゆきの1950年代の作品



図23 桂ゆきの1960年代のドローイングとカット原画

以上のように、柳瀬、中原、桂の、時代を跨ぐ活動の展開を検討するためには、作品と資料の両輪が不可欠なのだが、当館で収蔵する戦前の作品は限られているが故に、この時代の作家資料は、一層重要な意味をもってくるのである。

なお、資料の問題とは離れるが、30年代と50年代を繋ぐ存在として、本展でとりあげた吉原治良と瑛九の存在を指摘しておきたい。吉原は九室会でのバイリンガルの機関誌の編集といった情報の発信や、展示といった集団での活動の経験を、戦後は年長のリーダーとして、自らも制作しながら、具体をオーガナイズすることに繋げていったと言えるであろう。

また瑛九の場合は、1930年代に手がけた、デッサンに基づく型紙を用いた「フォト・デッサン」と呼ばれる写真作品の制作プロセスを、戦後1957年の壁画的なサイズの油彩《カオス》で展開している。批評家、久保貞次郎邸で、デモクラート美術家協会の若い世代の磯辺行久等が、絵筆で大型の絵画に取り組んでいるときに、瑛九は板に型紙をおき、エアブラシを使って瞬く間に作品を完成させたのだという<sup>25</sup>。さらに、30年代からのエスペランティストとしての瑛九の考え方は、メンバー同士のフラットな関係を信条とした、デモクラートへと繋がり、吉原が率いた集団活動とは対比的な展開を辿ることになったと考えることもできるだろう。

### 3 分野を跨ぐ活動の展開 — 朝倉摂、多田美波、三島喜美代、田中千鶴子、オノ・ヨーコ

前章では、主に戦前と戦後を跨ぐ活動の展開を、作品と資料を通して辿り、制作環境の変容と作品の変化の関係を考察することが本展の一つの狙いであったことにふれた。次に、本章では、1階展示室、即ち、第二次世界大戦後から1970年代頃までの展示において、当館でこれまで展示される機会の多かった作品のみならず、新たに、分野を跨ぐ活動を展開した作家の仕事をまとめて紹介することで、この時代の美術動向の展開を、これまでとは少し異なる観点から捉えることを試みた点について記しておきたい。

本展では、1950年代に展開したグループ活動、デモクラート美術家協会、具体、実験工房を3つの部屋に分散させ、東京での作家の活動が交差するデモクラートと実在者から1階の展示を始め、さらにルポルタージュ絵画へと繋げた<sup>24</sup>。その次の部屋には、40年代初頭に日本画家として発表を開始し、戦中は働く女性像を描き、50年代以降は、同時代の各地域が抱える社会的な問題を主題とする岩絵具による絵画をタブローだけでなく、展示の汎用性の高い屏風形式で制作したことで知られる朝倉摂の代表作をまとめて展示した<sup>25</sup>。同時代の油彩によるルポルタージュ絵画や、隣の桂ゆきの仕事と接続させた<sup>27</sup>。朝倉は60年代半ばから、より広い観衆との直接的な作品を通じた交感を求め、舞台美術に軸足を移していく<sup>26</sup>。この時代の美術館をはじめとする美術をめぐる制度の状況も一因であろうが、1920年代生まれの世代の表現者にとり、作品を通じた社会とのコミュ

ニケートが重要な意味を持っていたことが協働的な制作や、より開かれた作品享受に向かう背景として考えられるであろう。



図24 第4章 手前は中村宏、池田龍雄、奥は朝倉摂の作品



図25 朝倉摂の作品



図26 朝倉摂のスケッチブックと舞台の仕事



図27 手前は朝倉摂、奥は桂ゆきの作品



図28 第5章 「アンフォルメルとの距離」

50年代後半は、フランスの批評家ミシェル・タピエがアンフォルメルと呼ばれる考え方を日本でも展開することを考え、関西や東京で作家たちと交流し、展覧会を開催したこともあり、具体の絵画や日本画などの平面だけでなく、多様なジャンルにその余波が散見された。社会的なテーマを扱った部屋の後の第5章ではこれらの動向を集めた<sup>図28</sup>。東京の画家の中でタピエが目にした福島秀子は、丸い缶に絵の具をつけ、それを画面にスタンプすることで円環の連続を表現するなど、中心のない反復の構造による絵画といった、位相幾何学に基づくこの批評家の理論にかみ合うものだった<sup>図29</sup>。福島は、50年代の東京で音楽や文学、技術者も参加したグループ、実験工房のメンバーでもあり、舞台を始めとする総合芸術や、映像機器などの新しい技術を使った作品発表にも関わり、次の第6章「光を捉える」の部屋には、音楽家の福島和夫との共作の映像《水泡は創られる》<sup>図30</sup>が展示された。

第5章は、光や空間といった周囲の環境を、作品を構成する要素として取り込む60年代後半の動向について、実験工房を始めとする50年代にその起点を求め、その後のメディア・アートを牽引した山口勝弘の《ヴィトリヌ》や《Cの関係》を展示した。その部屋の半分は、山口とグループ展を共にするなど、やはり60年代半ばから、アルミニウム蒸着メッキなどの新素材を用いて、周囲の環境をその表面に映しこむレリーフや立体の制作を展開した多田美波の作品をまとめて紹介した<sup>図31</sup>。



図31 第6章「光を捉える」手前 山口勝弘、奥 多田美波の作品



図29 第5章展示室の福島秀子の作品



図30 第6章 福島秀子・和夫  
《水泡は創られる》

多田は油絵の制作から出発し、1956年には、光を周囲に発する変電所を主題とする絵画を二科展で発表している<sup>図32</sup>。エネルギー政策の転換期にこのような鉄塔を主題とする制作態度は、同時代の朝倉摂が電波塔や送電鉄塔を描いたことと通じる。

多田は、60年代後半以降は、モニュメンタルな彫刻と並行して、公共空間の大型の照明や壁面レリーフなど、建築的な仕事を多く手掛けていく。また晩年には自身が使用することも視野に入れた、ユニヴァーサル・ユースの、新素材を使った食器のデザインを試みるなど、作品を通じた現実社会とのコミュニケーションに心を砕いた点は、朝倉と同じように1920年代作家に共通する一つの資質と捉えることができるかもしれない。



図32 多田美波《変電所》



図32 第6章 「イメージを編む」 三島喜美代 《Package 82-A》

第6章「イメージを編む」でとり上げるのは、麵棒をみて発想したという、土をシート状に薄く延ばし、新聞や広告紙の印刷を、当時習得した版画の技法で写し、それを焼いた作品で知られる三島喜美代の仕事である<sup>図32</sup>。現代社会で瞬時に不要物となる情報を壊れ易い陶によって視覚化する作品は、70年代から、素材のユニークさとユーモアによって、現代美術の中で、独自の立ち位置を占めてきた。この作品と同じ空間に展示した田中千鶴子の《卵》<sup>図33,34</sup>は、ブロンズ、鉄、ガラスという異なる素材が脱皮を繰り返しながら、ガラスの殻が最終的に砕けて、その内部が空間へと拡散していく様子が表されている。卵の載るアルミニウムの板はグリッド状に刻まれ、有機的な卵のフォルムと対比的な表情を見せている。この作品が制作された1977年頃は、絵画においても、グリッドから、有機的なイメージの形象が平面上に立ち現われてきた時期であった。田中はその後も一貫して金属彫刻を手掛けてきたが、この作品が、ブロンズと鉄とガラスを用いたものだったために、工芸に分類されたことは、その評価にある種のバイアスがかかることになったことは否めない。

第7章「言葉と物による(世界認識の)再編」では、もの派の菅木志雄の作品など、70年代のコンセプチュアルな動向を紹介する中で、オノ・ヨーコによる『Museum of Modern (F)art』<sup>図35</sup>等を展示した。オノは音楽と詩作から創作活動を開始し、音楽における楽譜にあたるものを、言葉に置き換えることで、コンセプトとそれを実現する人が必ずしも同じである必要はない、インスタレーションと呼ばれる作品のあり方を提示した。オノの活動が音楽と美術を跨ぐものであったが故に、MoMAでの架空の個展の図録を作品化した『Museum of Modern (F)art』のように、70年代にはまだその活動の一般的な理解は充分とは言えないものだった。



図33 第7章 「言葉と物による再編」 田中千鶴子 《卵》

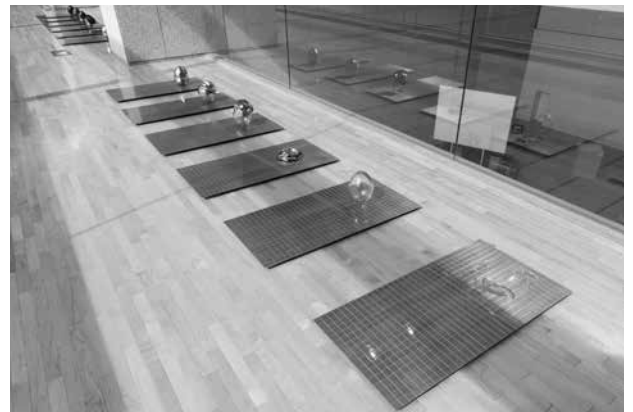


図34 田中千鶴子 《卵》



図35 オノ・ヨーコ『Museum of Modern (F)art』とワード・ピース  
©YOKO ONO 2020



図36 オノ・ヨーコ  
《クラウド・ピース》

ジャンルを跨ぐ作品やそのあわいにあるという作品のあり方が、当該時代の評価を、やや難しいものとしてきたことは事実であろう。しかし一方で、以上の作例が全て女性作家によるものだったことは、そのようなジャンルの裂け目の中に、作家たちが制作の可能性を見出してきたことを示している。今回、それらが、裂け目から、より広い展示の文脈の中へ広がったものとなっていたか、問うているところである。

結びにかえて

以上、展覧会の図録では紹介しきれなかった、資料の問題、時代やジャンルの横断などを中心に列挙した。なお、本展は、戦前の創作版画誌をはじめとする様々なグループの同人誌や吉田博の試み、また1970年代のコンセプチュアルな動向における実験など、当館のコレクションで大きな意味をもつ版画の役割が、それぞれの時代に通奏低音の如く響くよう構成したことを記しておきたい。

1階の第9章「地域資源の視覚化」では、画家から出発してエコロジカル・プランナーとして1970年代より環境計画の公的な仕事に携わってきた磯辺行久の仕事を紹介する中で、特に、都市空間と自然環境の変化を主題とした近年の作品に光をあてた<sup>37</sup>。それらは、本展の各フロアで一部屋をさいた、美術館の立地する木場という地域をめぐる作品群の一つとして位置付けられるものであり、この主題は、「編集」と共に、展覧会という楕円の二つの核を構成するものなのである。



図37 第9章「地域資源の視覚化」磯辺行久の作品

## 註

1. 『百年の編み手たち—流動する日本の近現代美術』美術出版社、2019。全14章で構成される本展の主題と、3階、2階、1階に展示された第1章から第9章までの構成と作品選定、展示を筆者が担当し、地下2階の第10章から14章は藪前知子が担当した。図録の編集と図版構成、各章の解説と担当部分の小論は両名がそれぞれ担当し、図版データ、著作権、校正等の編集作業は森山朋絵、北澤ひろみ、八巻香澄が中心となって進めた。工事に伴うコレクションと図書資料、展覧会資料の引越し作業と並走するなかで、作品の輸送は、加藤弘子、森千花、小高日香理、楠本愛、井波吉太郎が、事業係の牟田行秀、藤井亜紀、鎮西芳美、西川美穂子と連携して担った。休館中の準備室での特別文庫等の調査は、美術図書室全員の尽力で可能となった。
2. 図録末尾のリストは、図録掲載図版のリストであり、最終的な出品作品と資料のリストは、2019年度の年報に掲載した。個別の作品研究は、本稿の趣旨とは異なるので、別稿で論じることにした。
3. 浅井忠や黒田清輝の油彩画など。
4. なお、第3章「リアルのかげ」の展示室には、柳瀬と桂に関係する資料のほかに、1927年の「新ロシア美術展」を準備した矢部友衛の関連資料の展示ケースも置いた。矢部は、第一次大戦後モーリス・ドニの下で学び、キュビズムをはじめとする動向を吸収し、1922年に帰国後二科や三科、造型で発表。その後、1926年にロシアに赴き準備を進めた矢部の資料として、日本プロレタリア美術家同盟の印刷物や、運営に関わったプロレタリア美術研究所での写真などを紹介した。
5. 2019年5月13日、磯辺行久へのインタビュー、東京。後述するエスペランティストとしての活動について、磯辺は、瑛九の理想主義的者としての側面を非常によく示すものと回想し、「ロマンティスト」だったと肯定的に語っている。

## 図版について

会場写真は伊奈英次が撮影した。図版のうち、桂ゆき《作品》1940年(図18)、朝倉撰《黒人歌手ポール・ロブソン》1959年(図27)は東京国立近代美術館蔵。桂ゆき《虎の威を借りた狐》1955年(図22)、朝倉撰《働く人》(図25)、《日本1958-2》(図27)は、山口県立美術館蔵。桂ゆき《人と魚》1954年(図22)は愛知県美術館蔵。多田美波《周波数37306776MC》、《Phase Space 6941》は多田美波研究所蔵、《変電所》(図32)は韮崎市大村美術館蔵。上記のほかは全て東京都現代美術館蔵。

「サテライト」という言葉は人工衛星を意味する。通信や観測などを目的として作られ、惑星の軌道を回り続ける。そこから派生し、サテライトオフィスやサテライトクリニックなど、本体とは離れたところに作られた小規模なアクセスポイントを指す言葉として、日常でも使われている。さて、当館がメンテナンスのための長期休館に入った2016年度に始まった事業「MOTサテライト」だが、当初は名前が示す通り、美術館から離れて、まちの中のアクセスポイントにおいて美術館活動を行うものであった。それがリニューアルオープンした美術館の中に拠点を移したことにより、大きく様変わりしたのが第4回目の「MOTサテライト2019 ひろがる地図」である。本稿ではこの展覧会の意義を改めて振り返るとともに、参加アーティストたちの実践について紹介したい。

## 1. サテライトとはどこか？

さて、東京都現代美術館は「美術館がまちに出る」をうたい、清澄白河のまちなかの空き店舗や空き倉庫、そして商店街事務所などの地域拠点を会場として展覧会を行ってきた。当館がこの「MOTサテライト」を開始するに至る経緯、および清澄白河というまちの移り変わりについては、東京都現代美術館研究紀要第20号に詳しいので、そちらを参照されたい<sup>1)</sup>。

2017春「往来往来」、2017秋「むすぶ風景」、2018秋「うごきだす物語」は、6ヶ所ないし7ヶ所を展覧会場「MOTスペース」とした。その他、営業している店舗やカフェの一角で小規模な展示を行う「MOTスポット」も含め、ホワイトキューブではない親密な空間において、このエリアをテーマにした作品を見せる地域アート・プロジェクトとして、街歩きの楽しさとあいまって好評を得てきた。清澄白河のまちに点在するアクセスポイントを、まさしく美術館のサテライトとしたわけである。

しかし当館が事業を開始してからこの数年の間に、まちは変化しつづけていた。会場として借りることのできる物件が、どんどんなくなっていったのだ。「MOTスペース」となった物件はすぐに次の借り手がつき、人気エリアとなった清澄白河で新たな空き物件が出ることはほぼない。そのため2019年度のMOTサテライトは、美術館の展示室をメイン会場にするという苦渋の決断をした。これでは休館中にせつかくまちに出た美術館が、また引きこもっていくような印象を与えかねない。「美術館で展覧会を行うだけならば、何が『サテライト』と言えるのだろう」言葉遊びだけにはとどまらないこの自問の末にたどり着いたの

が、「MOT(がまちの)サテライト」というキーワードである。美術館活動をまちの中のサテライトにアウトリーチしていくのではなく、来場者がまちと出会うためのアクセスポイントを東京都現代美術館に置くという考え方だ。統計的な情報、観光ガイド的な紹介、美味しいお店についての口コミなど、まちを知る方法は様々ある中で、美術館が提供するのはいは、「まちを知るとはどういうことか」という問いを込めた、現代美術からの視点である。

## 2 目的地に最短距離でいくためではない地図

特定のまちや地域をテーマとしたアート・プロジェクトは、世界中で実施されており、この東京近郊だけでも数多い。その中には、田中功起が「何度かサーチで訪れたとしても、そのサイトに対応した『大喜利』になってはしょうがない。<sup>2)</sup>」と批判的に述べたように、アーティストの手法に土地固有の情報を載せただけになってしまうものもある。その土地の歴史や人々が搾取されてしまうようなあり方、そして情報で答え合わせをするだけのような作品は、その地域とサステイナブルな関係を築く際には、避けなければならない。例えばある地域の以前の産業をモチーフにした作品から「ああ、養蚕があったのだな」「炭鉱があったのだな」という事実を再確認するだけで終わらしたら、それを見た人は地域を知ったと言えるだろうか。それよりは、路地をさまよひ、開けた場所でぼんやりと空を見上げ、ここにはどのような人が暮らし、どのような物語があったのかと思いをめぐらす……そんな展覧会を目指したいと考えた。

それは辛抱強さが要求される回り道である。清澄白河を説明する作品を展示するのではなく、観客自身が清澄白河を歩くこと自体を作品の鑑賞体験として読み替えていくのだ。そこで展覧会のタイトルは「ひろがる地図 Wandering, Mapping」とし、鑑賞者自身が歩くことで地図が広がっていくイメージを、遊歩するという意味のwanderに重ねた<sup>3)</sup>。



図1  
MOTサテライト2019 ひろがる地図 メインビジュアル  
清澄白河に本店を構えるハンドメイド日傘のお店Coci la elleのデザイナー ひがしちかによるドローイング2種を組み合わせたメインビジュアル (デザイン: いすたえこ)。海に浮かぶ群島の地図のようなイメージ

展覧会には、今和泉隆行、マリー・コリー・マーチ、光島貴之、サトウアヤコ、orangcosong+進士遙の5組の作家が、展覧会のテーマにあわせた新作を制作し展示した。その他、東京都現代美術館の収蔵品から荒木珠奈、柳幸典、栗田宏一、ナイジェル・ホルの作品をとりあげ、国立民族学博物館の収蔵品から民族資料の地図、株式会社ゼンリンのコレクションからヨーロッパの古地図を紹介することで、土地を知ること／記述することの多様なありかたを見せた。また、関連プログラムとしてGPS絵画の浜元信行+やっさん、コンテンポラリーダンスユニットのアグネス吉井も参加した。さあ、どのように地図が広がるのか、以下具体的に作品を見ていこう。

### 3. 展示室を遊歩する

#### ①空想地図 今和泉隆行(地理人)



図2  
今和泉隆行《中村市 北部詳細都市地図》(部分)、2019年

展示室に入って最初に目に入るの、見慣れたフォーマットの市街地地図である。ターミナル駅が中心にあり、古くからの文教エリアや新興住宅地、開発が止まってしまった団地などがあり、地名や駅名や店の名称なども書かれている。新宿だろうか？名古屋だろうか？鑑賞者はその線路の形や地形をヒントに、どこ

の土地の地図なのか推測しようとするだろう。しかしそこに書かれている地名は、全く知らないものばかりである。それもそのはず、これは架空の都市を描いた空想地図なのだ。

ここは中村市。首都である西京市から南に30km離れた内陸部にある、人口156万人の都市である。実際には存在しない土地を描く空想地図は、具体的に描きこめば描きこむほど、整合性をとることが難しくなるが、今和泉隆行の描く中村市の地図は、地理に関するマニアックな知識が担保する整合性や、いかにもありそうなロゴデザインなどの造形が空想地図業界の中でも群を抜いており、熱狂的なファンも多い。地図から情報を読み取ることに慣れていない鑑賞者のために、不動産屋の店先に貼られた住宅チラシを模した《中村市内の物件情報》や、街の人の口コミをまとめた《中村市内のエピソード》もあわせて展示され、街の様子をありありと想像させる。中村市が実際に存在しているかどうかはもはや問題ではなく、鑑賞者は自分の知っている様々な土地の様子を投影して中村市を理解する。



図3  
今和泉隆行 展示風景 撮影：Alloposidae

地図という手法に惹かれる理由として今和泉が語るの、地図が「究極の俯瞰」であるということだ。主人公の視点から物語を紡いだり、強調したい部分を詳しく記述し興味のない部分や隠したい部分を省略したりする主観的な視点とは対極に、すべてにおいて平等に客観的な記述をする。ここには様々な考え方の人が暮らし、日々利害の対立や葛藤があるが、それについて彼は「誰にも肩入れせず、誰のことも無視せず、あらゆる他者になりながら描く<sup>註4</sup>」と述べている。描いているのはあくまで架空の都市であるが、現実の都市の中にあゆる他者が存在していることへの気づきを内包した、すぐれて現実社会を描写した作品と言えるだろう。

中村市というフィクションの世界と現実世界が交わる仕掛けも用意された。《中村市の粗大ゴミ》と題された作品は、中村市が発行している粗大ゴミ回収券を貼った壊れた椅子(今和泉が家で使っていて壊れた、本当の粗大ゴミ)と、中村市指定のゴミ袋からなるインスタレーションである。展示室の一角が中村市のゴミ収集所となり、最終日の閉館後にそれを回収した美術館の清掃スタッフは、本当に中村市のゴミ収集の業務に携わったことになる。また《中村市の住人の落とし物》という作品は、中

村市の住人が清澄白河を訪れて落とした財布という設定で、それぞれ江東区深川江戸資料館、デリカやまこし、ワールドネイバーズカフェ清澄白河にて展示された。落ちていた場所ともあわせて、財布のデザインや身分証、ショップのスタンプカードやレシート類から持ち主の人となりを読み取れるのが面白みとなっている。



図4  
今和泉隆行《中村市の住人の落とし物・駒田洋平》、2017/2019年 MOTスポット  
デリカやまこしにおける展示風景 撮影：Alloposidae

さらに今和泉は会期中何度も会場を訪れ、大きな中村市の地図の周囲の壁に、鉛筆で地図を描きだしていった。毛細血管が再生していくように、印刷された地図から壁に根付いていく鉛筆の線。それはちょっとしたいたずらのような現実への介入であるが、中村市が現実世界と地続きであることを鮮やかに示している。

面白いことに、彼の作品が冒頭にあることで、この展示の中で登場する「本物の地図」がまるで空想地図のように見えると多くの鑑賞者がコメントしていた。展示室内に設けた、記憶の地図や空想地図を描いたり参考図書<sup>85</sup>を読んだりするワークコーナーには、清澄白河エリアの詳細な住宅地図(提供：株式会社ゼンリン)が高さ4m幅6mの大きさに展示された。この地図の前で鑑賞者が思い出を共有したり、駅から美術館までの道のりを確認したりと会話を生むための装置として設置したもののだが、空想地図を知った後で目にすることで、「本物の地図」とは何であるのかという問いにもつながっていた。

## ②アイデンティティ・タペストリー マリー・コリー・マーチ

高さ20mの吹き抜けを有するアトリウムには、マリー・コリー・マーチというカリフォルニア在住の作家による、観客参加型のインスタレーション《アイデンティティ・タペストリー》と《東京からの便り》が展示された。《アイデンティティ・タペストリー》はアメリカやスイスでも発表されたもので、本作が13作目となる。白い壁に個人のアイデンティティを示す言葉が刻印されたプレートが250個配置され、参加者は自分が当てはまると思う言葉に毛糸をかけていく。すると、人々の多様な選択によって毛糸が交差し、大きなタペストリーになるというものである。毛糸は300本すべてが異なる色や太さになるように作家が手染めで用意したもので、白い繭のような器(“クレイドル”(ゆりかご)と呼ばれ

ている)に入っている。参加者はそこから自分を表していると感じる糸を選び取り、まずは壁の左側にある地図の上で、自分の生まれた場所に糸の端を結びつける。そして左から右へと、プレートの言葉を読み、糸をかけながら進んでいく。途中で糸がなくなってしまったら、あるいは最後の言葉までたどり着いたら、そこで糸玉を(もしくは糸玉の中心に入っていた石を)床に置いて終了である。



図5  
マリー・コリー・マーチ《アイデンティティ・タペストリー #13》、2019年

今回マーチに本作を依頼した理由は、まちをテーマにした展覧会の中で、コミュニティの中の人を単純化しないためである。例えば清澄白河に暮らす人のパーソナリティは「下町っ子」と描写されることがあるが、すべての住人がいつでも「下町っ子」的であるわけではない。地域やコミュニティについて考え続けていくにあたって、シングルストーリー<sup>86</sup>に回収させることは厳に避けなければならないと考えた。また、町内会や商店街振興組合などコミュニティで積極的に活動をしている人がいる一方で、そうした関わりを好まない人や機会がない人もまた、コミュニティの一員である。このように多様な人たちが現実の世界の中には暮らしており、そのすべての人々の存在が等しく尊重される様子を、この《アイデンティティ・タペストリー》は伝えてくれる<sup>87</sup>。今和泉の空想地図と同じメッセージを、より直接的に糸で表現しているのが本作である。

アイデンティティを示す言葉は、「私は男性だ」「私は女性だ」「ジェンダーは自分で決める」から始まり、「家族に愛されていると思う」「自分を信じている」といったポジティブなこと、「いつも居心地が悪い」「もうだめだと思うことがある」などのネガティブなこともあり、「虐待に苦しんでいた」「障害がある」などのセンシティブな内容も含まれている。発表する場所にあわせて内容や配置を変えているため、今回も東京バージョンの制作に向けて、作家と展覧会担当者として、東京に暮らす人々にとって必要な問いかけは何か、ディスカッションを重ねた。日本の鑑賞者に伝わりにくいものは削除し、かわりに「空気を読むのが得意だ」「空気を読むのは自分にとってストレスだ」などを加えている。人類学や社会学のバックグラウンドをもち、またME/CFSという難病を患い日常生活にも大きな制約を感じている作家の、包摂的な視点が色濃く表れていると言えるだろう。





図6  
マリー・コリー・マーチ《アイデンティティ・タペストリー#13》(部分)、2019年  
撮影：Alloposidae

この作品は多様性を示すだけでなく、鑑賞者に対するエンパワメントとして機能した。自分と同じ人もたくさんいるという安心感、マジョリティと違っていいという自己肯定感、そして社会的にマイノリティであったとしてもそれは自分自身を構成する一要素にすぎないという気づきが鑑賞者のコメントに散見された。そして最後に配置された「自分の人生が好き」「自分は恵まれている」というポジティブな言葉にたくさんの糸がかけられていることも、励ましとなったようである。

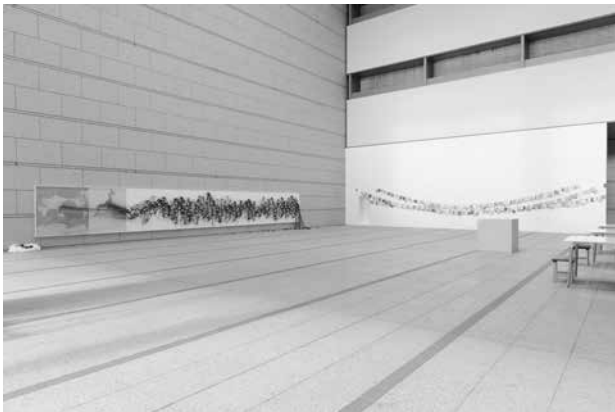


図7  
マリー・コリー・マーチ 展示風景 撮影：Alloposidae

この作品と対になるものとして、同じく観客参加により作られたのが《東京からの便り》である。参加者は光のスペクトルのように並べられた美しい和紙の中から一枚を選び、「東京の良いところ、または問題点は何だと思いますか?」「あなたにとって、東京にいることにはどんな意味がありますか?」といった問いかけに対する答えを書く。そしてそれを壁に張られた長い水引に紐で結びつけると、神社のおみくじ掛けや絵馬、七夕飾りを思わせるインスタレーションとなる。清澄白河に限定せず、広く「東京」をテーマとしたことで、東京以外に住む人や海外からのツーリストも参加し、暮らし方や住む場所と自分の関係について、さまざまな葛藤や希望を垣間見せた。

### ③まちを歩く 光島貴之

次によりやく清澄白河に取材した作品が登場する。アトリウムのガラス面にカットニングシートとラインテープで描かれたの

が《美術館を体感するスケッチ》、その次の部屋に大小さまざまな木製パネルを組み合わせた《ハンゾウモン線・清澄白河から美術館へ》と続く。制作者は、光島貴之である。光島の作品を語るには、まず彼が視覚を使っていないということに言及する必要があるだろう。10歳で失明した全盲の光島は、触覚と音や匂い、対物知覚(天井の低いところに入ると圧迫感を感じたりする感覚)によって風景を認識している。そしてそれを造形として表現するのだが、視覚を使う人間が1点からの遠近法で描くのに対し、光島は横から見た形と上から見た形、触り心地を示すために手元をアップしてディテールを表現したかと思えば、時間的な経過も同時に描きこむといったように、キュビズムやモンタージュとも言える手法によって、より自由に対象を描き出す。光島の作品には、まるでロードムービーのように彼が体験したことを次々と描く《指先で街を歩くーぼくの治療室から》(2004年)、《路地を通り抜けると》(2015年)などがあり、それらの旧作の展示とあわせて、清澄白河を描く新作を依頼した。



図8  
光島貴之《ハンゾウモン線・清澄白河から美術館へ》(部分)、  
2019年 撮影：Alloposidae

《ハンゾウモン線・清澄白河から美術館へ》は、光島が2018年から新しくはじめた、木製パネルに釘や画鋲を打ち、その連なりが描く形や間隔、高低差、傾きなどで表現する手法で制作された。これまで彼が用いてきたのは主にカットニングシートとラインテープであり、基本的には平面で表現されていたが、この釘を使ったシリーズは高低差による3次元的な表現が可能になった他、使う釘などの種類によって手触りの違いも活かすことができる。カットニングシートによる色彩を手放したかわりに、より繊細に触覚を使って鑑賞することを鑑賞者に促す作品となった。会期中も多くの人があえて目を閉じて、「これはなんだろう?」と言いながら触覚を楽しんでいた。会話が自然と生まれるのが光島の作品の魅力であるが、それはつまり「見れば分かる、触れば分かる」といった思い込みを捨て、一人一人が異なる感覚特性・異なる認識を持つことを前提として、「これは何だと思うか?」を互いに確認する場が生まれているということである。光島の作品について継続的に研究している服部正は「光島が用意した作品を媒介に、鑑賞者自身が触覚を通じて世界を把握するその理解のあり方が主題化されている。」<sup>188</sup>と述べている。



図9  
光島貴之 展示風景 多くの来場者が触りながら鑑賞している



図10  
光島貴之《一人でスタート》、2019年 MOTスポットしまぶっくにおける展示風景  
撮影：Alloposidac

制作にあたり光島は、アシスタントと共に数日かけて清澄白河を歩き回り取材を行った。そうしてできあがった作品には、半蔵門線の清澄白河駅のホームからエスカレーターで地上へ上がり清澄庭園を散策するところから始まり、滞在していたホテルを出て資料館通りを歩き、深川江戸資料館や近隣の店に立ち寄り、路地をせわしなく往来するフォークリフトに驚いた後カフェで一服して、最後に美術館の展示室にたどり着く様子が表現された。展示室の壁の右から左に19枚のパネルでたどる道のりは、ちょうど南を上にして見た地図となんとなく重なるように配置されている。カフェや店舗の情報も入っており、清澄白河のちょっとした観光マップのようにも見えなくもない。しかし、光島が泊まっていたホテルの部屋番号や、看板につまずいたことなども表現されていて、多くの人と共有する情報として編集されたのではなく、ごく個人的な体験をそのまま描いたのだと分かる。今和泉が究極の俯瞰として地図を描いていたのとは対極に、光島の作品は、まちを知るのは自分で体験することから始まるということ、そして様々な視点や興味から濃淡のある認識が組み合わさって全体像が結ばれるということを直截に伝える。知らないまちに出会った時、景色を観たり、人と話してみたり、お店に入ったりという経験の積み重ねから、そのまちのイメージが自分の中で醸成されていく。光島は造形作家として、自分にとっての清澄白河を鮮やかに描き出して見せてくれた。

なお光島は美術館展示室の他にも、清澄白河のまちの中で

も新作を制作・発表した。商品の魅力に加え、天井が高くて気持ちがいい、狭い階段やスロープが面白いなど空間に着目して選んだのは、オールプレス エスプレッソ 東京カフェ&ロースタリー、チーズのこえ(北海道チーズの専門店)、しまぶっく(古本屋)、HOZON(保存食の専門店)の4か所である。いずれもその空間の特徴と商品のもつ物語性に着目した作品となった。

#### ④民族学資料と古地図 国立民族学博物館と株式会社ゼンリンのコレクション

本展は地図の種類や歴史について体系的に紹介する意図はない。統治や軍事を目的とした古地図が好きで歴史ファンや、地形やその土地の歴史を読み取るのが楽しい街歩きファンの期待には、残念ながら応えていない。しかし、土地を記述し伝えるということの豊かな広がりを知ってもらいたいと考え、敢えて現代の私たちが「地図」という言葉から想像するようなものとは異なる例を紹介した。

まずは太平洋上ミクロネシアに位置するマーシャル諸島で使われていた「スティック・チャート」と呼ばれる海図である。貝殻が島をあらわすこの海図は、島と島の位置関係だけではなく(ただし島の形や大きさはまったく表現されない)、ヤシの葉柄が表す線によって海流やうねりを表している。スターナビゲーションと呼ばれる天体に基づいた高度な航海術をもっていた海洋民族にとって、この海図を読むことが船乗りとしての重要な修行であったという。その読図術はもはや失われているが、高度に抽象化されたこの図の中に自然と人の営みが込められていることに畏敬の念を抱かずにはいられない。

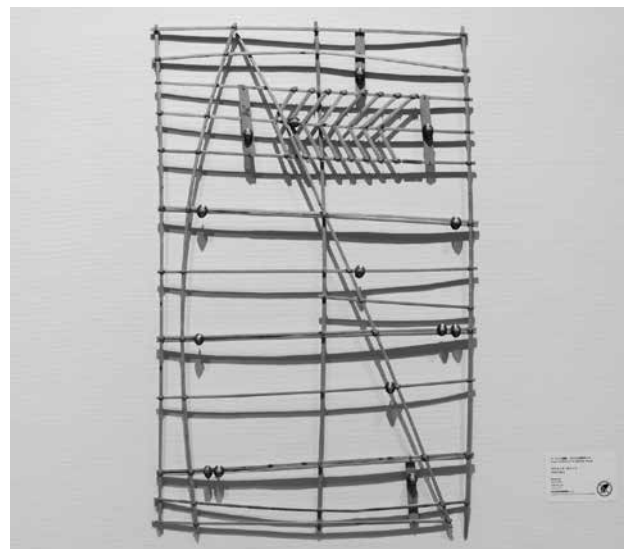


図11  
マーシャル諸島のスティック・チャート 国立民族学博物館蔵  
撮影：Alloposidac

次に、オーストラリア先住民による絵画も展示された。現在ではアクリル画に置き換えられてはいるが、もともと「ドリーミング」と呼ばれる創世神話を語りながら、砂絵を描く儀礼の伝統を持っていた。彼らは自分たちの祖先と考える動物やその精霊の旅を、軌跡を描きながら物語るのだ。彼らはエスニック・グループごとに異なる精霊を祖先としており、原則として自身

の祖先の物語しか描くことを許されていない。泉や人々が暮らすキャンプは同心円で、動物や鳥は足跡で表現される。これは物語でもありながら、祖先の旅の軌跡を描いた地図といえる。オーストラリアの地を描くことで、自分たちが拠って立つところを確認する営みであるのかもしれない。

展示室の中央に置かれたのは、カメルーン北部に暮らすバミレケという民族が使用している絞り染めの布である。これは現存しないバムン王国(カメルーンがドイツやフランスの植民地になる前に存在していた民族国家)の王宮の敷地内の様子を様式的に描いたものと言われている<sup>89</sup>。中央に王と見られる人物がおり、謁見の間や食料庫などが記号的に示される。王宮の地図を文様として使い続けることには、彼らバミレケの人々にとってどのような意味があるのであろうか。失われた王国への哀惜の念なのか、王権の魔術的なパワーをお守りとして機能させたのか、想像を膨らませてしまう。



図12 手前の展示台の上がドップ、奥の壁に掛けられた4点がオーストラリア先住民による絵画 国立民族学博物館蔵 撮影：Alloposidae

また、株式会社ゼンリンは日本が描かれたヨーロッパの古地図をコレクションしているが、その中から3点を紹介した。正確な測量に基づくものではなく、口伝の情報や行基図などの断片的な情報を組み合わせて編集したもので、東日本が逆に南に向かって延びていたり、現実には存在していない伝説の島も描きこまれていたりする。失敗している伝言ゲームを見るようなおかしみがあるが、現在では当たり前なものとして目にしていく国土の形を知るまでに、人類がどれだけの時間をかけ試行錯誤を行ってきたのかを示すものでもある。

#### ⑤東京都現代美術館のコレクションから

東京都現代美術館のコレクションからも、地図をイメージさせる作品を4点紹介した。荒木珠奈の《Caos poetico—詩的な混沌—》は、縦横無尽にからまった電線が家を模した小さな紙の箱に明かりを灯している。作家がメキシコシティで見た、貧しい人々がおのおの勝手に盗電をしている光景を作品化したものだが、一つ一つの家の中の様子が想像できるような暖かみがある。道路ではなく電線から見れば、それぞれの家のつながりはこんな「地図」で表現されるのかもしれない。

中央に緑色の四角が描かれた絵が12点並ぶ《トーキョー・ダ

イアグラム H' 6)は、柳幸典の作品である。平成6年の時点での東京の地下鉄の路線図だが(清澄白河の駅がまだ存在していない)、一般的な路線図はすべての路線を一つの画面に収めることで乗り換えなどの情報を示すのに対し、この作品はそれぞれの路線を別の画面に分けて描くことで、皇居を絶妙に避けて中央がヴォイドになっている東京の様子を明らかにしている。誰もが知っている路線図であるからこそ、それを逆手にとることで違和感が露わになる。



図13 荒木珠奈《Caos poetico—詩的な混沌—》、2005年、東京都現代美術館蔵 撮影：Alloposidae

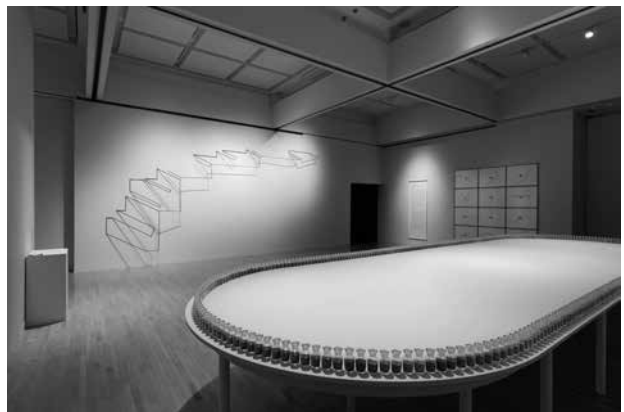


図14 手前) 栗田宏一《ソイル・ライブラリー-JAPAN》、2008年  
右奥) 柳幸典《トーキョー・ダイアグラムH' 6》、1994年  
左奥) ナイジェル・ホール《無名の土地への入口》、1981年  
すべて東京都現代美術館蔵、撮影：Alloposidae

白いテーブルの上に小さなガラス瓶が並んでいるのは、栗田宏一の《ソイル・ライブラリー-JAPAN》である。日本全国365箇所で採集した土が、一つ一つ地名ラベルのついた瓶に収められている。46億年前に地球が生まれてからの環境、気候、地理的条件などによって色の異なる土が、グラデーションになるように並べられる。隣り合った瓶のラベルは、必ずしも近い地名ではない。普段あまり意識していない土の色から、その土地を知ることの驚きがある。

ナイジェル・ホールの《無名の土地への入口》は、金属の棒を組み合わせた抽象彫刻作品である。1943年イギリス生まれのホールは、リチャード・ロングやハミッシュ・フルトンと同年代で、新しい彫刻を牽引した。草原を歩いた痕跡を写真によって記録した《歩行による線》で知られるロングや、「walking artist」と自称するフルトンの試みに顕著に表れているように、ホールも移

動によってランドスケープや空間との関係性を変えていくことを強く意識している。この作品も、展示室内を移動しながら鑑賞することで、階段のような形が現れたり扉が見えたりと変わりゆく風景を体験することができる三次元的な表現が特徴である。また、この作品を正面から眺めた時の形は地図の上に描かれた軌跡のようにも見える。地球上のどこかでこの彫刻作品を辿るように歩いてみたら、その不思議な土地への魔法の扉が開くのではないだろうか。そのような思いから、今回は本作のGPSアートの制作を依頼した。それについては後述する。

#### ⑥日常記憶地図 サトウアヤコ

展示室内の遊歩は、ここで再び清澄白河にたどりつく。1960年代から現在まで、このエリアに住んでいた、または住んでいる人にアーティストが「日常記憶地図<sup>註10</sup>」という手法でインタビューし、複数の語り手のナラティブを並置することで、深川・清澄白河という土地の姿を浮かびあがらせるものである。話している内容はごく個人的な記憶だが、木場(貯木場)の粋な文化、水上小学校、八幡様の緑日、番外地だった豊洲、スポーツクラブB&G、親水公園、ギャラリーコンプレックス、川と橋、コーヒーなど複数の話者によって繰り返し語られることから、深川・清澄白河という土地の姿がだんだんと見えてくる。



図15 サトウアヤコ《日常記憶地図 深川・清澄白河編 1960-2019》、2019年 撮影：Alloposidae

サトウは「mogubook<sup>註11</sup>」や「カードダイアログ<sup>註12</sup>」など、普段なかなか言語化できないことを敢えて言語化し対話を促進するメソッドを開発し、ワークショップなど実践を積み重ねている。その一つの手法である「日常記憶地図」は、インタビューに家や学校、職場、よく歩いた道やよく行った場所などを地図に描きこんでもらうことから始まる。その後、なぜそこによく行ったのかを聴き取る。単純に「この街が以前どうだったか教えてください」という質問の仕方をした場合、おそらく自分自身の記憶とは関係なく、教科書的な答えが返ってくるだろう。そして「昔の話をしてください」と尋ねた場合には、人によっては何度も話した鉄板の面白いエピソードを出してくるかもしれない。しかしもう忘れていたような、奥底に眠っている記憶を思い出すことはできない。そこでインタビュー本人が意識していなかった「弱い記憶」(サトウによる造語)を呼び起こすために、反復して訪れた場所を地図にプロットした後で、その場所やそこ

に行くまでの道のりについて、一つ一つの理由や習慣を説明してもらうのだ。他にも行き方が複数あるのに、いつも同じ道を歩いていた理由は、景色が良いからとか、厳しい近所のおじさんの家の前を避けたからとか、途中で寄り道をするためとか、何か自分にとっての心地よさがあったのだろう。そのような弱い記憶から、日常の風景が立ち上がってくる。最後にこの街について自由に語ってもらった内容は、「コーヒーとアートの街」「おしゃれな下町」といった、外から見た商業的なキャッチコピーとは異なり、自分とまちとの関係について再認識する中で紡がれた言葉であった。



図16 サトウアヤコ《日常記憶地図 深川・清澄白河編 1960-2019》(部分)、2019年 撮影：Alloposidae

さて、地域と関連したプロジェクトで地図といえば、「みんなで作る防災マップ」「私たちの街のガイドマップ作り」といったような、複数人で協力して情報を持ち寄り、一つの地図を作るというイベントが広く開催されている。街の魅力や問題点が明快に可視化される分かりやすさが人気の理由だが、それに比べると、10のインタビューと地図を少しずつ読み進めていかなければならないこの作品は、まだるっこしく感じられるかもしれない。しかしここでサトウは敢えてそのような編集(年表を添えたり、同じエピソードを集約したり)は行なわず、一人一人のナラティブを尊重しそのまま提示する。並置されたインタビューを拾い読みしていく中で、繰り返し登場する場所やエピソードが印象に残ることを意図している。「こうしてまちをテーマにすると、まちについて知ってもらおうとしてしまいがちだが、知るだ

けでは愛着は生まれない。愛着は反復から生まれる<sup>註13</sup>」と語るとおり、作品の中でも反復を重視しているのだ。サトウ自身がインタビューと文献調査を積み重ね、継続・反復してこの土地について知っていったプロセスを、鑑賞者もまた同じようにたどっていく。

鑑賞者は次に、《あなたの場所の記憶 深川・清澄白河編》への参加を促される。昔の図書館目録カードの引き出しのような木の箱が壁に並べられ、そこに自分自身の記憶を書いた「場所の記憶カード」を入れていくというものだ。当初作家が想定したのは、このエリアに思い出のある人の記憶を集めるということだったが、こちらの想定を超えて、清澄白河に限らず様々な場所についての記憶のカードが寄せられた。《日常記憶地図》が鑑賞者の「弱い記憶」を引き出したことにより、それと対になる《あなたの場所の記憶》の1,163枚のカードには、台風が来て怖かった記憶や、駄菓子屋が小学校ごとの縄張りについていつもと違う駄菓子屋に行くのに緊張した話、駅に家族を迎えにいくとホームの向こう側から手を振ってくれた記憶など、その人の風景が伝わってくる臨場感のある言葉が並んだ。今回サトウはこれに加え、家族の風景を聴取し共有するワークショップの実施、そして個人で体験することのできる「日常記憶地図ノート」の販売と、様々なレイヤーで弱い記憶の言語化に手を差し伸べている。

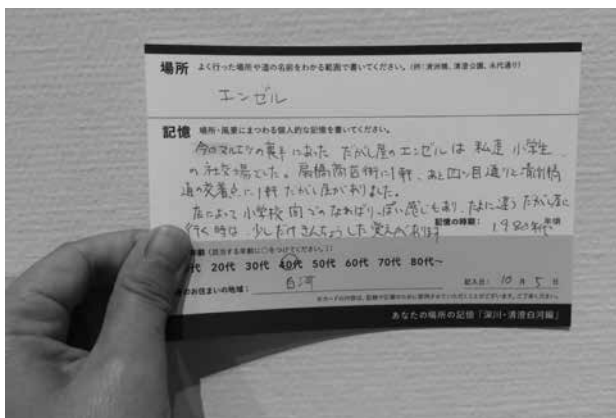


図17  
サトウアヤコ《あなたの場所の記憶 深川・清澄白河編》、2019年 来館者が書いたカードの一例

### ⑦演劇クエスト orangcosong+進士遙

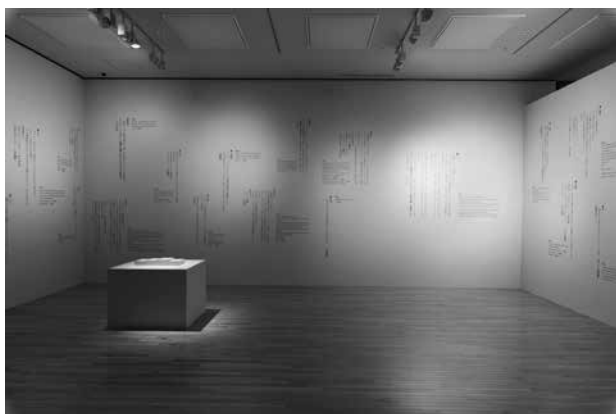


図18  
orangcosong+進士遙《演劇クエスト メトロポリスの秘宝》、2019年  
撮影：Alloposidae  
ゲームブックへの導入となる展示室の様子

最後の展示室は少しトリッキーだ。いくつかの番号のついたパラグラフが壁にちりばめられており、スポットライトがあたった展示台の上には本が積まれている。鑑賞者は「演劇クエストの部屋へようこそ。」で始まる「▼一」のパラグラフから、選択肢に応じて次のパラグラフへと読み進め、〈冒険の書〉と呼ばれる本を手にしたらそれを持って美術館内を冒険する。ゲームブック<sup>註14</sup>の形をとっているが、本だけでは読み進めることはできず、実際に現実世界の中で移動して、図書室の棚の番号や、道路沿いの公衆電話の管理番号、公園の遊具の動物の歯の本数などを確認しないとプレイできない。現実のまちなに残る歴史の痕跡や風景に触れながら、架空の物語を読み進めていくという作品なのだ。地図という展覧会全体のモチーフも活用しながら、震災、空襲、再開発と繰り返されてきた破壊と再生をテーマに、メトロポリスの秘宝を探す。美術館からスタートし、木場公園を通って清澄白河のまちをさまよひ、あるアイテムをゲットするところを最初のセーブポイントとして、越中島や門前仲町、砂町、豊洲など江東区を中心に、様々なエリアを冒険することとなる。すべてをプレイするのに1週間程度必要で、通常的美術展であれば1~2時間、大規模な都市型アートイベントでも1~2日で体験するのが慣例となっている美術ファンには、なかなかハードルが高い。



図19  
《演劇クエスト メトロポリスの秘宝》プレイ中の様子 〈冒険の書〉の記述と現実の風景が一致する

まちを歩きながら作品を鑑賞し、それによって現実世界を見る解像度を上げていくという手法は、ジャネット・カーディフがNYのセントラルパークで展開した《Her Long Black Hair》(2004年)や、ダンカン・スピークマン&サラ・アンダーソンのさいたまトリエンナーレ出品作品《Songs For A Thousand Duets》(2016年)など、音楽と語りによるサウンドワークの分野で広く試みられている。高山明/Port Bの《東京ヘテロトピア》(2013年)や藤井光《饗宴のあと》(2015年)などのように、具体的にその土地の多層的な歴史を紐解く作品も、音声によるイマーシブな作りになっているという点で、同じ文脈で語ることができるだろう。目の前に見えている現実と作品の中の語りがリンクする不思議さは、この《演劇クエスト》にも当てはまる。しかし《演劇クエスト》がそ

れらと大きく違うのは、鑑賞者が自分の選択をすることができるということ、そしてサウンドによる誘導ではないため所要時間も鑑賞者自身に委ねられているということである。

すなわち《演劇クエスト》は、都市を舞台に徹底的なリサーチを積み重ねて制作され、没入感を作るために現実介入する仕掛けもちりばめているが、パラグラフの選択肢のどちらを選ぶか、疲れたまま歩き続けるか休憩するか、または途中で冒険をやめて帰るか寄り道するかも含めて、すべてが鑑賞者の自由に委ねられている。もちろん道に迷う可能性もあり、また天気によっては見えるはずの風景が見られないことも、立ち寄るべき店が臨時休業ということもある。ちなみに〈冒険の書〉は発表後数年間引き続きプレイすることができるように考えて作っているとのことだが、目印となるお店が閉店したり、社会情勢が変化し同じルートを通れるかどうか分からないケースもあるという。劇場での数時間ないしは美術館での数日間とは異なる制御不能な現実を引き受けて歩く《演劇クエスト》は、「普段とは違うモードで街を歩く、サバイブのためのリハーサル<sup>■15</sup>」でもあるのだ。そのリハーサルを通して、見慣れた日常の風景の中に沈んでいる歴史のレイヤーや、普段は意識しないローカリティや、自分の生活の澁などが見えてくる。



図20  
美術図書室にヒントを探していくミッションのため、ヴァルター・ベンヤミンの著作の横に置かれた〈冒険の書〉

残念ながら時間的な制約や、興味のあるなしで、〈冒険の書〉を手にとらなかった来場者もいたため、実際にプレイした人は展覧会来場者の一部だろう。しかしこの「ひろがる地図」展で最後に鑑賞者に手渡すのは、美術館やアーティストが編集したガイドマップではなく、「何に出会うかはあなた次第だ。幸運を祈る。<sup>■16</sup>」という鑑賞者への信頼なのだ。

#### ⑧ 身体によるマッピングとGPS絵画

最後に、本展に作品展示以外の形で関わってくれた二組のアーティストの試みを紹介したい。

まずトークとワークショップ「街の隙間でこっそり踊る ～ダンス・マッピングの手法～」を行った、白井愛咲とKEKEの二人組ダンスユニット アグネス吉井は、毎月あちこちの街を訪れて

は、その場で生まれた短いダンスの動画をnote<sup>■17</sup>やInstagramに公開し続けている。劇場ではなく、道端や住宅街、公園などといった様々な景色の中で踊る彼らのダンスメソッド「マッピング」は、自分たちの身体を見せるのではなく、風景や物の存在を際立たせるように踊ることを目指す。例えば、直角の物があつたら角に自分の腕を沿わせてみる、動くものがあつたら逆に自分たちは動かない、など。暗渠や道路などの地形を読んだり歴史を知ったりする街歩きは、テレビ番組<sup>■18</sup>の影響もあって近年人気が高いが、その形式を借りながら、身体が前景に来るはずのダンス領域において、身体を背景にして街を表現するという手法のユニークさを高く評価したい。



図21  
アグネス吉井

また、GPSアーティストである浜元信行とやっさんに、前述のナイジェル・ホルの作品をもとにしたGPS絵画の指示書《「無名の土地への入口」への道》の制作を依頼した。移動の軌跡をGPS(Global Positioning System)の機能で記録して描くGPS絵画は、ランナーやロードバイカーに人気のアクティビティだが、現代美術の文脈においても、「歩く」「軌跡を残す」作品は数多い。二人を招いて開催したトークイベントでは、その現代美術における系譜をたどった。その際、「最大のGPS絵画」でギネス世界記録をもつやっさんも、42.195kmのマラソンルートで顔の形を描く顔マラソン研究所主宰の浜元も、実際にそのルートを移動している時に感じた街の印象や、そのプロセスで考えたことなどに言及しており、単に大きな絵を描くことが目的なのではなく、心理地理学的なアプローチをしていることが伺えた。そうした視点で《「無名の土地への入口」への道》のルートを実際にたどってみると、美術館前の交差点から菊川まで北上し、錦糸町付近を経由して亀戸まで足を延ばし、そこから引き返して森下、清澄、門前仲町を経由して美術館に戻ってくる過程で、川を渡ると変わっていく風景、橋につながる道路の傾斜、開発から取り残された地域と再開発された地域の格差、路地を一本入っただけでガラリと変わる街並みを見ることができる。普段は足を運ばないエリアにも足を踏み入れ、東京の様々な諸相が互いに連続している様子をまざまざと目の当たりにする契機になるという点で、《演劇クエスト》ともつながる。



図22 浜元信之+やっさん「無名の土地への入口」への道、2019年

#### 4. 遊歩のあとに

さてこの展覧会では、コミュニティの人とは誰か、私はどのようにして土地を認識しているのか、土地を記述するとはどういうことかといった様々な視点から、「まちを知る」ことについて考察してきた。特に新作を制作した5組の作家に関しては、それぞれの作品が別の切り面を形成し、ある作品に注がれた光が別の作品に反射して新しい解釈をするための補助線を描くように、相互に対話をする展示になっていたのではないと思う。今和泉の作品に見るフィクションと現実の交錯は、最後に《演劇クエスト》にバトンが渡される。コミュニティの中の多様性は、今和泉によって客観的に描かれた後、マーチの作品では主要なテーマとして表現され、サトウのインタビューにも表れる。自身の感覚を活かしてまちを知っていく過程は、光島の作品と《演劇クエスト》で堪能できる。誰かの体験の断片を組み合わせる自分の体験として認識していく面白さは、光島とサトウの作品で味わうことができるだろう。そしてどの作品も、アーティストがすでに持っている情報を「作品」という形に整えて提示したものではなく、アーティストがまさにこのまちを知っていくプロセスを鑑賞者自身がたどっていくものである。

また今回は、これまでのMOTサテライトで前面に出ていた地域のキーパーソンと美術館とのネットワークは少し後景に退き、地域にあまり関わらない暮らし方をしている人やツーリストも含め、個人のあり方に焦点を当てるよう意識した。「コミュニティの人」を固定化・単純化せず、「地元の人たち」「私たち」といった複数形の主語を使った際に生まれてしまう境界や違和感・疎外感を避けることが、多くの人に自分ごととして展覧会を体験してもらうことにつながったのではないかと考える。

美術館の来館者は、清澄白河のことをよく知る人ばかりでも、現代美術ファンばかりでもない。知らないことと出会う、少しばかりの気まずさやためらいを取り払い、足を踏み出すための地図を提示すること。それが今回のMOTサテライトの狙いである。「最寄り駅から遠い」と言われ続けている当館だが、ここまでの道を自由に歩いて得た感覚が美術館での新しい作品との出会いのためのプラクティスになり、また逆に美術館での体験が日常の遊歩を彩るという往還を生み出すことで、「美術館が街にあること」の意義を深めていきたい。

#### 註

1. 藪前知子「美術館がまちへー『MOTサテライト2017春 往来往来』の実践の可能性」、『平成29年度 東京都現代美術館年報・研究紀要 第20号』、東京都現代美術館、2018年、pp.39-50 また、MOTサテライト2017春のフェロー・プロジェクトとしてアート アーカイブ部が同展の詳細なドキュメントを作成しており、そこにも清澄白河についての記事がある。  
兼松芽永「序 清澄白河／深川とはどこか」『アート アーカイブ MOTサテライト2017春』、2018年3月20日発行 [http://www.artto.jp/files/MOTS2017\\_archive\\_20180402.pdf](http://www.artto.jp/files/MOTS2017_archive_20180402.pdf) pp.8-10
2. 「【鼎談】今日の表現を巡ってー藤井光×田中功起×高山明 (2015年3月開催)」、芸術公社ウェブサイト上のレポート、2015年05月20日公開 <http://artscommons.asia/reports/teidan/5>
3. 歩くを意味する英単語がいくつもある中でwanderを選んだのは、レベッカ・ソルニットの『ウォークス 歩くことの精神史』(東辻 賢治郎訳、左右社、2017年)の原題*Wanderlust: A History of Walking*へのオマージュである。
4. 「7歳のときから空想だけで地図をつくる男 第8回 地理人の地図論。」「ほぼ日刊イトイ新聞」<https://www.1101.com/chirijin/2018-12-07.html>
5. ワークコーナーには「Cartographer's Bookshelf」と名付けた棚を置き、地図をテーマとした展覧会カタログや美術評論集、地図を描くワークブック、地図に関連した絵本などを設置した。Hans Ulrich Obrist, *Mapping It Out*, Thames & Hudson, 2014 や、原寸大の地図がやがて朽ちていくホルヘ・ルイス・ボルヘスの短編「学問の厳密さについて」を含む『汚辱の世界史』なども紹介。
6. ナイジェリアの作家チママンダ・ンゴズィ・アディーチェが提唱した、一つの出来事が繰り返し語られることにより、固定観念が形成され、唯一の真実であるかのように認識される危険性を表す言葉。 [https://www.ted.com/talks/chimamanda\\_ngozi\\_adichie\\_the\\_danger\\_of\\_a\\_single\\_story/transcript?language=ja](https://www.ted.com/talks/chimamanda_ngozi_adichie_the_danger_of_a_single_story/transcript?language=ja)
7. とはいえ作品制作に参加できたのは展示室に足を運んだ人だけなので、そういう意味では社会に存在するあらゆる人を包摂できているわけではないことにも留意が必要である。
8. 服部正「見えないことを考える美術 一光島貴之の作品展開について」『甲南大学紀要 文学編』甲南大学文学部、第164号 2013年度、p.178
9. Thomas J. Bassett, Indigenous Mapmaking in Intertropical Africa, David Woodward, G. Malcolm Lewis (Eds.), *The History of Cartography, Vol. 2, Book 3*, The University of Chicago Press Books, 1998, pp.44-46
10. <https://my-lifemap.net/>
11. <http://mogubook.net/about>
12. <https://dialogue.mogubook.net/>
13. サトウアヤコへの筆者のインタビューより。彼女の指摘の元になっているのは、1968年セネガルの森林・水資源担当行政官ババ・ディオウムがIUCN(国際自然保護連合)総会で語った「In the end we will conserve only what we love, we will love only what we understand, and we will understand only what we are taught.(結局のところ、私たちが守ろうとするのは、自分たちが愛するものだけだ。私たちが愛するのは、自分が理解するものだけだ。私たちが理解するのは、教えられたことだけだ)」という言葉で自然保護やまちづくりの中で繰り返し語られてきたパラダイムだが、現在では知識を与えるだけでは行動は変えられないとされている。
14. ゲームブックは1980年代に流行したが、その後コンピュータゲームでのRPGの隆盛により衰退した。近年、リアル脱出ゲームや謎解きのブームにより、再び知られるようになってきた。
15. MOTサテライト2019 ひろがる地図関連プログラム orangcosong+進士遙アーティストトーク「『演劇クエスト metroポリスの秘宝』ができるまで」(2019年10月14日開催)より藤原ちからの発言
16. 『演劇クエスト metroポリスの秘宝』東京都現代美術館、2019より
17. もやよし(もやもやアグよし)<https://note.com/aguayoshi/m7a11a1c0287b>
18. 『プラタモリ』(NHK総合、2008年～)、『ちい散歩』(テレビ朝日、2006～2012年)から続く散歩シリーズ、『モヤモヤさまぁ〜ず2』(テレビ東京、2007年～)など

## パブリックスペースのサイン計画・什器について

パブリックプロジェクトチーム

加藤 惟・工藤千愛子・鳥居 茜・西川美穂子・藪前知子・山本ふじ代

東京都現代美術館は2016年6月からおよそ3年の休館を経て、諸設備の改修と利便性の向上のための大規模改修工事により2019年3月末にリニューアル・オープンしました。そのリニューアル・オープンに伴い、パブリックスペースの什器・備品の選定と、館内・外構及び周辺のサインデザインを合わせて、空間のトータルデザインをすることにより、リニューアルに係るデザインやコンセプトの統一を図ることが求められました。そのため美術館では事業係、企画係、教育普及係と管理係の中から6名の担当を設け、各係からの課題や意見を集約していくプロジェクトチームを立ち上げました。

リニューアルに際して主に挙げられた現状の課題や要望などについては以下のようなことがありました。

- ・空間の全貌がわかりにくい。特に、一番奥にあるコレクション展示室と、一番手前の教育普及棟への誘導が難しく、サインが錯綜している。
- ・迫力ある空間だが、圧迫感もありくつろげない面もある。
- ・サブエントランスが機能していない。公園側からの誘導がされていない。
- ・駐車場からの上り口や公園側の出入口とインフォメーションカウンター・チケットカウンターが遠いなど、動線に問題が多い。
- ・休憩場所としても機能するようにしたい(ただし、飲食は原則禁止)。
- ・各施設(展示室、図書室、ショップ、レストラン、カフェ、ロッカー、トイレ等)へお客様を円滑に誘導できるような空間の活用方法を提案してほしい。
- ・展示やイベント等の際に撤去できるように可動式であること。
- ・清潔さと安全を保つため、メンテナンスしやすいものであること。
- ・ショップから中庭に入る動線が新設され、二層にわたって回遊できる空間となることを活かす。
- ・エントランスホールは美術館のイメージを決定する空間であり、柳澤孝彦による建築の特徴がもともと出ている場所でもあるため、既存の空間を活かしつつのリニューアルが求められる。



写真：開館当初の様子





写真：開館当初の様子



写真：2009年にサインや什器を改修をしたときの様子（撮影：上野則宏）

このような課題や意見をもとに、パブリックスペースの空間プランニング及びサインデザインの委託先を決定するためにどのような企画提案方式のコンペティションとするか、下記のように要件をまとめていきました。

- ・家具の選定・デザインによって、柳澤建築の良さを活かしつつ、その空間の流れに変化を与え、使いにくさの原因となっていた諸々の問題点を解決しようとするものである。
- ・一連のリニューアルのプロセスの可視化により、美術館の再オープンを印象付け、そのビジョンを提示する機会ともなる。

・コンペ案の具体的な内容によって選定するというよりは、美術館の機能について理解し、現状の課題を美術館側と共有し、トータルなデザインができるプロフェッショナルを選定するものである。よって、コンペの具体案については、今後美術館側との協議を続け、より良いものになるように変更や修正を行っていくことを前提とする。

具体的に必要となる主なアイテム例

- ・インフォメーション・カウンター
- ・チケット・カウンター
- ・展示室入り口の改札
- ・来館者用椅子
- ・案内板
- ・図書室と情報コーナーを区切る壁
- ・全国の美術館、ギャラリーおよび財団、行政等の広報印刷物を配架するための棚等
- ・椅子、机



写真：リニューアル前の案内板や美術図書室と情報コーナーを区切る壁



写真：リニューアル前の案内板や図書室と情報コーナーを区切る壁

これらを踏まえて行ったコンペティションにより、2018年3月末、サイン什器設計を建築家の長坂常氏(スキーマ建築計画)、サイン計画をアートディレクターの色部義昭氏(株式会社日本デザインセンター色部デザイン研究所)に依頼することが決定しました。

美術館側からの様々な要望をもとにしてスキーマ建築計画から、館内のアクティビティに柔軟に対応できる什器・家具のシステムとしての「インターフェース」の提案がありました。什器・家具に開けられた穴をきっかけとして、パーツを付け替えて様々な形に変化させられたり、ハンドパレットを使用して重いものでも移動が可能で、用途に応じてフレキシブルに使うことができるといったインターフェースの構想を、長坂常氏と色部義昭氏が以下のインタビュー対談で語っています。

【パブリックスペースのリニューアルについて 長坂常×色部義昭インタビューより】



写真：色部氏(左)、長坂氏(右)

～既存の建築にどうアプローチするか～

長坂 建物自体の改修で、今まで行けなかったところが行けるようになる、カフェから中庭に入れるようになって、そしてまたショップから中庭に入れるように中庭同士が上下で繋がるような、そういう構造に建築側が変わった。そこで今まであまり活かされていなかったパブリックスペースの改善

をとということが美術館の最初の意向としてあったと思います。

柳澤さんが『新建築』(新建築社)に書かれていたコンセプト文を読んだ時に、最初に印象に残ったのが、公園からのアプローチという話があって。でもそこが今ひとつ通じてないと感じて、出来るならば外から中、中同士の関係みたいなものを実現できたらと考えて、それをどうやって計画するかということを考えました。

本来であれば、建具を変えて、屋外の建築のアプローチ、段差のところをスロープにするとかですけど、建築はいじってはならないという条件だったので、それをどうやって実現させるかというのに結構悩みましたよね。

今まで美術館に来たときの印象として、やっぱりこの細長い、こう何て言うんでしょう、何か強いですよね。強い印象というか、ここを歩いていくっていう、ある意味高揚感を高めるっていう意味の強さはあると思うんですけど、道が最初から決められている、ある意味ちょっとネガティブな部分もあって。ですけど、元々の柳澤氏のコンセプトからすると、公園側から見ると、どっちにも行けるっていう選択だったプランニングだと思うんですけど。それはやっぱり魅力的で、そのどっちの選択も出来るっていうようなアプローチをもう一回再生させたいということがあって。清澄白河側から来るアプローチは、もちろんもうこの美術館に来るために来る人のアプローチで、それは順路がちゃんと決まっても何の不都合もない、と。でも一方、やっぱり公園側から来る人は、まだ特に何かを観てっていう強い目的があるわけじゃないから、いろんな選択がある。カフェに行くかもしれないし、中庭に行くかもしれないし、展示を観に行くかもしれないし、っていうふうに、いろんな選択がある顔がそちらにはあって、それを出来るだけ上手く活かしたいなっていう。

といっても、建物は圧倒的にボリュームが大きいし、僕らが触れるところはほんの僅かしかない。家具よりちょっと大きなボリュームのものだけで、それに更にサインが関わるといことで、多分バラバラにそこに向かって活動してもあまり実現しない、パンチが弱いというのがあって、どうせだったら一緒にサインと家具を合体させて、その空間に対して手を打てないかなというのが最初に考えたことですよ。

それで、色部さんに協力をお願いして、考え始めた時に、最初はバーバパパっていうことを漠然とコンセプトにしていたんですよ。何かバーバパパが橋代わりになって、体をこう自由に形を変えて、その上を子供が歩いていくとか、そういう絵があったかと思うんですけど。何かあんなような存在として、我々がつくるもので建物間を繋いでいくようなことができれば良いなということをイメージしてバーバパパを出しましたよね。

～プロジェクトの着想について～

色部義昭(以下色部)『バーバパパのがっこう』(アネット・チゾン/タラス・テイラー, 講談社, 1976)っていう話がある。バーバパパが黒板になったり, いろんな遊具になったり, 何か人と活動を繋ぐ, いろんな様相をとるんですよね。

長坂 人と人とを繋ぐっていう感じですよね。

色部 人と人を繋ぐ。それに対していろんな様相を変化させながら対応してるというのが面白いねという話が, 長坂さんのほうからあって。それをじゃあサインとしてどう考えるのかっていうのも, 同時にお題として受け取りながら始めたって言う感じだったような気がしますね。

長坂 そう, 建築でもないんですよね。そのバーバパパの存在っていうのは。かといって家具ほど小さくもなくて。何か建築と建築の間をこう縫うような存在感があるもので, っていうのが確か最初のスタートで。それをサインと家具の合体で構成していくっていうことだと思いますけど。そう, 最初は色がありましたよね。

色部 ありました。あと最初バーバパパというコンセプトを説明したとき, 皆さんきょんととして…。



職員向けの説明会の様子



職員向けの説明会の様子

長坂 ものすごい僕らの中で納得いっていたので, 何で通じないのか僕全然わかんなくて。バーバパパじゃん, って言って, そうだよバーバパパじゃん, とかいう感じで, かなりこっちで完全に盛り上がっていたので, なかなか通じないのにちょっときょんとしましたけどね。あの頃はちょうど絵も色があって, 最初の提案が確か赤とか黄色とか, 多分複数の色がサインに合わせて作られていたんですけど。

色部 そうですね。内容に合わせてやるとか, あと素材もゴムチップでやるっていうところで。ただ実際来るのは子供達だけではないとか, もっといろんな来館者層がいるというようなフィードバックを受けて, 確か色がどんどん消滅していったような気がしますけどね。

長坂 そうですね, 確かに色があると子供の遊具というイメージが強く…。でも多分僕らも最初そういうイメージが, 公園の中に入って言ったときに, 主役はどちらかという子供を想像していたような気がしますよね。でも実際に公園にいたり, 美術館に来ている人は子供だけじゃなくてということに合わせて変わっていったっていう。

実際にゴムチップをオリジナルで作ろうとすると, 大変な金額がかかるっていうことが途中でわかって。型をつくってそこに流し込んで, 色を全部オリジナルでつくっていかなくちゃいけないというのが結構手間だと。どのくらい耐久力があるのかわからないっていうこととかもあって無くなっていきましたよね。

結果的には, 我々がよく使っているコルクを什器に使用しようってなって。コルクはそんなに硬くはない。あ, 柔らかくはないんですけど, でも柔らかい印象がありますよね。なのでコルクは人に優しいということ, 実際子供にも優しいし, ということでコルクを使うように考え始めたんです。



CGイメージ



CGイメージ



リニューアルしたサイン什器



リニューアルしたサイン什器 (上・下) photo: Kenta Hasegawa

#### ～公園と館内を繋ぐ「インターフェース」という考え方～

色部 何か結局、そのサインと家具というものを通して、公園と館内を繋ぐっていうことと、よく長坂さんが「染み出す」って言葉を使っていて、中の家具が公園にも染み出すし、公園も館内に染み出してくるような、そういう相互関係を家具とサインで作っていくっていうこと。最終的にバーバパパっていうところで言うと、少し変化しながら染み出して繋いでいくってところが残っているんだという気がしますけどね。

長坂 最近すぐそここの部分にはまっているというか、注目していて。昔からバリとかは、建物も触っちゃいけないので、何か問題があったとしてもあんまり大きく建物で改善は出来ない都市の構造がある。そのときに彼らはその間にもう一つ何か、僕らが言っているインターフェースという存在を間に置いて、家具と建築の間にもう一つ何か違う人格を置いて、街のアクティビティを結構豊かにしている。例えば、マルシェ。朝行くとマルシェでこう埋め尽くされている街並みが、昼過ぎるとばたっと無くなって車が通過するような街になったり、夏頃になるとセーナ川付近でダンスを踊っているおばちゃん達が占めているようなステージが作られていたり。冬行くと全くそんなものは無かったりっていうふうに、街の人達の気持ちに都市が答える装置がちゃんとあって、そういった状態を見ていると、日本に今ひとつまだあんまり無いっていう。

でも今回のプロジェクトもそうだけど、そろそろ建築もそ

う簡単には手をつけにくい建物も増えてきていて。なかなかプログラムの改善が出来ないっていう問題は、今後色々出てくるのかなあと思うんですよ。そういうときに、パリで見たとようなそういうインターフェースと呼んでいる存在があると有効かなと思ったんですよ。

最近色々ところで、アクティビティをどうデザインするかっていったときに、そのインターフェースっていうものを置いてやっているんですけど、今回ここでの試みも実際建物に一切触れない、建具一つ変えられないといったところで、バーバパパが人と人を繋ぐと言うか、建物と建物を繋ぐ関係のようにそのインターフェースが、建物と建物、人と人を繋ぐみたいな、そんな関係になるのかなあということが今回のメインのコンセプトになったと思うんですけど。

#### ～管理者だけが動かせる領域＝「インターフェース」～

長坂 家具っていうのはユーザー、お客さん自身が動かせるじゃないですか。基本的に椅子にしてもテーブルにしても、そういったものは動かせる。でも、建築っていうのは全く動かさないといいですね。プロが動かそうとしたり、計画をきちっと決めて段取りをつけないと動かしちゃならないものになってます。その二つだけで人の動きをコントロールしようとすると、ちょっとやっぱり窮屈。

そのときに、ユーザーじゃなくて、管理者が自由に動かせる仕組みを持ち込むことによって、もう一つ違うレイヤーが設定出来るのかなという、それがインターフェースと言っているもので、実際はハンドリフターとか、手で持って動かそうとすると重くて動かさないけど、ハンドリフターっていう普通の人が持ち歩いてないものを使って、動かせば動かせるっていう、それが定義になってますね。

そうすることによって、管理側がある程度自由に、明日ここにあった台を向こう側に動かそうっていうのが出来る。だけれどユーザーは、押しでも全然押せないのだから出来ない。そういうプロと、素人というお客さんとの間にもう一つ、建物を管理している人たちが操作できる、そういうゾーンを作ろうっていうのが、インターフェースのコンセプトです。



ハンドリフターを使って動かす様子

コルクだったりカウンターだったり何かあったときにがさっと全部動かして、その場を何か違う目的で使うことが出来る。そういうふうに操作できるものをインターフェースと呼んでいます。

～サインのデザインのコンセプトについて～

色部 サインのコンセプトから始まったというよりは、やっぱり長坂さんの考えと、インターフェースとかバーバパパっていう、そこに今回は付随するものだなっていうのがあります。長坂さんの中で公園と繋ぐみたいところはもう既に頭の中にある、それを更に家具とサインっていうのを別パートでやるのではなくて、一緒にやるっていう、その考えはもう決まっていたと思うんですね。そういう中で僕はサインとして、何でそれを補助できるかっていうところが重要なあと。

僕は違う観点でサインを建物のインターフェースだっていうふうに思っていて、それは単純にオーディオでいうとオーディオのボタンに入ってるグラフィックもインターフェースですし、今だとタッチスクリーンの中でユーザーを引き込むためのユーザーインターフェースが設計されていると思うんです。サインの場合は特に利用者が常に触れるものなので、その利用者が触れるものの質とか、あるいは、よく僕サインのことを「案内人」という言い方をして、人に例えてそのキャラクター設定を建物に応じて作っていくんですが、今回の場合はこの建物にとってどういう案内人がいるのか、あるいは今考えている公園と美術館を繋ぐっていうことを設定した時に、どういうキャラクターが良いのか。あともう一つ言うと、なかなか僕もこれだけの大空間のサイン計画を担当したことがないので、とにかく大きな空間に対して、どれくらいの音量のサインが必要なのかというところは結構悩んだし、一番格闘した部分ですね。



長坂 そうですね。

色部 最初提案したサインとか、皆さんの反応としては、これ大きすぎるんじゃないか、みたいな話もあったんですけど、ただ僕は経験上、これくらいの建物だとこれくらい大声を出してもあんまり聞こえないっていうぐらいの算段もあって。今回そういう意味で、キャラクターとしても声の大きめな人だし、何かすごく繊細に空間に寄り添うというよりは少し仮設的に、モノが建物よりも前にポンとあって、それがしっかり主張しながら、人と人を繋いでいくような、そういう関係性の収まりが良いだろうなっていうふうになりました。



～「抜き差しなる関係」～

長坂 サインこそインターフェースですよ、建物のね。たしかに質感を建物に寄せないっていう話は結構この計画の大事なところだったような気がするんですよ。あまりにも建物の持っているデザインのコードが、既存のものが、やはり一つの方向にコントロールされているので、何か隙がないというか。そこにこう、作家はもちろん絡めると思うんですよ。それを生業としてやっているし、ホワイトキューブはそのために用意されているけど。でもそこに一般の人たちが流れ込んでくる隙っていうものは、やっぱり今のままだとちょっと冷たいっていうか。もちろんそれが一つの、高い意識を表現することになる一方、やっぱりこの辺の公園で遊んでいる人たちを引き込む誘導にはなかなかならないなと思っていて。それなので今回パーチ材だったり、コルクだったり、足場の素材を使って作ったりっていうような、そういうちょっと、やんちゃな要素、全く異なる質を持ち込んだことによって、これから何か少し他のこともやれそうな

空気が出るのかなど。

色部さんのサインのボリュームの話もそうだと思うんですけど、建物に寄り添い過ぎると、今回の場合は違うかなというか。その辺で結構、建物から外すっていうのが一つの大事なポイントだったなって、今の話を聞いていて思ったんですけど。

どうしても一人の人格で物事をコントロールすると、そのデザインコードをみんなが理解してしまうので、そこに習ってしまうっていうところがあるんですけど、やっぱり僕ら普段よくリノベーションとかをしていると、ちょっとそこから外すことによって、間にこう隙ができるので、人がこう関与しやすくなる。

それを僕ら「抜き差しなる関係」って言っているんですけど。抜き差ししない緊張感があるときにやっぱりすごく美しいものを作り上げることに繋がることはある。と同時に、やはり人に関わらせる余地が無くなってしまいうところがあるので、このパブリックスペースではやはりそうじゃない環境を作るのがいいなと思ったんで、まさに「抜き差しなる関係」のある場所っていうのを考えたっていうことかなと思いますね。

色部 本当、隙だらけですよ。例えば、座れるサインなんて僕今まで経験したことがなくて。サインというのは人が立って見るものという、あくまでもそういう外にある関係のものが、気がついたらそこに寄りかかっているみたいな瞬間が今回の計画の中には入っていて。その関係がつくる風景って、どういう風景なのかなあっていうのがすごく個人的にも楽しみにしてる部分ではありましたね。

長坂 確かにサイン見ている人のところに、ここに子供が座っている可能性が。逆に見られていたりするっていう関係が起る…。とは言えやっぱり建物大きいので、僕らの仕事かどこまでこうボリュームとして届くのかっていうような。

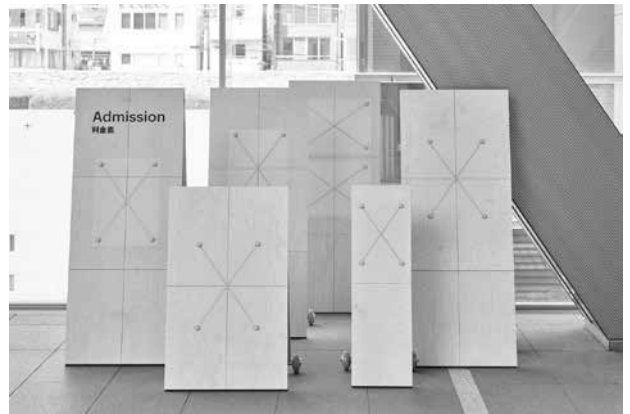


Photo: 岩崎慧 (株式会社日本デザインセンター)



Photo: 岩崎慧 (株式会社日本デザインセンター)

～「普段使い」してもらえ美術館～

長坂 そうですね。色部さんとそこは僕も共通しているところで、お子さんの世代が比較的近いので、色部さんは駒沢公園で、僕は昔、世田谷公園、最近は砧(公園)のほうなんですけど、そこで子供と一緒に遊んでいて、親が子供の遊んでいるのを見ているっていう境遇を何となく共有しています。そのときに何か意外と公園の周りって良いところ無いんだよねみたいなことを僕がぼろっと言ったら、「いや僕のところにはありますよ」って言っていましたよね。え、どこですか、みたいな。

色部 駒沢公園のとある喫茶店が、本当に公園のすぐ隣というか、窓が全部公園側を向いてたりして見えるんですよ。そこでコーヒー飲んだりお酒飲んだりしながら子供の遊んでいる様子が見れるみたいな、そういう続いた関係っていうのが凄く良いなあと。そういう、子供も安心して遊べるし、親もくつろげるみたいな、両方にとって良い関係を作る場所みたいなものももっと増えると良いなっていうのは個人的に思っています。

長坂 そうですね。今回のこのロケーションが公園と美術館ということで、美術館のカフェが、美術館のためだけではなくて公園のほうに向いて、公園に来た人たちが「あそこにカフェあるからちょっとあそこに寄って休んでみようよ」っていうようなことが想像できるような場所になったら良いなっていうふうに思っていますね。



Photo: Kenta Hasegawa



Photo: Kenta Hasegawa

長坂 そうですね。最初展示室の中に入るために来なくても、段々と美術館に対しての距離感が近づいてくるような場所作りが出来たらなと思って。知らず知らずのうちに、暖かいし、とか、涼しいし、っていう感覚で中に入ってきて、あ、コーヒーも飲めるんだっていったって、あ、子供もちょっと何か遊べそうな場所があるね、みたいなことに気づいてもらって。知っている人が段々友達を呼んで、何となくいつも居るような場所になって。そこに、たまに見たことのあるような絵のポスターがポってあったら、きっと入ってみようかなっていうふうに、今までなかなか美術館に足を運ばなかった人たちが、もう少し近づいてくれるきっかけがこれによって生まれたらなというふうに思っていましたけど。

そんなこともあって何か気候の良いときとかはフードトラックがこう止まって、また外にもそういう人へのアプローチ出来るきっかけがあったら良いねとか、色々話していたと思うんですけど。そうは言っても、あの強い、かなり距離のある公園と建物の間にあるアプローチのところで、色部さんがサインをどうやって強く出すかっていうことで、非常に重要なポイントだったと思うんです。大きさ、それからサインのかたち。

色部 今回結構全体的にサイン大きめなんですよ。あと、やっぱりバリアフリーっていうのを、今の時代でもありますし、意識しないといけないし、皆さんからの要件としても受け取っていて。一番のバリアフリーって何かっていうと、よく多言語化みたいなことを言うんですけど、絵で、いわゆるピクトグラムで伝えていくっていうことが、一番誰にも直感的にわかりやすい状況が出来るかなと思ったので、とにかく視認性のあるピクトグラムをつくらうっていうことで。今多くはJIS規格とかそういう標準的なピクトグラムが使われているんですけども、そういうものをベースにした、更に改良を加えて、遠くからでも、少し弱視の方でも見えるような、コントラストのしっかりある、潰れのない、目が乱視の人でも見やすいみたいな、そういうピクトグラムを実はつくったんですね。それを実際、美術館の中で検証のために、色弱の方にも見ていただいたりとか、いろんな方にヒアリングをして、その調査の中では結果的にこっちのほ

うが見やすいだろうという結果も出たので、そのまま途中まで計画として進めていました。そのピクトグラムっていうのは視認性だけじゃなくて、当然今回のプラン全体の中でキャラクター設定というのをしている、すごくフォーマルな感じというよりは、どちらかというとカジュアルで遊びのある感じ、ざっくりした感じっていうのをテーマにつくっていったものなんですけどね。そういう意味で、ピクトグラムっていう意味では少しやり残した部分もあるんです。

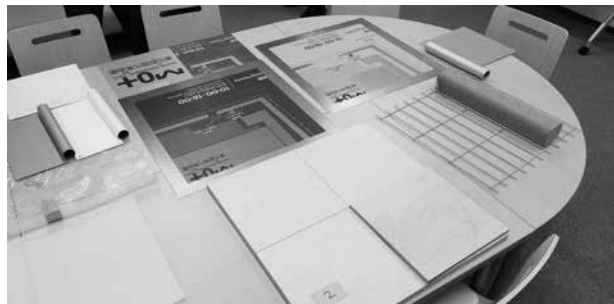
長坂 そうですよ、我々のその素材感とかに、ある意味ぴったりの感じの、フランクな、そういうサインが本当はあったんですよね。

色部 もっと勢いづいて言うと、何でそういうものをわざわざ統一されたものじゃなくてつくるかっていうと、統一してわかりやすいっていうことも大事ですが、やっぱり個性ってとても大事で。東京都施設のピクトグラムは全部本当に一緒に良いのか、全部キャラクターと一緒に良いのかっていうことになっちゃうので、それぞれの相応しい人格っていうのを大きく変えなくても、最適化して、ちょっと調整してやっていくみたいなのは、僕はあっても良いんじゃないかなと思うんですけどね。

(2019年2月18日 東京都現代美術館にて)

コルクや木(バーチ材)とスチールを組み合わせたインターフェースの提案をもとに、およそ700あまりの旧サインを洗い出し、再検討、再検証を行ったり、他館へのリサーチやヒアリングを重ね、什器の仕様やサイン計画などを詰めていきました。

実施設計図書が整った段階で、パブリックスペース什器およびサインの製作・設置業務の委託についての入札を行い、株式会社デザインアートセンターに委託することが決定しました。株式会社デザインアートセンターは製作期間およそ4か月の中で、施工図、マテリアル製作、モックアップ製作、設置工事などの業務を行いました。



モックアップ



取り付け



取り付け



工事の様子



現場調査



製作



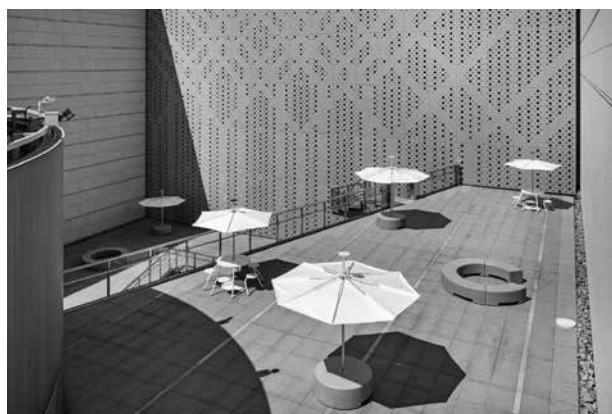
目の前に広がる木場公園の、その続きのように普段使いをしてもらえる美術館をコンセプトに、こうしてパブリックスペースの整備を行ない、東京都現代美術館は2019年3月29日にリニューアル・オープンを迎えました。



(エントランスホール)



(パークサイドエントランス)  
右: アンゾニー・カロ《発見の塔》1991



(中庭/テラス)



(美術図書室前の情報コーナー)



(こどもとじょしつ)

パブリックプロジェクトチーム担当者

加藤惟(管理係)、工藤千愛子(企画係・広報班)、鳥居茜(教育普及係)、西川美穂子(事業係)、藪前知子(企画係)、山本ふじ代(管理係)

小高日香理

### 1. MOTサテライト2017秋のフレームワーク、コンセプトについて

東京都現代美術館が工事休館に入った2016年度より、年度に1回のペースで地域を舞台/テーマにした企画「MOTサテライト」が開催されている。

その第2回となる「MOTサテライト2017秋 むすぶ風景」では、3人の学芸員が企画に携わり、「地域連携」「教育機関連携」「国際連携」を3本柱に据え、清澄白河のまちなか及び東京藝術大学上野キャンパスにおいて作品展示やプロジェクト紹介、関連イベントの実施を行った。東京藝術大学での取り組みについては本誌pp.119-122の崔敬華による報告を参照されたい。清澄白河では、シリーズの第1回となった「MOTサテライト2017春 往來往來」から大まかなフレームワークを引き継ぎ、近隣の人々や施設、店舗の協力を得ながら、工場跡地や地域拠点を活用したメイン会場「MOTスペース」6か所と、店舗の店先などを借りたMOTスポット9か所にて展示を実施した。地域の特色ある拠点の活動を紹介する「地域パートナー」も引き続き参画し、サテライト開催期間中の清澄白河を盛り上げた。MOTスペース及びMOTスポットはほとんどが清澄通り近辺から三ツ目通り近辺の間のエリアに位置し、徒歩で周っても半日かかるかかからない程度の距離である。新たな取り組みとして上記エリアの中ほどに案内所を設けたことも記しておきたい。(図1)この案内所にはスタッフが1名常駐し、ガイドマップを配布したり、質問に答えたりして、訪れる人に直接サテライトやまち、美術館の情報を提供するほか、近隣の催しの案内チラシ等を配架するなど、地域からの文化情報が集まる場としてそれらを発信していく役割も担った。



図1  
MOTサテライト案内所 撮影：白井晴幸

この地域の一般的なイメージは、主に古き良き下町情緒の深川、あるいはお洒落なサードウェーブコーヒーのまち清澄白河という2つに集約できよう。古きと新しきが共存するこのエリアは、緩やかながらも常に変化しており、観光客だけでなく居を構えたり、生業を始める人も増加している。そうした中で、現代美術館として何ができるのかを考えたときに浮かんだのは、地域の自己発信力のあるコミュニティとの協力関係を保ちつつ、同時に名前のつかない何気ない風景や市井の人々の営みに焦点を当てることであった。いつからあったかわからないような店の看板や、地元の人が近道に使う路地、思い出の中だけに存在する景色…そういったものをあらゆる角度から可視化し、アーティストと鑑賞者、過去と現在を結ぶこと、バックグラウンドの異なる人々やコミュニティの出会いを創出することを目指して、本企画は「むすぶ風景」というタイトルを持つことになった。

このようなコンセプトを前提にしつつ、清澄白河における展示やプログラムは、「地域連携」、「教育機関連携」の柱に基づき、以下の2つの方向性から展開した。

#### ①<まち [清澄白河] の風景をえがく>

国内外で活躍する現代美術作家たちが、地域の記憶や人の営みから浮かび上がる風景を、作品を通して表現する。MOTスペースA、D、E、F、MOTスポットa～iにおける作品展示及び関連プログラム

#### ②<体験からみる清澄白河>

教育機関に所属するアーティストや研究者たちが地域をテーマに体験型作品を中心としたプロジェクトを紹介する。MOTスペースB、C、案内所における展示及び関連プログラム

本稿では、①に参画した現代美術作家5組の活動実践について報告する。②については、本誌pp.123-132の森山朋絵による報告を参照されたい。

## 2. 清澄白河を描く

それでは、5組の現代美術作家がどのように地域と関わり、作品を制作していたのかを具体的に紹介していこう。作家はいずれも地域の外に住んでいるが、これまでに様々な土地を訪れ、綿密なリサーチや住民とのコミュニケーションを通してその土地に複層的な視点を与えるプロジェクトを行ってきた若手～中堅作家である。

### (1) 下道基行《見えない風景/深川編》

下道基行(1978-)はフィールドワークやリサーチを行いながら、日常の風景の中に埋もれている人々の営みや記憶をテーマに、テキストや写真、オブジェを使って見えない「かたち」を顕在化させるプロジェクトを行っている。その代表的なプロジェクトの一つが、落書き、路地園芸、誰かが置いたオブジェなど、まちなかの何気ないランドマークを言葉でスナップし、地図をつくるワークショップ「見えない風景」だ。銅像や建築物などモニュメント化された目印ではなく、人々の営みの痕跡をたどっていくようなこの試みは、これまで各地で展開され、見慣れた場所の別の姿を浮かびあがらせてきた。今回は、そのワークショップの《深川編》を清澄白河で実施し、その記録を資料館商店街通り商店街協同組合事務所1階にて映像と資料という形で展示した。(図2)



図2 下道基行《見えない風景/深川編》展示風景 撮影：白井晴幸

9月2日の小雨の降る中、「MOTサテライト」開幕前のイベントとして、作家と11名の参加者による約6時間のワークショップが実施された。作家は事前にまちなかを入念に歩き回り、とある公園を「集合場所」に決めていたのだが、当日駅についた参加者はまず作家の作った言葉の地図によってそこに誘導されることになった。言葉の地図に書かれるランドマークのチョイスは、寺や路地園芸など清澄白河のまちの特徴を捉えながらも、個人の生活の痕跡が垣間見えるもので、また時間の経過によってなくなってしまうような目印もあった。到着した参加者は公園でオリエンテーションを受けると、そこから各自作家が作っておいた白地図を片手に歩き始める。(図3)公園の東西南北には美術館の目の前にある三ツ目通りのような大きな道路はなく、細い路地が入り組んでいたりと、民家や集合住宅の植栽がせめぎ

あっていたり、かと思えば突如開けた工場の前に出たりと非常に変化にとんだエリアだ。そこで、見つけた興味深い「目印」たちをメモしておいて、「言葉の地図」として清書した後は、他の参加者とそれを交換して歩いてみる。言葉の地図がどこに行きつくかは自由で、どこか見せたい風景で終わっても良いし、公園に戻ってきても良い。順路のほんの一例をあげると以下のような形になる。

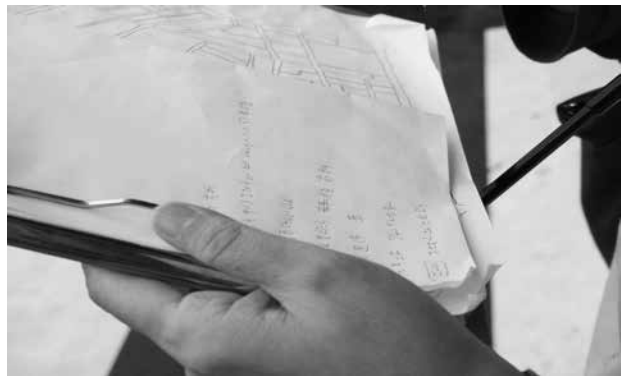


図3 《見えない風景/深川編》ワークショップ

「道路に出て右折」→「交差点を右折」→「左手、もたれかかる自転車」→「右手、ピンクのゾウさん」

→「右手、猫が大嫌いな人の家」→「左手、カラーコーンの抜け殻」→「交差点を右折」…

このように目印を辿りながら進んだり曲がったりすることになるのだが、その目印は誰にでもわかりやすい「マクドナルドの看板」などではないため、彷徨いポイントが発生することも珍しくない。更に言えば目印は、あくまでも歩いた当事者が端的に(たまに詩的に)言葉で表したものである。例えば「右手 窓に猫」と書いてあった場合、窓辺に本物の猫がいるのか、絵や置物があるのかは読んでいる側にはわからない。窓は低いところにあるのか、高いところにあるのか?視線が上下左右に動き意識のチェーンがあらゆるところにあわせられ、目的のものを見つけた瞬間はまさしくラジオが明瞭に聞こえた時のような達成感がある。ある風景を通して、地図の作成者と読み手のチャンネルがピッタリ合う瞬間だ。

タワーマンションも増え続けている清澄白河だが、まちがまだまだヒューマンスケールであることが、このワークショップに重要な役割を果たしていると考えられる。関東大震災や東京大空襲を経て大きなモニュメントやランドマークが少ないことも関係しているだろう。郵便受けに乗ったみかん、建物の隙間に放置されたオブジェ、塀の上のたわしとスコップ、洗剤のにおいがする路地…それらは生活のインデックス(痕跡の記号)であり、その風景をつくった主体の姿は見えない。しかし私たちはその営みの主体を想像できる距離感(物理的にも時間的にも)で、それを眺めることができる。この遊歩者と地域の交感、先ほども記したように記録映像となって会期中上映された。編集されているのですべての目印や道順を網羅しているわけではもちろんないが、鑑賞者の中には「ここはウチの近くで…」と解説

してくれる人もいれば、「ここに行ってみよう」と、場所を探して追体験を楽しむ人もいた。映像の中で登場した住民が見に来てくれることもあった。

ちなみにこのワークショップは会期中にも1度開催され、11名が参加した。

## (2) 鎌田友介《不確定性の家》

鎌田友介(1984-)は、建築が内包する時代性や政治性を紐解き、交錯する複数の記憶や視座を映像やインスタレーションに編み上げる制作実践で知られている。代表作のひとつとして、韓国にある日本統治時代の日本家屋や空爆実験用にユタ州に建設された日本家屋、日本に現存する日本家屋などをリサーチし、異なる場所に生まれ様々な意味合いを孕んできた建築から近代史にアプローチするプロジェクト《The House》がある。城郭や寺院のように半永久的に残されることを前提としない、庶民のための建築をプロジェクトの題材とする作家は、調査の過程でかつて深川の風景の一つを構成していた木造の家屋の多くが震災や戦災、建て替えて姿を消していることに着目した。そこで作家は、地域に長く住んでいる人々にインタビューを行い、昔住んでいた家について語ってもらうと同時に、個人の記憶というマイクロな視点と対比するように、深川地域の近代建築史や都市計画に詳しい専門家にもインタビューを行い、その背景と土壌を探っていった。このようにして複数の個人の記憶とまちの記録が重なり結実したのが、住民の思い出の中のみ存在する家を、骨組みのインスタレーションとインタビュー映像によって浮かび上がらせた《不確定性の家》である。(図4)展示場所は、かつて本の丁合いをしていた工場のスペースだ。



図4  
鎌田友介《不確定性の家》展示風景 撮影：白井晴幸



図5  
鎌田友介《不確定性の家》展示風景(部分) 撮影：白井晴幸

ステンレス製の引き戸で区切られた入口を抜けると、木の柱が複雑に組み合わさった構造体が床面積の3分の2程を占めているのが目に入る。これは釘やボルトを使わず、木組みを槌で叩いて仕上げたものだ。「間」(約1.8m)をベースとした尺度で構成されており、かつての家屋の構造を模したものではあるが、それが複数重なり合っているため視線はどこに照準をあわせるべきか一瞬逡巡する。

構造体には3台のモニターと2つの地図が組み込まれている。(図5)3台のモニターには、前述したインタビューの映像が流れている。そのうち2台には70代後半～80代の地域在住の協力者5人が出演しており、彼らが昔住んでいた家(いつの時点でもよい)を思い出しながら間取りを描いている映像が上映されている。いずれも顔ではなく手元がクローズアップになっており、紙にペンを走らせる様子や当時の写真や資料を指差す様子が見られる。カメラのフォーカスを合わせていくように、出演者のおぼろげな記憶が辿られ段々と家の図が紙の上に現れていく。台所の流しと風呂の洗い場/洗濯場が兼用だったことや押し入れのすぐそばに階段があったことなど生活空間の構造の話に加え、物置で昼寝をしていたことや土間のある古い家に家庭教師が来ていたこと、家の周りの薄暗い路地で友達と遊んだことや夜に柱時計の音に怯えていたことなど、子供らしい思い出が語られる。ほとんどの人が小学生の時に疎開を経験しており、中には帰ってきたら何もなくなっていたので最初の家はよく覚えていないと言う人もいれば、鮮明に覚えている人、生家ではなく疎開でお世話になった家について話す人もいた。異なる生活を送っていた語り手のクロスポイントとなるのはやはり東京大空襲である。日々戦禍の気配を感じつつも、東京大空襲により一夜にしてその暮らしの場がリセットされてしまった衝撃は想像に難くない。しかし、米軍の飛行機が上空を飛んでいたことや焼夷弾により一帯が焼野原になったこと、そこから復興していったことについては、間取りを描くのと同じようにあくまでも淡々と語られる。

骨組みの構造体にはめ込まれた2つの地図は、それぞれ東京大空襲と大正12年9月1日関東大震災の被害についての地図だ。「客観性」の極致といえる地図が個人の記憶を辿る語り手と対比するかのようには提示されているが、実際はモニターも地図も、複数の視座を表すかのように少しずつ違う方角を向いている。残る1台のモニターでは、2人の専門家が歴史的・地理的見地から、地域の家々の消失と復興、継承と変化について説明する様子が流れている。震災と戦災で焼失したのは、家屋だけでなく写真や図面等当時の建築資料についても同じであるが、それ以前に当時の「一般家屋」を知るための手がかりそのものは非常に少ないこと、大工が図面など引かず規格品の材木を使いつつ、ある程度モジュール化した家を建てていたことなどが語られる。インタビューの終わりには、資料や歴史的建造物だけを保存するのではなく、土地の感情も踏まえて歴史をかえりみることの意義や、新しいものを受け入れつつも流れた時間が見えるまちであり続けることへの希望についての言及があった。

人々の記憶の中にも断片的で曖昧に存在する家屋の特徴を収集してできた《不確定性の家》は、家を手掛かりにしつつ個人史と近代史のシームレスな往還を鑑賞者に促し、不確定な風景を共有できる可能性を提示した。

### (3) Atsuko Nakamura《内在する速度》

Atsuko Nakamura (1982-)は自然と人々の営みの新たな可能性を探求し、自然の現象と協働しながら、塩の結晶や流木、水などを使ったインスタレーション等を国内外で発表している。自然の中のコントロールできない部分を制作実践に取り入れ、生命の儚さや力強さ、人間のライフスパンを凌駕するような時間性を提示しつつも、自然と人間の関係性を問いなおす作品を制作する。

MOTサテライトでは、かつて建具倉庫であった場所を会場に、水とともに生きてきた木場の記憶をテーマにしたインスタレーションを展示した。江東区木場はその名の通りかつての材木置場(貯木場)であり、木材を運搬するための運河や水路、乾燥や虫を避けて保存しておくための掘割があちこちにある水都であった。元々材木置場は茅場町を中心に点在していたが、寛永・明暦の大火を機に江戸市中での火事の温床となるのを防ぐ目的から比較的影響が少なく、運搬が容易な隅田川の河口地にまとめられ、「木場町」が形成された。江戸から明治、昭和を通して、筏状に連結された木材に川並が乗り、水路で運搬する風景が見られていたが、昭和50年頃東京湾の埋め立てが進むと貯木場の機能は新木場へと移転し、無数にあった掘割や水路の多くが埋め立てられた。

そのような歴史を踏まえつつ、作家は住民との交流から「ゆるやかな変化のあるまち」としての清澄白河に着目し、木場時代の生活リズムが無意識に街全体の体内速度となって受け継がれていると仮定した。調査過程で偶然の縁があり、木場公園のほど近くに住む秋田杉を専門に扱う木取店(丸木を角材にする生業)を営んでいた男性に出会い、当時の仕事の内容、生活や遊びのこと、近隣の道路や川の風景、戦後の復興や高度成長期を経てそれらがどのように変化していったかを聞き取り調査する機会を得た。そこから見えてきたのは、運河や水路のように流れつつづける水もあれば、掘割に溜まる水もあるように過行くものと残るもののバランスがまちのリズムをつくってきたことや、生業として水を利用するだけでなく、川を下ってくるお神輿や水かけ祭りなど人々のハレの場面にも水が重要な役割を果たしていたことだ。

そこで作家は、江戸、明治、昭和、平成の地図を調査し、かつて水路や堀だった場所と現在水路のある場所を約170ヶ所ピックアップして、そこに流れる環境音を採録した。そのようにして録音した音を水の入った大きな盥に流し、その振動によって引き起こされる水面のさざ波の模様を、時代ごとに色を変えた絵具を用いて木材にマーブリングの要領で転写した。例えば江戸時代まであった堀はAの色、明治時代にあった堀はBの色、江戸から明治まであったものであればAとBの混色、といった具合

だ。もちろんそれは本当の水面を写したものではないが、水面は川の流れ以外にも、音や風、虫の動きなど周囲の目に見えないあらゆる振動によって変化するため、今ここに掘割や水路があったら本当にこのような水面が写し取れるのではないか、という想像を掻き立てる。

このようにマーブリングされた木材はロープで筏のように組まれ、奥行きのある材木倉庫のロフト部分から川が下ってくるようなダイナミックな方法で展示された。(図6)その大きいくねる水流のような形態は、筏状に連結された木材がかつて川にのって運ばれていた様子や、あちこちの掘割で丸太が浮かんでいた風景などを思い起こさせる。この構造物の脇を通って展示室の奥にまわると、右手の壁にリサーチ過程で入手した印刷物や江東区の俯瞰写真、水のあった場所を示した近隣の白地図、作品プランなどが貼られている。奥の棚には水のプリントに使った絵具や用具一式、左側には同じくプリントに使用された盥が展示されている。その後ろの壁にはモニターが取り付けられ、作品制作の過程の映像が上映されている。(図7)筏状のインスタレーションが象徴する過去から現在への旅路は、このような資料や映像を通してその強度を増し、元建具屋という木材を扱っていた空間において必然性をもって表現された。



図6 Atsuko Nakamura《内在する速度》展示風景 撮影：白井晴幸



図7 Atsuko Nakamura《内在する速度》展示風景 撮影：白井晴幸

作家は水の表面を写し取る手法を用いて「水のプリントワークショップ」を会期中に実施した。自分の声や息の振動をマイクで増幅し盥の水を震わせ、そこに好きな色の絵具を垂らして紙に波紋を写しとるというものだ。イベント当日は東京を大型の台風が襲い、大雨・大風の中での実施となった。それでも地

元の人たちを中心におよそ30人の参加者があったことは特筆すべきことである。水を介して自分が発する声や息の一瞬を切り取った、他にふたつとない模様に参加者が歓声を上げる様子が見られた。

#### (4) 守章《周囲内見》

守章(もりあきら)は、1996年から守雅章と守喜章による双子の兄弟ユニットとして活動を開始し、映像、写真、音など様々なメディアを使用した展示で、自己と他者との距離や集団・社会、公共空間に存在する見えない境界を探っている。当館で2000年に開催された「MOTアニュアル 低温火傷」展では全裸の双子のアーティストが背中合わせにお互いを支えあうように体重をかけ、最後にはバランスを失って崩れ、映像が暗転することを繰り返すインスタレーションを展示したが、MOTサテライト開催当時は弟の守喜章のみがその名を引き継ぎ活動していた。作家は今回、平野地区にある印刷所の跡地を舞台に、音による新作のインスタレーションを展示した。(図8)



図8  
守章《周囲内見》展示風景 撮影：白井晴幸

印刷所は材木店と並び地域の重要産業であり、「木場」の役目を終えた今も紙を扱う工場や会社は多くある。会場となったスペースで印刷所を営んでいた会社は数年前に別の場所に移転しており、残っているのは使われなくなった水道とシンク、蛍光灯だけで、インクの染み付いた床や壁がかつての名残を示していた。作家はそんな空間に視覚的にはほとんど手を加えず、「音」を介入させることにした。そこでは誰もいない空間に人の営みを想起させる音が響いてくる。部屋の中ほどからは紙を断つ裁断機の音が。(図9)蛇口付近からはテン、テンと水滴がシンクを打つ音が。壁に立て掛けられた蛍光管に近づけば、キン…キン…とランプが切れかけた時の音が。これらの音は、作家が録音したり集めたものであり、バイブレーションスピーカーを通して来場者の鼓膜に届けられる。バイブレーションスピーカーは硬い素材に取り付けて表面に振動を伝えることにより、その素材そのものをスピーカーに変換するというものだ。直径3-4cmのごく小型のものをシンクの下や扉などに直接取り付けしており、パッと見ただけでは気づかれないために来場者はポルターガイスト現象に遭遇したかのような体験をする。

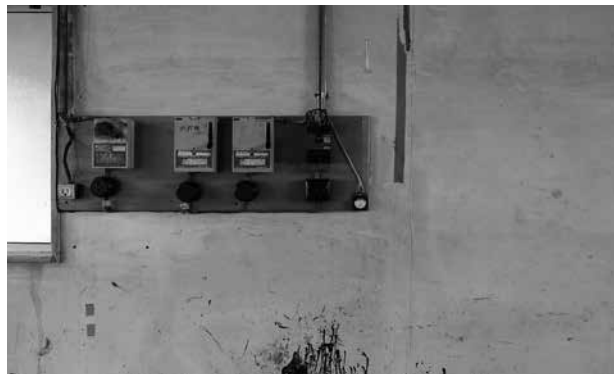


図9  
守章《周囲内見》展示風景(部分) 撮影：白井晴幸

この作品において重要なのは空間を指向する意識であり、作家が着目したのは「周囲」というキーワードだ。会場で配布されていた作家本人による作品の考察テキストを以下に掲載する。

#### 周囲と内見についての考察

##### 守章

本作のタイトルは『周囲内見』(しゅういないけん)と読みます。

不動産屋で部屋探しの際に下見をする手続き(内見)の視点を変えてみる機会、という意味が込められています。部屋の内見をする時と言うのは、その場所に対しては訪問者であり、かつてそこにあった生活感からは客観的な立場に居るのかと思います。

この会場には、かつて印刷所として運用されていた気配がありながらも、部屋に残された古いカレンダーからは長い時間が経過していたことが窺い知れます。人の営みが失われ、内部に居ながらも、外部にさらされているかのような感覚、つまり内部と外部の気配が闊<sup>せう</sup>ぎあう状態であると捉えられます。

今回の展示では、かつてあった部屋の気配とそこを訪れる人々の身体が受け取る感覚、その闊<sup>せう</sup>ぎあう範囲を周囲と名付けました。その際に、この場所の周囲とはどこで何であるかと言うことを探る方法として音を介在させることに決めました。内と外の境と思われる場所から、この場所に関わる音、この場所を彷彿とさせる音が響いてきます。それぞれの音が不定期に混じりながら現れる場所に、観覧する人々がその音に立ち会うことを考え、このタイトルに辿り着きました。

周囲と近隣は親戚関係にあるようなもので、周囲にあるものはその場所の住人になることで時間をかけ近隣に変換するものなのかと思います。

このテキストを最初に読んだときに思い起こされたのはS.フロイトのUnheimlichという概念だった。ただし、本作においては「heimlich」(慣れ親しんだもの)が時間を経て「Unheimlich」(不気味なもの)に転化するのと逆の現象が起こりうる。来場者の多くはこのスペースになんの縁もないので、自分のテリトリーの「外」としての印刷所に入り込み、自分ではない他者の気配を感じることになる。しかしテキストで示されているように、(実際はありえないことだが)その住人になり時間をかけることで、

「過去/他者の気配」と「現在/自身の身体」の闘ぎ合う範囲＝周囲にあるものは、親しみをもった「近隣」に変化する未来が示唆されている。時間を経た身体感覚の変容の可能性こそが作品の醍醐味と言えらる。

周囲といえば、この空間で最も特筆すべき音は、出入口の扉から聞こえてくる音だ。正面の道路を行きかう車の音や歩行者の音といったリアルな環境音に混じって、選挙カーの音や鳥の鳴き声といった建物の「周囲」で聞こえてきそうな音が実は「内部」から鳴らされている。これらは実際の音だと思つて気づかない人もいたが、「引き戸を開け閉めする音」では、誰かが入ってきたと思つて振り返ると誰もいない、という出来事から仕組みに気づく人が多かった。

音を介して空間自体をメディア化し、内と外の領域の境界を揺るがす守章らしい作品であるとともに、まちや環境の変化に私たちの身体はどう適応・対応していくのかを考えさせるMOTサテライトならではのプロジェクトとなった。

#### (5) 石塚まこ《反転する視点》、《二重の橋》

石塚まこはヨーロッパを中心に様々な場所で暮らし、自身とそれを取り巻く環境にある心理的・社会的距離に着目しながら、インスタレーションの制作、随想の執筆、人々とともにワークショップやソーシャルプロジェクトを行うなど幅広く活動している。MOTサテライトでは、地域に点在する9つのMOTスポットで、《反転する視点》、《<sup>ふたえ</sup>二重の橋》という2つのプロジェクトを展開した。

MOTスポットとは、前述の通り施設の一角や店舗の店先などを借りた小規模展示会場である。第1回MOTサテライトから引き続き協力を仰いだ6つの店・施設(オールプレス エスプレッソ、smokebooks、大久保クリーニング、Coci la elle、三河屋精米店、江東区立深川図書館)に加え、三ツ目通りにあるインド料理店「ナンディニ」と商店街通りの和菓子屋「御菓子司 双葉」、不動産を扱う「株式会社スタートライン」に参加してもらった。

初夏に清澄白河エリアを訪れた作家はまちを歩きながら様々な人と交流を行う中で、世話焼きでおしゃべりな人が多く住んでいることや、自分の土地からもりもりとはみ出すような路地園芸の多彩さに気づくと同時に、地域で学び、働き、暮らしている海外にルーツを持った人々に着目した。「外」にルーツを持ちながら「内」としての地域で営みを送る彼・彼女達を「案内役・媒介者」としてまちを考察することからプロジェクトがはじまった。そうしてまちや人から得たインスピレーションを海外に長く住む自身の経験と結び、そこから生まれる「思考の地図」を店の窓ガラスにドローイングする《反転する視線》が結実した。(図10)これは、日々の営みに現れる境界線の引き方や越え方に地域の気質や価値観を見出すという試みであり、外と内を隔てて繋ぐ「窓」ないしは客席とキッチンを仕切るガラス壁がその舞台となった。制作にあたっては、作家は窓の内側、つまり店の中から外にいる人が読めるように鏡文字で思考を書きつけてい

たため、ライブパフォーマンスをしている、と思つた歩行者もいたかも知れない。展示場所である店に関係したキーワードや、そこで働く人と話したことを出発点としつつ、自分の経験や読んだ本の内容、制作中に話しかけてくる歩行者との交流までを自由につなぎ、ことばを紡いでいく。出来上がった思考の地図は、ニューロンのように絡み合い展開し、次から次へと視線を誘導する。繋がっていく思考を辿るうちに、想像の中の風景が現代から江戸時代へ、清澄白河からブラジルやオランダ、インドへと飛躍するような感覚を味わう。その飛躍の媒体となっているのは、食であり、動植物であり、気候であり、言語であり、伝統文化であり、人のふるまい方であり、日常を構成するありとあらゆる要素といえる。反転した視点で、しかしフラットに紡がれる言葉によって、文化や地域による境界線の引かれ方の違いやひとつの事象の捉え方の違いが浮き彫りになると同時に、認識のずれやずれ違い、「よその人」の視線や思考であるが故の豊かさも見えてくる。三河屋精米店の協力を得て借りた「三河屋さんの米置き場」では、思考の地図のドローイングとあわせ、紙バック等で自作したカメラを展示し、道行く人やのぞき込む人の姿を「反転」し写して見せた。(図11)



図10  
石塚まこ《反転する視点》オールプレス エスプレッソでの展示風景  
撮影：白井晴幸



図11  
石塚まこ《反転する視点》三河屋さんの米置き場での展示(部分)  
撮影：マリアナ・ウマニャ

《反転する視点》と緩やかに関連しつつ、異なるアウトプットとして実現したのが《<sup>ふたえ</sup>二重の橋》である。(図12)深川図書館の1階のスペースに展示ケース2台を設置し、その中で作家が来日前に読んだ江戸についての書籍や、深川図書館の郷土資料室で出会った資料、海外の知識人による日本での体験記などと、自



図12  
石塚まこ《二重の橋》深川図書館での展示風景 撮影：白井晴幸

身の経験との交叉点の数々が星座のように結ばれるように展示された。深川図書館は浮世絵を所蔵しており、浮世絵関係の書籍や資料を多く所蔵するが、本作の着想点となっているのは歌川広重『名所江戸百景』の複製をまとめた書籍の中で紹介されている『深川万年橋』と『大はしあたけの夕立』という2つの橋を題材にした浮世絵である。前者は、永代橋での亀の放生を描いており、後者は隅田川の大橋（現在は新大橋）と安宅幕府の御船蔵に大降りの雨が降っている様子を描いたもので、ゴッホが模写した浮世絵としても有名である。作家が清澄白河で出会った亀にまつわるエピソードの数々、おしゃれな傘やレインコートを扱い雨の日を“ハレ”に変える地元の店、ゴッホが日本を外側から見つめる眼差し、版の余白と都市風景の余白など、作家がリサーチをしたことや考えていたこと、地域で思いがけずに発見したことが展示ケースの中で、緩やかに重なり結ばれる様子が、資料やノート、書籍の引用文、図や文字を反転させる鏡によって表現される。これも《反転する視点》と同じく、辿っていくことで作家の思考の旅の追体験が可能になるが、絵や文章の引用が介在することから鑑賞者の想像の余地が大きくなっている。本作は深川図書館で展示されたこともあり、本を返却/借りに来た来館者が、熱心にノートの文字や引用文を読んでいる様子が見受けられた。

### 3. 彷徨い、出会う風景

これまで5組の作家が地域をテーマに取り組んだ作品について、その過程や成果を自分の考察も含め報告してきた。木場や空襲の記憶、江戸の文化など歴史を拾いつつ、現代に生きる人や自然のささやかな声を拾い上げる作品、消えてしまいそうな何気ない風景や営みに着目する作品などが揃い、鑑賞者に様々なレイヤーの「風景」を見せ、時間の流れや地域の変化についての考えを促すことができたと思う。美術館外で行う展示会の常であるが、ここに紹介した作品は最初からこの形であったわけではない。作家には複数の提案をしてもらい、関係者と調整をし、紆余曲折を経て最終的なプロジェクトとして実を結んでいる。結果論ではあるが最短距離の実現ではなく迂回を経たことにより、様々な人、コミュニティ、知識と出会うことができた。道を歩くこと1つとっても、何往復もするうちに作家が商

店街の人や住民に顔を覚えられ、挨拶を交わし、時には立ち話を延々としてしまう、ということもあった。一見作品とは関係ないような会話の中にも、それぞれの作品のレイヤー(層)の厚みの形成に寄与するようなキーワードや知見が隠されており、作家はそれを逃すことなく感知していたと感じる。

また全体として、作家だけでなく鑑賞者にとっても「まちを歩くこと」が(点から点への場所の移動ということ以上に)意識させられた企画になったことも特徴的であった。下道基行「見えない風景」のほか、別稿で言及されるARまちあるきツアーやミリアム・レフコウィッツによる参加型パフォーマンスなど、まちを遊歩し風景の多様な見え方を考察するタイプの作品が見られたことを記しておく。ガイドスタッフによるツアー「ガイドとめぐるMOTサテライト」では、作品の解説だけでなく、それぞれ発見した興味深いものやスポットを織り交ぜつつ時に寄り道をする光景も見られた。

作品やイベント、またそれを通した観客同士のコミュニケーションから、かつてあった風景や他者の見ている風景に気づき、地域の進む方向性についてひとりひとりが考えるためのきっかけづくりができたのであれば本望である。美術館も地域も変わっていく中で、引き続き当館が地域の一員として何ができるのかを考え、実践していきたい。

#### 註

1. 詳細は平成29年度発行 東京都現代美術館研究紀要 第20号における「美術館がまちへー『MOTサテライト2017春 往来往来』の実践と可能性」(藪前知子執筆)を参照のこと



# 振る舞いの機微を問うー「MOTサテライト2017むすぶ風景」におけるカディスト・アート・ファウンデーションとの共同企画展「ないようで、あるような | Almost nothing, yet not nothing」

崔 敬華

「MOTサテライト2017むすぶ風景」では、東京都現代美術館のミッションである「創造を担う次世代の育成」を掲げ、東京藝術大学と連携し、上野キャンパスにあるアーツ・アンド・サイエンス・ラボを会場として、展覧会「ないようで、あるような | Almost nothing, yet not nothing」を開催した。これは、カディスト・アート・ファウンデーション(パリ)との共同企画として行われた展覧会でもある。同組織は、2006年に設立された非営利団体としてパリとサンフランシスコに拠点を持ち、世界的な現代美術作品の収集と展示を軸に、教育的プログラム、オンライン・プログラム、アーティスト/キュレーター・イン・レジデンス、世界各国の文化機関との連携事業などを通じて、アーティストの支援や普及活動を行っている。当館は2016年、この組織からの事業連携の提案を受け、本稿が取り上げるMOTサテライト 2017における小展示、2019年5月-7月のカディスト(パリ)での展示、そして2020年3月-6月の当館での展示の3つにわたって共同企画を行うことを合意し、企画はすべて筆者と、カディスト・アート・ファウンデーションのキュレーターであるエロディ・ロワイエ氏が担当した。

その最初の展覧会としての本展は、一般の鑑賞者はもちろんのこと、美術大学生や若手アーティストに向けて、現在の現代美術の状況を踏まえ、彼らの参照項となるような実践を紹介することを主な目的とした。また、展示と合わせて、彼らに向けての教育的事業を充実させるために、ワークショップや上映会、鑑賞者参加型のイベントを、本展を実施した上野、そして「MOTサテライト2017むすぶ風景」の主な拠点である清澄白河で開催することとした。



図1  
《時間の彫刻》展示の様子 撮影：白井晴幸

## 展示テーマ

本展示は、共同キュレーターであるロワイエ氏との議論を経て、MOTサテライトが目指すコミュニティとの連携、もしくは現代美術によるエンパワメントということについて、観賞者の考察を促すことを目指した。これを取り上げた背景としては、MOTサテライトのように、ある特定の地域やコミュニティを対象にしたアートプロジェクト、芸術祭、ビエンナーレなどで、アーティストたちがその地域の人々と関わり制作をする機会が今も増え続けているという現代美術の状況を踏まえている。そのような場において問われることは、アーティストが人々の関わりを通じて何を可視化するのかということにある批評性だけでなく、彼らがいかに関わるのかという振る舞いの機微である。合意を前提とした対話や関係性だけでは現代社会の複雑性を思考することは不可能である。では、アーティストはどのように対話と交渉の場を創出し、そのような場は社会を見直し刷新するための、いかなる可能性を湛えているのか。本展はこのような問題についての考察を促すプラットフォームとなるよう試みた。アーティストが生きる時代や社会の具体的な問題を探るために、人々がいかに考え、どう表現したかを比較しながら、それぞれの対話の仕方はどのような社会政治的な文脈から生まれているのか、そのコミュニケーションはいかなる意図や状況の判断に基づくものなのか、アーティストが作品/表現におけるオーサーシップ(authorship)をいかに捉えているのか、などについての差異や共通性を読み解けるような作品群とした。

## 展示構成

105平米のアーツ・アンド・サイエンス・ラボでの展示で取り上げたアーティストは、ウェンデルリン・ファン・オルデンボルフ、冨井大裕、ユリアス・コラー、エリック・ボードレル、ミリアム・レフコウィッツの5名。映像インスタレーション、パフォーマンス、記録写真、指示書など、異なる表現言語を用い、さまざまなプロセスを経た実践を紹介した。彼らが探求する問題領域としては、人々が経験した具体的な社会政治的問題を扱う作品から、身体感覚によって自己と都市空間の関係性の新たなあり方を探るものまで、幅広く取り上げることで、現代美術が社会と関わりをもつということは何かという問いを提起することを試みた。

## ウェンデルリン・ファン・オルデンボルフ | Wendelien van Oldenborgh (1962 年オランダ生まれ)

《Après la reprise, la prise》(2009)

ファン・オルデンボルフは映像作品の制作を通して、社会の異なる立ち位置で生きる人々が、ある具体的な歴史や社会的状況、人々が与えられた社会的役割などについて対話をする場を創造してきた。その多くにおいて、映像の台本は参加者たちの個人的な経験や知識、感情が共有される過程で生成される。本展で紹介した作品は、ファン・オルデンボルフがベルギーの職業学校の学生たち、そして二人の女性俳優と協働し制作した作品である。俳優たちはかつて、半年にわたる抵抗運動にも関わらず工場閉鎖によって職を奪われた労働者として、その出来事のある著名な演出家と演劇化した経験を持つ。3台のスライドプロジェクターを使ったスチル画像によって展開する本作品では、俳優と学生たちが使われなくなった縫製教室で対話する様子や、学生同士の何気ない会話の端々が一連のスライドと音声で展開してゆく。そこでは、職だけでなく人間としての尊厳を奪われた労働者としての経験、あるいは文化生産に携わる労働者としての生活の危うさを女性たちが共有しながら、自らの声を上げることの大切さが語られる。スライド映像は展示室の中に作られた、この作品の一部としての建築物に設けられた開口部の外から投影されるような構造になっており、空間構成によって、作品が扱う演劇性、物語性について考察を促すものでもある。

会期中は、ファン・オルデンボルフを招聘し、一般の鑑賞者向けの上映会とレクチャー、および映像制作に関するワークショップを開催した。上映会では2015年のあいちトリエンナーレでも展示された《From Left to Night》を上映した後、彼女がこれまでどのように現在の社会的状況や歴史のあり方について、社会のさまざまな立ち位置の人々とともに考え、映像表現を行ってきたのかについてのレクチャーおよび質疑応答を行った。ワークショップについては後述する。



図2  
ウェンデルリン・ファン・オルデンボルフ作品上映後の質疑応答の様子  
撮影：マリアナ・ウマニヤ

## 富井大裕 (1973 年新潟県生まれ)

《body work #1-#22》(2012-)

彫刻を学んだ富井は、素材そのものを変化させることなく、

曲げる、並べる、重ねるなどの最小限の行為によって、モノのあり方、または私たちがモノをいかに認識しているかに介入するような実践を行ってきた。それは、私たちがモノに見出す日常性や芸術性といったさまざまな認識が、どのように形成されるのかを問うものでもある。指示書から成る作品も多く、それは一つのかたちを制作する過程で生まれる思索がどのようなものか、想像を巡らせたり、実際に体験みすることを鑑賞者に促すものである。今回展示した作品《body work》シリーズは、体操用マット2枚が敷いてある台の上に置かれた指示書に基づき、そこに描かれている2人の人間の身体で構成された「彫刻」を実際に作るというもの。指示書にはたやすくできるものもあれば、個々の身体の体重や身長などの特徴によって自分や相手を受け、与える負荷が変わってくるもの、あるいは到底実現不可能なものなどがある。身体を使ってある形を作るという行為を通じて、見る対象から見られる対象になるということだけではなく、自らの身体で何かを作る行為を通じて立ち現れてくる感覚、または他者の身体と関わり交渉しながら作るという過程で生じる感情や関係性にフォーカスが当たるようになっている。11月4日(土)には、このシリーズの新作《時間の彫刻》を、会場付近でアーティスト本人と学生を含むパフォーマー5名と共に展示した。(図1)

## ユリアス・コラー | Július Koller

(1939 年チェコスロバキア生まれ、2007 年没)

《PING-PONG (U.F.O.)》(2007)

コラーは、1960年代以降の東ヨーロッパにおける重要なアーティストの一人として評価されている。彼は、1968年に起こったプラハの春以降のチェコスロバキアにおける社会的抑圧に対して、共産主義的芸術から距離をとりつつ、新鮮でシャープな遊び心と皮肉を込めたコンセプチュアルな作品を制作した。テニスや卓球を好んだコラーは、スポーツと政治的なステートメントを組み合わせ、ゲームを成立させる明確なルールや、行き交うボールそのものを、民主主義的なコミュニケーションや社会的相互作用の象徴とした。1970年、ブラティスラヴァ(スロバキア)のユース・ギャラリーで「J.K. Ping-pong Club」と題した個展を開いたコラーは、鑑賞者を招いて卓球を行ったが、本展ではその時の様子や、1970年以降、彼がどのようにこのモチーフを展開してきたかの記録写真を展示した。タイトルに付いた「U.F.O.」の略語は、彼が作品として制作した「文化的シチュエーション」に付けたもので、Uはuniversal(普遍的)、Fはfuturological(未来学的)やfantastic(すばらしい)、Oはobject(オブジェ)やotaznik(スロバキア語でクエスチョン・マーク)などを表し、そこに彼の言葉遊びを見てとることができる。同様に頻出するクエスチョン・マークは、彼の実践そのものや、日常生活や現実への批評的な眼差しの普遍的シンボルと言える。本展で再制作した、鏡にうつる自分を相手にプレーする卓球台では、鑑賞者が実際に体験できるよう設えた。

## エリック・ボードレール|Eric Baudelaire(1973 年アメリカ生まれ)

《ドラ・マール校 始まり エピソード 1》(2015-2019)

ボードレールは、映像、インスタレーション、写真、版画など、リサーチに基づいた作品を通じて、イメージ、映画、そして闘争の歴史と関わっており、イメージがいかに観る者に働きかけるかを問いつつ、現代社会の複雑さを物語る。本展で発表した作品は、ボードレールが2015年から2019年まで、パリ郊外の中学校ドラ・マール校の生徒たちと共同制作した、彼らの学校に関する一連の映像作品である。制作のプロセスを通じて、それは生徒たちについての映像から、次第に、生徒たちが制作する映像へと変化してゆく。現在進行形のプロジェクトとして本展に展示したこのプロジェクトのエピソード1では、舞台となる学校や、生徒たちとボードレールとの協働プロセスの初期の進展を捉えている。また、生徒たちの会話からは、彼らが現在のフランスの政治的・社会的状況を、自らの実生活を踏まえていかに捉えているかも伺い知ることができる。本展への出品に際し、ボードレールは、映像がどのように展示されるべきかについても生徒たちと議論し、それをもとに複数の生徒たちがドローイングを描いた。クッションやソファ、サイドテーブルなどを置いた展示空間は、ボードレールが採用したその中の一つをベースにデザインされた。またアーティストからの提案で、採用したドローイングは壁に拡大して展示し、その他のドローイングも展示することで、生徒たちの本展との関わりを鑑賞者に示した。

## ミリアム・レフコウィッツ|Myriam Lefkowitz

(1980年フランス生まれ)

《Walk, Hands, Eyes (Tokyo)》(2017)

主にパフォーマンスをメディアとするレフコウィッツは、ひとりの鑑賞者とひとりのパフォーマーが対になり、周囲への意識や相手との関係性、あるいは自らの感情に知覚を拡げてゆくような状況を作り出す作品を制作してきた。本展のために制作された《Walk, Hands, Eyes (Tokyo)》は2008年から続く参加型パフォーマンス《Walk, Hands, Eyes (a city)》のひとつのバリエーションとして、展示室内に指示書とその音声を展示し、また会期中に鑑賞者がパフォーマーのガイドに従ってまちを歩くという参加型パフォーマンスを清澄白河で行った。これは、パフォーマーに導かれながら目を閉じて1時間まちを共に歩くというシンプルな行為を通じて、鑑賞者が見慣れたまちを、普段あまり意識しない感覚を通じて新たに経験するというもの。途中、鑑賞者はパフォーマーが立ち止まったいくつかの場所で、瞬きの速度で目を開けるよう指示される。その瞬間に切り取られたイメージや、周りの音に耳を澄ますことによって、まちの空間に対する認識を新たにすることだけではなく、自らの感覚そのものに意識的になることも意図している。この参加型パフォーマンスは、レフコウィッツによる数日間のワークショップでトレーニングを受けたパフォーマーを必要とする。今回は若手のアーティストや学生を募り、絵画や映像を専門にする美大生だけでなく、音楽理論を学ぶ学生からも参加があった。これについては後述する。

## ワークショップ

本事業では展示と共に、教育的事業を実施することを重視し、教育者としての経験も豊富なアーティストを意識的に選出し、招聘した。エリック・ボードレールの来日は本人の都合により叶わなかったが、ミリアム・レフコウィッツとウエンデリン・ファン・オルデンボルフは、それぞれ一般向けのイベントに加え、美術大学生や若手アーティストたちに向けてのワークショップを実施した。



図3  
ミリアム・レフコウィッツによるワークショップ初日：アーツ・アンド・サイエンス・ラボでのレクチャーとエクササイズ 撮影：マリアナ・ウマニャ



図4  
ワークショップ2日目：パフォーマー同士で上野を歩く 撮影：マリアナ・ウマニャ



図5  
ワークショップ3日目：清澄白河を歩いてルートを考える 撮影：マリアナ・ウマニャ

## ミリアム・レフコウィッツ《Walk, Hands, Eyes (Tokyo)》

日 時：10月9日(月・祝)、10日(火)、11日(水)10:00-15:30

会 場：東京藝術大学アーツ・アンド・サイエンス・ラボ  
球形ホール(10月9日、10日)、清澄白河(10月11日)

参加人数：7名(学生5名、若手アーティスト2名)

内 容：自らの身体や空間に対する意識や現実への認識を変容させる経験とはどのようなものかについてのアーティストによるレクチャーの後、身体を使ったグループ・エクササイズやディスカッションを行った。3日目は10月14日と15日に実施するパフォーマンス当日のリハーサルとして、会場となる清澄白河のまちを歩きながらグループ・エクササイズを行った。(図3～図5)



図6  
清澄白河でのパフォーマンスの様子 撮影：マリアナ・ウマニャ

ウェンデルリン・ファン・オルデンボルフによる映像制作者のためのワークショップ

日 時：10月31日(火)10:00-16:00

会 場：東京藝術大学美術学部中央棟第八講義室

参加人数：16名(美大生13名、若手アーティスト3名)

内 容：ある具体的な史実や社会的問題を、多様な社会的バックグラウンドを持つ人々との対話から掘り下げ、制作することについてのファン・オルデンボルフによるレクチャーの後、参加者を4つの小グループに分け、テーマを設定し撮影を行うための計画を立てるエクササイズを行い、その後、各グループの発表と質疑応答を行った。



図7  
映像制作者向けワークショップでのレクチャー 撮影：マリアナ・ウマニャ

## おわりに

コミュニティや個人と直接的に関わる際のアーティストの振る舞いから、彼らの表現方法に見られる美的な戦略や批評性、そしてこのような実践が持つ社会的可能性についての問いを提示しようと試みた本展は、「美術館がまちへ出る」ことを目指したMOTサテライトに、異なる角度から応答するものとなった。また本展は、美術館の活動を、他の組織や私的・公共空間を含んだ美術館外で展開するというMOTサテライトの枠組みを活かし、協力を得ることで、通常の企画展関連イベントの範疇では実現しにくい公共空間を用いたパフォーマンスや、制作者に向けてのワークショップを実施することができた。一般の観賞者に作品を見せる場を拡張するという他のにも、なかなか美術館に足を運ばない美術大学生たちに、直接的な学びの場を提供するワークショップのような方法で、美術館がアウトリーチしてゆく意義はあるのではないと思われる。

レフコウィッツ、ファン・オルデンボルフ、富井の3名は展示だけでなく、ワークショップ等のイベントのために綿密な準備をし、参加者とのコミュニケーションに多くのエネルギーを注いしてくれた。共同キュレーターを務めたエロディ・ロワイエ氏は残念ながら来日は叶わなかったが、企画に関する議論の時間やアイデアを惜しむことなく、キュレトリアルな協働プロセスとしては充実したものとなった。さらに、カディスト・アート・ファウンデーションによる積極的な広報展開や、東京藝術大学の社会連携課による展示室とワークショップ会場の提供など、本企画を実現するためのさまざまな協働と協力があった。ここで改めて感謝の意を表したい。

森山 朋絵

## 1 はじめに

東京都現代美術館の改修工事にともなう休館中に展開された「MOT サテライト」シリーズは、大型文化施設という本来のプラットフォームが存在しない期間に、美術館周辺の地域と美術館の活動がどのように溶けあい、連携しながら新しい創造性を発信できるか、というネットワーキングの試みであった。同展は、近年日本でも各地に定着した芸術祭(瀬戸内芸術祭、越後妻有トリエンナーレ)に見られるように、観光資源・リゾート型の芸術祭というよりも、アートミュージアム的な異空間をまちなかに出現させ、まちの持つリソースをアート&テクノロジーの手法で生まれかわらせるなどの連携・往来＝フィードバック要素を持ち、オーストリア・リンツ市の各所を会場に40年にわたり展開されてきた“アート&テクノロジーと社会”のフェスティバル「アルスエレクトロニカ」<sup>註1</sup>とも目的は共通している。当初の計画段階においても、MOTサテライトの第1回からリニューアル開館以降にかけて、地域連携・国際連携・教育連携・社会連携などの要素を段階的に拡げ展開していくことが検討されており、それは、開館20周年以上となった東京都現代美術館が、地域の中の記憶の拠点として機能するためにも重要なプロセスであった。

本稿では、MOTサテライト2017 / 2018を通じて筆者が展開した教育・研究機関(東京大学、東京芸術大学)や企業(大日本印刷株式会社ほか)とのコラボレーションや、試行した展示支援システムを中心に、実験的手法による展示、回遊システム、ワークショップやトークイベントの実績を紹介し、まだ日本の公立美術館では確立しきれていない、外部機関との連携協力や往来のあり方について考察する。

## 2 「MOTサテライト2017秋 むすぶ風景」における教育連携パート「体験からみる清澄白河」

### 2-1 MOTサテライトについて

「MOTサテライト」とは、改修工事のため休館中の東京都現代美術館が、その活動を館の外に拡張し、清澄白河の商店街(資料館通り商店街)などをはじめとする外部組織・機関とのネットワークを築きつつ、展示、パフォーマンス、トークなど多彩なプログラムを毎年都内各所で実施する事業である。2017年春に第1回「往来往来」<sup>註2</sup>を開催し、第2回となる2017年、第3回の2018年と2年間にわたり、東京都現代美術館と教育機関との共同事業を含め、多様なプロジェクトを展開した。いずれも、主な展

示会場となる「MOTスペース」、小規模な展示をカフェや店舗等にて行う「MOTスポット」、同時期企画を開催する「地域パートナー」で構成されている。

### 2-2 「MOTサテライト2017秋 むすぶ風景」について

2017年は、東京都現代美術館周辺の清澄白河エリアに加え、新たに東京藝術大学内の社会連携センターにも拠点を広げ、フランスのカディスト・アート・ファウンデーションと連携したプログラム「ないようで、あるような」展が開催された。詳細は崔敬華による論考を参照されたい。<sup>註3</sup> 同展は、異なる時代や場所で生きる5人のアーティストたちが社会の問題を人々に問いかけ、ともに考察する可能性を探求した映像、パフォーマンス、インスタレーション作品を展示し、ワークショップやイベントも上野と清澄白河とで実施された。また、清澄白河エリアには新たに「案内所」を設け、会場の巡り方やイベント情報の案内、地域の人たちが発行している各種マップやパンフレットの紹介など、町歩きを楽しむための情報を提供した。さらに、詳細は後述するが、防災やVRの視点からまちをとらえた展示を資料館通り商店街に位置する案内所内に設置した。<sup>註4</sup>



図1 「MOTサテライト2017秋」ポスター

清澄白河エリアのMOTスペースでは、「まち[清澄白河]の風景を描く」として、国内外で活躍する現代美術作家たちが、地域の記憶や人々の営みから浮かび上がる風景を、作品を通して表現するパートが展開された。また、「体験からみる清澄白河」として、教育機関に所属するアーティストや研究者たちが、地域や清澄白河というまちをテーマに取り上げ、多様な視点から、体験型作品を中心としたプロジェクトを紹介するパートを実施し

た。

前者のパートでは、近隣を歩きながら言葉の地図をつくる参加型作品、外国人コミュニティとの交流から生まれるドローイング、まちの形と歴史をたどるインスタレーション、自然や防災の視点を取り入れたプロジェクトなど、人々にとっての日常風景の隙間や暮らしの背景に潜むものを見つめ、新旧の文化や住民が織り成すまちの記憶や歴史に流れに着目する展示やワークショップが開催された。詳細は同様に、本書所収の小高日香里による論考に詳しく述べられている。<sup>■4</sup> さらに後者のパートでは、江東区観光協会・東京大学との連携により清澄白河の過去と現在の風景を時間旅行する「ARまち歩き@清澄白河」(東京大学廣瀬・谷川・鳴海研究室)などの体験型プロジェクトを展開し、大日本印刷株式会社「読みアシスト」やAR道案内「MOT Navi」による展示支援や回遊支援を行った。そして、東京藝術大学芸術情報センター(Art Media Center=AMC)との共同事業として、地域のリソースを素材とした研究者やアーティスト(教員・学生)の研究成果や授業の成果作品である「東京藝術大学芸術情報センター(AMC)清澄白河プロジェクト」を構築し、展示やワークショップを開催した。

### 2-3 東京藝術大学芸術情報センター 清澄白河プロジェクト

上野公園に隣接する上野キャンパスに設立された東京藝術大学芸術情報センター(以下、AMCという)<sup>■5</sup> に筆者が非常勤講師として招かれ、授業「メディアアート・プログラミングI・II」を担当するにあたり、主担当教員(田所淳)及び助教(大谷智子)やAMC助手らとのディスカッションを通して、東京都現代美術館の「MOTサテライト」シリーズとの教育機関連携(共同事業)というスタイルで、教員作品の展示と学習の成果発表展示を行うことが計画された。音楽・視覚芸術など専攻の別なく全学から集まり、このセンターで初めてコンピュータ・プログラミングを学ぶ履修学生にとって、課題のための課題を出題してそれを評価するよりも、たとえば個々の学生作品を短い尺の動画作品の集積として展示の中で成立させ、社会に発信する機会を持ち、より貴重な経験としたほうがベターであると考えたからである。また、同様に若手アーティストの集合体であるAMCの教員らによる展示を併せて行い、サテライト展示の会場のひとつをプロジェクト発表の場とした。以下に、2年間にわたり展開された「MOTサテライト」との教育機関連携の概要、各作品の内容と成果を紹介する。

#### ■展示

##### MOTスペースB

(グランチェスター・ハウス2階 / 江東区三好3-8-5)2階展示室

「AMC清澄白河プロジェクト」の会場となったのは、商店街の中ほど、資料館通り商店街協同組合事務所に隣接するギャラリー「グランチェスター・ハウス」の2階展示室である。英国グランチェスターと清澄白河を往来しつつ写真・映像・版画を制作

するギャラリーオーナー志村博氏が、自身のギャラリーを使い、1階では東京大学、2階では東京藝術大学とのコラボレーションを行った。1階では、後述する詳細のとおり、東京大学 廣瀬・谷川・鳴海研究室+志村博「思い出のぞき窓・清澄白河」と題して、志村博撮影による1960年代の「木場・仙台堀川・豊洲運河風景」が、ARコンテンツとして現在の現地の360度映像と重畳表示され、地域の人々の共感を得た。そして2階展示室では、情報メディアやファブ리케이션による講義・創作支援機関としてのAMCが、若い才能のショーケースとしてAMC教員らの専門領域からなる地域連携作品を展示し、あわせて「メディアアート・プログラミング」履修学生によるProcessingを使った学生作品集「むすぶ風景」を展示した。<sup>■2</sup>

#### ■展示参加メンバー

古川聖 / 大谷智子 / 鈴木葉音野 / 田部井勝彦 / 網守将平 / 藤田佑樹 / 肥後沙結美、藤木淳(現・札幌市立大学准教授、前・東京藝術大学芸術情報センター JST研究員)、「メディアアート&プログラミングI・II」履修生チーム



■2 Processingによる学生作品集「むすぶ風景」(上下とも)

#### ■作家・作品の詳細

##### 鈴木葉音野

紙の「情報をのせるメディア」としての一面と、厚み・色・質・匂いなど物質性的一面とを掛け合わせ、紙を生地のように編み込んで作品を作り、グラフィックとテキストの間の表現の可能性を探る。本展では、株式会社 森木ペーパーの協力を得て、清澄白河ゆかりの紙を素材に交えた新作「PAPER/FABRIC」を発表した。<sup>■3</sup>

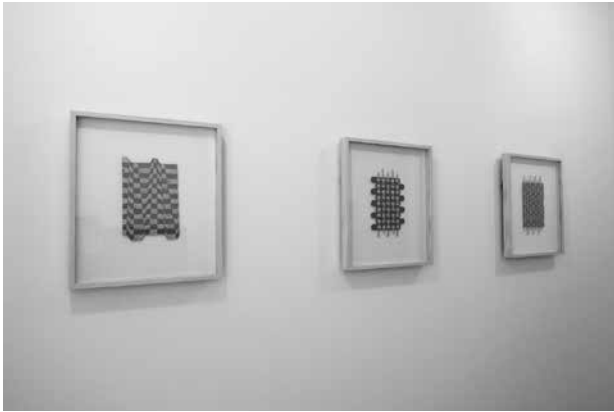


図3  
鈴木葉音野「PAPER/FABRIC」

### 田部井勝彦

田部井勝彦名義にて、情報技術と立体物によるインスタレーション作品の制作活動をする傍ら、その経験を活かしてデジタルアート作品の修復活動を進める。本展では、藤木淳による作品の修復保存をテーマにした「Migration project Case:『ゲームキョウカイ』藤木淳」を展示し、藤木とともにアーティストトークに登壇した。<sup>図4</sup>



図4-①  
田部井勝彦作品 展示風景 撮影：白井晴幸

### 網守将平

室内楽からオーケストラ作品までを手がけ、近年は映像作品・TV番組の音楽制作やインスタレーション作品、アルバム『SONASILE』リリースほか音楽に軸足を置きつつ、領域を超えた多角的な活動を行う。本展では「清澄白河の音」を録音した作品「Untitled」で、モニタ・スピーカによるフェイク空間を出現させた。<sup>図5</sup>



図5  
網守将平「Untitled」 展示風景  
126

### 藤田佑樹

音響システムの研究室に籍を置きつつ、水琴窟(すいきんくつ)による音響のシミュレーションを研究し、本展では清澄白河のガラス工房GLASS-LABの協力を得て、ガラスの水琴窟「ガラスの水琴窟プロジェクト\_清澄白河」を制作し、黄色ガラス器の展示とともに、iPadを用いた音響シミュレーションを展示した。

図6



図6  
藤田佑樹「ガラスの水琴窟プロジェクト\_清澄白河」

### 肥後沙結美

プログラミングや映像を用いた実験作品と、伝統技法やアナログの手法を用いた作品を展開し、人間の本能的な感覚や思考と記憶、社会とのつながりについて考察しつつ制作を続ける。本展では小さなオブジェを空間に配置する作品「Echinodermata」を、グランチェスター・ハウス1階の歴史書籍書架の中や2階の窓際に展示した。<sup>図7</sup>



図7  
肥後沙結美「Echinodermata」 展示風景（上下とも） 撮影：白井晴幸

## 藤木淳

研究者として多数の作品を制作し、錯視によるインタラクティブ作品《OLE Coordinate System》をベースにしたPSP / PS3対応ゲーム「無限回廊」(ソニー・コンピュータエンタテインメント)など、人間と物理の新たな関係性を築く研究を展開。前述の田部井による作品修復プロジェクト及び「P055E5510N」を展示した。



図4-②  
藤木淳作品 展示風景 撮影：白井晴幸

## 「メディアアート&プログラミングI・II」履修学生による作品集「むすぶ風景」

履修学生ら約12名が「むすぶ風景」をテーマに清澄白河や地域に取り組み、初めて体験するプログラミング言語Processingを用いて制作した短編動画作品集を発表した。作品は、デル株式会社の機材協力により、モニタとDell Canvasを用いた作品選択GUIによって公開された。

### ■パフォーマンス/ワークショップ

会期中に、清澄白河の建築や空間が楽譜に自動生成されるプロジェクトや、まちのかたちを再発見する「サッカク・ブロック・ワークショップ」を開催した。

### 古川聖・藤井晴行・濱野峻行・小林祐貴「Architecture dreams Music / 建築が夢見る音楽」

古川聖、藤井晴行、濱野峻行、小林祐貴が、建築と音楽の関係を、構造や素材のみならず、構造と認知のレベルにおいてつなぐ方法を模索するプロジェクト。地域に実在する建築空間から音楽表現を同時生成するコンピュータプログラムを開発し、部分的に発展させつつプロトタイプによる演奏を行い、建築空間と音楽をインタラクティブにつなぐ多次元のマッピングを行う。雲光院という寺院を会場に、建築音楽コンサートが開催された。<sup>図8</sup>

参加人数：43名



図8  
「建築が夢見る音楽」ワークショップ風景

## 錯視ブロックワークショップグループ (大谷智子、中村美恵子ほか)「サッカク・ブロック・ワークショップ」

マルチモーダル感覚情報処理等の研究者であり「錯視ブロックワークショップグループ」の代表を務める大谷智子と、人間の視覚的認知や感性情報を生かした人間とシステムのインタラクションについて研究する中村美恵子(ファシリテーターとして参加)が、白河こどもとしょかんを会場に、親子参加のワークショップを展開した。

参加人数：のべ70名

## 2-4 東京大学 廣瀬・谷川・鳴海研究室

一方、先述のグランチェスター・ハウス1階展示室では、バーチャルリアリティの研究や発表を国際的に展開している東京大学 廣瀬・谷川・鳴海研究室の特別協力を得て、研究室から派遣された研究者(准教授、大学院生ら)が、AR(拡張現実感)テクノロジーを使って、私たちが日頃よく知っていると思い込んでいた風景の上に、同じ地点の歴史的な風景写真を重ね合わせ、現実空間と人工現実感の空間が結びついて往来するような感覚を与える空間を出現させる展示を実験的に行った。同研究室は、教授：廣瀬通孝、特任准教授：谷川智洋、講師：鳴海拓志から成る東京大学大学院情報理工学系研究室として、バーチャルリアリティ技術によるインタフェース技術について多様な研究を展開し、人工現実感・拡張現実感技術、五感を扱うインタフェースやライフログ技術、ビッグデータ処理技術などの基盤技術開発、技術ドリブンのコンテンツや社会展開をテーマとしている。<sup>註6</sup> 多様な技術を文化施設(デジタルミュージアム)やパブリックアート(「空気の港」、羽田空港国際線ターミナル)に取り入れて新しい表現領域の確立を目指すプロジェクト<sup>註7</sup>や、高齢者のスキルを社会に役立てるための「高齢者クラウド」プロジェクトなどに取り組んでいる。江東区の今と昭和の風景写真が溶け合う「思い出のぞき窓」は、オリンピックの聖火が通った道や木場風景(現・東京都現代美術館付近)を題材とし、特に高齢者の社会参加も視野に入れた研究背景ゆえに、地域の人々の共感を得た。



## ■展示

### MOTスペースB (グランチェスター・ハウス2階 / 江東区三好3-8-5)

#### 1階展示室

展示室では「思い出のぞき窓・清澄白河」と題して、志村博撮影による1960年代の「木場・仙台堀川・豊洲運河風景」の額装写真が壁にかけられ、展示台の上のタブレット(iPad)を手にとって額装写真の前にかざすと、ARコンテンツの再生が始まる。3台のタブレットが用意され、現在の現地の静止画と重畳表示されるだけでなく、鑑賞者が両手でタブレットを持ってその場でぐるりと回転すると、写真に写された地点と現在の現地の360度映像とが重畳表示され、しかも動きを持って眼前に迫ってくる展示となった。<sup>図9</sup>



図9  
「思い出のぞき窓 清澄白河」 展示風景 撮影：白井晴幸

## ■ARまちあるきツアー「清澄白河/MOTサテライトをめぐる」

一般財団法人 江東区観光協会、法政大学大学院 地域システム研究所と東京大学廣瀬・谷川・鳴海研究室、江東区観光ガイドの会の協力を得て、AR(拡張現実感)を使って現在と過去の風景をタブレット端末に映し出し、熟練した観光ガイドの解説を聞きながらMOTサテライト会場周辺を散歩する「ARまちあるきツアー」を開催した。既に江東区で開催され人気を博したツアーの番外編として、小学生以上(小学生は保護者同伴)10組を対象に事前申込制で実施し、多様な年齢層の参加者により活況を呈した。

参加人数：14名

### 2-5 のらもじ発見プロジェクトと案内所(東京大学地震研究所ほか)、道案内アプリ「MOT Navi」

広告代理店勤務を経て、金沢美術工芸大学で教鞭を執る下浜臨太郎、ウェブデザインなどを幅広く手がける西村斉輝、自らのデザイン事務所を通して活動する若岡伸也によるグループ「のらもじ発見プロジェクト」の作品が、MOTスペースC(旧喫茶店/江東区三好3-4-7)にインスタレーションとして展開された。「のらもじ発見プロジェクト」とは、古いまち並みや看板に残る個人的で味のある素敵な文字たちを「のらもじ」と名づけ、発見→分析→フォント化し、その魅力を再発見するプロジェクトである。<sup>註8</sup>今回は清澄白河をロケハンして歩き回り、「コインラン

ドリー チューリップ」という店を発見した彼らが、そのビニールのひさしにある看板文字から「チューリップフォント」を構築し、「ゲンビ」というロゴを新たに制作した。そのオリジナルロゴは、後述するAR道案内アプリ「MOT Navi」による会場回遊スタンプラリーの景品(のらもじティッシュ、のらもじステッカー)に使用された。<sup>図10</sup>

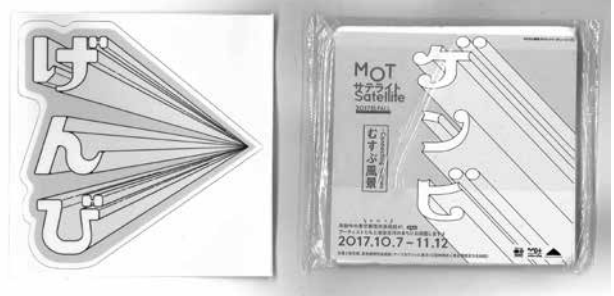


図10  
のらもじティッシュ、のらもじステッカー

## ■展示

### MOTスペースC (旧喫茶店/江東区三好3-4-7)

三つ目通りに面した旧喫茶店をオーナーから借り、のらもじ発見プロジェクトによるインスタレーションを展示した。壁面にはプロジェクト紹介と日本の各地で採集された過去ののらもじフォントを掲出し、喫茶店の天井から吊られた2枚の白いTシャツに「チューリップフォント」を含む各種のロゴが投影され、来場者は書き割りのようにその後ろに首だけを出して立ち、あたかもTシャツを試着したような写真が撮れる。SNSでの拡散を目論んだ展示スタイルになり、デザイン展の要素が加わった空間になった。<sup>図11</sup>



図11  
のらもじ発見プロジェクト展示風景

### 案内所 (江東区三好2-17-11)

資料館通り商店街に位置するMOTスペースA「深川資料館通り商店街協同組合事務所 1F」(江東区三好3-8-5)にもほど近い交差点の角に、もと駄菓子屋の店舗を活用した「案内所」を設け、受付員を配置し、地域のフライヤーを配架してコミュニケーションをはかるとともに、ガラス張りのショーウィンドウを活用して外の道路に向け、デル株式会社の機材協力により、画面にRのついたパノラマ型ディスプレイ2台を用いて動画を展示した。展示映像の内容は下記のとおりである。

## 東京大学地震研究所「防災アーカイブ」

防災研究の権威、寺田寅彦ら著名な研究者が所属した歴史ある研究所が、一般にもわかりやすく地震や防災をテーマに制作し、江戸時代の「鯰絵」なども交え公開しているタブレット教材を展示した。

## Unlimited Corridor制作チーム／東京大学廣瀬・谷川・鳴海研究室「無限回廊-Unlimied Corridor」

VRゴーグルをつけ、壁面に触れながら歩き続けると実際は非常に限られた空間を巡っているにもかかわらず無限の回廊にいるように感じられる、触覚も援用したバーチャルリアリティ体験装置の紹介ビデオを上映した。

## ユニティ・テクノロジーズ・ジャパン合同会社／大阪大学大学院情報科学研究科／慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科ほか「Hiyoshi Jump」

ドローンにカメラを搭載し、ティルト(傾き)センサー付ビューワーを使って、あたかも自分の視点が何百メートルも上空に移動して鳥の視点を手に入れたかのようにジャンプできる驚きの映像を展示した。<sup>図12</sup>



図12  
(上)「無限回廊-Unlimied Corridor」「Hiyoshi Jump」展示風景  
(下)「防災アーカイブ」展示風景

## 回遊型AR道案内アプリ「MOT Navi」

MOTサテライト事業と同時並行して、来館者サービスの観点から、AR道案内アプリ「MOT Navi」を開発・実装して配信し、各MOTスペース間の回遊に役立てることを試みた。マップ上に表示されるARスタンプを集めていくと、ノベルティとして「のらもじティッシュ」がゲットでき、清澄白河会場と上野会場をコンプリートすれば「のらもじステッカー」がゲットできる

ルールとした。また、アプリ上でカメラを開くと、MOTサテライトの会場である屋外の路上に「MOTスペースAまであと〇〇メートル」などという道案内表示がマンガのフキダシの形で表示され、回遊する人々の道案内を務めるというシステムも実装した。この道案内のゴールには、「休館中」のロゴ入りイラスト出力シートが貼られた工事用フェンスがあり、ゴールした来場者がカメラをかざすと、ロゴ入りイラストが可憐なアニメーションに変わり、生きいきと動き出すというギミックも用意してあった。<sup>註9 図13</sup>



図13  
「MOT Navi」ゴールのフェンス

## 3 「MOTサテライト2018秋 うごきだす物語」の概要及び教育連携プロジェクト

### 3-1 「MOTサテライト2018秋」の概要

前章までに述べてきた第2回に続き、2018年秋に開催されたMOTサテライト第3回では、深川江戸資料館通りを中心に、主な展示会場となる7ヶ所の「MOTスペース」において各々の会場の特色を活かした本格的な現代美術作品の展示を行い、カフェや店舗の一部、屋外壁面など6ヶ所の「MOTスポット」において、まちと一体化した作品展示を展開した。また、周辺地域の文化施設、寺院、オルタナティブ・スペースなど多様な会場で関連プログラムを開催し、館の活動の多角的な紹介のためまちなかでの収蔵作品展示や演劇公演、図書館・寺院での教育普及プログラムなど、さらなる充実が試みられた。出品作家は、海外作家、日本の中堅・若手作家、地域の作家や研究者など多岐にわたり、映像、立体、インスタレーション、絵画、演劇公演、回遊型ツアー、スタンプラリーなどバラエティに富んだ構成で開催された。さらに、大日本印刷「YORIP」(経路案内型アプリ)による寄りみち型の道案内や、江東区とMOTサテライトが協同した「のらもじスタンプラリー」を楽しみながら、多くの観客が地域を回遊した。<sup>図14</sup>



図14 「MOTサテライト 2018秋」ポスター

### 3-2 「MOTサテライト2018秋」における教育機関連携

教育機関連携プロジェクトとして、前回に続き、地域と教育機関(東京大学/東京藝術大学芸術情報センター/大阪大学/早稲田大学ほか)が連携し、清澄白河の過去と現在の風景がARで溶け合う展示や、前回と同じく「うごきだす物語」をテーマに履修学生がコンピュータ言語Processingを用いて制作した短編映像作品集の発表と、清澄白河周辺の地図の上に錯覚ブロックの建物を作る/まちの看板の文字を採集するワークショップが行われた。また、芸術やテクノロジーを通して心の豊かさを考える講座として、地域の寺院である龍徳山 光厳教寺 雲光院を会場に、心臓ピクニック・日本のWellbeing プロジェクトによる「心臓ピクニック@清澄白河」を開催した。

### 3-3 東京藝術大学芸術情報センター 清澄白河プロジェクト

深川資料館通り商店街協同組合事務所 1F(江東区三好3-8-5)を会場とし、基本的には前回と同じスキームで展示とワークショップを展開した。「東京藝術大学上野キャンパスにある東京藝術大学芸術情報センターは、学内共同利用施設として、上野・取手・横浜・千住・奈良キャンパス(美術/音楽/映像)全体を対象に、情報メディアやファブリケーション機材を用いた講義・ワークショップや、情報技術を用いた情報発信サポート等を行っている。」というAMCの活動紹介と併せて、前年のMOT サテライト2017秋に続き、専攻の枠を超えた多様な学生や教員らが、地域連携の展示やワークショップを行った。

#### ■展示

#### 錯視ブロックワークショップグループ (MOTサテライト2018 ver.メンバー)

前年に続き、大谷智子・中村美恵子に加えて丸谷和史(NTTコミュニケーション科学基礎研究所)、ヒガキユウコ(IRON 100°C)、中村美恵子(東京藝術大学芸術情報センター)、磯谷悠子(日本映画大学/東京藝術大学 芸術情報センター)、天内大樹(静岡文化芸術大学)が参加、レーザーカッターで造形された清澄白河周辺地図の上に、グループメンバーが作った錯覚ブロッ

ク建築や、ワークショップ参加者が作った「思い出の中の清澄白河」「未来の清澄白河」の建物を設置した。

田所 淳「ブラジルの1匹の蝶の羽ばたきはテキサスで竜巻を引き起こすか?」

二分割されたモニター画面に表示されたヴィヴィッドなコンピュータグラフィックス動画が、微小な差異ながら次第にずれていく時間軸の動きを与えられ、気づいたときには二画面がまったく違うフェーズに進んでいるという作品を展示した。本来のスピードであれば非常にラジカルであるはずの動画作品が、まちなかという環境を前に、時間軸を引き延ばすという方法論をとって公開された。

#### 「メディアアート・プログラミングI・II」履修学生による作品集「うごきだす物語」

前年と同じく履修学生らが「うごきだす物語」をテーマに地域に取り組み、Processingを用いて制作した短編動画作品集を、田所淳作品とともにデル株式会社の製品Dell Canvasを用いた作品選択GUIで公開した。来場者が自らの指で作品を選び、ショートフォーマットの映像をいくつか鑑賞する形式をとった。<sup>図15</sup>



図15 田所淳作品、学生作品集「うごきだす物語」展示風景(上下とも)



図15  
田所淳作品展示風景

### 3-4 東京大学 廣瀬・谷川・鳴海 研究室×DNP ARプロジェクト

案内所機能を持たせたMOTスペースA(深川資料館通り商店街協同組合事務所 1F、江東区三好3-8-5)にて、前年より引き続き東京大学による研究プロジェクトを展示した。前回は大日本印刷の展示支援実験「読みアシスト」タブレットを1階・2階の入り口に設置して展示解説の可読性をアップする実験を行ったが、今回は「行動誘発」に関する実験を試みた。展示の中における通常の視覚情報のみならず、視覚的エフェクトや音声情報による刺激や誘導を与えることで、鑑賞者のふるまいや鑑賞順序に影響を与えることができるかの検証を行う試みである。

(技術開発: 東京大学助教 吉田成朗、東京大学 大橋敏、沼田俊之、矢田浩章)

清澄白河の音楽スタジオ「スズキスタジオ1」のオーナー・鈴木義智氏が1964年に撮影した東京オリンピック聖火リレーの風景を、モノクロ写真のオリジナルプリント展示と、額装されたプリントにタブレットをかざすとARパノラマに変わる体験型展示として提示した。また、鑑賞者が展示室入り口から入ってきてどちらの順路へ進むかのログをとるために、個人が特定できないようサーモカメラにて上方から人の動きのみを撮影し、分析するための材料とした。

#### ■ワークショップ・トーク

参加作家によるアーティストトーク 志村博 ゲスト: 中谷日出 (NHK解説委員)

江東区立深川図書館 3階ホールにて「時空を超える」をテーマに、清澄白河と英国グランチェスター、ケンブリッジを往来しつつ制作してきた写真・映像作品について、スライドショーを見せながら作家が語るトークを開催した。ゲストの中谷日出氏は事情により遠隔会議ロボットを用いたオンライン中継で出演、タブレットにライブ映像で顔写真を表示されたまま、客席とも近しく楽しいやりとりが展開した。

参加人数: 22名

#### トーク&ワークショップ のらもじ発見プロジェクト

同じ会場にて、のらもじ発見プロジェクトが清澄白河で採取したフォントを使い、参加者がアーティストと一緒に味のあるフォント作りを体験し、50音すべてのフォントを完成させるワークショップを開催した。多様な年齢層の参加者が思いおもいに文字を選び、手書きでフォントを描き、完成させたそれぞれの文字はひとつの大きな額に集積して糊付けされ、完成後は案内所の情報コーナーに額装掲出された。

参加人数: 21名

錯視ブロックワークショップグループ(MOTサテライト2018 ver.メンバー)「サッカク・ブロック・ワークショップ」

江東区立深川図書館 3階ホールを会場に、心理学的背景や建築などへの応用について最初に解説を聞き、参加者どうして語り合いながら錯覚ブロックを組み立て、だまし絵や知覚のトリックで知られる「錯視」の立体版を作り、遠近法の不思議さを体験しながら携帯電話などで撮影を楽しみ、共有するワークショップを開催した。<sup>図16</sup>

参加人数: 25名



図16  
「サッカク・ブロック・ワークショップ」と案内所での展示風景(上下とも)

東京大学 廣瀬・谷川・鳴海 研究室×法政大学大学院 地域創造システム研究所×江東区観光協会「ARまちあるきツアー@清澄白河」

前回までの開催内容を基本的には踏襲し、ARを使って現在と過去の風景をタブレット端末に重畳表示で映し出しつつ、ガイドの解説を聞きながら、松尾芭蕉ゆかりの地を散歩した。元禄2年(1689)3月27日、芭蕉が門人曾良を伴い「奥の細道」の旅に

出てから330年の節目にあたり、松尾芭蕉記念館の協力を得て、小学生以上の10組が隅田川沿いを楽しく散策した。

参加人数：16名

#### 心臓ピクニック・日本的Wellbeing プロジェクト「心臓ピクニック @清澄白河」

国際的に活動する研究者・アーティストを含む多彩なメンバーによるトークとワークショップを行うプロジェクトとして「日本的Wellbeing プロジェクト」が、Wellbeing(ウェルビーイング＝心身のよりよい状態)を考えるトーク&ワークショップを開催した。「心臓ピクニック」は、手のひらで振動する装置を用いて心臓の動き・鼓動に触れ、自分や他者の「生命」を理解・実感するワークショップである。心の豊かさのために芸術やテクノロジーにできることは何か、多角的な視点からWellbeing について考えることを目的に、初対面の人々が一緒に体操をしたり、心臓の鼓動を記録した装置を交換して語り合った。まちの人々／まちを訪れた人々が、自分／他者の心臓の鼓動に触れて「生命」を実感する契機となり、地域のお寺である雲光院の本堂を会場に、平等院の神居住職の講評でしめくられた。

出演：安藤英由樹(大阪大学)、渡邊淳司(NTT コミュニケーション科学基礎研究所)、ドミニク・チェン(早稲田大学)、青山一真(東京大学)、神居文彰(平等院住職)

ワークショップファシリテーター：川口ゆい(ダンサー) サポート：安藤英由樹、渡邊淳司

\* JST社会技術研究開発センター(RESTEX)人と情報のエコシステム研究開発領域「日本的Wellbeingを促進する情報技術のためのガイドラインの策定と普及」研究プロジェクトのアウトリーチ活動の一環として開催された。

参加人数48名

#### ■のらもじスタンプラリー (MOTサテライト+江東区スタンプラリー)、電子スタンプラリー (道案内アプリ「YORIP」)

AR道案内アプリとして展開した前年に対して今回は、プラットフォーム型寄り道案内アプリYORIP(大日本印刷株式会社)を採用し、マップの上に、近隣の情報がポップアップしてくるシステムを通してMOTサテライトの会場めぐりを提案した。一方で、のらもじ発見プロジェクトによる魅力的なのらもじフォントを使って、スタンプ台紙を配る通常のスタンプラリーを展開した。江東区観光キャラクターコトミちゃんとのコラボや、同時期の江東区民祭りと相乗効果もあり、多くのお客様がのらもじスタンプラリーと、電子スタンプラリー(YORIP)の両方に参加する結果となった。

#### のらもじスタンプラリー (MOTサテライト+江東区スタンプラリー)

のらもじ発見プロジェクトによる記念品(付箋)限定500部と、コトミちゃんノベルティは限定300部を用意してスタートしたが、11月5日までに予定の500部を超えて好評のうちに終了し、以降も参加は続き、計805名が参加した。

#### 電子スタンプラリー (道案内アプリ「YORIP」)

位置情報とAR(拡張現実感)を使った道案内アプリを今年度の受託事業「来場者案内システム」として作成、MOTサテライト会期にあわせて展開し、下記の実績を得た。

YORIP公式サイト(単独ページ閲覧数)553PV、ストアからのYORIPダウンロード数 499 DL、参加ユーザーが回遊したのべ会場数(MOTスペース・MOTスポット) 合計 302箇所

#### 4 おわりに：教育機関連携プロジェクトの課題と成果

前章までに記した内容で、約3年にわたる東京都現代美術館の改修工事期間中、2度の教育機関連携を展開した。その課題と成果については、以下のように考えられる。

事業全体において、地域との関係については、第1回「往来往来」の開催時には手探りしつつ実施した連携が、前回までに築いた協同の関係性が、展示作品やイベントのクオリティ向上に繋がり、作品内容においても、地域の観光資源を表層的に引用するにとどまらず、本質を掘り下げるような地域との対話が生まれたという評価が、来場者を対象としたアンケートの自由意見等から得られた。取り壊しになる町会会館の外観をライトアップした作品や、地元で長年写真を撮り続けてきた作家の50年にわたる足跡の集大成としての展示など、地域の人々のみならず多くの来場者の驚きを生む充実した展示・イベントが数多く実現した。

教育機関連携パートについては、課題として、スキーム面からの理解促進が挙げられる。省庁や教育機関との連携プロジェクトの経験を持つ公立文化施設としての「美術館」や事業担当者は意外と少ない。経験者にとってはごく通常のことであり「連携のリテラシー」(①協定や覚書の締結が必要であること、②協力機関の名称表記の記載が印刷物等に義務づけられること)の理解共有が、今後の課題となると思われる。展覧会事業において協賛金や機材協力を得て実施する対価として、会場・宣伝物・ホームページ・図録に必ず協力表記を掲載することは通例となっているが、同様のベネフィットが教育機関連携においても必要であるという認識がまだ浸透していないのである。コンピュータアートは1960年代には既に我が国で先駆的に試みられ、海外に発信されていたことを思うと、2020年から学校教育においてコンピュータ・プログラミングが必修となるのはごく当然の流れと思えるが、それを使った作品表現に対しては、公立美術館等においてはまだ展示の機会が多いとは言えない。一方で、美術館と連携した教育機関の若手教員や学生らが会場となる現地へ通い、履修学生らもプログラミングの題材を求めて地域を散策した。コンピュータテクノロジーやバーチャルリアリティを含む、地域の日常とは違うテクノロジーや表現を持ち込むことで、受け入れる側である地元の人々や通りかかった観客としての人々との対話が生まれたことは大きな成果であったといえる。土地の人々にとってはごくありふれた素材であっても、若手教員らの手にかかってテクノロジーとともに織り込まれ、新

たな息吹を得ることもあった。採集された「のらもじ」が、閉店してしまっただ喫茶店を使って生きいきと展示されたり、「自分のお祖父ちゃんが若かりし日に一生懸命カメラをかまえて撮影した聖火リレーがARパノラマに生まれかわった」のを見て、孫たちもワークショップ参加者の私たちも、あたかもその場／その時と空間にタイムスリップするかのような没入体験を共有することができた。また別のプログラムでは、遠隔会議ロボットを使って、MOTサテライト会場に駆けつけられなくなったパネラーが、深川図書館に集まる地元の観客の前にアバターとして降り立った。あるいはこのようにして「夢のようなタイムマシーン」はいつのまにかまちなかで実現していたと言えるのではないだろうか？

MOTサテライトを複数年にわたって開催することで、リニューアルオープンまで拠点がなかったにもかかわらず「地域の中にある美術館」としての存在意義を深めることができた。生きている作家、今を生きる私たちが感じ考えること、変容を続けるテクノロジーさえも乗り物にして展開される表現などを扱う現代美術の文化施設にこそ、ホームを出てアウェイで展開されるこのような試みは、たとえ名称や規模が変わっても、変わらず継続していく姿勢が必要だと思われる。

## 註

1. 40年前に地域連携の電子音楽祭からスタートし、オーストリア・リンツ市で毎年行われるフェスティバル。Prix Ars Electronica (コンペティション)、常設のセンター(美術館)、エキスポ(国際展覧会)、研究機関Future Labなどで構成され、日本におけるメディアアート関連の教育文化事業、コンサルティングおよび先端研究を行うアルスエレクトロニカ・ジャパンも近年発足した。  
<https://ars.electronica.art/festival/en/>
2. 藪前知子「美術館がまちへー『MOTサテライト2017春往来往来』の実践と可能性」、平成29年度 東京都現代美術館年報 研究紀要 第20号、pp.39-50
3. 崔敬華「振る舞いの機微を問うー『MOTサテライト2017むすぶ風景』におけるカディスト・アート・ファウンデーションとの共同企画展『ないようで、あるような | Almost nothing, yet not nothing』」、平成30年度・令和元年度 東京都現代美術館年報 研究紀要 第21・22号、pp.119-122
4. 小高日香理「清澄白河の窓からー『MOTサテライト2017秋 むすぶ風景』」、平成30年度・令和元年度 東京都現代美術館年報 研究紀要 第21・22号、pp.112-118
5. 東京藝術大学芸術情報センター <https://amc.geidai.ac.jp/>
6. 廣瀬・谷川・鳴海研究室は、2019年4月より葛岡英明教授の着任で廣瀬・葛岡・鳴海研究室となった。廣瀬・谷川・鳴海研究室「鉄博との共同研究」<http://www.cyber.t.u-tokyo.ac.jp/~digitalmuseum/teppaku.html>
7. 東京大学「デジタルパブリックアートを創出する技術」プロジェクト・廣瀬通孝 ほか「Digital Public Art in Haneda Airport 空気の港 テクノロジー×空気で感じる新しい世界」、美術出版社、2010年
8. のらもじ発見プロジェクト <http://norameji.jp/>
9. MOT Navi「スタンプラリーをしながら美術館へ。」  
<http://motnavi.com/>  
“MOT Navi は清澄白河駅から東京都現代美術館までの道のりが楽しめるAR ナビゲーションアプリです。商店街を歩きながらアプリをかざすと、簡単にスタンプラリーが楽しめます。たくさんスタンプを集めて、素敵なオリジナルプレゼントをGETしよう!”

The exhibition “Weavers of Worlds: A Century of Flux in Japanese Modern / Contemporary Art,” held in celebration of the Grand Reopening of the Museum of Contemporary Art, Tokyo in spring 2019, took conditions affecting artistic practice in Japan as one of its themes and viewed Japanese artists as “weavers” who create by selectively editing disparate elements. Through artworks from the museum’s collection, the exhibition traced their creative actions in this regard and reexplored a characteristic facet of modern and contemporary art in Japan. A catalogue of the same name was also published for the exhibition, yet its plates do not cover all the exhibited works, and the catalogue reproduces only a small portion of materials in the museum’s art library. In this writing, I clarify points concerning the actual exhibition and its intentions that are difficult to grasp from the catalogue.

One point is explanation of the reasoning behind establishing 1914 as the exhibition’s starting point and structuring the exhibition on that basis. A second point concerns the period

from the 1910s to 1970s (third and first floor galleries) this writer was responsible for. In structuring this period, the narrative flow was loosely related to large social events such as the Great Kanto Earthquake and two world wars. Each section, then, examined artists whose work spanned eras, such as YANASE Masamu, NAKAHARA Minoru, and KATSURA Yuki, with a focus on tracing each artist’s expressive development in response to changes occurring in the real world. In cases where few extant works remained from pre-war period, this was done through exhibition photographs. A third point concerns female artists who, in the postwar years, discovered new expressive possibilities in working across genres or in between them. Setting up a room featuring such artists as ASAKURA Setsu, TADA Minami, and TANAKA Chizuko, in a first floor gallery, their efforts to present a narrative differing from that of established art history were highlighted.

---

*MOT Satellite 2019 Wandering, Mapping—To Plot Your New Encounter in This District*

Kasumi YAMAKI

The exhibition “Wandering, Mapping” featured works of contemporary artworks on map or on community. The aim was to empower each viewer to experience the city, using a “map,” which is both an aid for entering unknown territory and a mirror reflecting how we perceive the world.

The framework for this exhibition, the project series “MOT Satellite,” was launched in fiscal 2016 when the Museum of Contemporary Art Tokyo closed for renovation work. This time, the fourth “MOT Satellite” was held. The previous three times it was held, while the museum was closed, the project found its venue in empty shops and warehouses in Kiyosumi-shirakawa. As such, the exhibition this time, taking the art museum’s gallery as its main venue, may appear to have retreated from its “community art project” concept. In fact, however, the exhibition featured numerous devices enabling viewers to have a more personalized experience in their encounter with Kiyosumi-shirakawa.

Some works enabled viewers to experience the process itself by which the artist became acquainted with the city. They included a roadmap expressing the sensations a blind

artist experienced in Kiyosumi-shirakawa (MITSUSHIMA Takayuki), a work that visualizes regional change by plotting on a map 10 people’s spoken narratives about everyday life in the district (SATO Ayako), and a quest to discover and feel Tokyo’s multilayer landscape by interweaving fictional stories with actual landscapes, guided by a gamebook (orangcosong+SHINJI Haruka). Then other works cast new light on the community people, in contrast with dominant narratives by a key person or majority, showed how many different voices all have equal value. These included a tapestry of yarn strands wrapped around statements concerning personal identity (Mary Corey MARCH) and an imaginary map reminding us that actual society is born of conflicts of interest among countless people (IMAIZUMI Takayuki). We hope that each participant, whether a local resident or museum visitor, could curate their own City Walk and thereby give depth to Kiyosumi-shirakawa’s significance as a district with an art museum.

---

## About signage design for interior and exterior public spaces.

Yui KATO, Chiako KUDO, Akane TORII, Mihoko NISHIKAWA, Tomoko YABUMAE, Fujiyo YAMAMOTO

The Museum of Contemporary Art Tokyo (MOT) celebrated its Grand Reopening in late March 2019, three years after closing in June 2016 for major renovation to upgrade its equipment and improve its utility as a museum building. In order to unify all aspects of MOT's renovation in design and concept—including the selection of fixtures and equipment, and the design of signage for the interior and exterior public spaces—a total design approach was sought. For this purpose, six coordinators were selected from the curatorial, educational program, permanent collection, and management and public relations sections, and a project team responsible for aggregating the issues and opinions of each section was launched.

As the result of a competition held on this basis, architect

NAGASAKA Jo (Schemata Architects) was selected to handle the signage equipment design, and art director IROBE Yoshiaki (Art Director, Irobe Design Institute, Nippon Design Center, Inc.) to handle the signage planning in late March, 2018.

Based on the museum's goals, Schemata Architects proposed a fixture and furniture system employing an "interface" concept for flexible response to activities in the museum interior. Concretely, the "interface" consists of holes cut in fixtures and furniture to enable the insertion of hand pallets and other components for easy moving and reconfiguring of the furniture. As a result, interior spaces can flexibly be rearranged to accommodate the desired activity.

---

## *MOT Satellite 2017 Connecting Scapes*—From the Windows of Kiyosumi-shirakawa

Hikari ODAKA

"MOT Satellite" is an art project series held with the cooperation of shops, facilities, and residents in neighborhoods around the art museum. The project, in its second term in 2017, was led by three curators, and exhibits and events were held on the theme of tracing Kiyosumi-shirakawa's historical background and process of transformation. In this writing, I examine a project held by five contemporary artists in the Kiyosumi-shirakawa area where the museum is located. SHITAMICHI Motoyuki, KAMATA Yusuke, NAKAMURA Atsuko, MORI Akira, and ISHIZUKA Mako

have created works in wide-ranging locations around the world, based on fieldwork and research conducted in those locations. This time, they walked about Kiyosumi-shirakawa, talked to the district's people, and observed it each from their own vantage point. Their subsequent artworks revealed hidden aspects of the district's scenery—both past aspects of urban reconstruction after the Tokyo air raid and old time lumberyards and factories, and contemporary aspects easily overlooked—and succeeded in connecting people of different generations and nationalities.



---

Reflecting on modes of engagement—the collaborative exhibition *Almost nothing, yet not nothing* as part of MOT Satellite 2017

Kyonfa CHE

The exhibition *Almost nothing, yet not nothing* was organized as part of *MOT Satellite 2017 Connecting Scapes* at Arts and Science Lab in Tokyo University of the Arts in Ueno, Tokyo. It was conceived as the first step of a long-term collaboration with KADIST, a non-profit organization based in Paris and San Francisco, whose programs focus on exhibiting works of artists represented in its collection and developing collaborations with artists, curators and art organizations around the world. The exhibition was co-curated by Kyongfa Che from the Museum of Contemporary Art Tokyo and Elodie Royer from KADIST, featuring 5 artists – Myriam Lefkowitz, Eric Baudelaire, Motohiro Tomii, Wendelien van Oldenborgh and Július Koller. The exhibition aimed to show a variety of artists’ practices that involved different forms of engagement with individuals and communities in specific socio-political contexts. The works, of which media ranged from film to

installation to performance, reflected various relations among people in the society or people and their society, and explored the potentiality to understand issues or imagine relations differently through specific modes of dialogue and reflection. Through those works the exhibition tried to encourage the audience – especially young generation of artists and art students – to reflect both on the potentiality and challenges in artists’ direct engagement with the public, that is increasingly expected of artists by various platforms including biennales, triennales, art festivals and community-based projects.

Alongside the exhibition, the curators organized a series of discursive events for young artists and art students, including workshops led by Myriam Lefkowitz, Wendelien van Oldenborgh and Motohiro Tomii, as well as a screening, lectures, performances for the public audience by those artists.

---

MOT Satellite 2017 Autumn and 2018 Autumn—The Art Museum’s Linkage Project with Education and Research Institutions

Tomoe MORIYAMA

The “MOT Satellite” project series held during the Museum of Contemporary Art Tokyo’s closure for renovation—a period when the surrounding district and we lacked the platform of a large-scale cultural facility—was a networked endeavor to link with the district’s people and us by implanting the museum’s activities in neighborhoods around the museum and thereby generate new creativity.

In recent years, the trend is moving from the art festivals taking root in various regions of Japan (ex. Art Setouchi and Echigo-Tsumari Art Triennale), or else tourist resource and resort-type festivals, to art museum-like, different-dimension spaces that manifest directly in town. Such projects, based on the element of “linkage-interaction = feeding back,” employ artistic and technological methods to transform the town’s resources, guided by aims similar to those of Ars Electronica, the art, technology, and society festival held for forty years in the Austrian city of Linz.

The staged development of regional, international, educational, and social collaborations, from the first “MOT Satellite” to after the museum’s reopening, was also an important process enabling the Tokyo Metropolitan Museum of Contemporary Art, which has operated here more than 20 years, to function as a base for memory in the region.

In this paper, I report on and discuss the element of linkage-interaction, a concept still new to Japanese museums, with a focus on our MOT Satellite 2017 and 2018 collaborations and exhibit-support-systems with educational and research institutions (Tokyo University and Tokyo University of the Arts) and companies.

I additionally look at exhibitions, wandering systems, workshops, and talk events conducted using experimental methods, and report on the results. It is hoped that, through this paper, such endeavors as this will be taken up by more museums, hereafter, and achieve diffusion.



平成30・31年度 東京都現代美術館年報  
研究紀要 第21・22号

令和2年3月発行

編集・発行

公益財団法人 東京都歴史文化財団

東京都現代美術館

〒135-0022 東京都江東区東陽4-1-1

東京都現代美術館

電話03-5245-4111

製作

光写真印刷株式会社